

成田市
学校教育に関するアンケート調査
報告書

平成31年3月
成田市教育委員会

—目 次—

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の種類および調査対象者	1
3. 調査の設計	1
4. 調査方法	2
5. 調査期間	2
6. 回収結果	2
7. 報告書の見方	2
第2章 小学生調査の結果	3
1. あなたについて.....	3
2. 学校について	5
3. 放課後や土日の過ごし方について	11
4. 家での様子について	15
5. 将来について	24
第3章 中学生調査の結果	27
1. あなたについて.....	27
2. 学校について	28
3. 放課後や土日の過ごし方について	39
4. 家での様子について	45
5. 将来について	55
第4章 保護者調査の結果	60
1. あなたについて.....	60
2. お子さんへの接し方について	63
3. 学校教育について	67
4. 教育全般について	76
第5章 教職員調査の結果	86
1. あなた自身について	86
2. 学習指導などの状況について	94
3. 学校教育の在り方について	99
4. 児童・生徒や地域との関わりについて	114

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成28年3月に策定した「成田市学校教育振興基本計画」の進行管理における数値目標等の現状を把握することを目的として実施しました。

2. 調査の種類および調査対象者

調査種別	調査対象者
①小学生調査	市内各公立小学校・義務教育学校に在籍する児童（4・6年生）
②中学生調査	市内各公立中学校・義務教育学校に在籍する生徒（中学2年生・義務教育学校8年生）
③保護者調査	①、②の児童・生徒の保護者
④教職員調査	市内各公立小学校・中学校・義務教育学校に勤務する教職員

3. 調査の設計

調査種別	項目	内容
①小学生調査	ア 対象者数	2,559人
	イ 抽出方法	市内各公立小学校・義務教育学校に在籍する児童の4・6年生を抽出し対象とした。
	ウ 調査地域	成田市内
②中学生調査	ア 対象者数	1,143人
	イ 抽出方法	市内各公立中学校・義務教育学校に在籍する生徒の中学2年生・義務教育学校8年生を抽出し対象とした。
	ウ 調査地域	成田市内
③保護者調査	ア 対象者数	3,702人
	イ 抽出方法	調査対象の児童・生徒の保護者を対象とした。
	ウ 調査地域	成田市内
④教職員調査	ア 対象者数	981人
	イ 抽出方法	市内各公立小学校・中学校・義務教育学校に勤務する全ての教職員を対象とした。
	ウ 調査地域	成田市内

4. 調査方法

調査種別	発送方法	回収方法
①小学生調査	各学校を通じて配付	各学校を通じて回収
②中学生調査	各学校を通じて配付	各学校を通じて回収
③保護者調査	各学校を通じて配付	各学校を通じて回収
④教職員調査	各学校を通じて配付	各学校を通じて回収

5. 調査期間

平成30年10月19日～平成30年11月15日

6. 回収結果

調査種別	①発送数(通)	②回収数(通)	③回収率(%)
①小学生調査	2,559	2,521	98.5%
②中学生調査	1,143	1,078	94.3%
③保護者調査	3,702	3,236	87.4%
④教職員調査	981	894	91.1%
合計	8,385	7,729	92.2%

7. 報告書の見方

①図表中の「n」(=number)は、設問への回答者数を示しています。

②集計した数値(%)は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示しています。そのため、単数回答の場合には、選択肢の数値(%)をすべて合計しても、100.0%にならない場合があります。

③回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えることがあります。

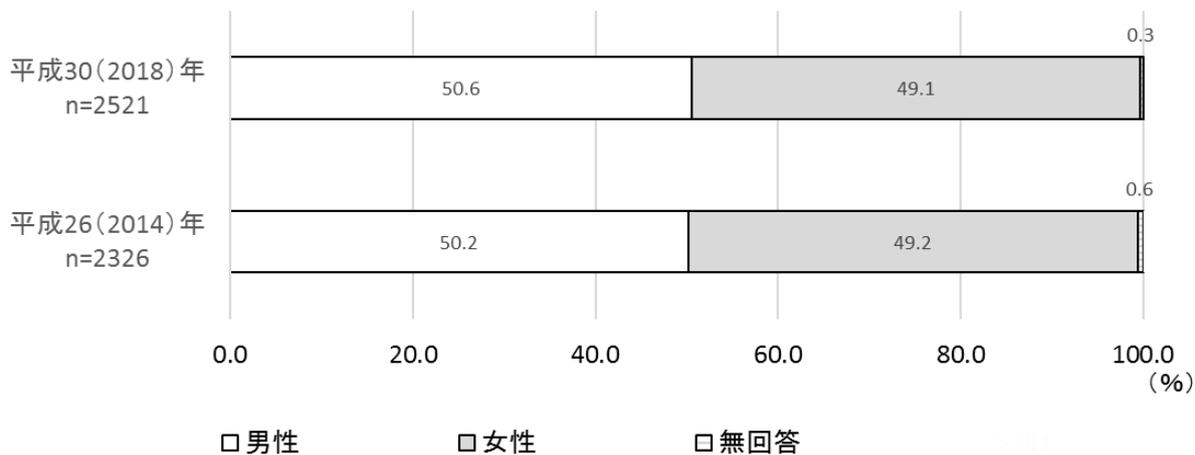
④回答が少数である場合の比率については、特定の傾向が強く反映される場合があります。

第2章 小学生調査の結果

1. あなたについて

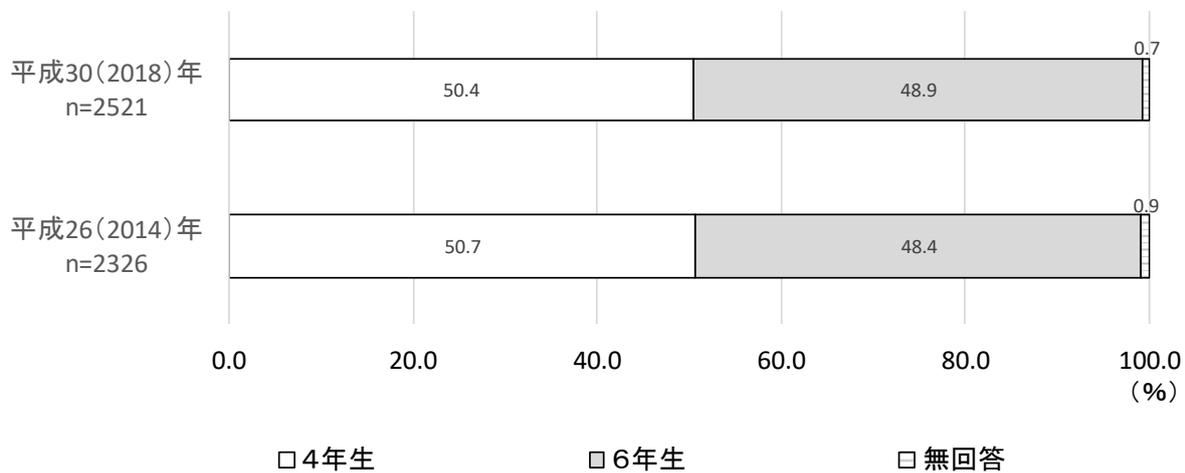
問1 あなたの性別はどちらですか。(1つだけ○)

性別については、「男性」が50.6%、「女性」が49.1%となっています。



問2 あなたは何年生ですか。(1つだけ○)

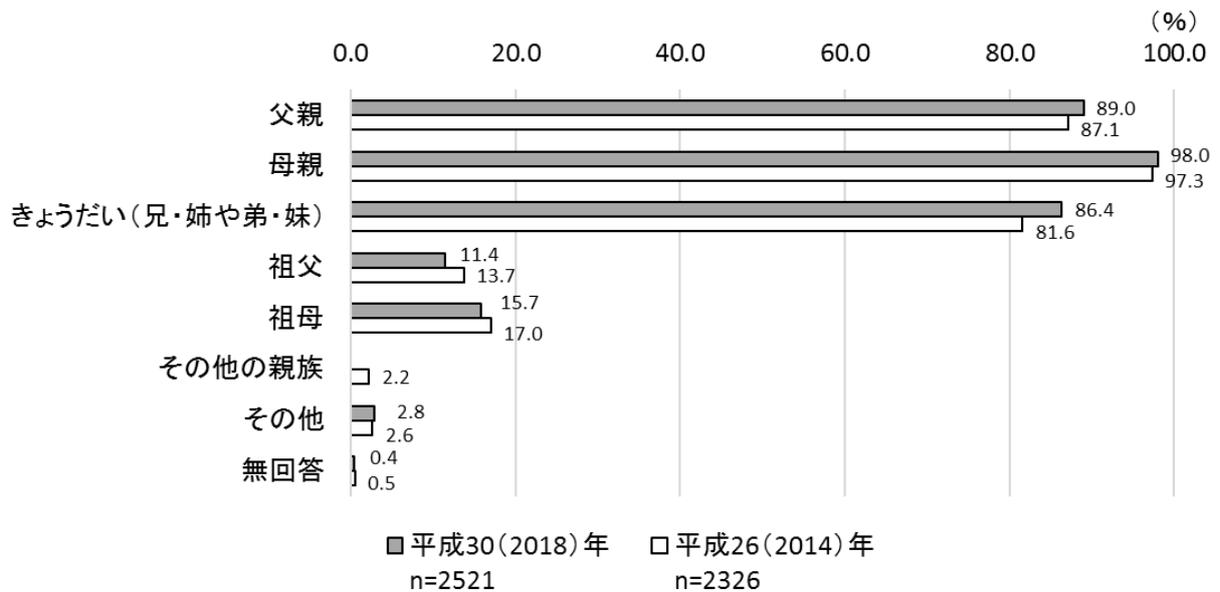
学年については、「4年生」が50.4%、「6年生」が48.9%となっています。



問3 あなたがいっしょに住んでいる家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

いっしょに住んでいる家族については「母親」が98.0%、「父親」が89.0%、「きょうだい(兄・姉や弟・妹)」が86.4%、「祖母」が15.7%、「祖父」が11.4%などとなっています。

平成26年度の調査と比較すると、「祖父」と「祖母」が減少しています。

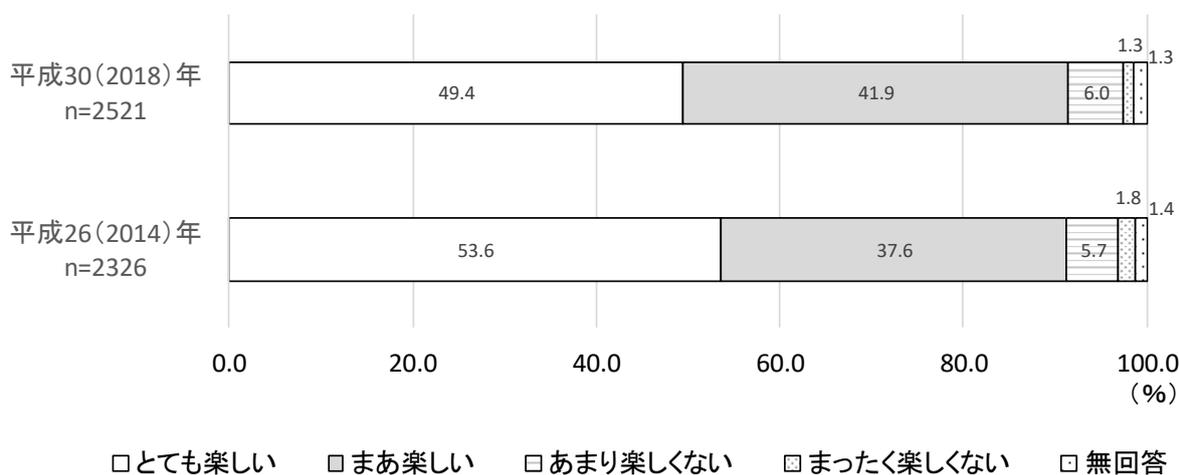


2. 学校について

問4 学校生活は楽しいですか。(1つだけ〇)

学校生活が楽しいかについては、「とても楽しい」が49.4%、「まあ楽しい」が41.9%、「あまり楽しくない」が6.0%、「まったく楽しくない」が1.3%となっています。

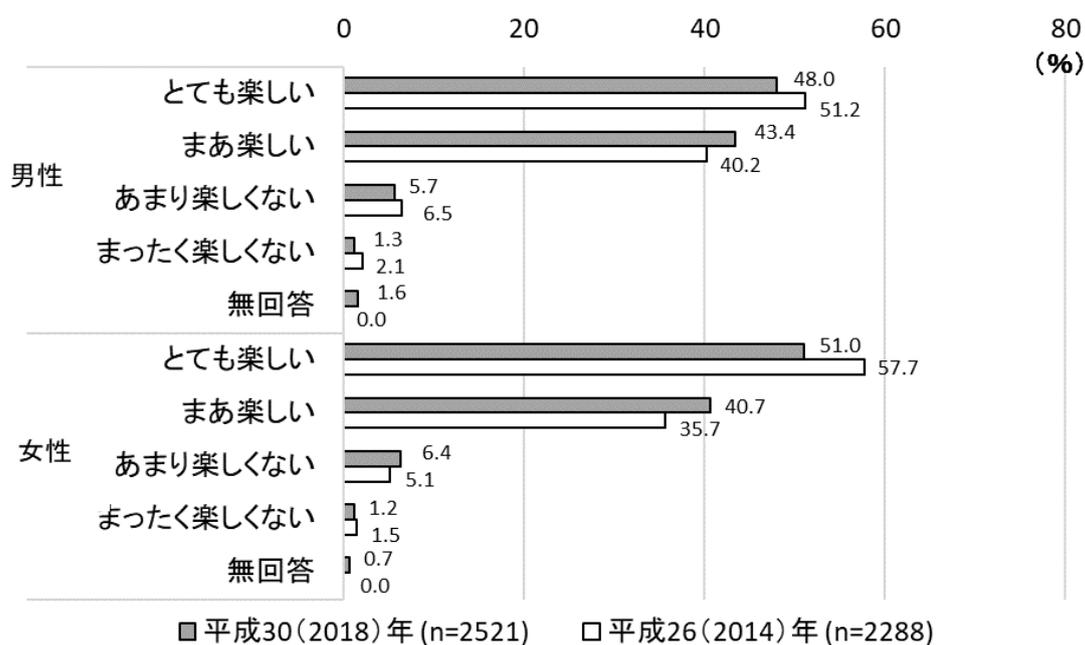
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「とても楽しい」が減少し、「まあ楽しい」が増加しています。



【性別】

学校生活が楽しいかについて性別でみると、“男性”“女性”ともに「とても楽しい」「まあ楽しい」を合わせると9割を超えています。

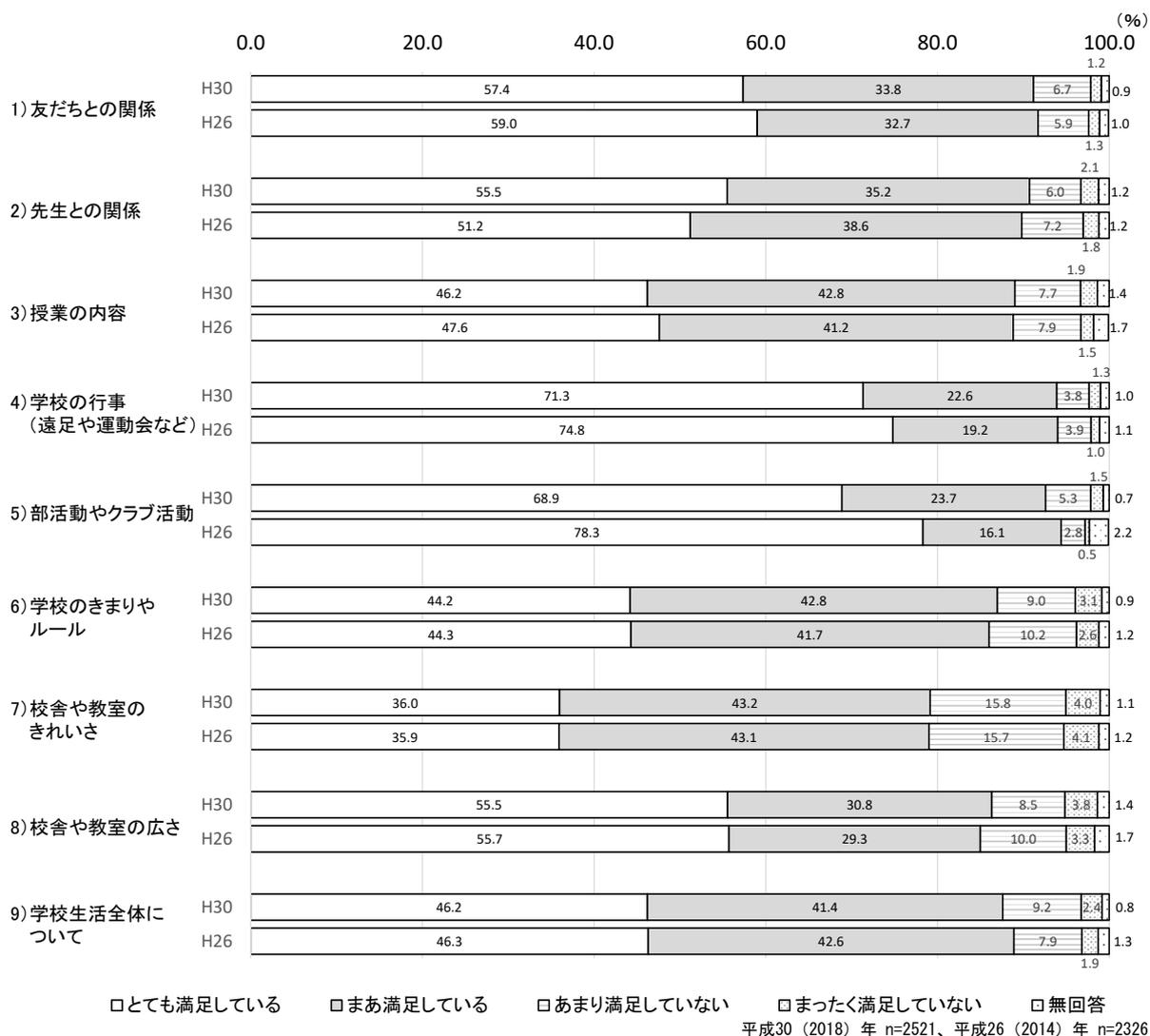
平成26年度の調査と比較すると、本調査では“女性”の「とても楽しい」の減少が最も大きくなっています。



問5 あなたは、学校生活に関する次のようなことに、どのくらい満足していますか。(それぞれにひとつずつ〇)

学校生活に関する満足度については“4)学校の行事(遠足や運動会など)”や、“5)部活動やクラブ活動”で7割近くが「とても満足」と回答しており、「まあ満足している」を合わせるといずれも9割を超えています。他の項目についても「とても満足している」と「まあ満足している」の割合が高く、2つを合わせた『満足』は、最も低い“7)校舎や教室のきれいさ”でも8割近くとなっています。また、“9)学校全般について”では、「とても満足している」が4割半ば、「まあ満足している」も4割を超え、合わせた『満足』は9割近くとなります。

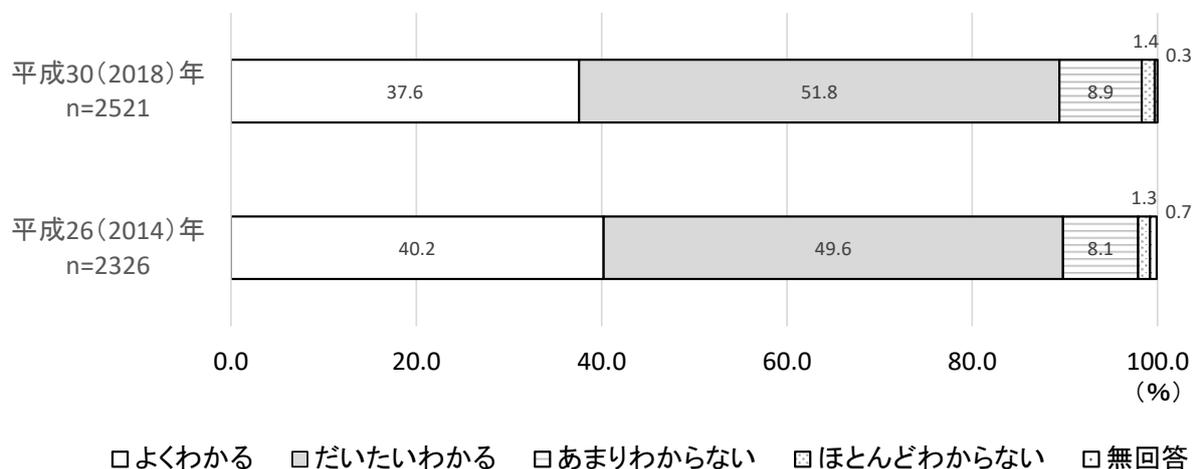
なお、平成26年度の調査と比較すると、本調査では“5)部活動やクラブ活動”における「とても満足」が大きく減少しています。



問6 あなたは、学校の授業がどのくらいわかりますか。(1つだけ○)

学校の授業がどのくらい分かるかについては、「よくわかる」が37.6%、「だいたいわかる」が51.8%、「あまりわからない」が8.9%、「ほとんどわからない」が1.4%となっています。

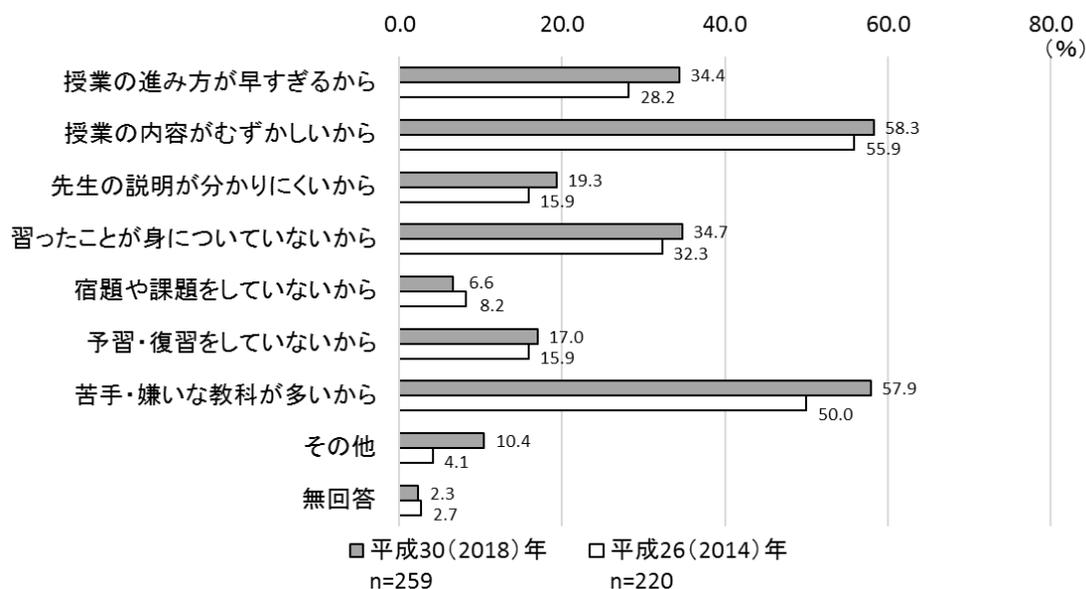
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「よくわかる」が減少し、「だいたいわかる」が増加しています。



問7 授業がわからない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

授業がわからない理由については、「授業の内容がむずかしいから」が最も多く58.3%、次いで「苦手・嫌いな教科が多いから」が57.9%、「習ったことが身につけていないから」が34.7%、「授業の進み方が早すぎるから」が34.4%などとなっています。

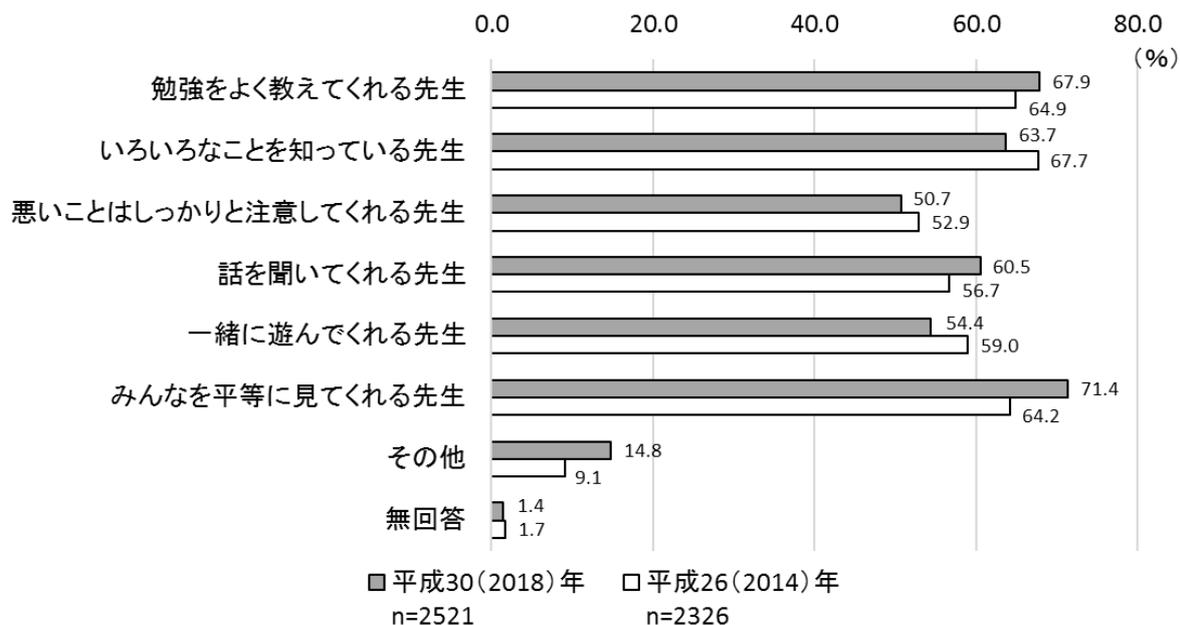
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「苦手・嫌いな教科が多いから」と「授業の進み方が早すぎるから」の割合が大きく増加しています。



問8 あなたは、どのような先生に教わりたいですか。(あてはまるものすべてに○)

どのような先生に教わりたいかについては、「みんなを平等に見てくれる先生」が最も多く71.4%、次いで「勉強をよく教えてくれる先生」が67.9%、「いろいろなことを知っている先生」が63.7%などとなっています。

また、平成26年度の調査では、「いろいろなことを知っている先生」が最も多かったのに対し、本調査では「みんなを平等に見てくれる先生」が最も多くなっています。

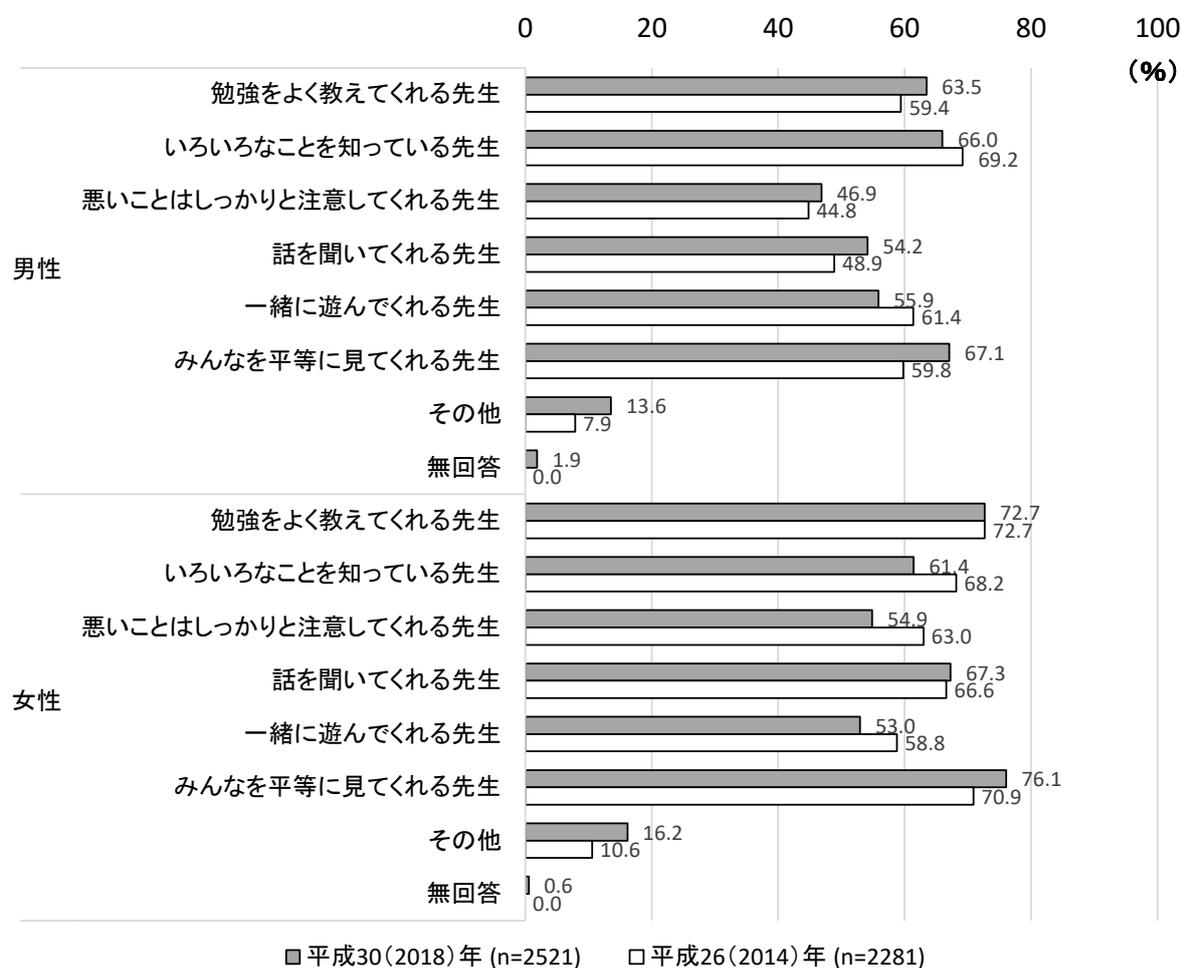


【性別】

性別で見ると、“女性”の方は「その他」以外のすべての項目において5割を超えており、「みんなを平等に見てくれる先生」や「勉強をよく教えてくれる先生」では7割を超えています。

また、“男性”と比較すると、“女性”は「話を聞いてくれる先生」の割合が13ポイント程高くなっています。

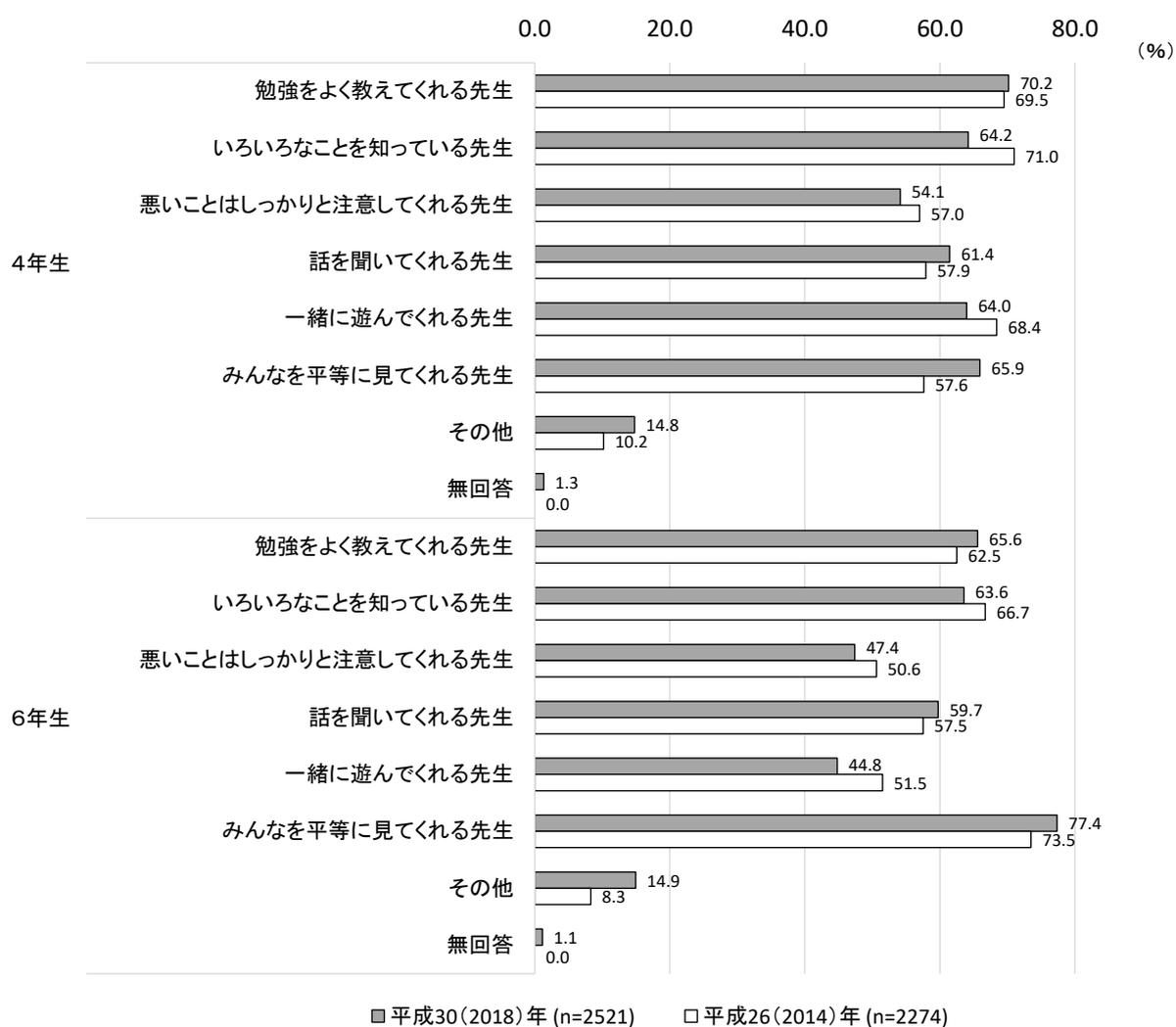
なお、平成26年度の調査では“男性”は「いろいろなことを知っている先生」が最も多く、また、“女性”では「勉強をよく教えてくれる先生」が最も多かったのに対し、本調査では、“男性”“女性”ともに「みんなを平等に見てくれる先生」が最も多くなっています。



【学年別】

学年別でみると、“4年生”では「勉強をよく教えてくれる先生」が7割を超えています。一方、“6年生”では「みんなを平等にみてる先生」が8割近くとなります。

平成26年度の調査では、“4年生”は「いろいろなことを知っている先生」が最も多かったのに対し、本調査では「勉強をよく教えてくれる先生」が最も多くなっています。また、“6年生”は、平成26年度の調査、本調査ともに「みんなを平等にみてる先生」が最も多くなっています。

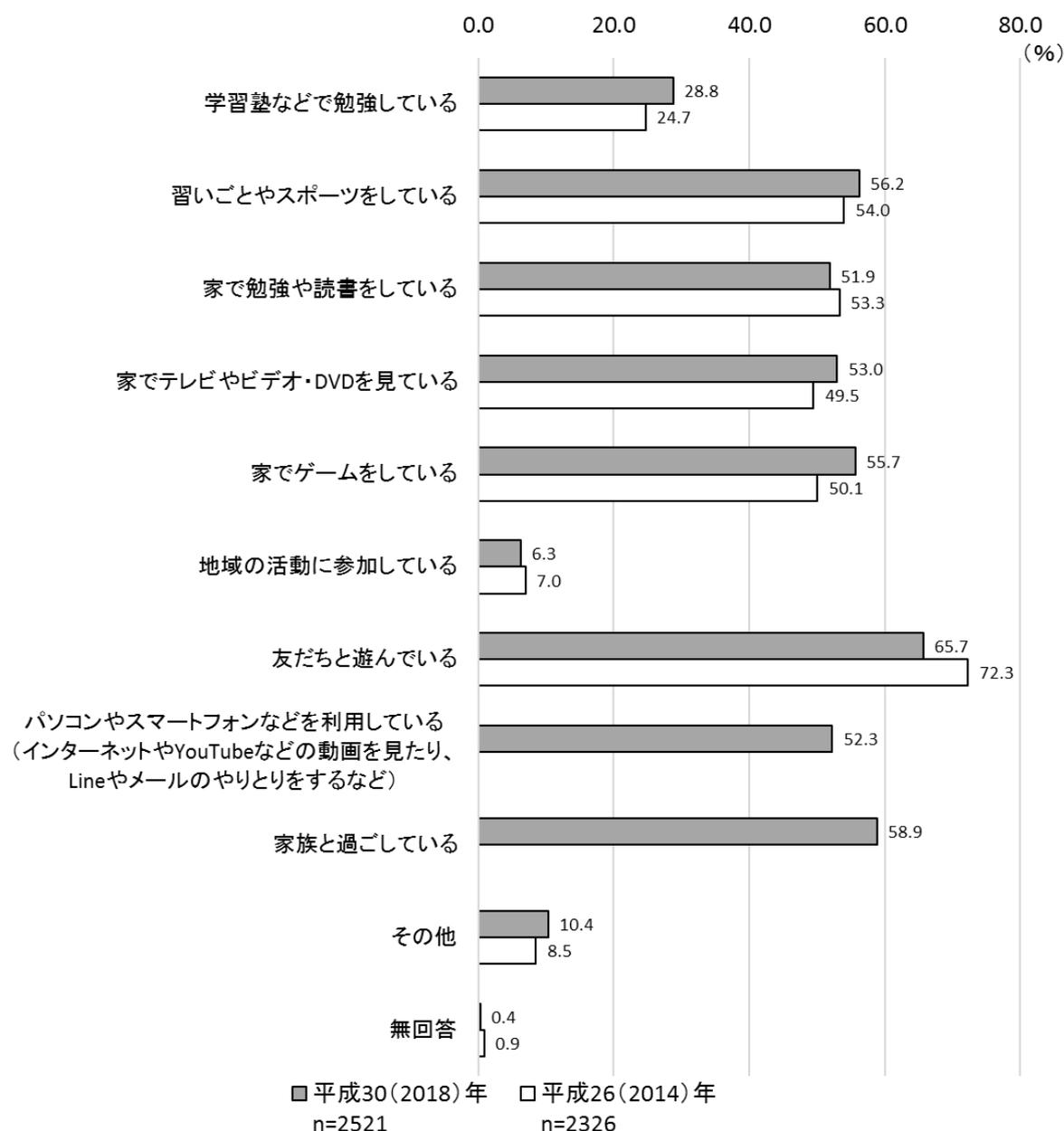


3. 放課後や土日の過ごし方について

問9 あなたは、ふだん放課後に何をしてお過ごしことが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

ふだんの放課後の過ごし方については、「友だちと遊んでいる」が最も多く65.7%、次いで「家族と過ごしている」が58.9%、「習い事やスポーツをしている」が56.2%、「家でゲームをしている」が55.7%、「家でテレビやビデオ・DVDを見ている」が53.0%などとなっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「友だちと遊んでいる」が減少し、「学習塾などで勉強している」や「家でゲームをしている」などが増加しています。

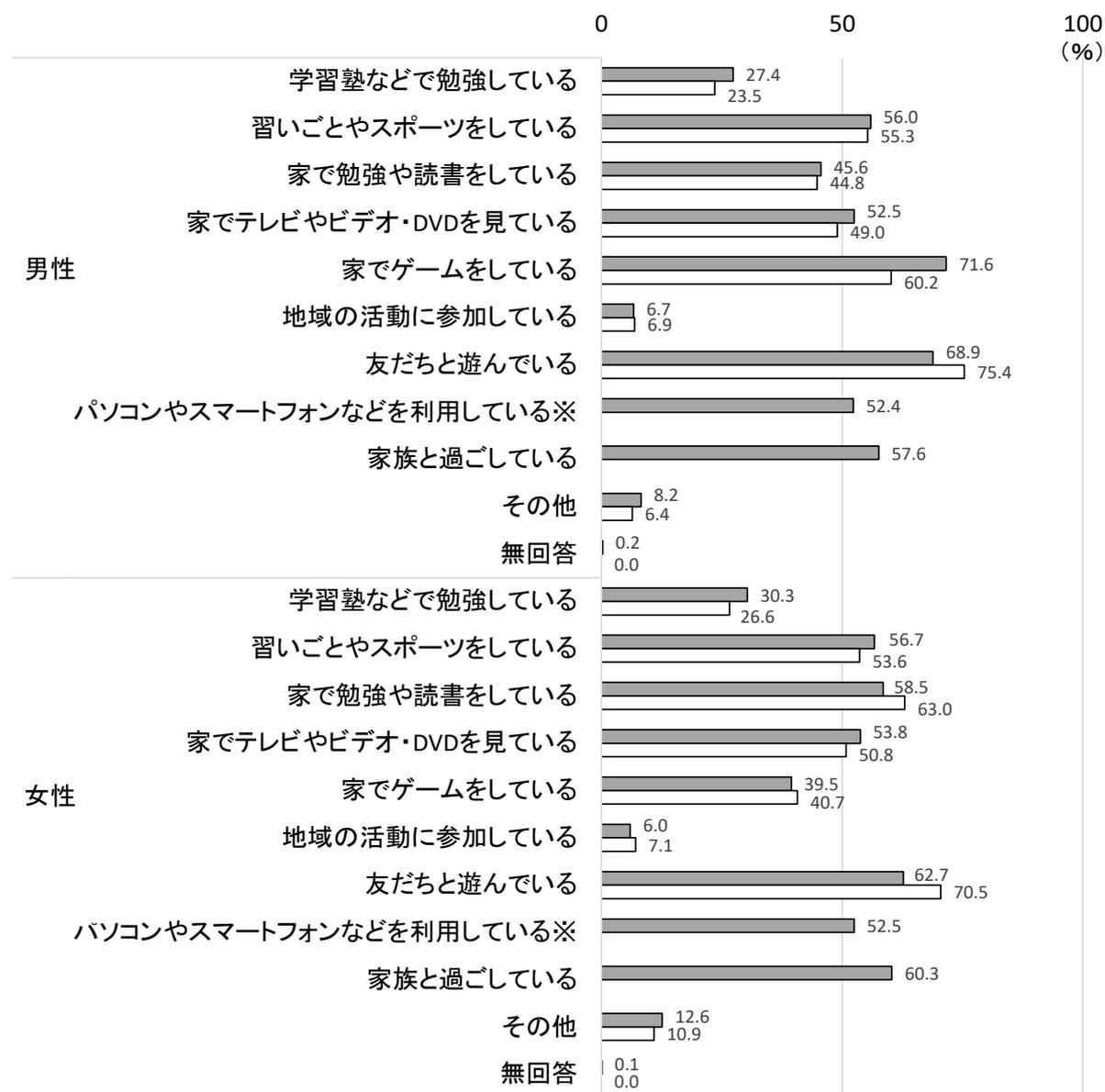


※「パソコンやスマートフォンなどを利用している」「家族と過ごしている」は新設の選択肢

【性別】

性別で見ると、「男性」は「家でゲームをしている」が最も多く、7割を超えています。次いで「友だちと遊んでいる」が7割近くとなっています。また、「家でゲームをしている」では「男性」の割合が高く、「家で勉強や読書をしている」では「女性」の割合が高くなっています。

平成26年度の調査では、「男性」は「友だちと遊んでいる」が最も多かったのに対し、本調査では「家でゲームをしている」が最も多くなっています。



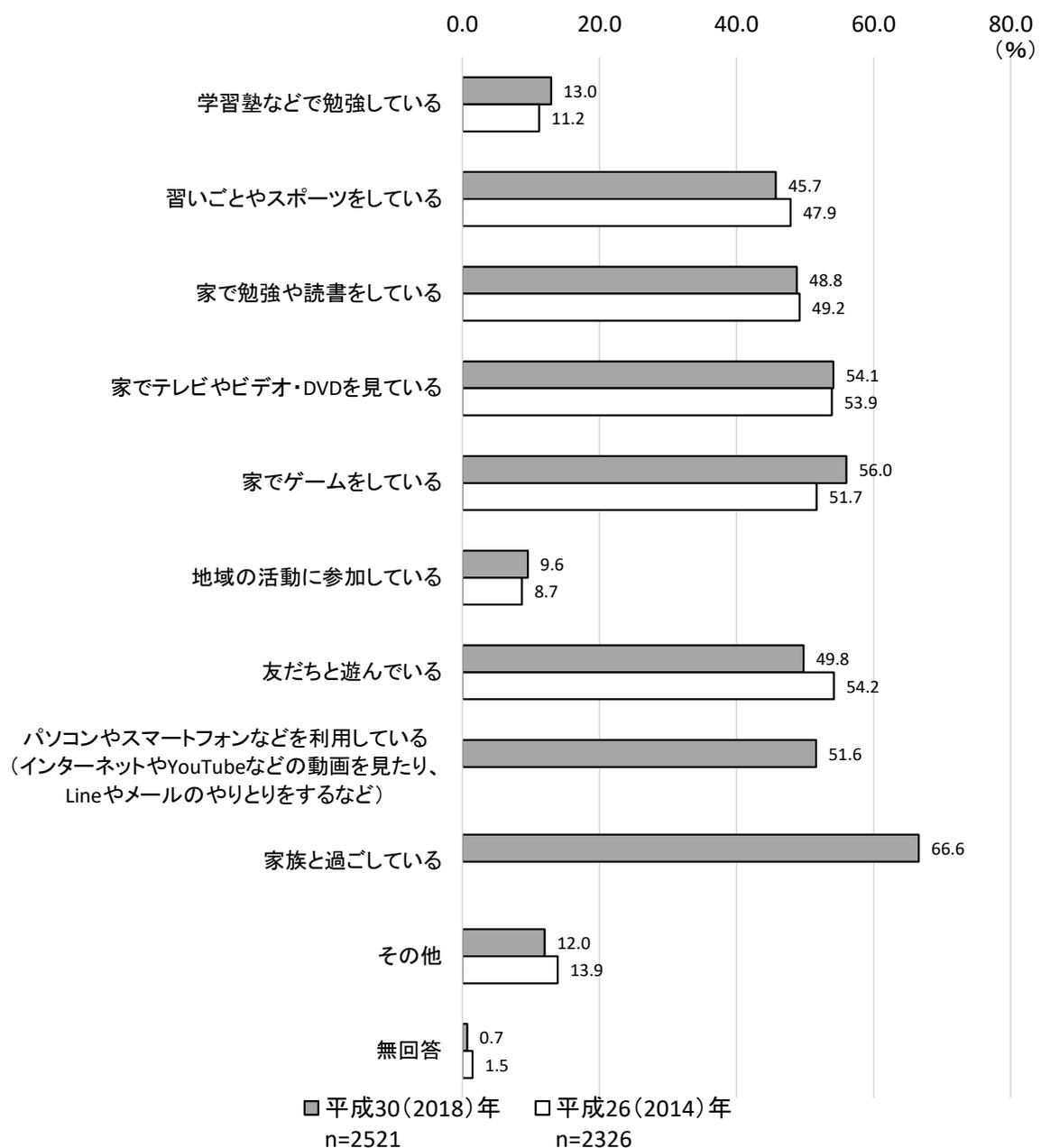
■ 平成30(2018)年 (n=2521) □ 平成26(2014)年 (n=2299)

※：インターネットやYouTubeなどの動画を見たり、Lineやメールのやりとりをするなど

問 10 あなたは、土曜日や日曜日に何をして過ごすことが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

土曜日や日曜日にどのような過ごし方をしているかについては、「家族と過ごしている」が最も多く 66.6%、次いで「家でゲームをしている」が 56.0%、「家でテレビやビデオ・DVD を見ている」が 54.1%、「パソコンやスマートフォンなどを利用している（インターネットや YouTube などの動画を見たり、Line やメールのやりとりをするなど）」が 51.6%、「友だちと遊んでいる」が 49.8%などとなっています。

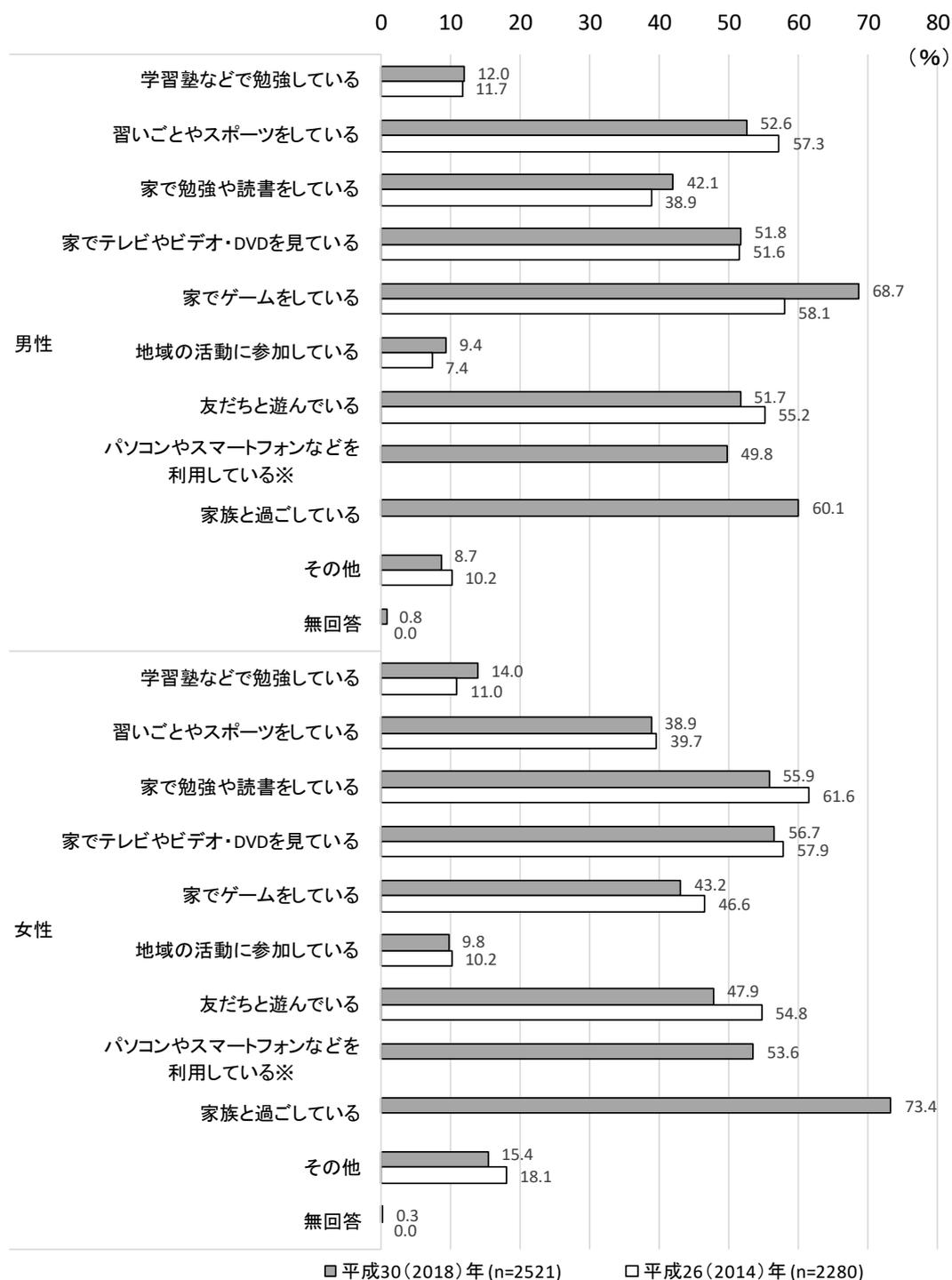
平成 26 年度の調査では「友だちと遊んでいる」が最も多かったのに対し、本調査では「家族と過ごしている」が最も多くなっています。



【性別】

性別で見ると、「習いごとやスポーツをしている」や「家でゲームをしている」では“男性”の割合が高く、「家で勉強や読書をしている」や「家族と過ごしている」では“女性”の割合が高くなっています。

平成26年度の調査と比較すると、“男性”は「家でゲームをしている」が大きく増加しています。また、“女性”は、平成26年度の調査では「家で勉強や読書をしている」が最も多かったのに対し、本調査では「家族と過ごしている」が最も高くなっています。



※：インターネットやYouTubeなどの動画を見たり、Lineやメールのやりとりをするなど

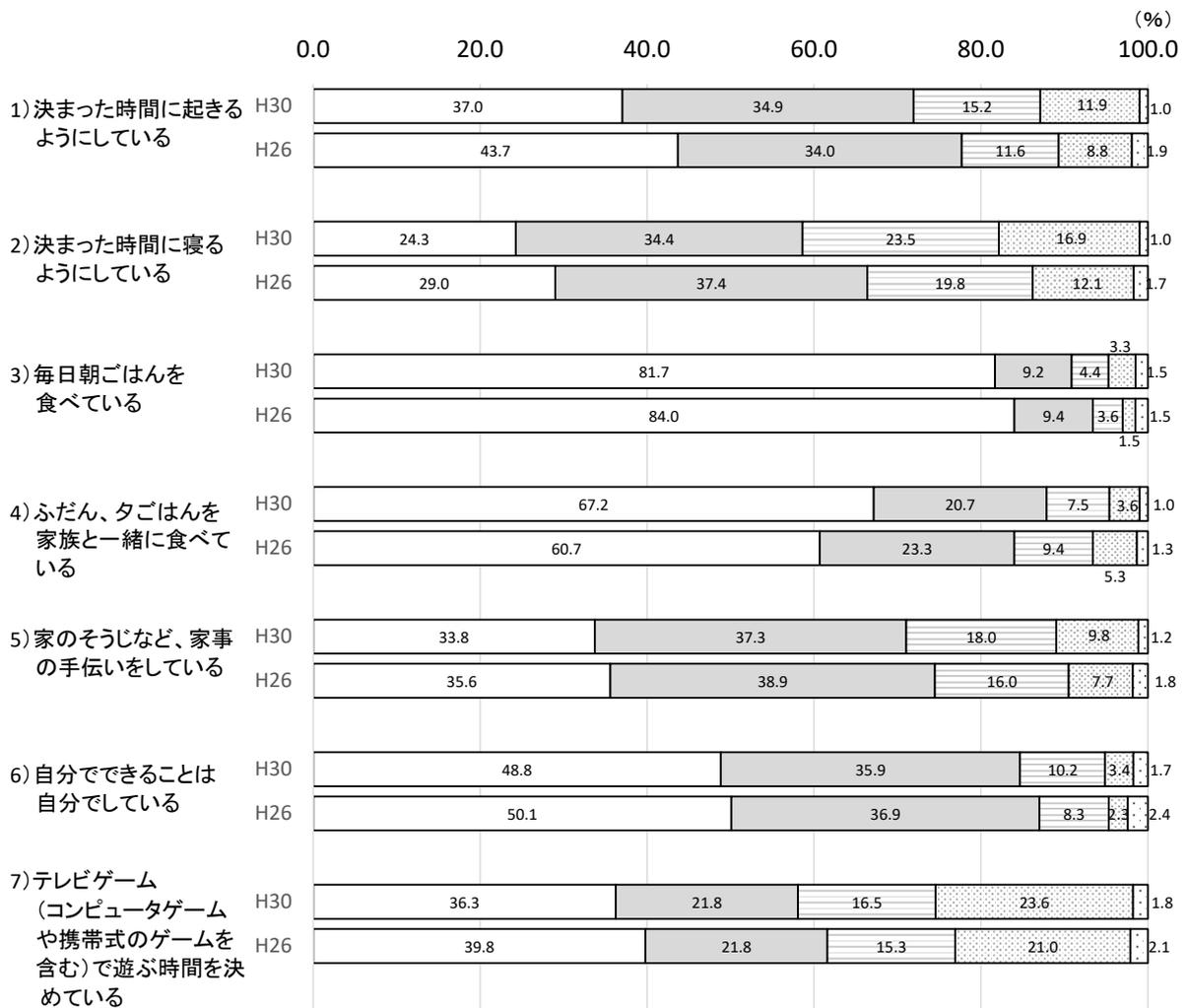
4. 家での様子について

問 11 つぎのうち、あなたのふだんの生活に当てはまるのはどのようなことですか。

(それぞれに1つずつ〇)

ふだんの生活にあてはまるものについて、「あてはまる」では“3) 毎日朝ごはんを食べている”で8割を超え、“4) ふだん、夕ごはんを家族と一緒に食べている”で7割近くとなっています。一方、「あてはまらない」では“7) テレビゲーム(コンピュータゲームや携帯式のゲームを含む)で遊ぶ時間を決めている”で2割を超えています。

平成26年度の調査と比較すると、「あてはまる」では、“3) 毎日朝ごはんを食べている”と“2) 決まった時間に起きるようにしている”が減少し、“4) ふだん夕ごはんを家族と一緒に食べている”が増加しています。



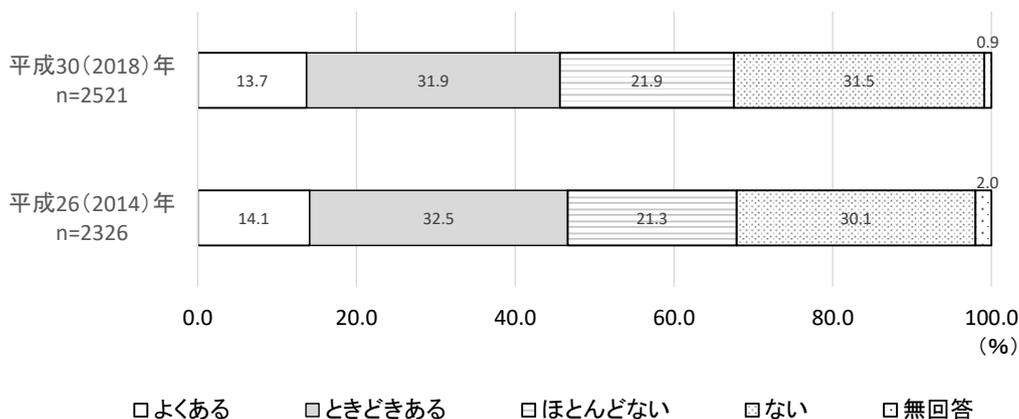
□あてはまる □どちらかといえば、あてはまる □どちらかといえば、あてはまらない □あてはまらない □無回答

平成30(2018)年 n=2521、平成26(2014)年 n=2326

問 12 あなたは、心配ごとなどで不安に感じることはありませんか。(1つだけ〇)

心配ごとなどで不安を感じることはあるかについては、「ときどきある」が最も多く 31.9%、次いで「ない」が 31.5%、「ほとんどない」が 21.9%、「よくある」が 13.7%となっています。

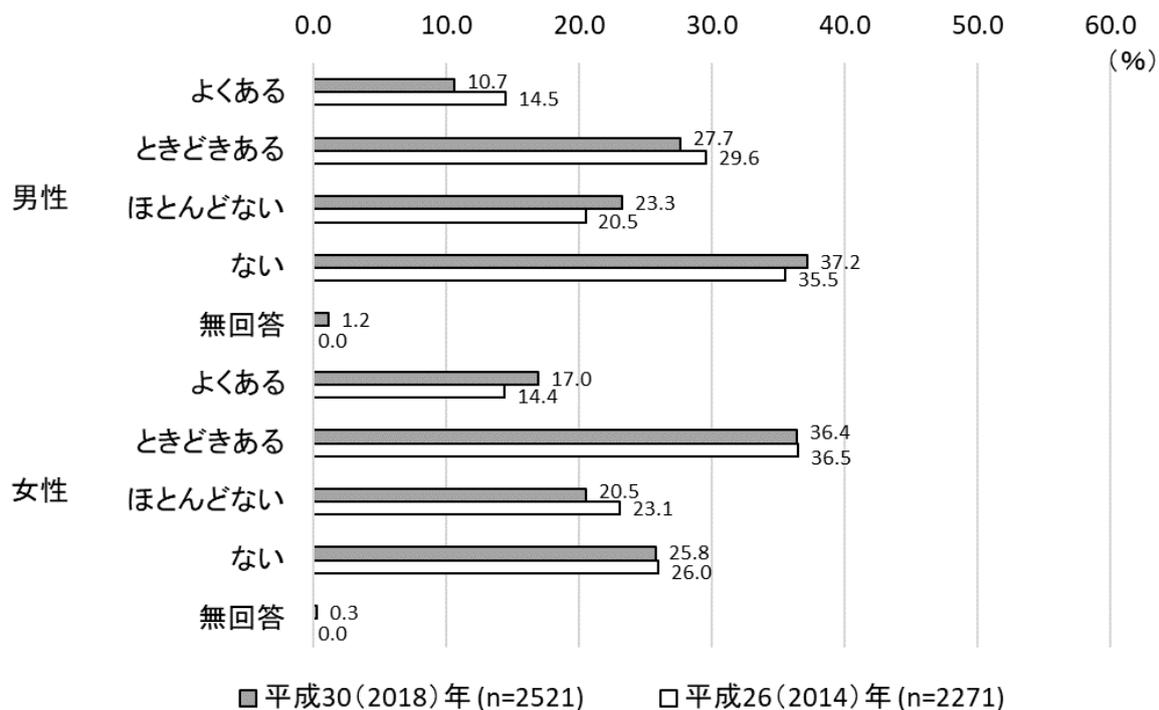
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では割合の変化はほとんど見られませんでした。



【性別】

性別でみると、“女性”では「よくある」「ときどきある」を合わせると 5 割を超えており、“男性”と比べて不安を感じる割合が高くなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では“男性”は「よくある」が減少し、“女性”は「よくある」が増加しています。

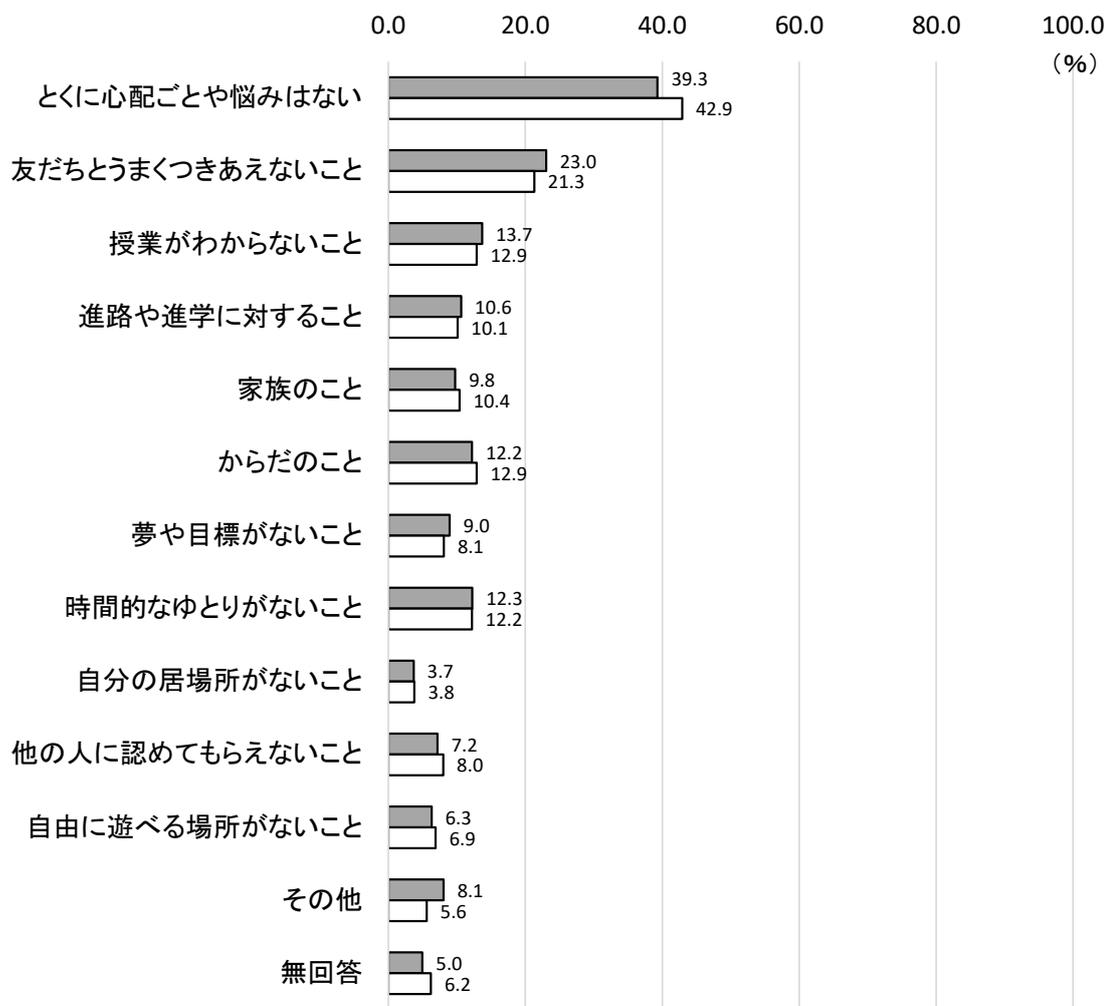


問 13 あなたの心配ごとや悩みは次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

心配ごとや悩みの理由については、「友だちとうまくつきあえないこと」が 23.0%、「授業がわからないこと」が 13.7%、「時間的なゆとりがないこと」が 12.3%などとなっています。

また、「とくに心配ごとや悩みはない」が 39.3%となっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「とくに心配ごとや悩みはない」が減少し、「友だちとうまくつきあえないこと」が増加しています。

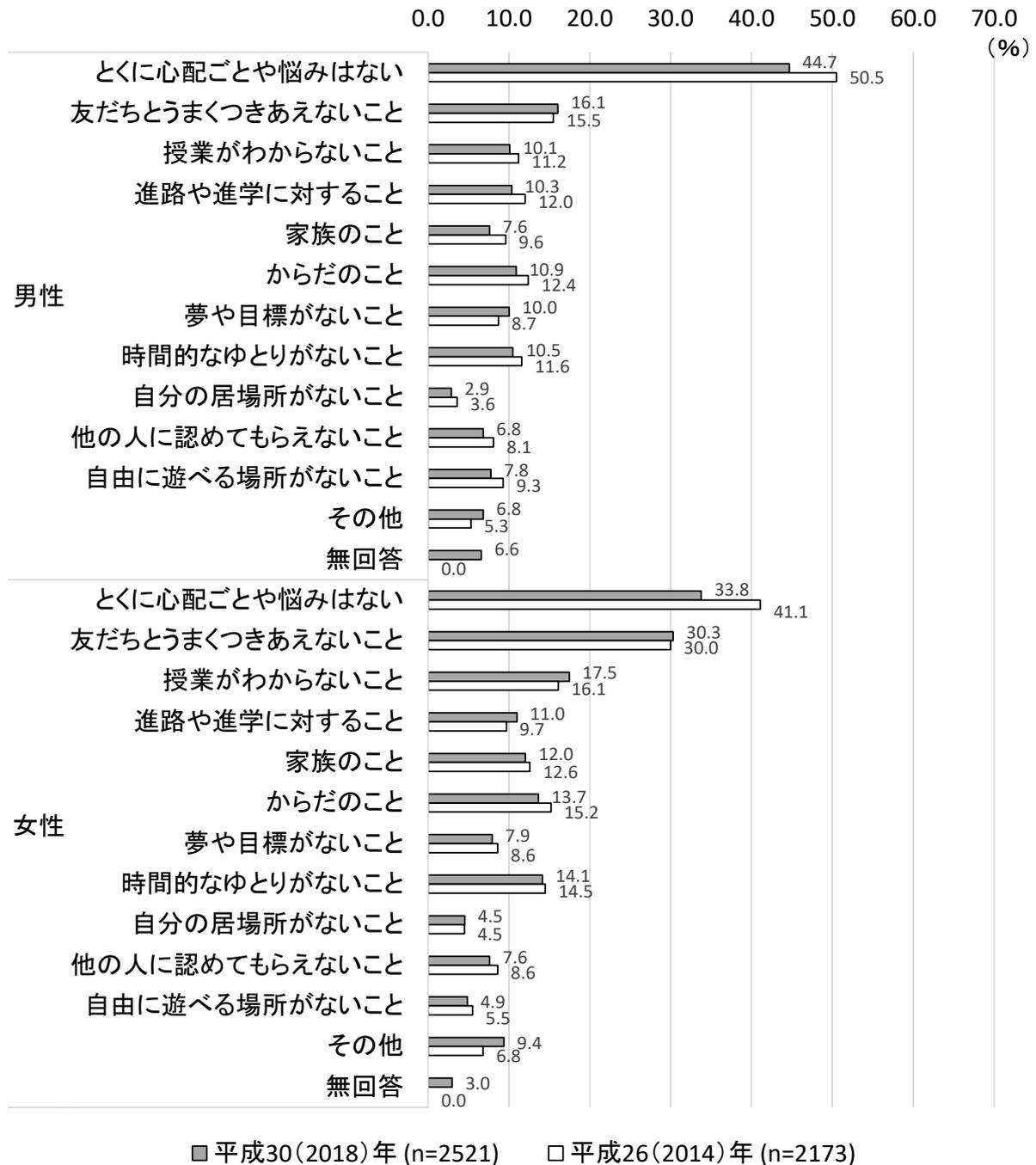


■平成30(2018)年 n=2521 □平成26(2014)年 n=2326

【性別】

性別で見ると、「友だちとうまくつきあえないこと」で悩む“女性”が3割と“男性”と比べて高い割合となっています。また、「とくに心配ごとや悩みはない」とした“男性”は4割半ばで“女性”よりも高くなっています。

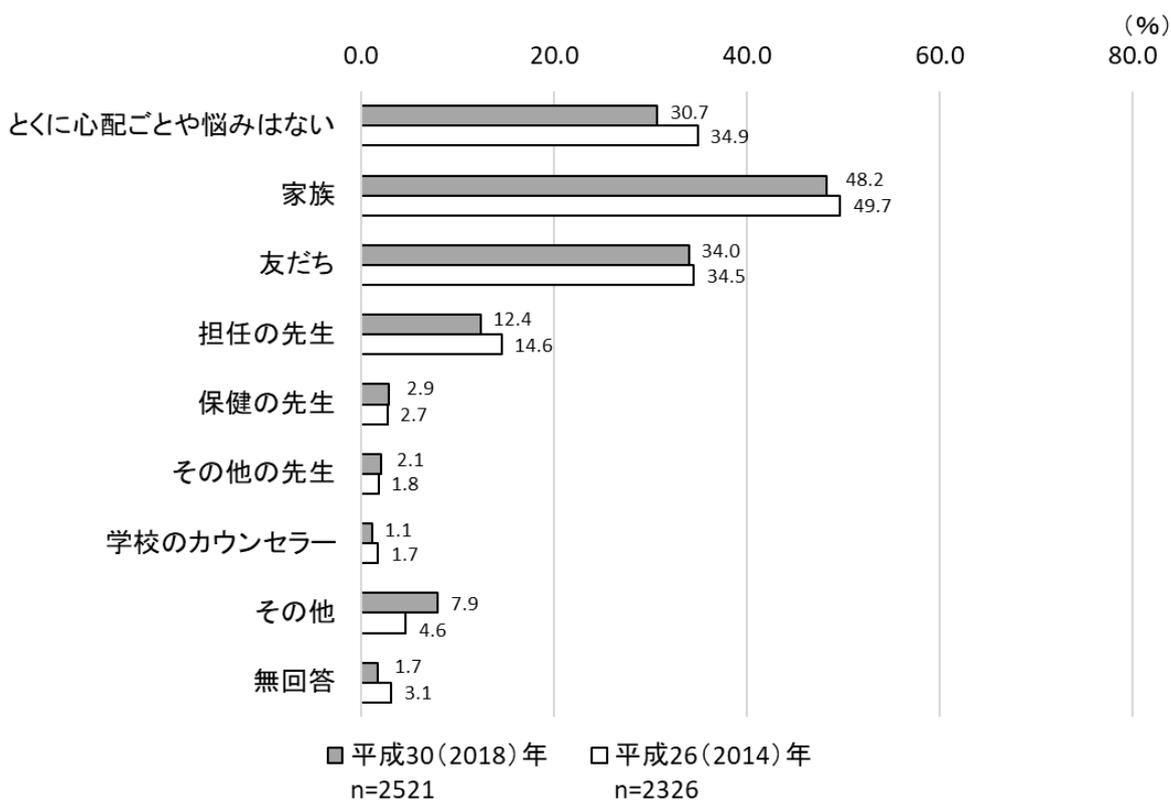
平成26年度の調査と比較すると、本調査では”男性”“女性”ともに「友だちとうまくつきあえないこと」が増加しているのに対し、「とくに心配ごとや悩みはない」は”男性”“女性”ともに大きく減少しています。



問 14 心配ごとや悩みは、誰に相談することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

心配ごとや悩みを誰に相談することが多いかについては、「家族」が最も多く 48.2%、「友だち」が 34.0%、「担任の先生」が 12.4%などとなっています。また、「とくに心配ごとや悩みはない」が 30.7%となっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、「その他」が増加する代わりに、それ以外の項目は全般的に減少しています。

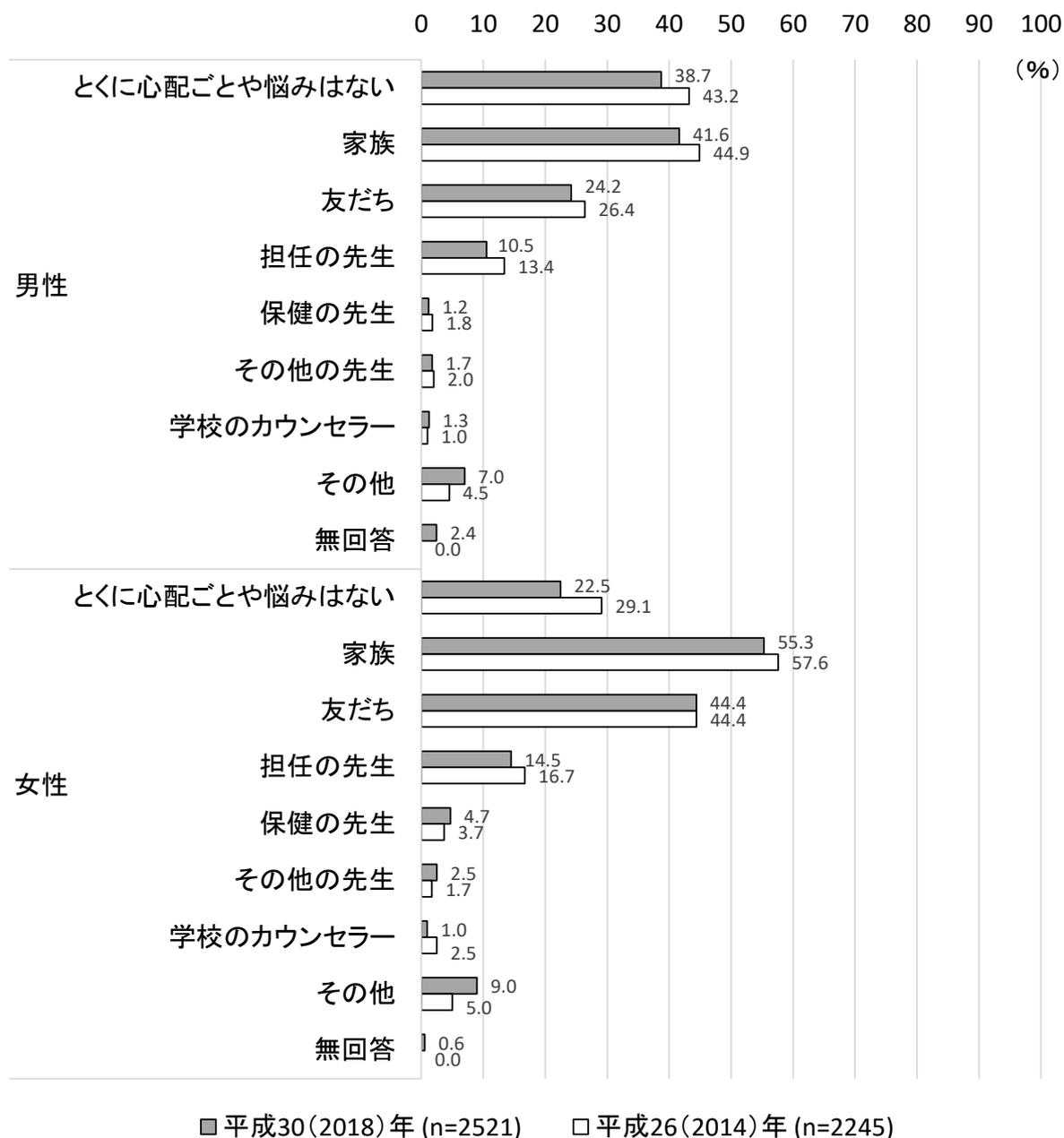


注) 本調査における「その他」の主な意見
 ・誰にも相談しない
 ・ゲームの友だち、インターネットの友だち
 ・部活やクラブのコーチ など

【性別】

性別で見ると、相談相手は“男性”“女性”ともに「家族」「友だち」が多くなっていますが、割合としては、“男性”よりも“女性”の方が高くなっています。

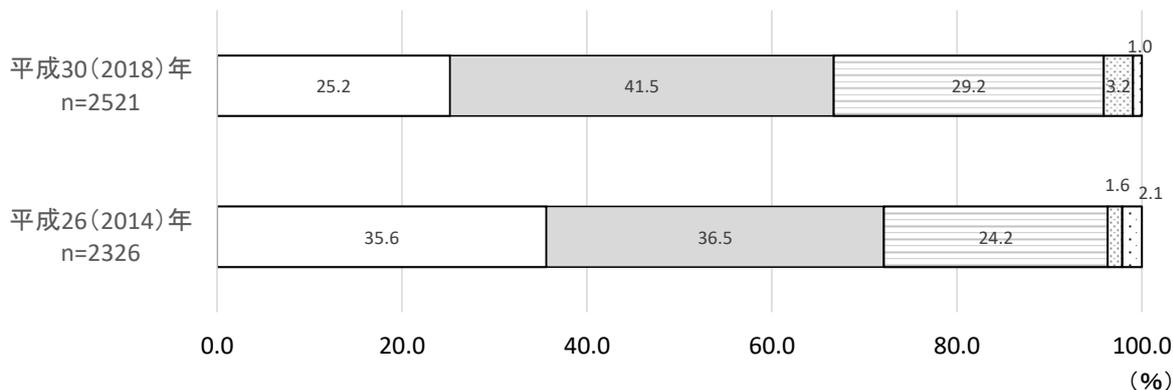
平成26年度の調査と比較すると、本調査では“男性”“女性”ともに「家族」や「担任の先生」に相談する割合が減少しています。



問 15 あなたは地域の行事などにどのくらい参加していますか。(1つだけ○)

地域の行事にどのくらい参加するかについては、「ときどき参加している」が最も多く41.5%、次いで「ほとんど参加していない」29.2%、「できるだけ参加している」25.2%などとなっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「できるだけ参加している」が1割近く減少しています。



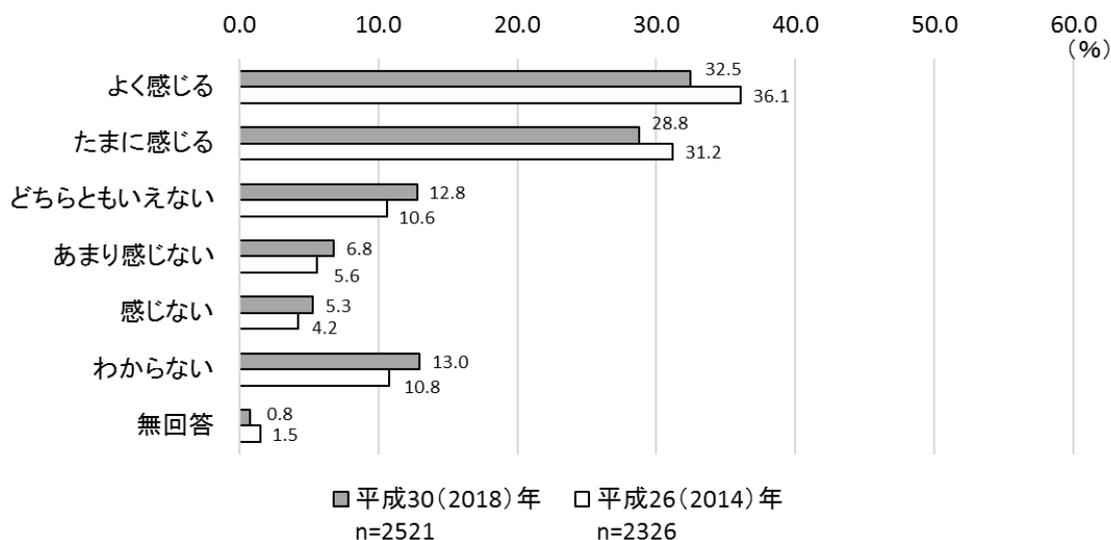
□できるだけ参加している □ときどき参加している □ほとんど参加していない □その他 □無回答

問 16 あなたは、地域の大人が自分たちを見守ってくれていると感じますか。

(1つだけ○)

地域の大人が自分たちを見守ってくれていると感じるかについては、「よく感じる」が最も多く32.5%、「たまに感じる」が28.8%などとなっています。

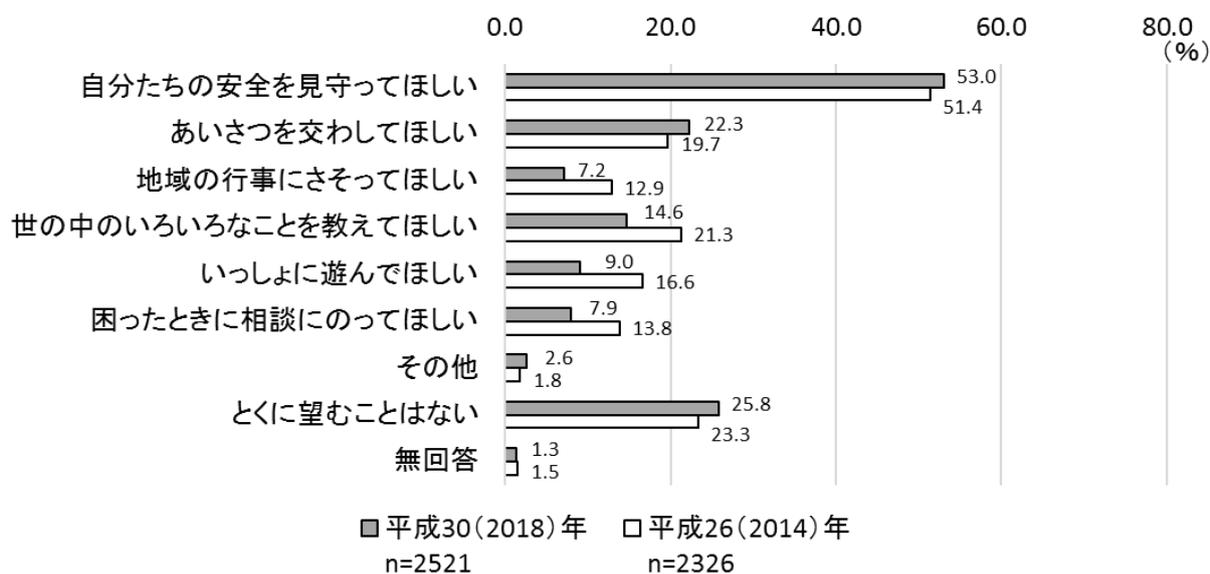
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「良く感じる」「たまに感じる」が減少し、「どちらともいえない」「あまり感じない」「感じない」「わからない」が、いずれも増加しています。



問 17 あなたの住んでいる地域の大人にどんなことを望みますか。(2つまで○)

地域の大人にどのようなことを望むかについては、「自分たちの安全を見守ってほしい」が53.0%と最も多く、次いで「あいさつを交わしてほしい」が22.3%、「世の中のいろいろなことを教えてほしい」が14.6%などとなっています。また、「とくに望むことはない」が25.8%となっています。

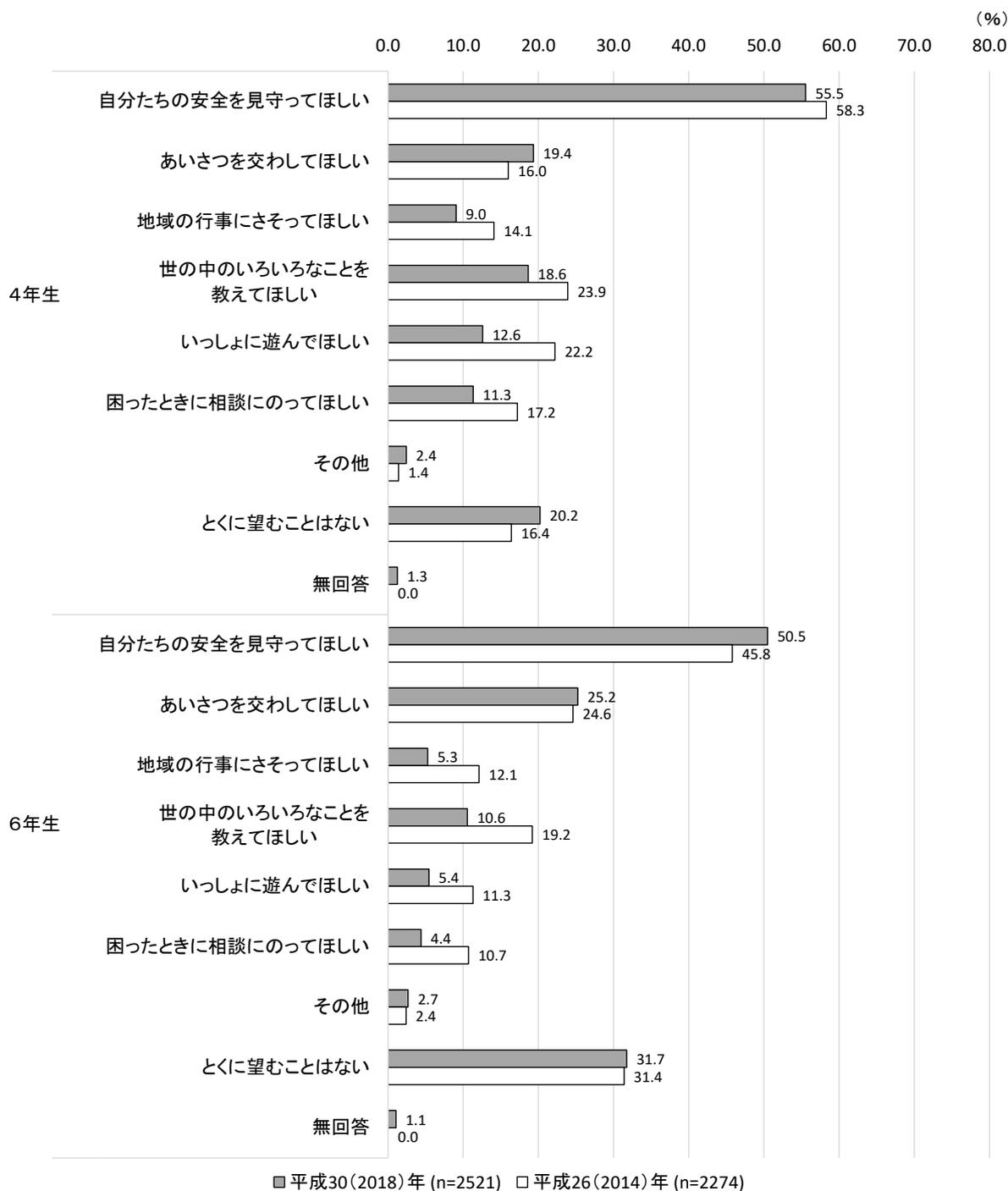
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「自分たちの安全を見守ってほしい」「あいさつを交わしてほしい」が増加する一方で、「世の中のいろいろなことを教えてほしい」などは減少しており、特に「いっしょに遊んでほしい」「困ったときに相談にのってほしい」については半数近くまで減少しています。



【学年別】

学年別でみると、「自分たちの安全を見守ってほしい」では“4年生”が5割半ばと“6年生”と比べてやや高い割合となっています。

平成26年度の調査と比較すると、“4年生”では「自分たちの安全を見守ってほしい」が減少しているのに対し、“6年生”は増加しています。

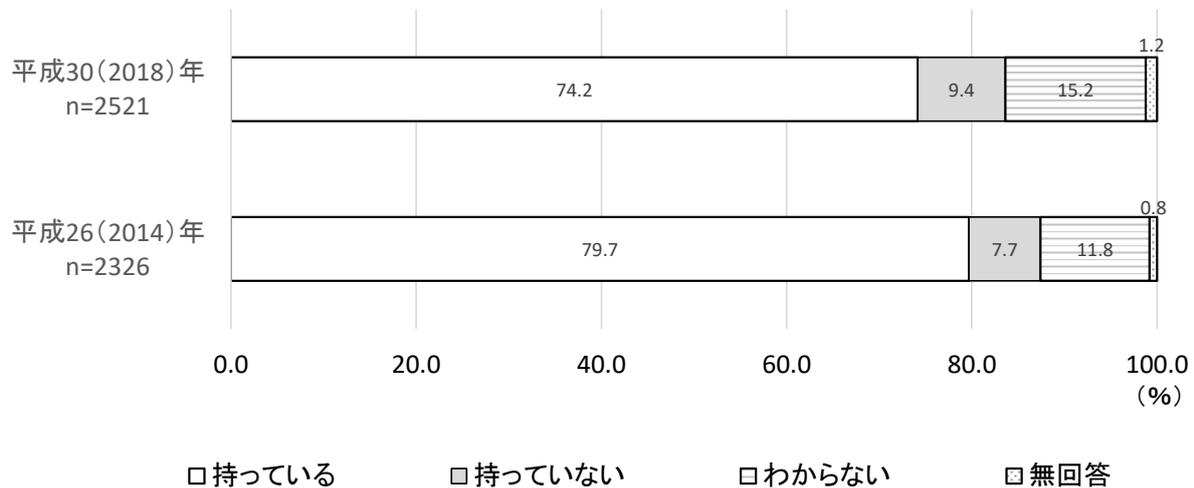


5. 将来について

問 18 あなたは将来の夢や目標を持っていますか。(1つだけ○)

将来の夢や目標については、「持っている」が最も多く 74.2%、次いで「わからない」が 15.2%、「持っていない」が 9.4%となっています。

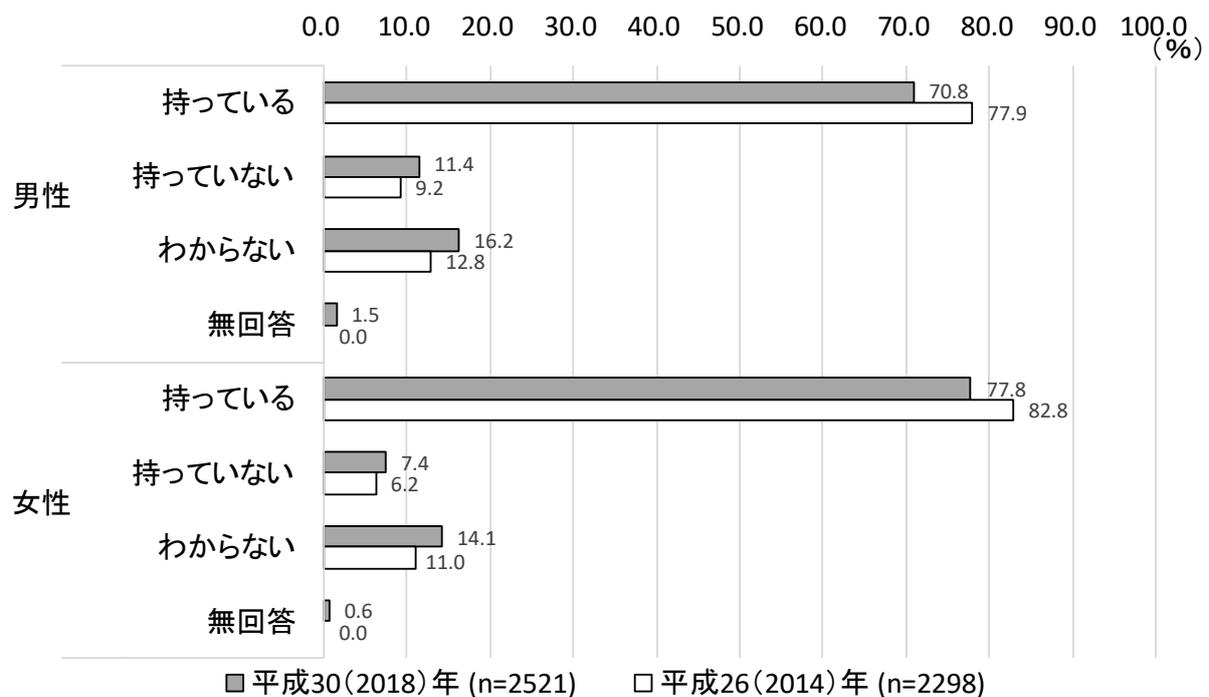
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「持っている」が減少しています。



【性別】

性別で見ると、“男性”“女性”ともに「持っている」が 7 割を超えており、“女性”の方が“男性”よりもやや多くなっています。

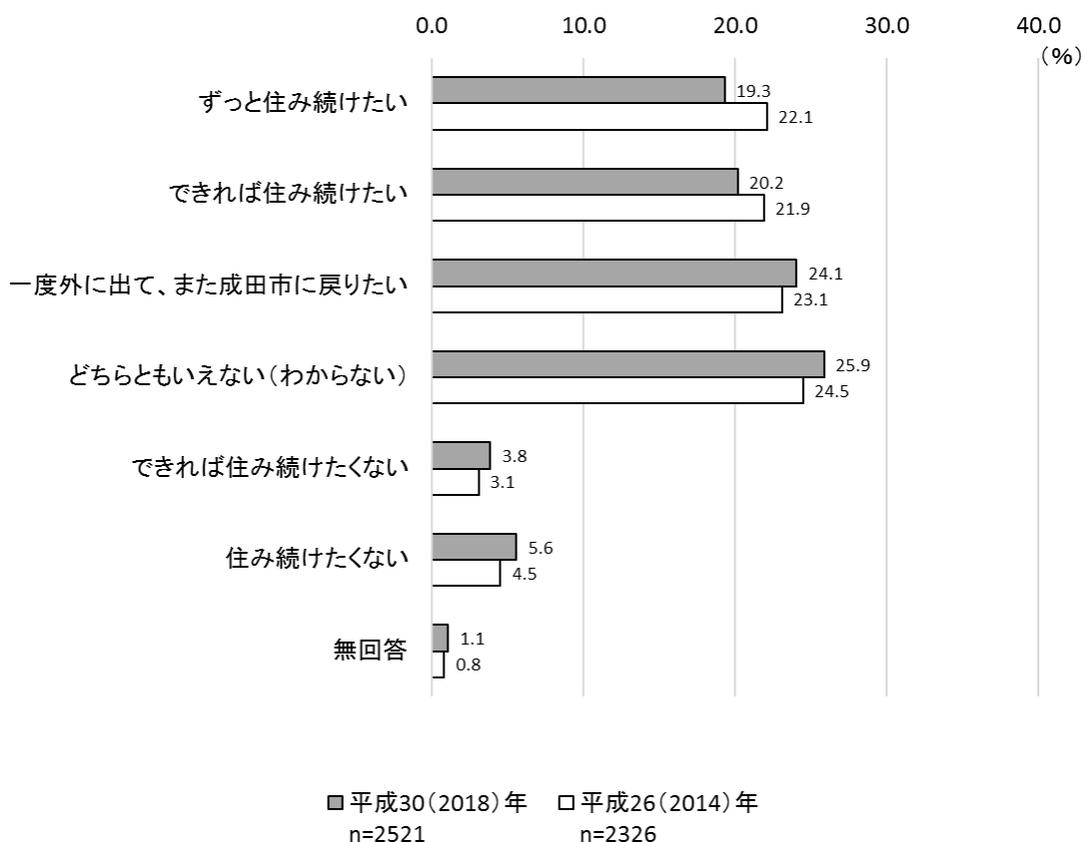
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では“男性”“女性”ともに「持っている」が減少しています。



問 19 あなたは、将来も成田市に住み続けたいと思いますか。(1つだけ〇)

将来も成田市に住み続けたいと思うかについては、「どちらともいえない(わからない)」が最も多く 25.9%、次いで「一度外に出て、また成田市に戻りたい」が 24.1%、「できれば住み続けたい」が 20.2%、「ずっと住み続けたい」が 19.3%などとなっています。

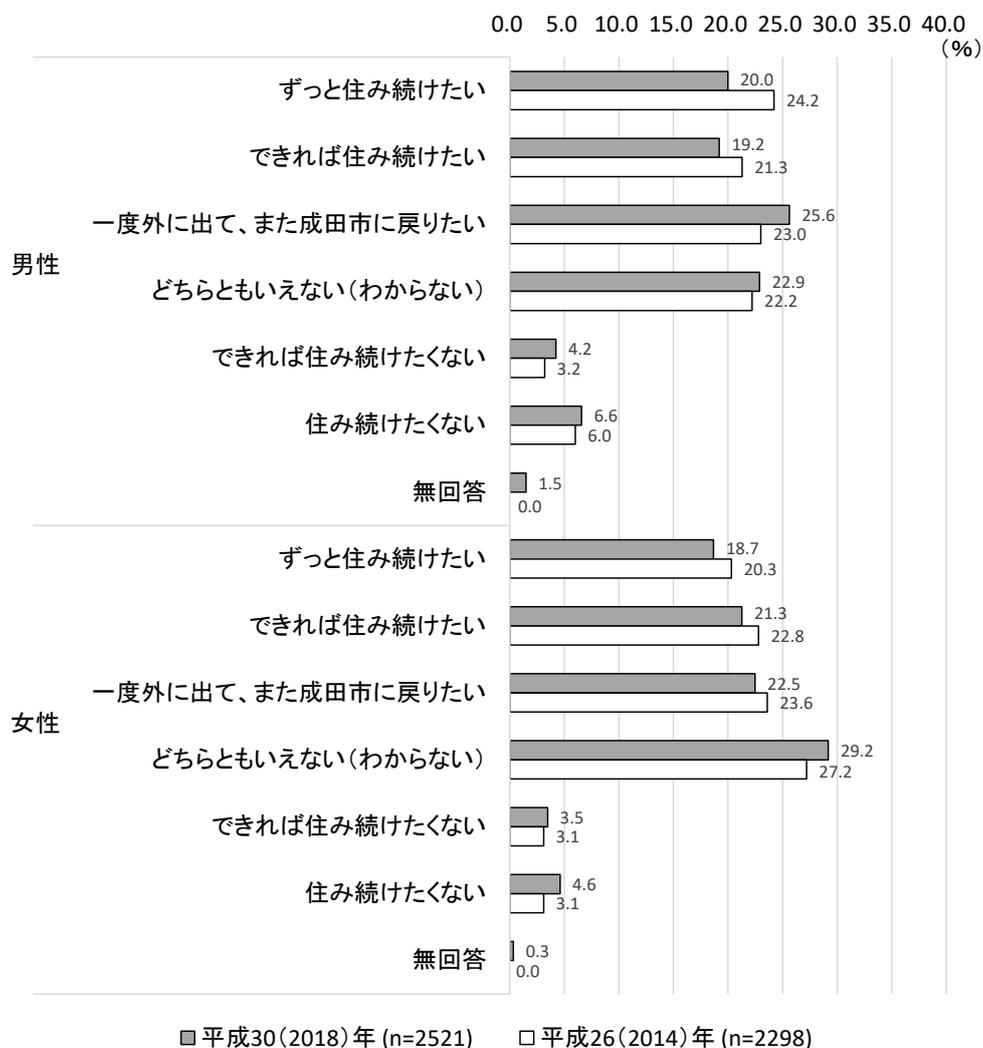
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「一度外に出て、また成田市に戻りたい」や「住み続けたくない」などが増加し、「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」が減少しています。



【性別】

性別で見ると、“男性”は「一度外に出て、また成田市に戻りたい」が最も多く、“女性”は「どちらともいえない(わからない)」が最も多くなっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では“男性”“女性”ともに「ずっと住み続けたい」「できれば済み続けたい」が減少しており、特に“男性”の「ずっと住み続けたい」については大きく減少しています。

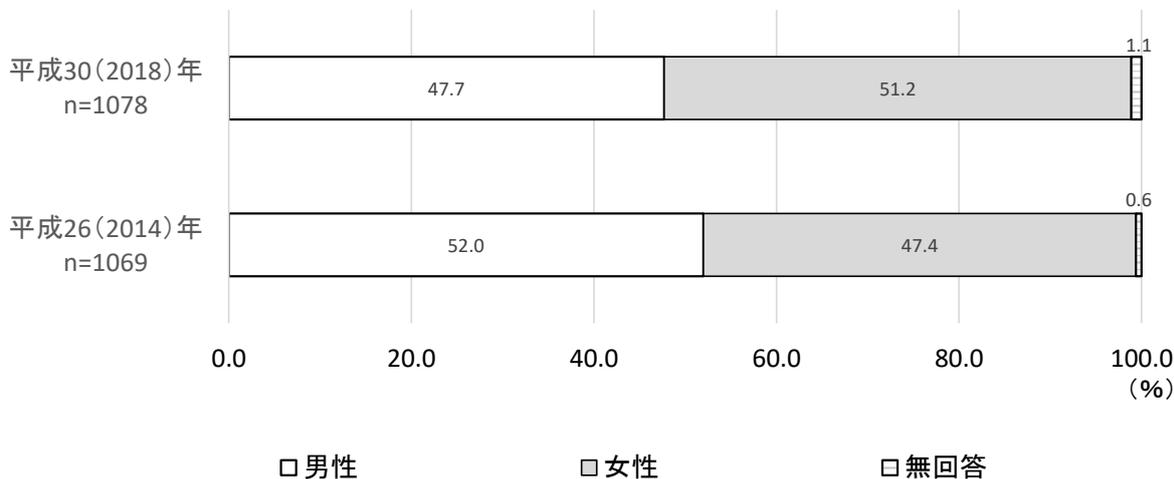


第3章 中学生調査の結果

1. あなたについて

問1 あなたの性別はどちらですか。(1つだけ○)

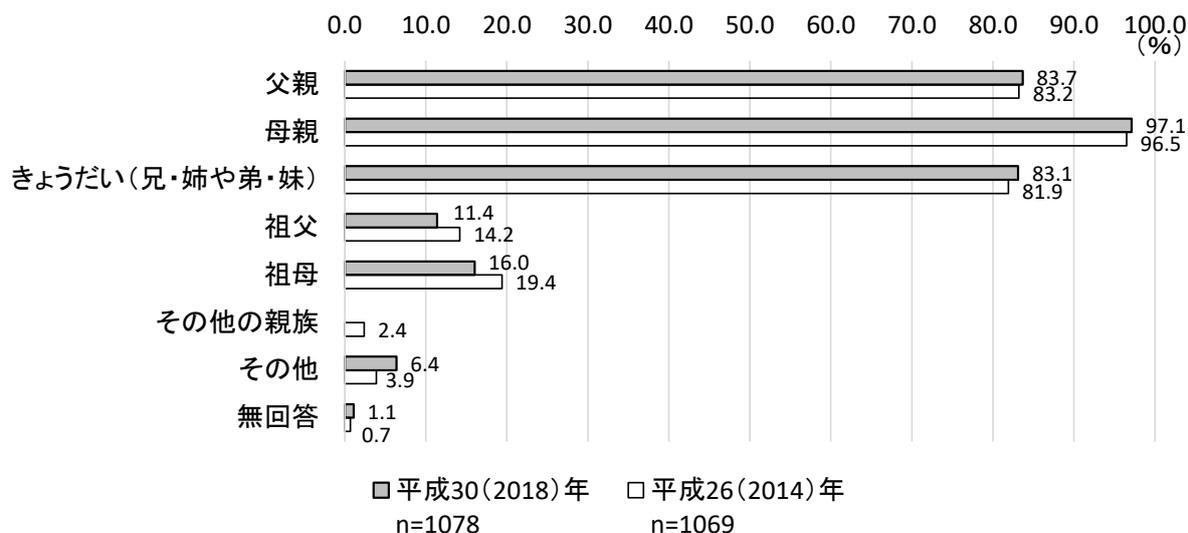
性別については、「男性」が47.7%、「女性」が51.2%となっています。



問2 あなたと一緒に住んでいる家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

一緒に住んでいる家族については「母親」が最も多く97.1%、次いで「父親」が83.7%、「きょうだい(兄・姉や弟・妹)」が83.1%、「祖母」が16.0%、「祖父」が11.4%などとなっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「祖父」と「祖母」が減少しています。

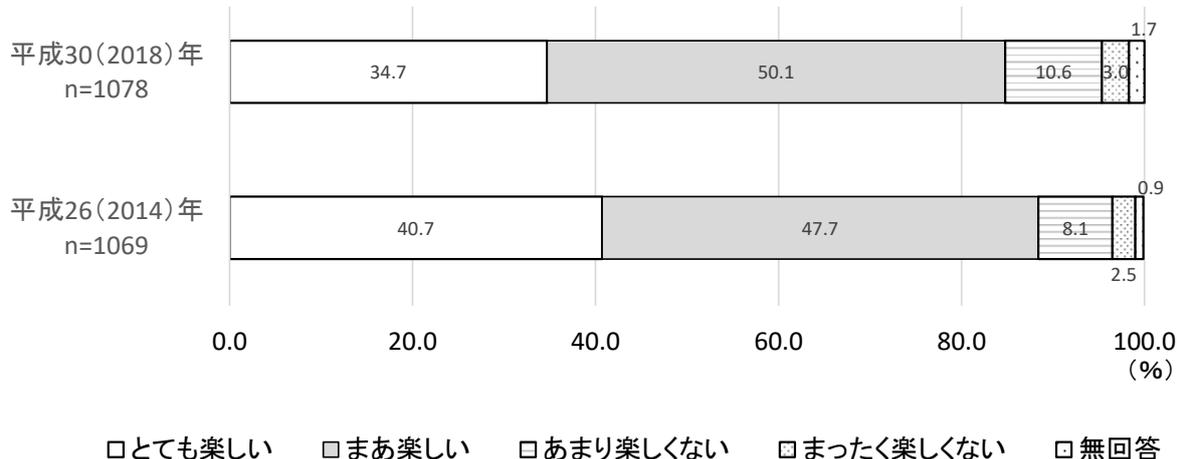


2. 学校について

問3 学校生活は楽しいですか。(1つだけ〇)

学校生活が楽しいかについては、「まあ楽しい」が最も多く 50.1%、次いで「とても楽しい」が 34.7%、「あまり楽しくない」が 10.6%、「まったく楽しくない」が 3.0%となっています。

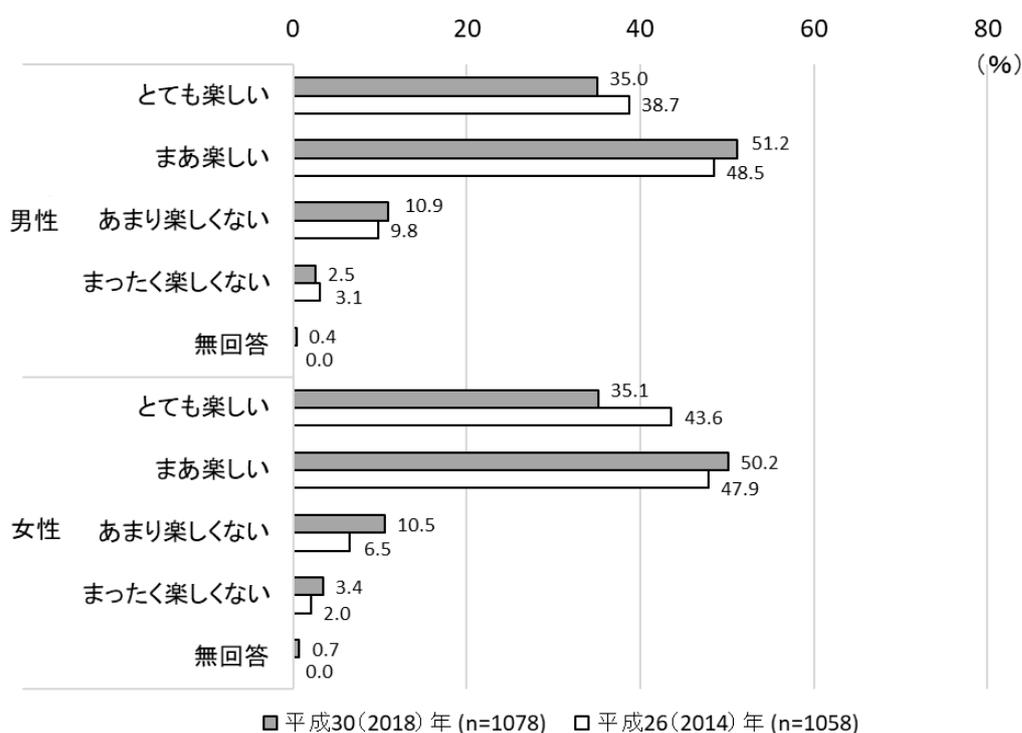
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「とても楽しい」が減少し、「まあ楽しい」、「あまり楽しくない」が増加しています。



【性別】

性別でみると、“男性”と“女性”で大きな違いがなく、「とても楽しい」「まあ楽しい」を合わせると8割を超えています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では“女性”の「とても楽しい」が大きく減少しています。

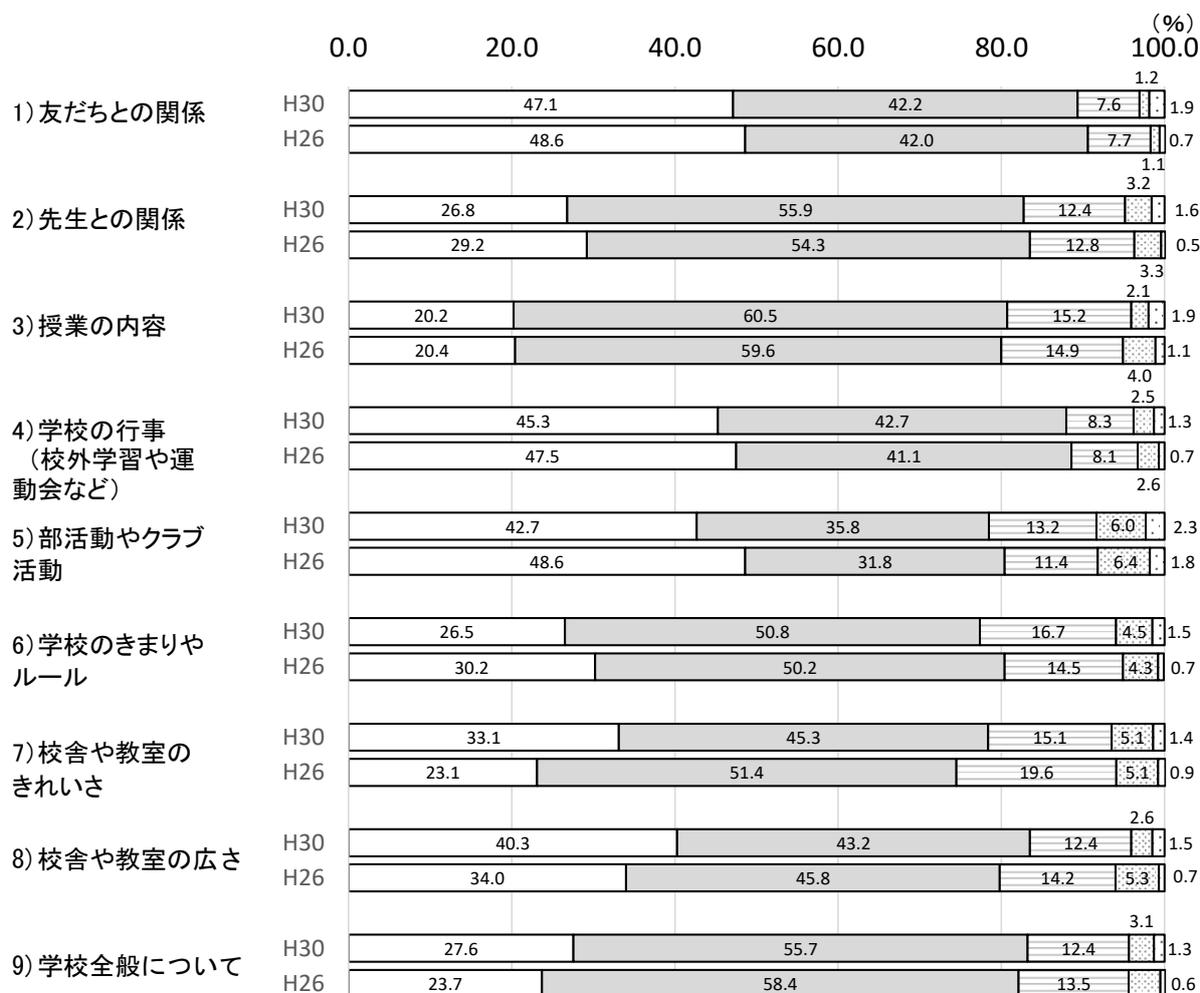


問4 あなたは、学校生活に関する次のようなことに、どのくらい満足していますか。

(それぞれにひとつずつ○)

学校生活に関する満足度については、“1) 友だちとの関係”や“4) 学校の行事(校外学習や運動会など)”、“5) 部活動やクラブ活動”、“8) 校舎や教室の広さ”で「とても満足」が4割を超え、「まあ満足している」と合わせると8割から9割程度になります。他の項目についても「とても満足」と「まあ満足」の割合が高く、2つを合わせた『満足』は、最も低い“6) 学校のきまりやルール”でも7割を超えています。また、“9) 学校全般について”では「とても満足している」が3割近く、「まあ満足している」が5割を超え、合わせた『満足』は8割を超えています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「とても満足」と「まあ満足」の2つを合わせた『満足』が、“5) 部活動やクラブ活動”や“6) 学校のきまりやルール”において減少しているが、“7) 校舎や教室のきれいさ”や“8) 校舎や教室の広さ”において増加しています。



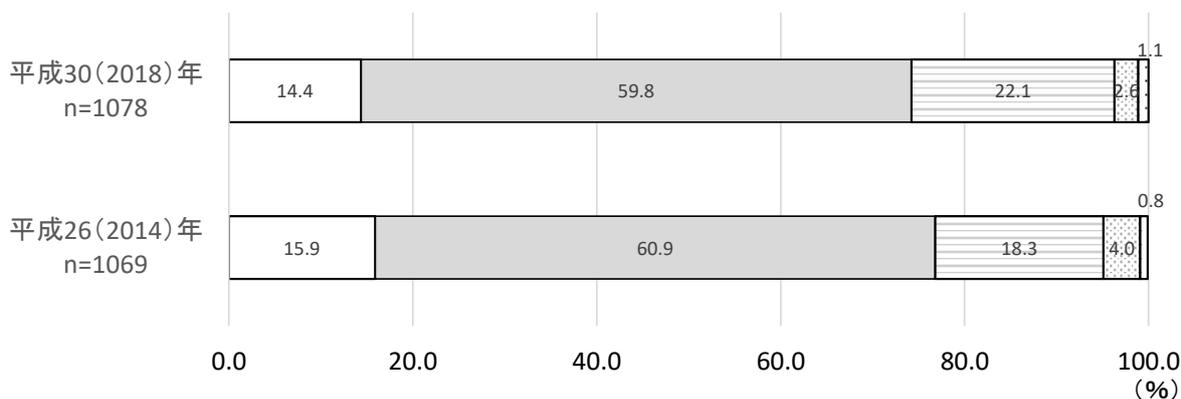
□とても満足している □まあ満足している □あまり満足していない □まったく満足していない □無回答

平成30(2018)年 n=1078、平成26(2014)年 n=1069

問5 あなたは、学校の授業がどのくらいわかりますか。(1つだけ○)

学校の授業がどのくらい分かるかについては、「だいたいわかる」が最も多く59.8%、次いで「あまりわからない」が22.1%、「よくわかる」が14.4%、「ほとんどわからない」が2.6%となっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「よくわかる」、「ほとんどわからない」が減少し、「あまりわからない」が増加しています。

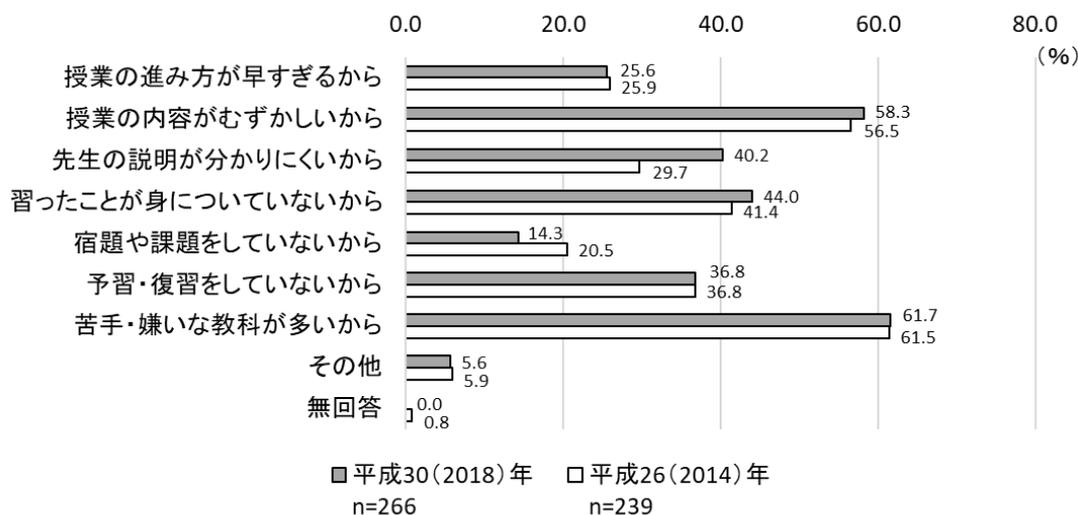


□よくわかる □だいたいわかる □あまりわからない □ほとんどわからない □無回答

問6 授業がわからない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

授業がわからない理由については、「苦手・嫌いな教科が多いから」が最も多く61.7%、次いで「授業の内容がむずかしいから」が58.3%、「習ったことが身につけていないから」が44.0%、「先生の説明が分かりにくいから」が40.2%、「予習・復習をしていないから」が36.8%となっています。

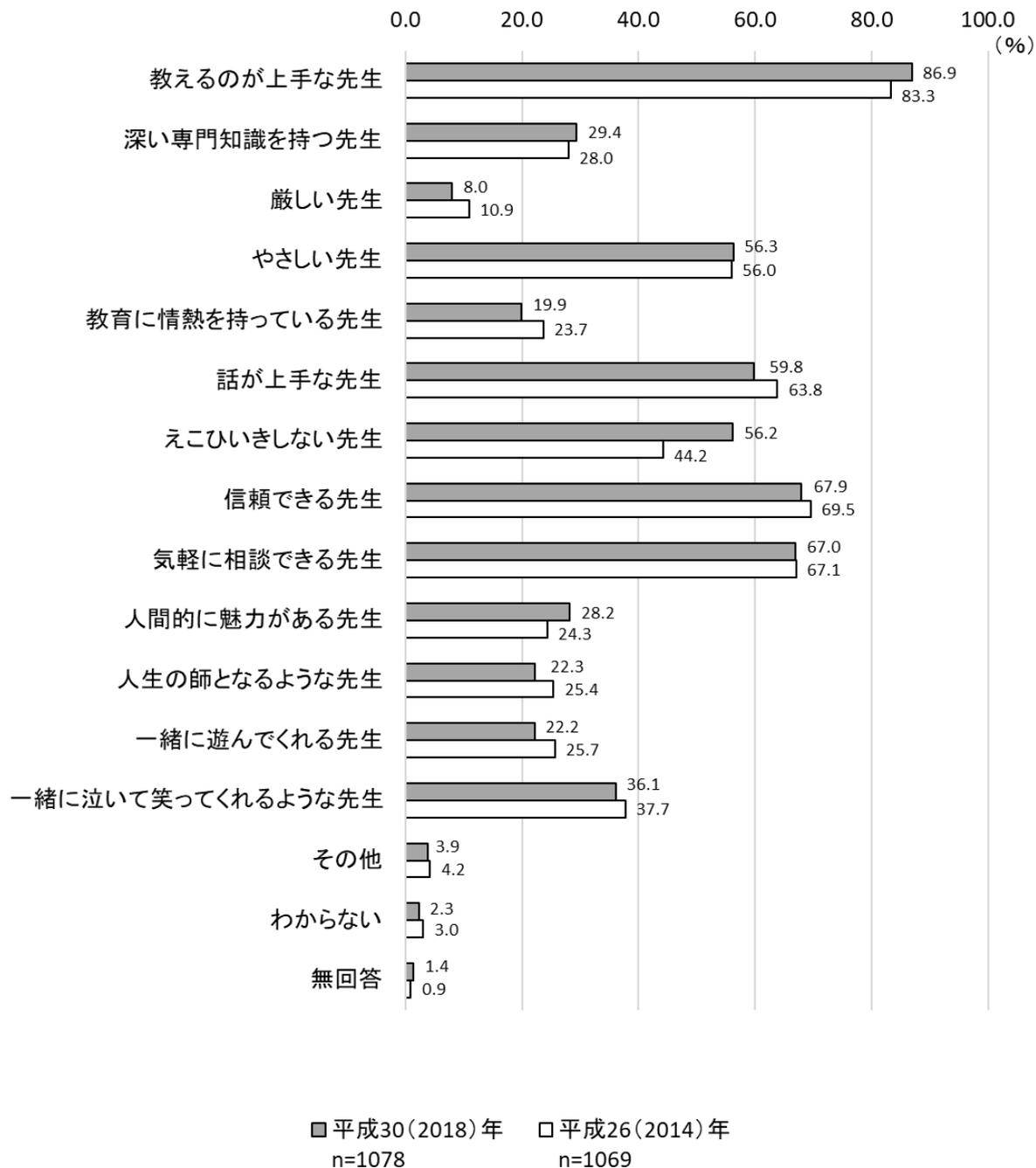
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「先生の説明が分かりにくいから」が10.5ポイントと大きく増加し、「宿題や課題をしていないから」が6.2ポイント減少しています。



問7 あなたは、どのような先生に教わりたいですか。(あてはまるものすべてに○)

どのような先生に教わりたいかについては、「教えるのが上手な先生」が最も多く 86.9%、次いで「信頼できる先生」が 67.9%、「気軽に相談できる先生」が 67.0%、「話が上手な先生」が 59.8%、「やさしい先生」が 56.3%などとなっています。

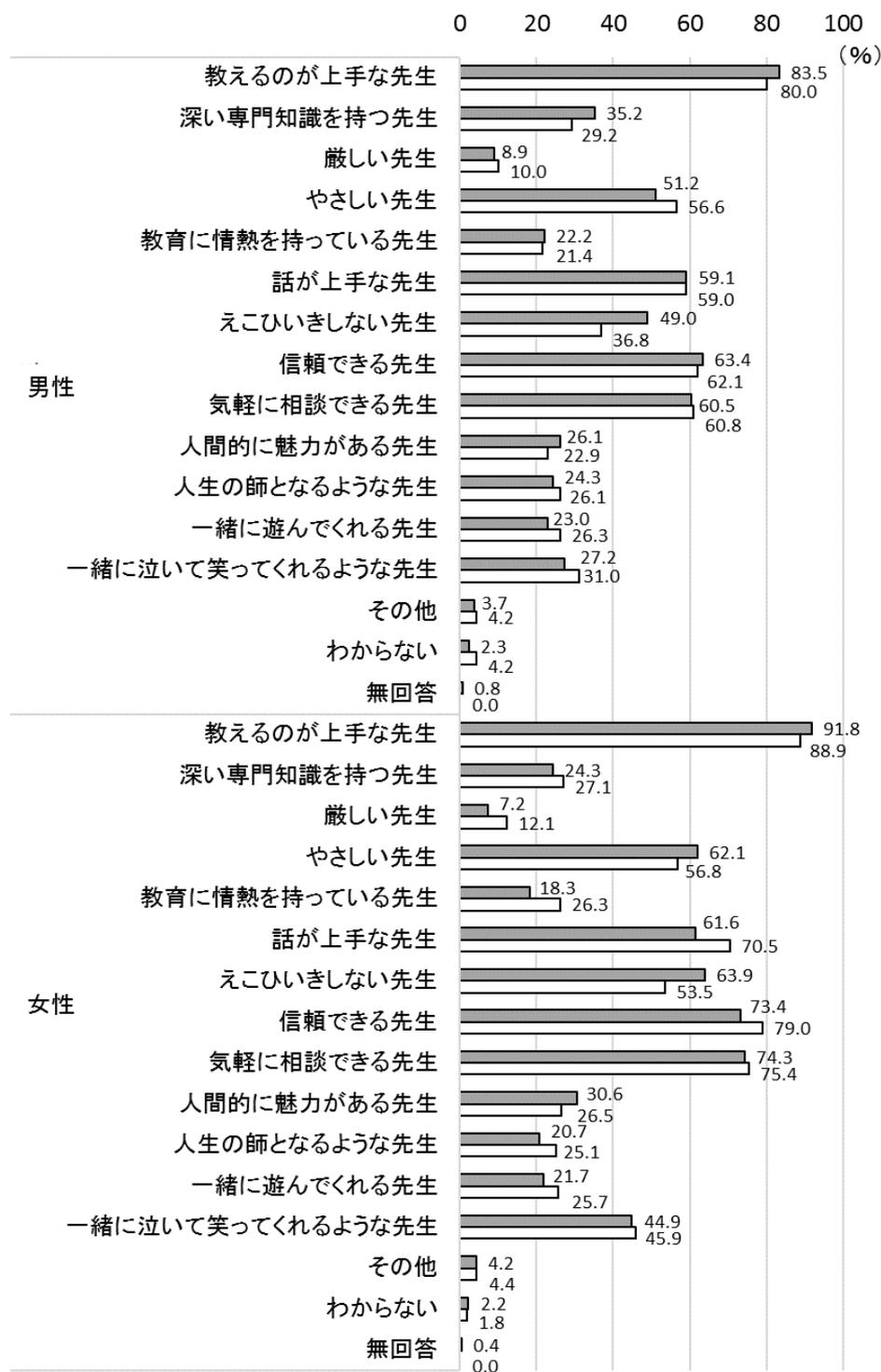
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「えこひいきしない先生」が最も増加しています。



【性別】

上位を性別で見ると、「教えるのが上手な先生」「信頼できる先生」「気軽に相談できる先生」ともに“男性”よりも“女性”の割合が高くなっています。

平成26年度の調査と比較すると“男性”“女性”ともに「えこひいきしない先生」が最も増加しています。

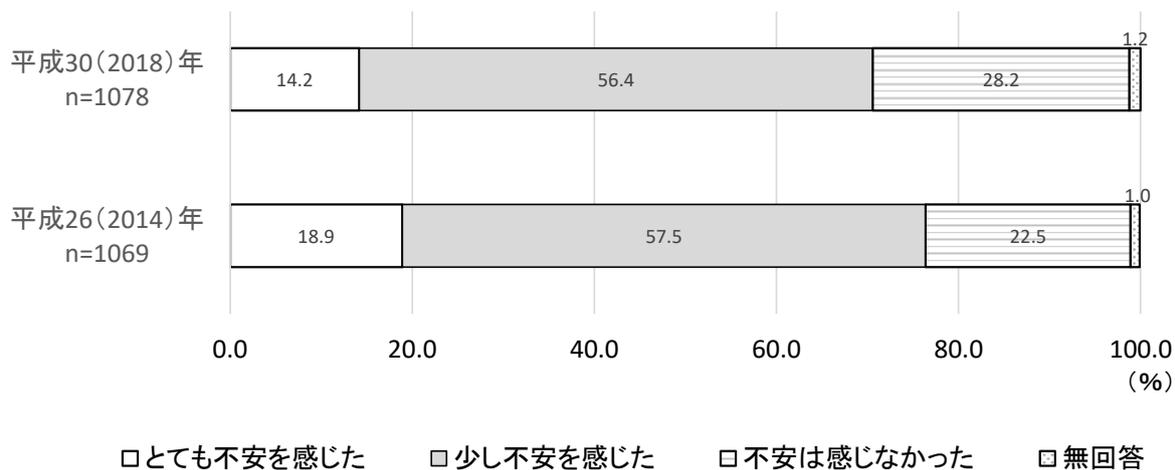


■平成30(2018)年 (n=1078) □平成26(2014)年 (n=1056)

問8 あなたは、小学生から中学生になるときに、不安を感じましたか。(1つだけ○)

進級するとき不安を感じたかについては、「少し不安を感じた」が最も多く56.4%、次いで「不安は感じなかった」が28.2%、「とても不安を感じた」が14.2%となっています。

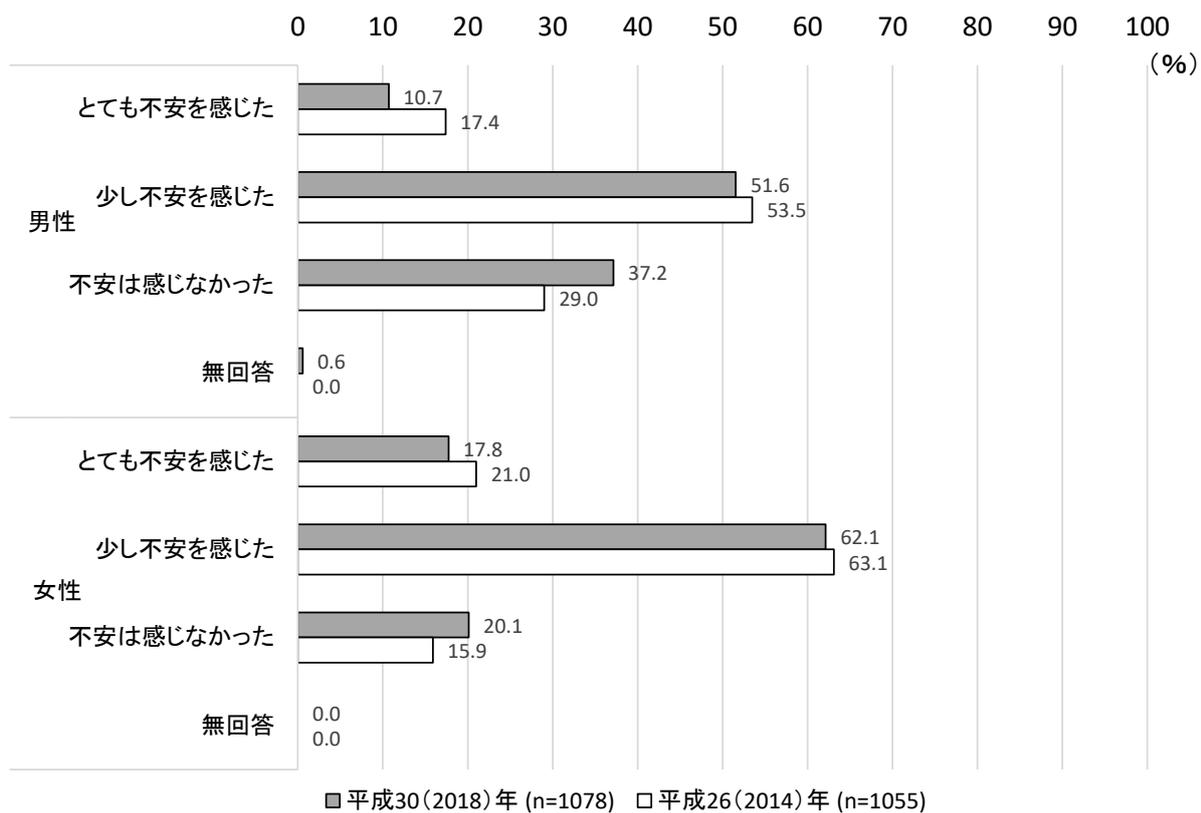
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「とても不安を感じた」が減少し、「不安は感じなかった」が増加しています。



【性別】

性別で見ると、「とても不安を感じた」「少し不安を感じた」を合わせると、“女性”は8割近くになり、“男性”と比べて高い割合となっています。

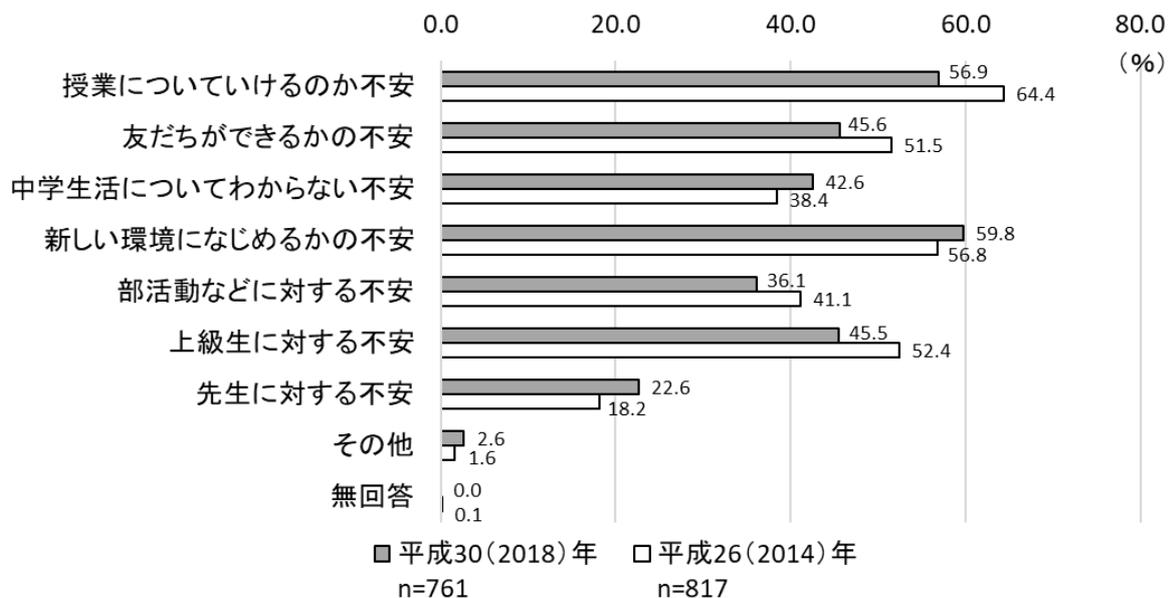
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「とても不安を感じた」が“男性”“女性”ともに減少し、「不安は感じなかった」はともに増加しています。



問9 不安の内容はどのようなことでしたか。(あてはまるものすべてに○)

不安の内容については、「新しい環境になじめるかの不安」が最も多く59.8%、次いで「授業についていけるのか不安」が56.9%、「友だちができるかの不安」が45.6%、「上級生に対する不安」が45.5%「中学生活についてわからない不安」が42.6%などとなっています。

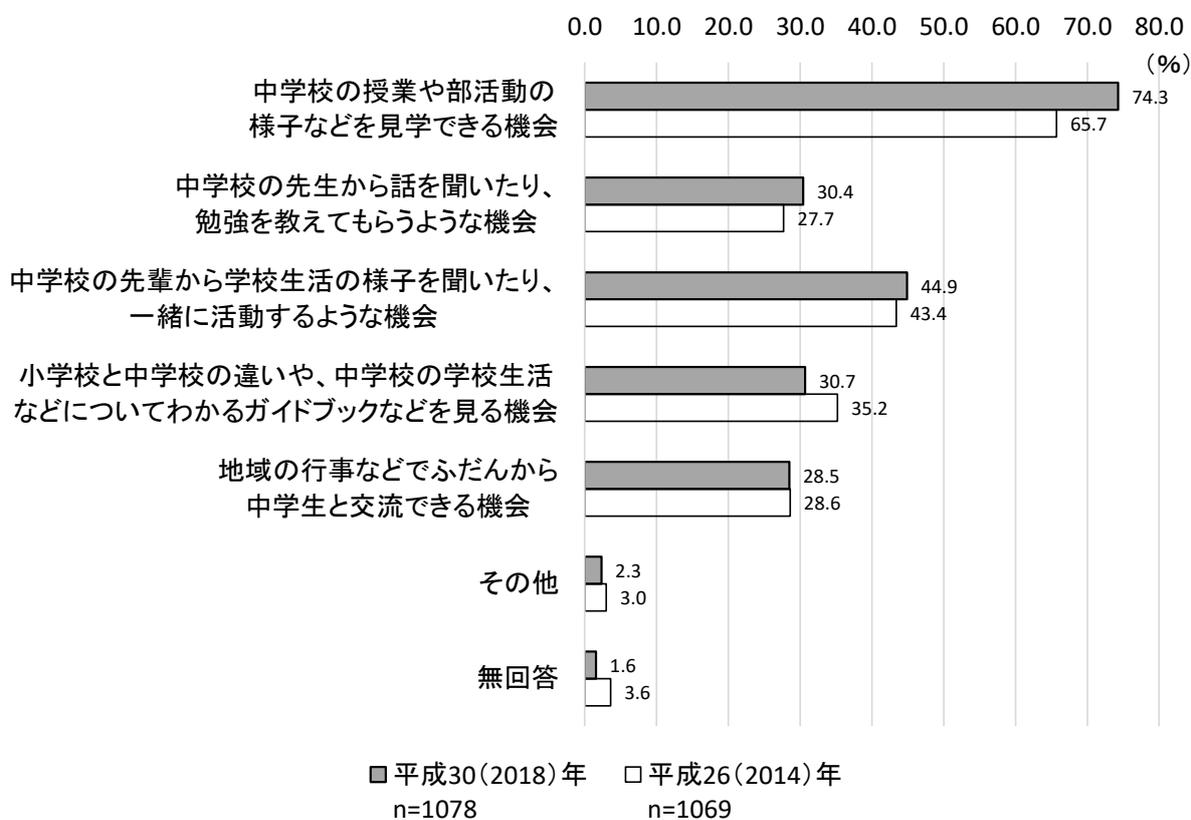
また、平成26年度の調査では、「授業についていけるのか不安」が最も多かったのに対し、本調査では「新しい環境になじめるかの不安」が最も多くなっています。



問 10 小学校のときに、どのような機会があれば、中学校に安心して進学することができますか。(あてはまるものすべてに○)

中学校に安心して進学するための機会については、「中学校の授業や部活動の様子などを見学できる機会」が最も多く 74.3%、次いで「中学校の先輩から学校生活の様子を聞いたり、一緒に活動するような機会」が 44.9%、「小学校と中学校の違いや、中学校の学校生活などについてわかるガイドブックなどを見る機会」が 30.7%、「中学校の先生から話を聞いたり、勉強を教えてもらうような機会」30.4%、「地域の行事などでふだんから中学生と交流できる機会」が 28.5%となっています。

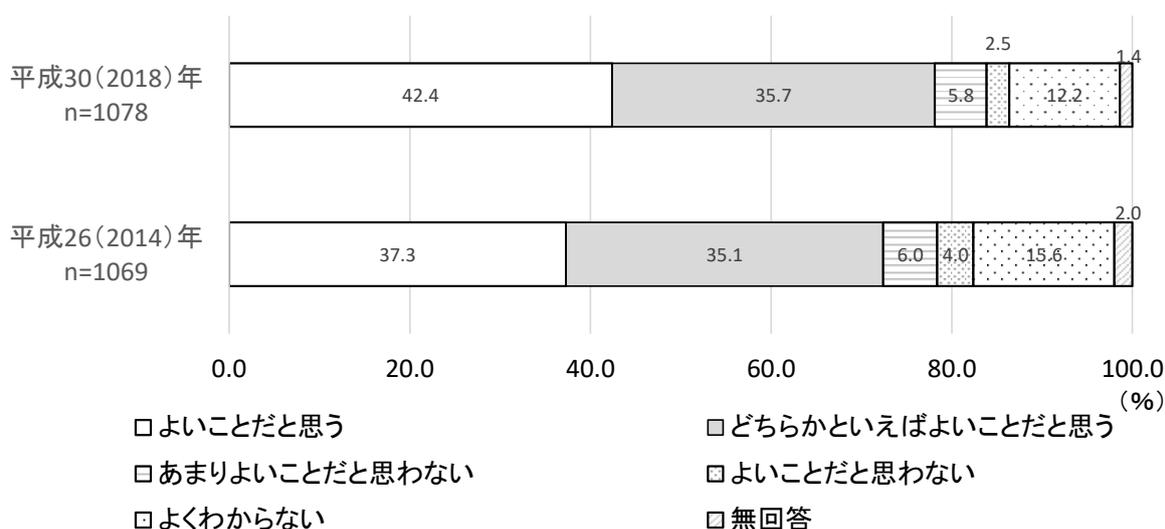
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「中学校の授業や部活動の様子などを見学できる機会」が最も増加し、「小学校と中学校の違いや、中学校の学校生活などについてわかるガイドブックなどを見る機会」は減少しています。



問 11 あなたは、小学校と中学校とが連携して、学校の目標や生活のきまりを統一したり、学校行事などで児童と生徒が交流することについて、どのように思いますか。
(1つだけ○)

小学校と中学校とが連携して、学校の目標や生活のきまりを統一したり、学校行事などで児童と生徒が交流することについては、「よいことだと思う」が最も多く 42.4%、次いで「どちらかといえばよいことだと思う」が 35.7%、「あまりよいことだと思わない」が 5.8%、「よいことだと思わない」が 2.5%となっています。

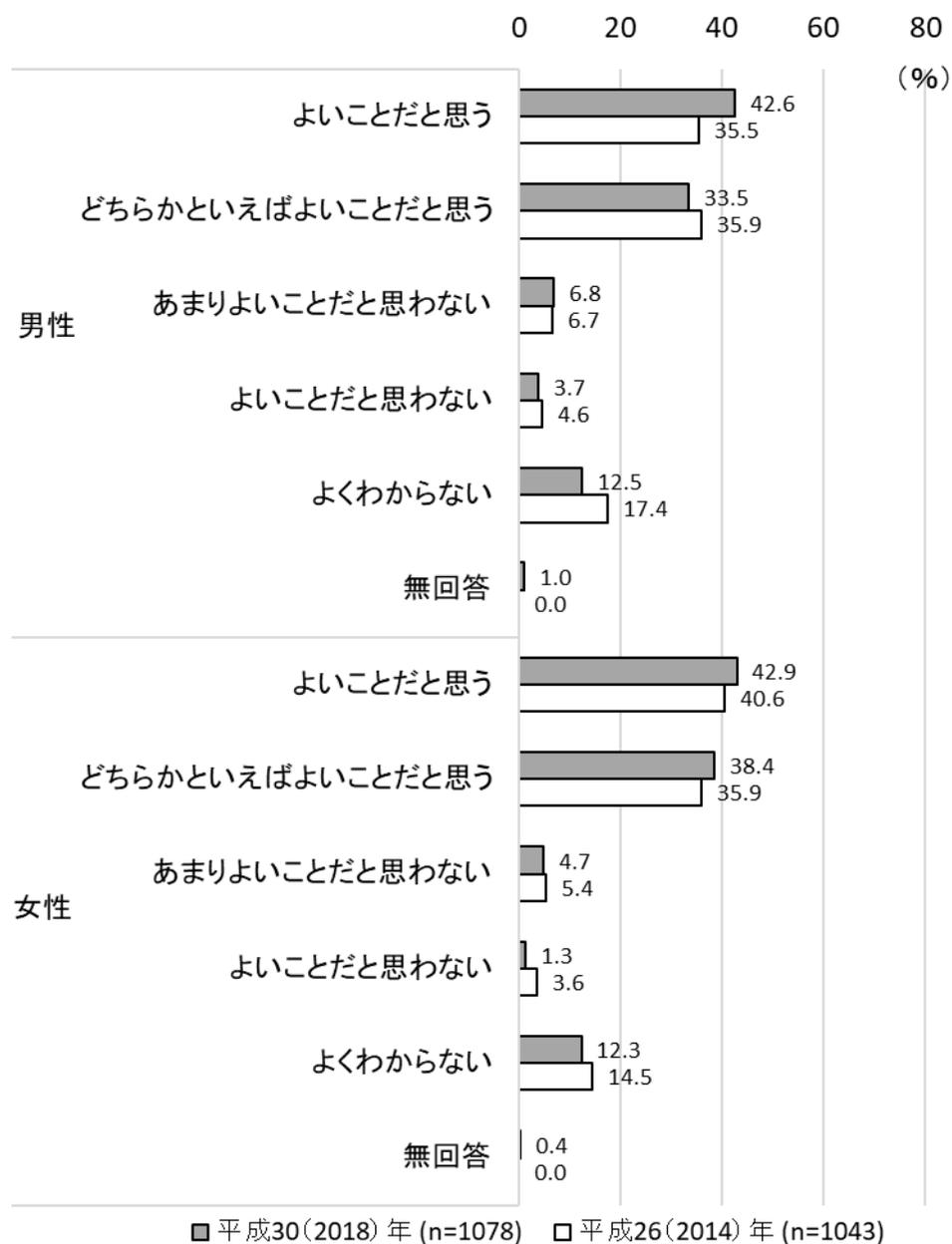
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「よいことだと思う」が増加し、「よいことだと思わない」が減少しています。



【性別】

性別で見ると、「よいことだと思う」では“男性”“女性”ともに4割を超えています。

また、平成26年度の調査では、“男性”は「どちらかといえばよいことだと思う」が最も多かったのに対し、本調査では「よいことだと思う」が最も多くなっています。

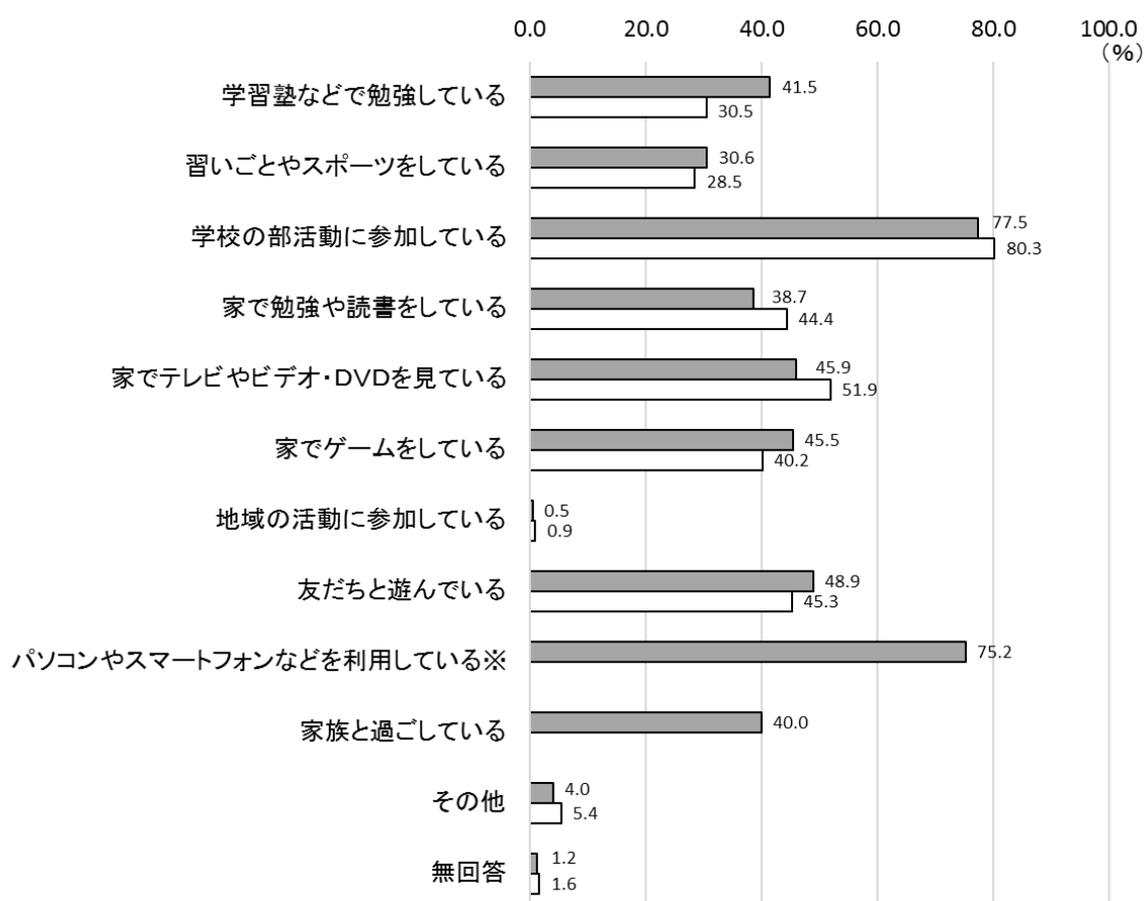


3. 放課後や土日の過ごし方について

問 12 あなたは、ふだん放課後に何をして過ごすことが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

ふだんの放課後の過ごし方については、「学校の部活動に参加している」が最も多く 77.5%、次いで「パソコンやスマートフォンを利用している」が 75.2%、「友だちと遊んでいる」が 48.9%、「家でテレビやビデオ・DVD を見ている」が 45.9%、「家でゲームをしている」が 45.5%などとなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「学習塾などで勉強している」が最も大きく増加しています。



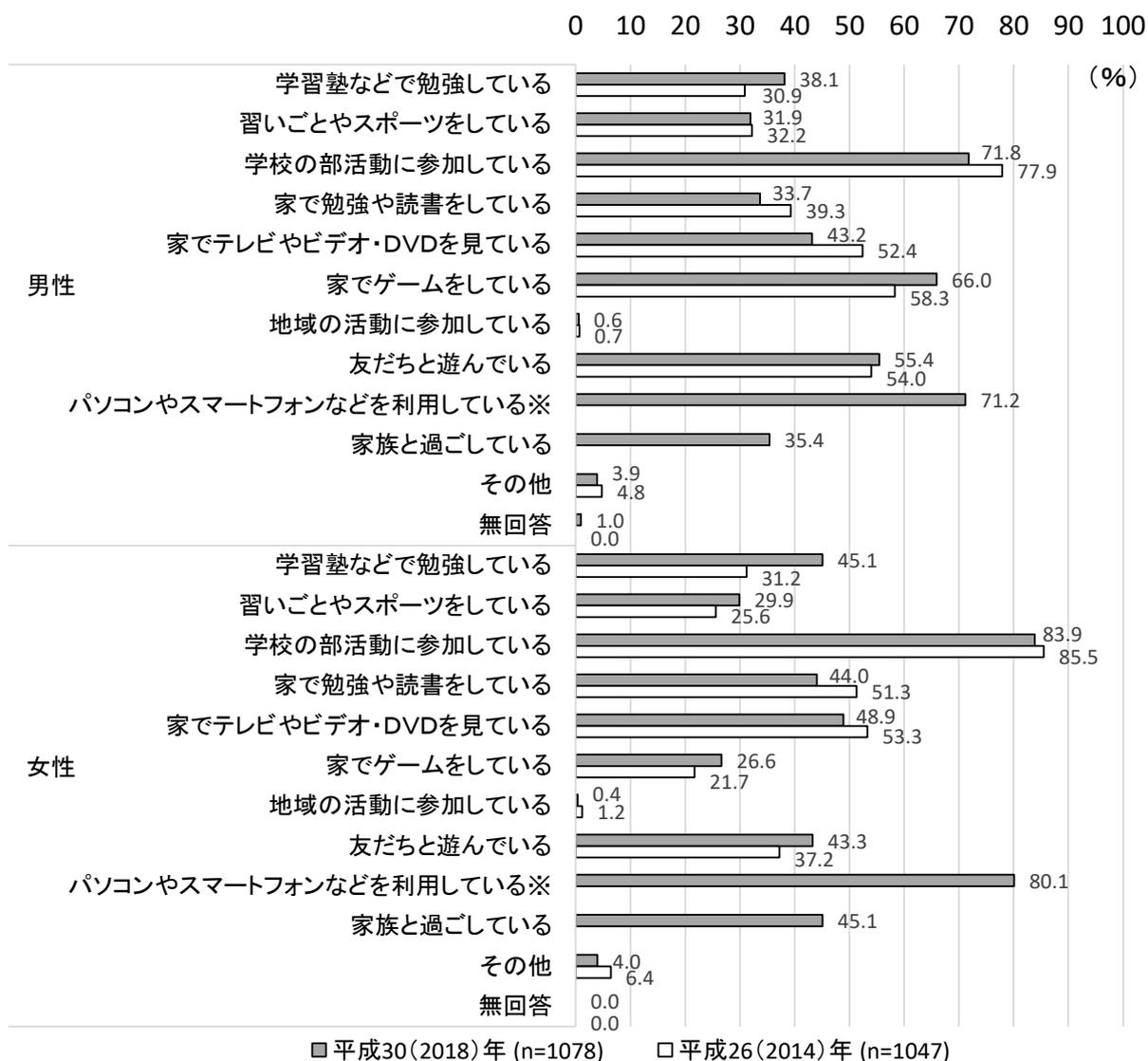
■平成30(2018)年 n=1078 □平成26(2014)年 n=1069

※：インターネットやYouTubeなどの動画を見たり、Lineやメールのやりとりをするなど

【性別】

性別でみても、「学校の部活動に参加している」が“男性”“女性”ともに高い割合になっています。また、「家でゲームをしている」では、“男性”が66.0%で“女性”の26.6%と比べて、2倍以上の高い値になっています。

平成26年度の調査と比較すると、“男性”“女性”ともに「学習塾などで勉強している」が大きく増加しています。

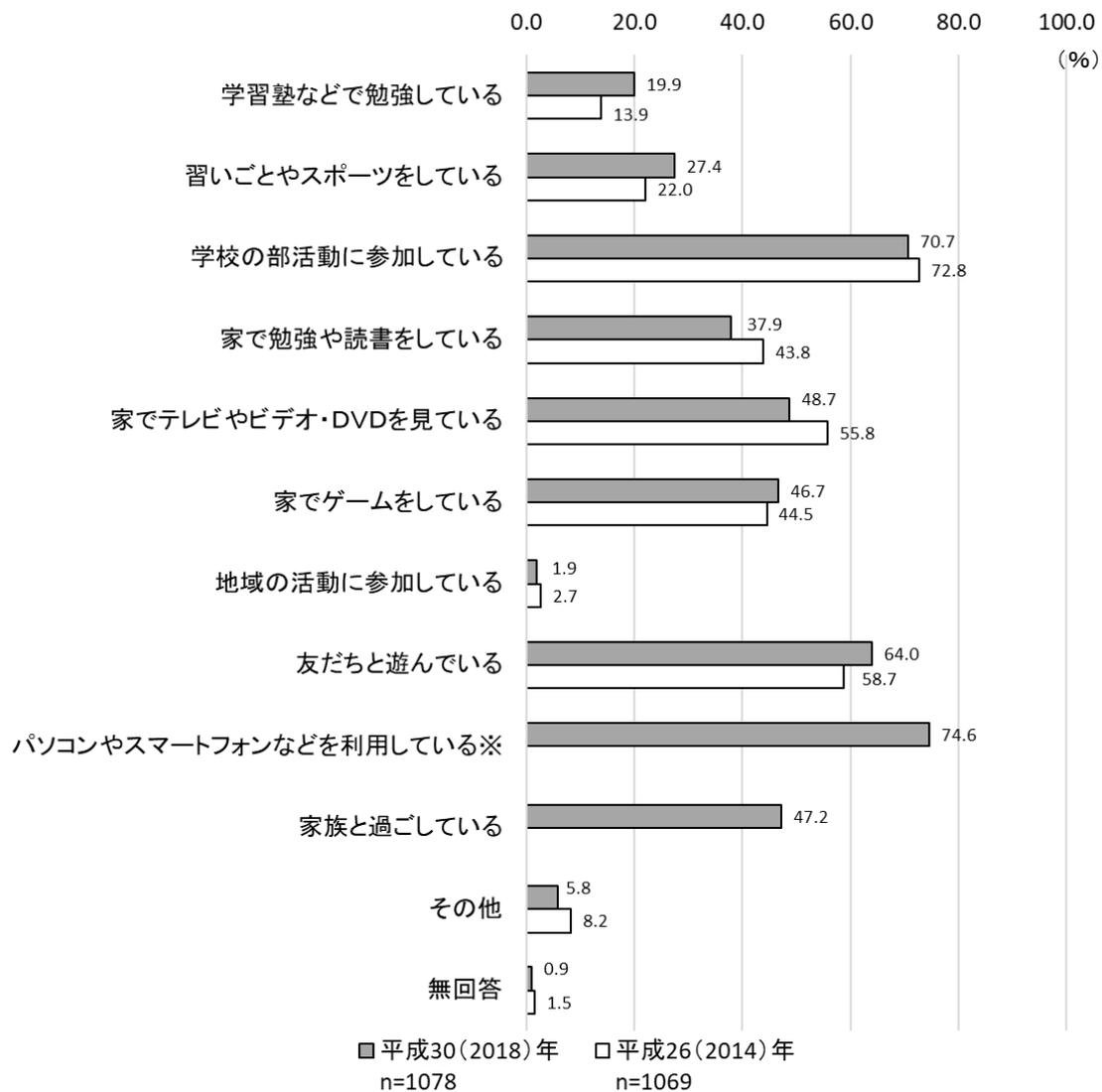


※：インターネットやYouTubeなどの動画を見たり、Lineやメールのやりとりをするなど

問 13 あなたは、土曜日や日曜日に何をして過ごすことが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

土曜日や日曜日にどのような過ごし方をしているかについては、「パソコンやスマートフォンを利用している」が最も多く 74.6%、次いで「学校の部活動に参加している」が 70.7%、「友だちと遊んでいる」が 64.0%、「家でテレビやビデオ・DVD を見ている」が 48.7%、「家でゲームをしている」が 46.7%などとなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「学習塾などで勉強している」が最も増加し、「家でテレビやビデオ・DVD を見ている」が最も減少しています。

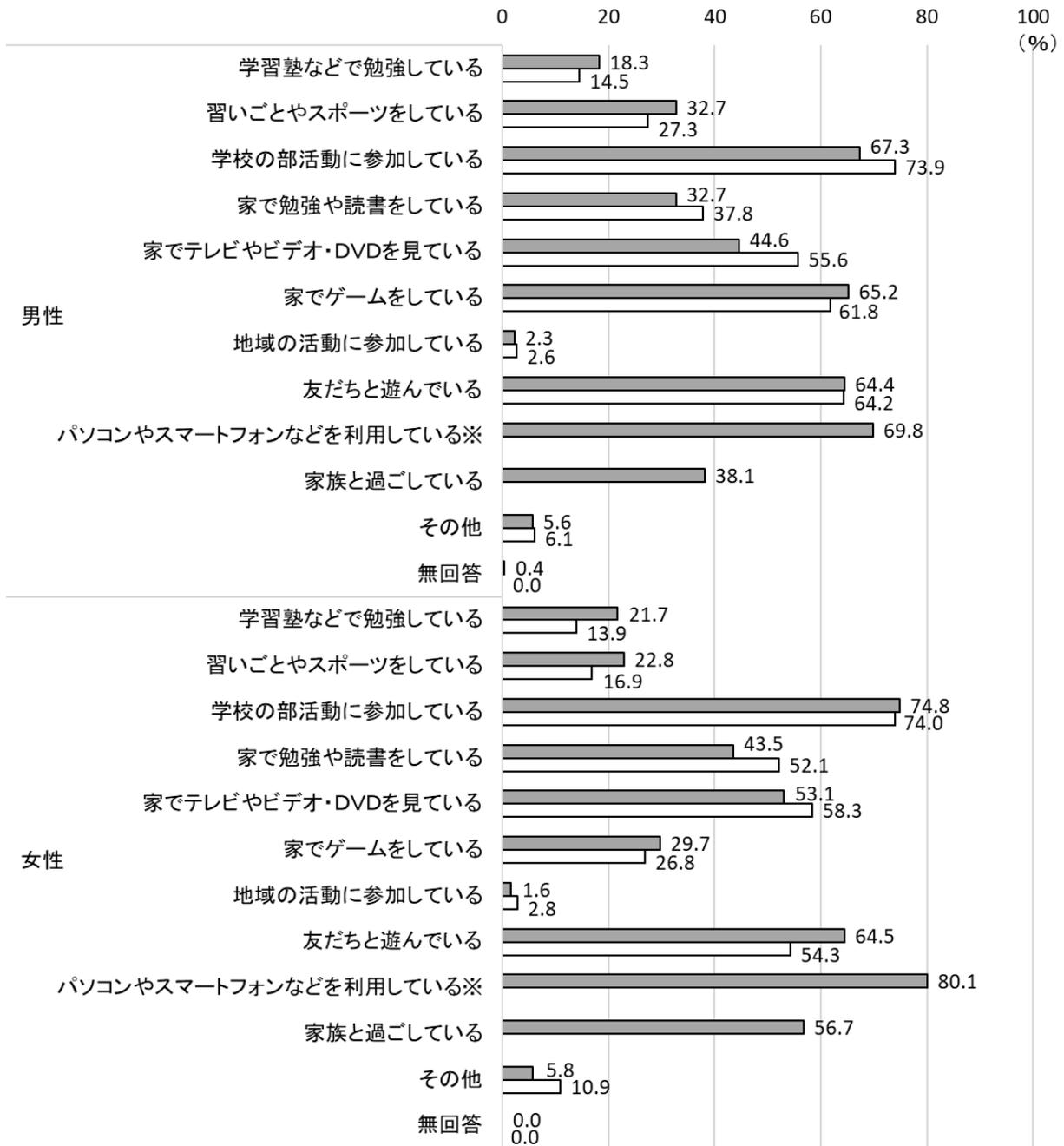


※：インターネットやYouTubeなどの動画を見たり、Lineやメールのやりとりをするなど

【性別】

性別でみると、放課後の過ごし方と同様に、「家でゲームをしている」“男性”が6割を超え、“女性”と比べて高い割合となっています。一方、「家で勉強や読書をしている」では“女性”が4割を超え“男性”と比べて高い割合となっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「学習塾などで勉強している」や「習い事やスポーツをしている」が、“男性”“女性”ともに増加しています。



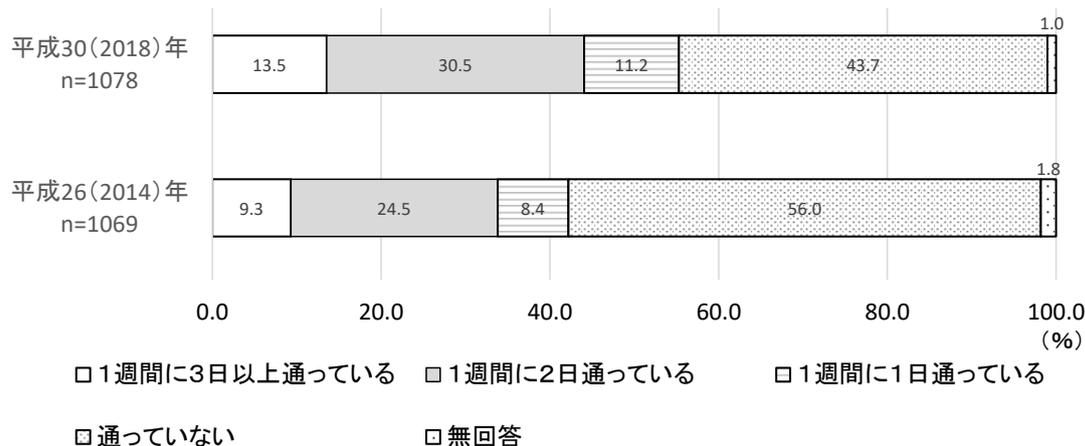
■平成30(2018)年(n=1078) □平成26(2014)年(n=1048)

※：インターネットやYouTubeなどの動画を見たり、Lineやメールのやりとりをするなど

問 14 あなたは学習塾に通っていますか。(1つだけ〇)

学習塾に通っているかについては、「通っていない」が43.7%と最も多くなっているものの、「1週間に2日通っている」が30.5%、「1週間に3日以上通っている」が13.5%、「1週間に1日通っている」が11.2%となっており、1週間に1日以上通っている生徒は全体で55.2%と、過半数を超えています。

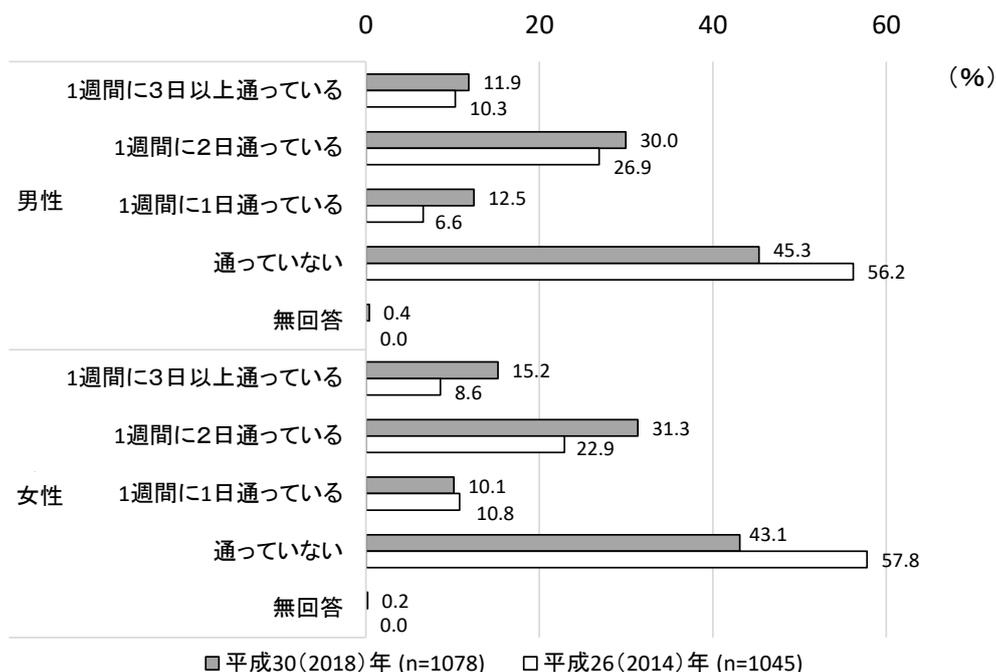
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「1週間に1日通っている」「1週間に2日通っている」「1週間に3日以上通っている」と、いずれにおいても増加しており、1週間に1日以上通っている生徒は全体で13ポイント増加しています。



【性別】

性別でも、全体の傾向としては大きな違いはみられませんが、「1週間に3日以上通っている」は、“男性”よりも“女性”の割合が高くなっています。

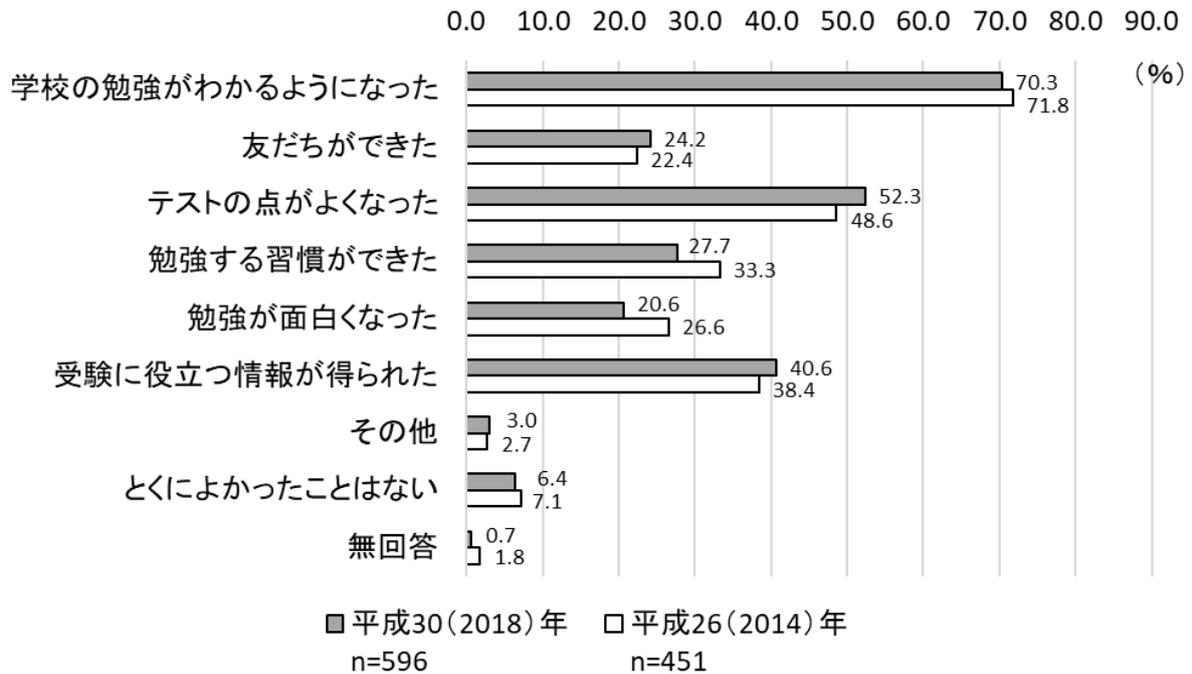
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「通っていない」が“男性”“女性”ともに大きく減少しています。



問 15 学習塾に通ってよかったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

学習塾に通ってよかったことについては、「学校の勉強がわかるようになった」が最も多く70.3%、次いで「テストの点がよかった」が52.3%、「受験に役立つ情報が得られた」が40.6%などとなっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「テストの点がよかった」が最も増加し、「勉強する習慣ができた」「勉強が面白くなった」が大きく減少しています。



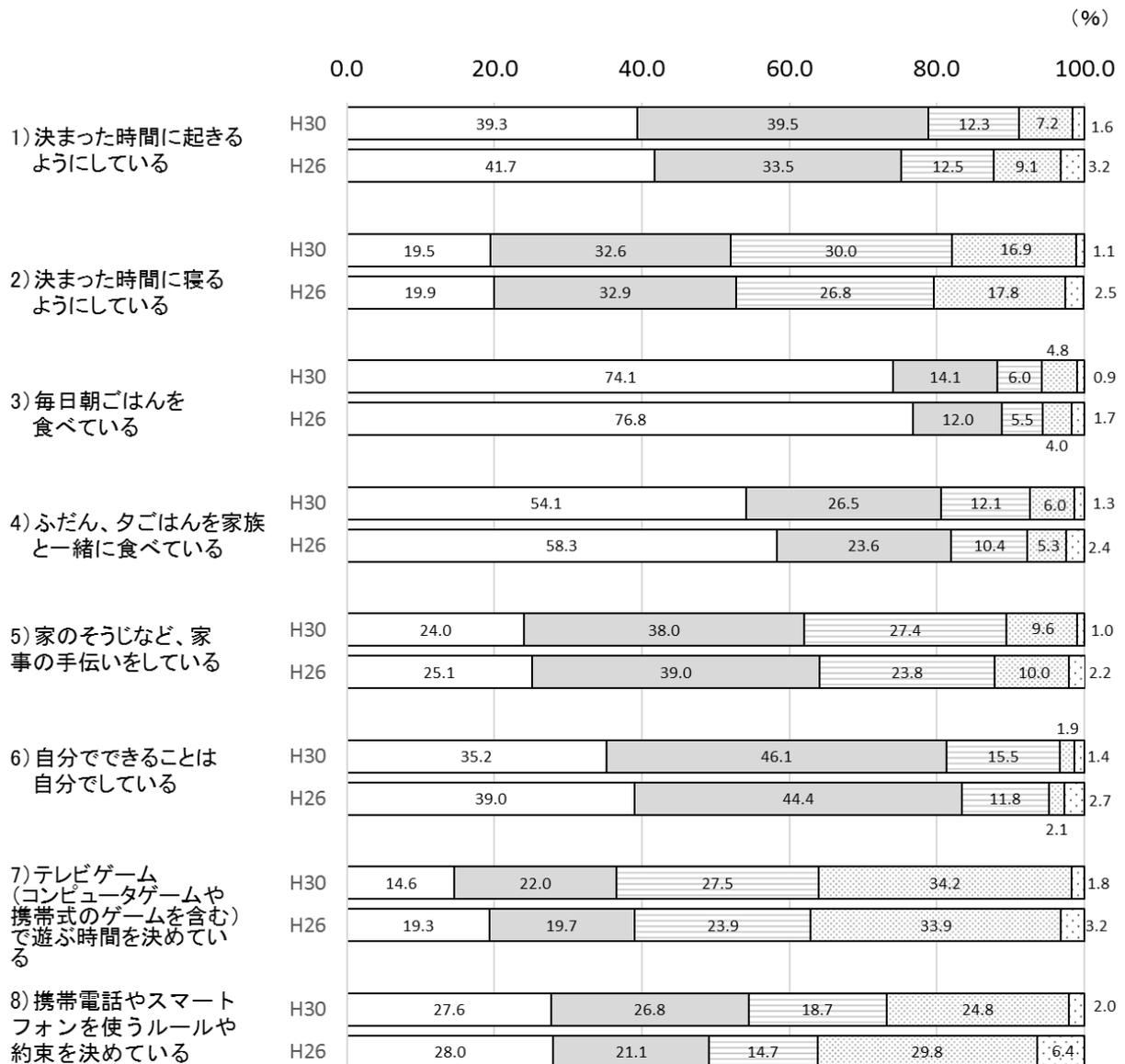
4. 家での様子について

問 16 つぎのうち、あなたの普段の生活に当てはまるのはどのようなことですか。

(それぞれに1つずつ〇)

普段の生活にあてはまるものについて、「あてはまる」では“3) 毎日朝ごはんを食べている”で7割半ば、“4) ふだん、夕ごはんを家族と一緒に食べている”で5割を超えています。一方、「あてはまらない」では“7) テレビゲーム(コンピュータゲームや携帯式のゲームを含む)で遊ぶ時間を決めている”で3割を超えています。

平成26年度の調査と比較すると、多くの項目で、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた数が減少しているが、“1) 決まった時間に起きるようにしている”と“8) 携帯電話やスマートフォンを使うルールや約束を決めている”については前回よりも増加しています。

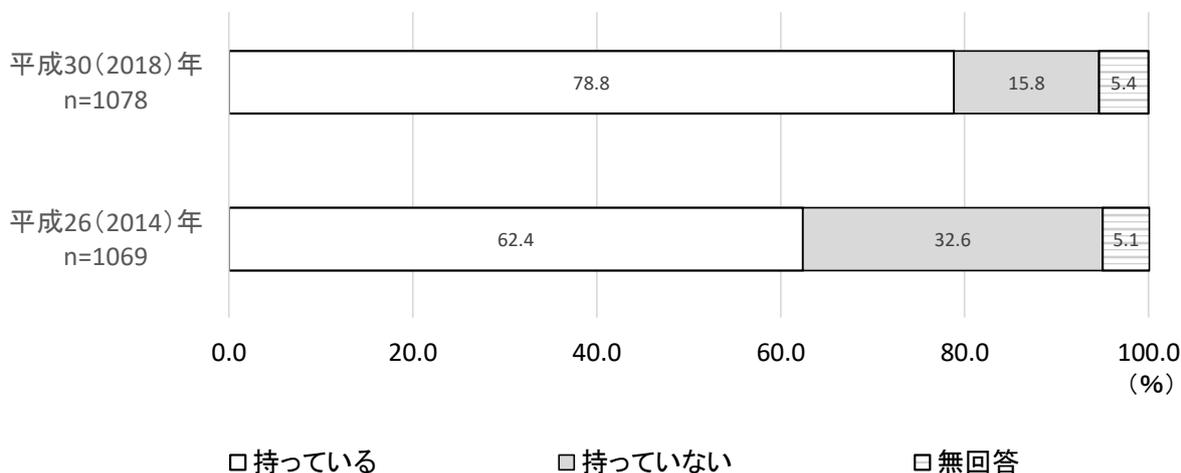


□あてはまる □どちらかといえば、あてはまる □どちらかといえば、あてはまらない □あてはまらない □無回答

平成30(2018)年 n=1078、平成26(2014)年 n=1069

問 17 あなたは、自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っていますか。(1つだけ○)
自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っているかについては、「持っている」が78.8%、「持っていない」が15.8%となっています。

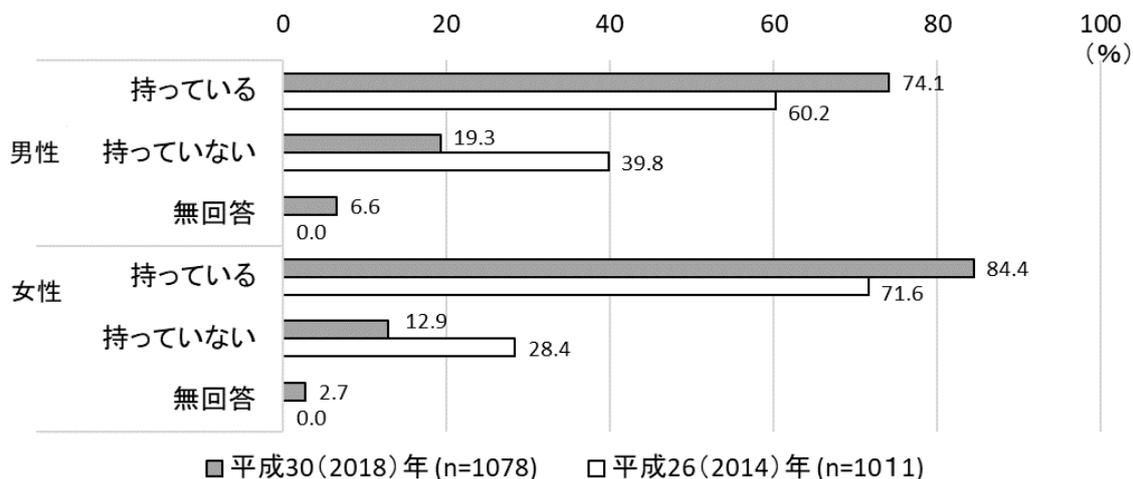
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「持っていない」が半数近くまで減少しています。



【性別】

性別でみると、“女性”は「持っている」が8割を超え“男性”と比べて高い割合となっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「持っている」が“男性”“女性”ともに大きく増加しています。

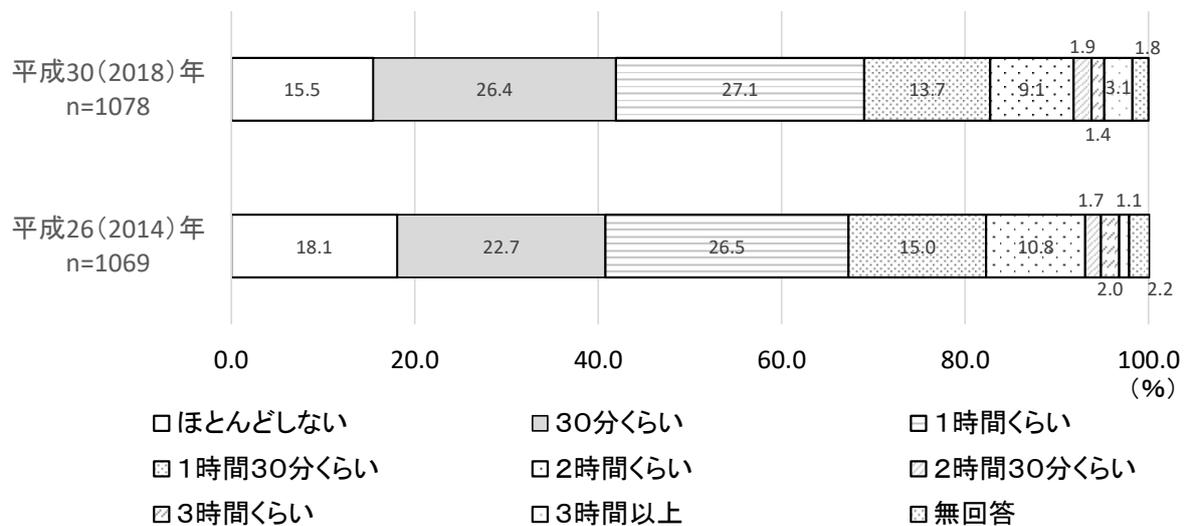


問 18 あなたは、ふだん家でどれくらい勉強していますか。塾で勉強する時間をのぞいた一日のだいたいの時間を教えてください。（それぞれに1つずつ○）

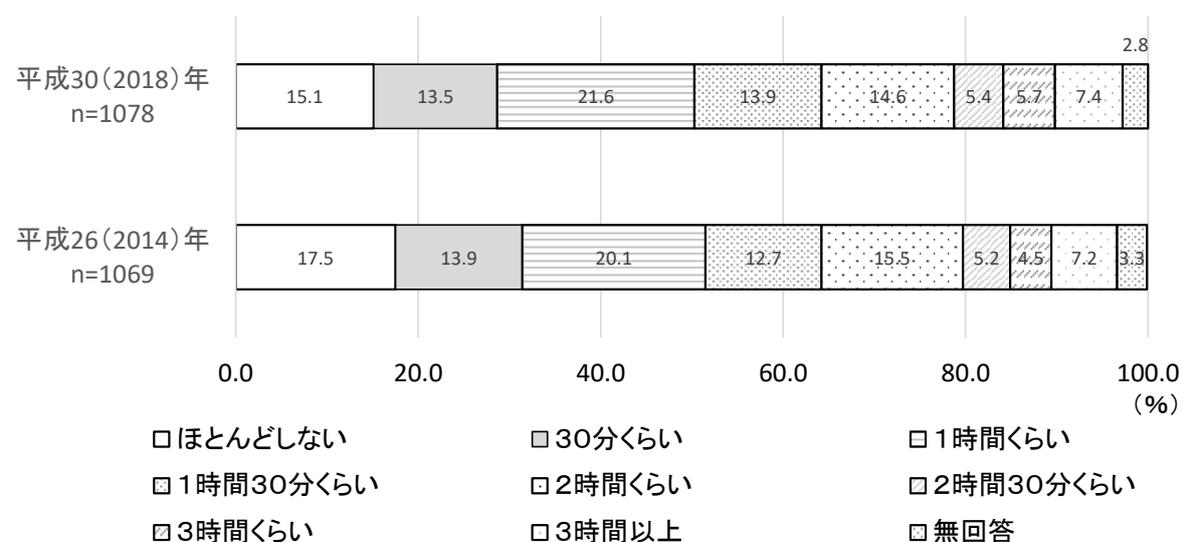
ふだん家でどれくらい勉強しているかについては、平日では「1時間くらい」が最も多く27.1%、次いで「30分くらい」が26.4%などとなっています。また、休日でも「1時間くらい」が最も多く21.6%、次いで「ほとんどしない」が15.1%などとなっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では、平日は「30分くらい」が増加し、休日では「1時間くらい」「1時間30分くらい」が増加しています。なお、「ほとんどしない」については平日、休日ともに減少しています。

【平日】



【休日】



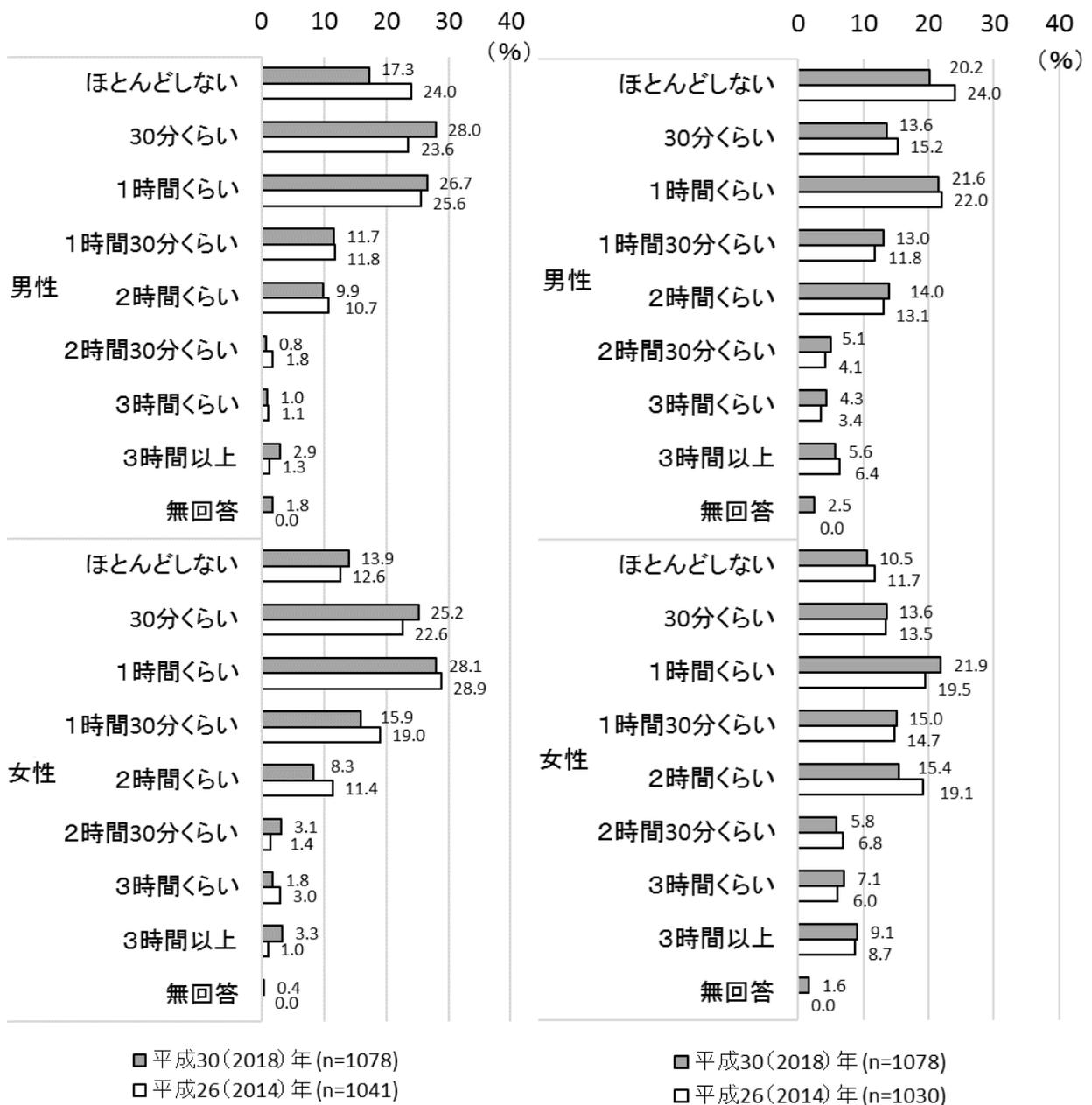
【性別】

性別でみると、平日、休日ともに「ほとんどしない」「男性」が「女性」と比べて高い割合となっています。

平成26年度の調査と比較すると、平日は「男性」「女性」とともに「30分くらい」が増加し、「男性」の「ほとんどしない」や「女性」の「1時間30分くらい」「2時間くらい」が減少しています。休日では、「女性」の「1時間くらい」が増加し、「男性」の「ほとんどしない」や「女性」の「2時間くらい」が減少しています。

【平日】

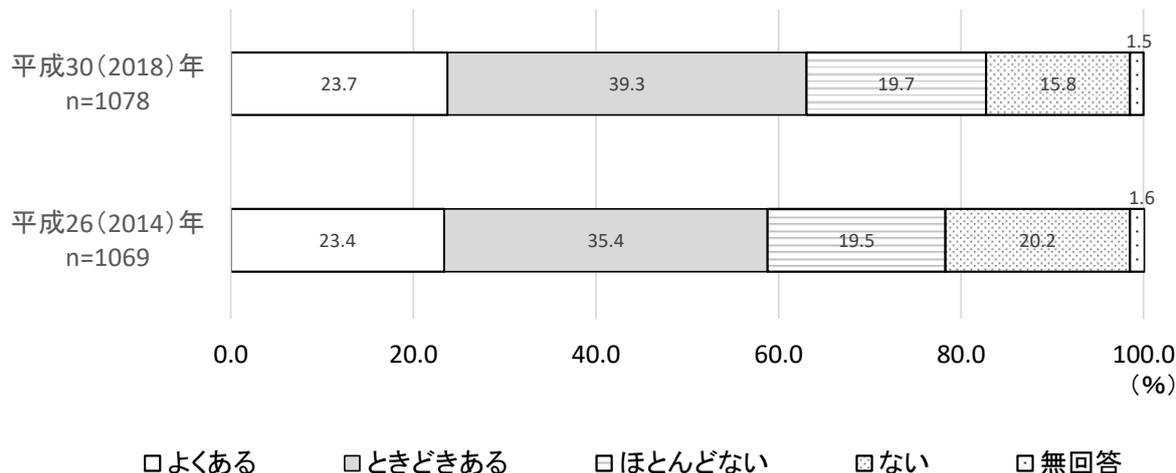
【休日】



問 19 あなたは、心配ごとなどで不安に感じることはありませんか。(1つだけ〇)

心配ごとなどで不安に感じることはないかについては、「ときどきある」が最も多く 39.3%、次いで「よくある」が 23.7%、「ほとんどない」が 19.7%、「ない」が 15.8%となっています。

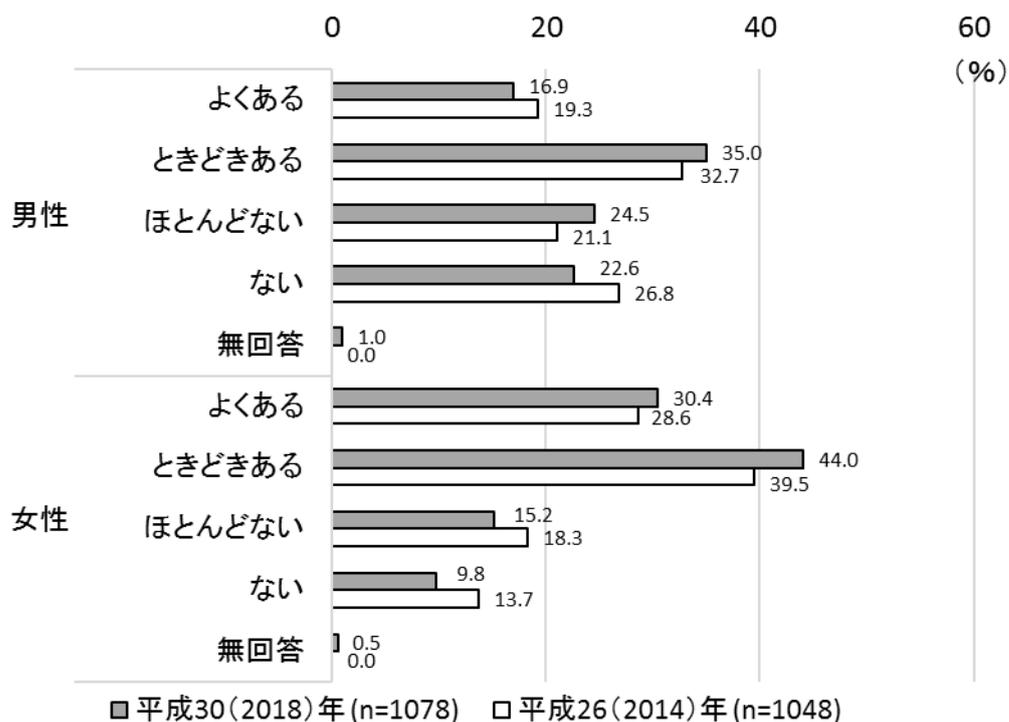
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「ときどきある」が増加し、「ない」が減少しています。



【性別】

性別でみると、“女性”の「よくある」「ときどきある」を合わせると7割を超えており、“男性”と比べて不安を感じる割合が高くなっています。

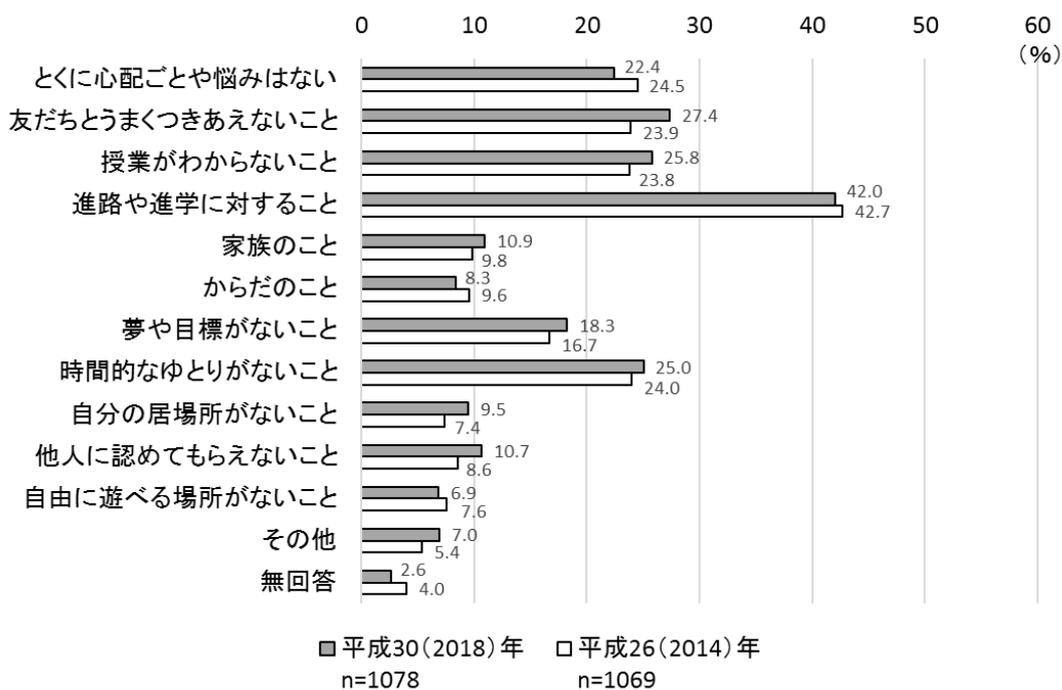
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では “男性” “女性” ともに「ない」が大きく減少しています。



問 20 あなたの心配ごとや悩みは次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

心配ごとや悩みの理由については、「進路や進学に対すること」が最も多く 42.0%、次いで、「友だちとうまくつきあえないこと」が 27.4%、「授業がわからないこと」が 25.8%、「時間的なゆとりがないこと」が 25.0%などとなっています。また、「とくに心配ごとや悩みはない」が 22.4%となっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、「友だちとうまくつきあえないこと」などが増加し、「とくに心配ごとや悩みはない」などが減少しています。

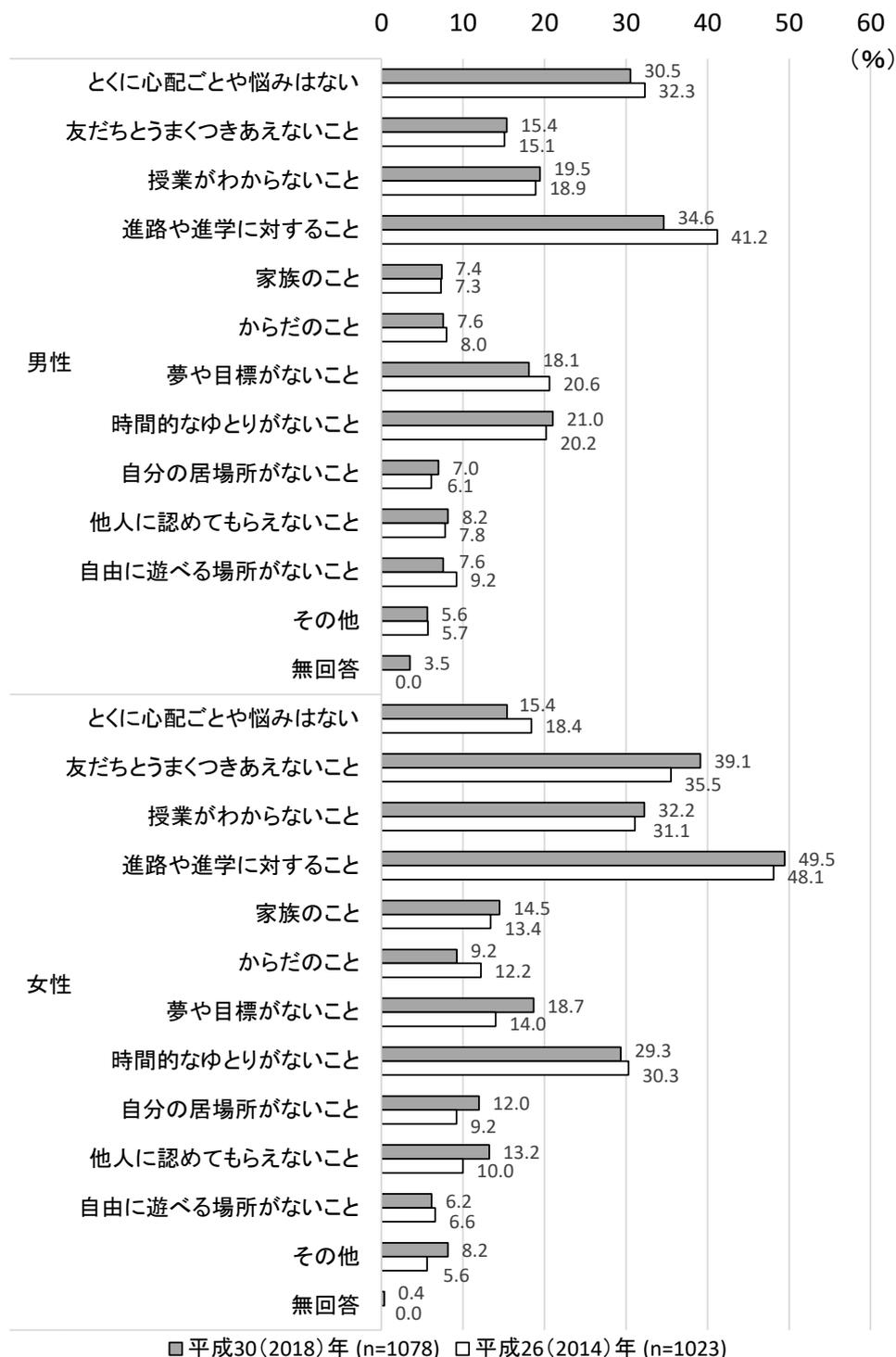


【性別】

性別でみても、“男性”“女性”ともに「進路や進学に対すること」が最も多くなっています。

また、「友だちとうまくつきあえないこと」で悩む“女性”が4割近くと“男性”と比べて高い割合となっています。

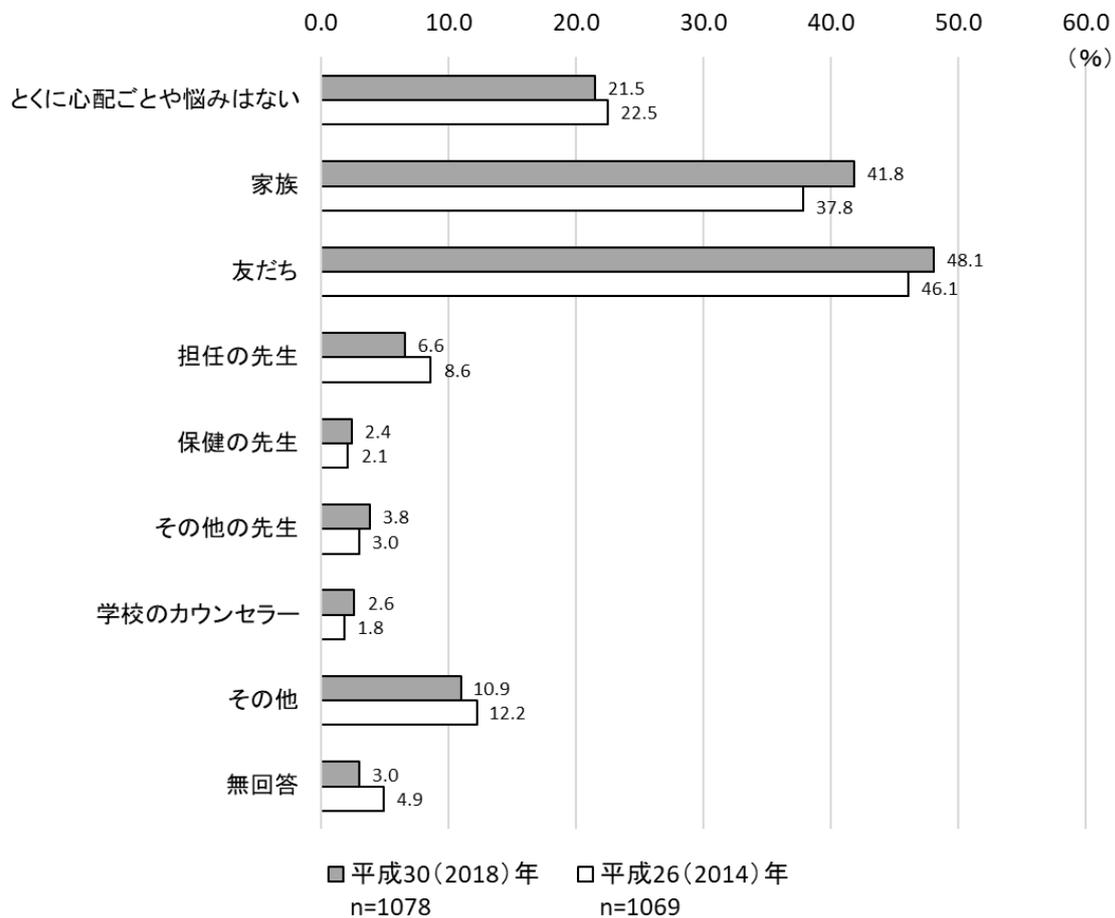
平成26年度の調査と比較すると、本調査では“男性”では「進路や進学に対すること」が大きく減少し、“女性”では「夢や目標がないこと」「友だちとうまくつきあえないこと」などが増加しています。



問 21 心配ごとや悩みは、誰に相談することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

心配ごとや悩みを誰に相談するかについては、「友だち」が最も多く 48.1%、次いで「家族」41.8%などとなっています。

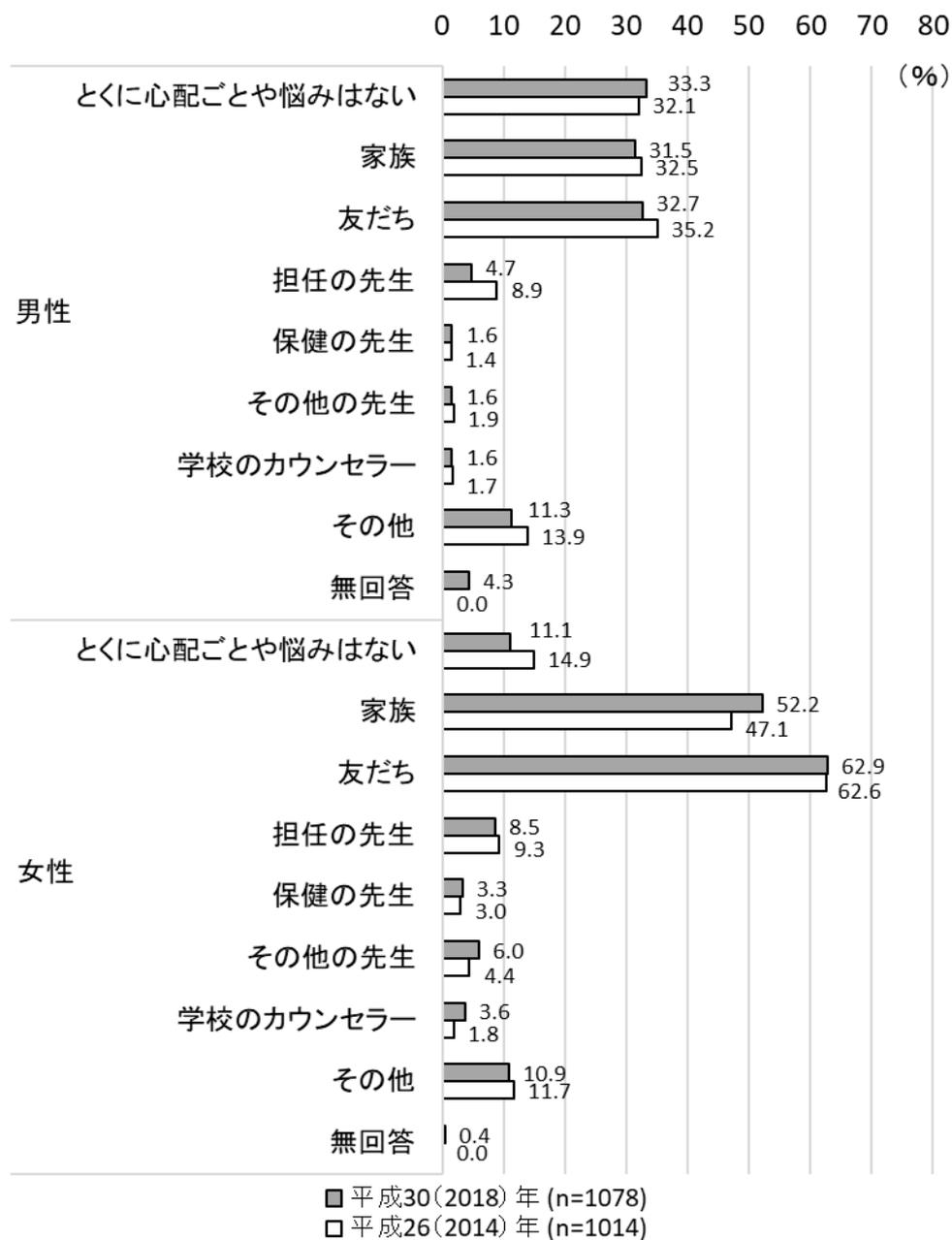
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「家族」が大きく増加しています。



【性別】

性別でみると、相談相手は“男性”“女性”ともに、「友だち」や「家族」が多くなっていますが、全体の傾向として“男性”よりも“女性”の割合が高くなっています。

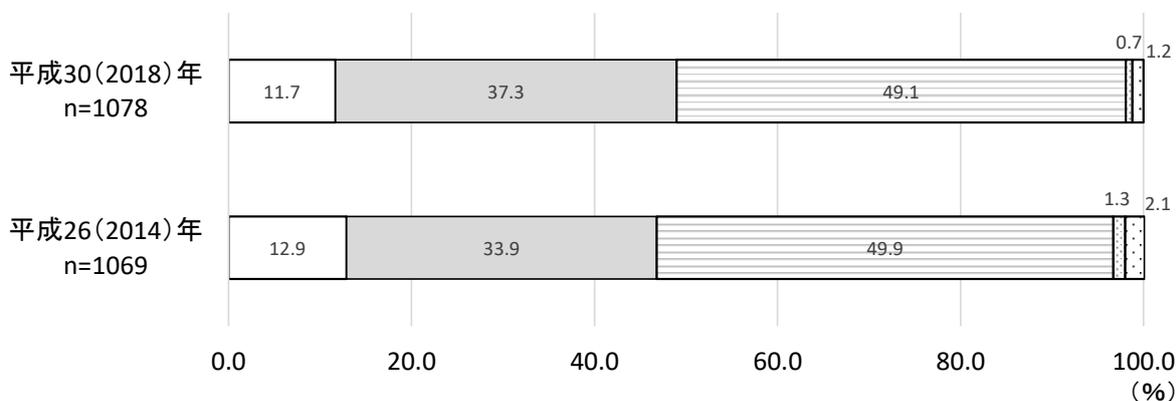
平成26年度の調査と比較すると、本調査では“女性”の「家族」が増加しています。



問 22 あなたは地域の行事などにどのくらい参加していますか。(1つだけ○)

地域の行事などにどのくらい参加するかについては、「ほとんど参加していない」が最も多く49.1%、次いで「ときどき参加している」が37.3%、「できるだけ参加している」が11.7%などとなっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「ときどき参加している」が増加しています。



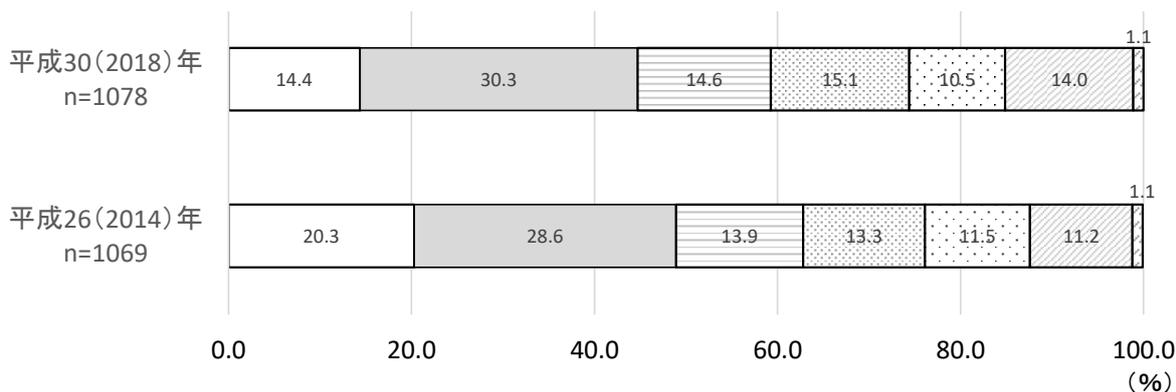
□できるだけ参加している □ときどき参加している □ほとんど参加していない □その他 □無回答

問 23 あなたは、地域の大人が自分たちを見守ってくれていると感じますか。

(1つだけ○)

地域の大人が自分たちを見守ってくれていると感じるかについては、「たまに感じる」が最も多く30.3%、次いで「あまり感じない」が15.1%、「どちらともいえない」が14.6%、「よく感じる」が14.4%、「わからない」が14.0%などとなっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「たまに感じる」がやや増加しているものの、「よく感じる」は大きく減少しています。

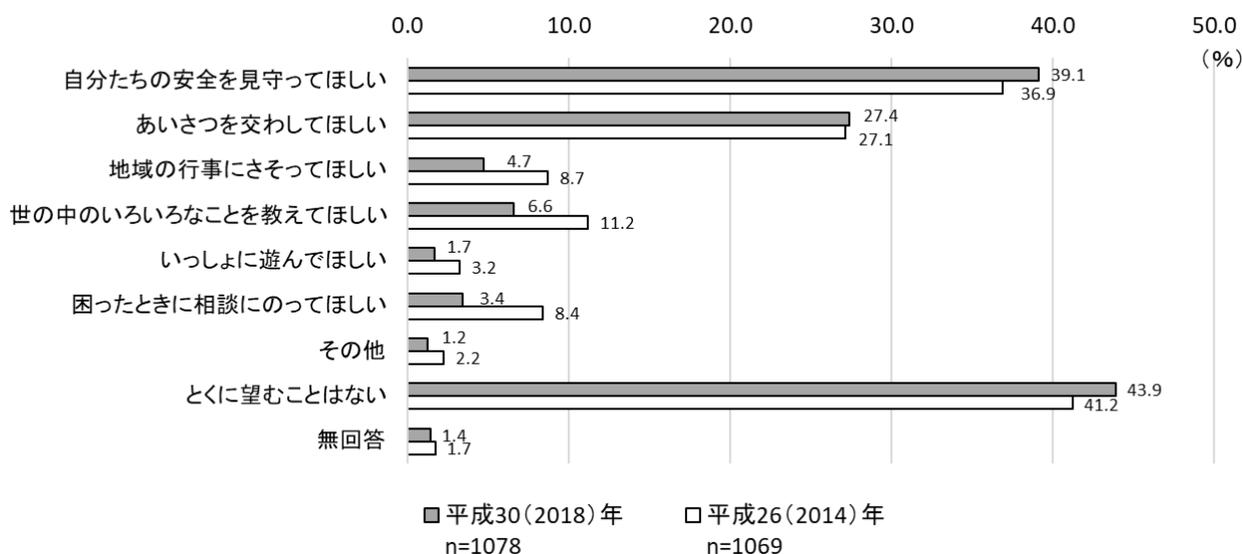


□よく感じる □たまに感じる □どちらともいえない □あまり感じない
□感じない □わからない □無回答

問 24 あなたの住んでいる地域の大人にどんなことを望みますか。(2つまで○)

住んでいる地域の大人にどんなことを望むかについては、「自分たちの安全を見守ってほしい」が最も多く 39.1%で、「あいさつを交わしてほしい」が 27.4%などとなっています。また、「とくに望むことはない」が 43.9%となっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、「地域の行事にさそってほしい」や「世の中のいろいろなことを教えてほしい」「困ったときに相談にのってほしい」で大きく減少し、「自分たちの安全を見守ってほしい」については増加しています。

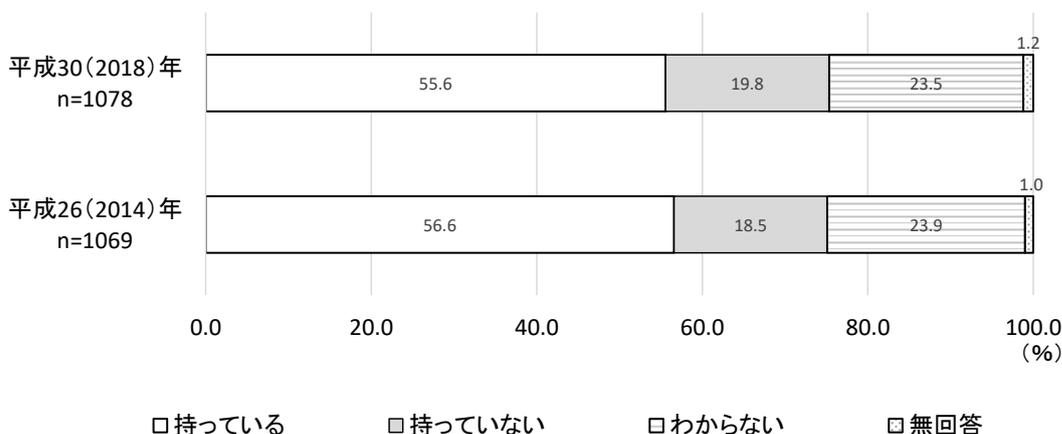


5. 将来について

問 25 あなたは将来の夢や目標を持っていますか。(1つだけ○)

将来の夢や目標については、「持っている」が最も多く 55.6%、次いで「わからない」が 23.5%、「持っていない」が 19.8%となっています。

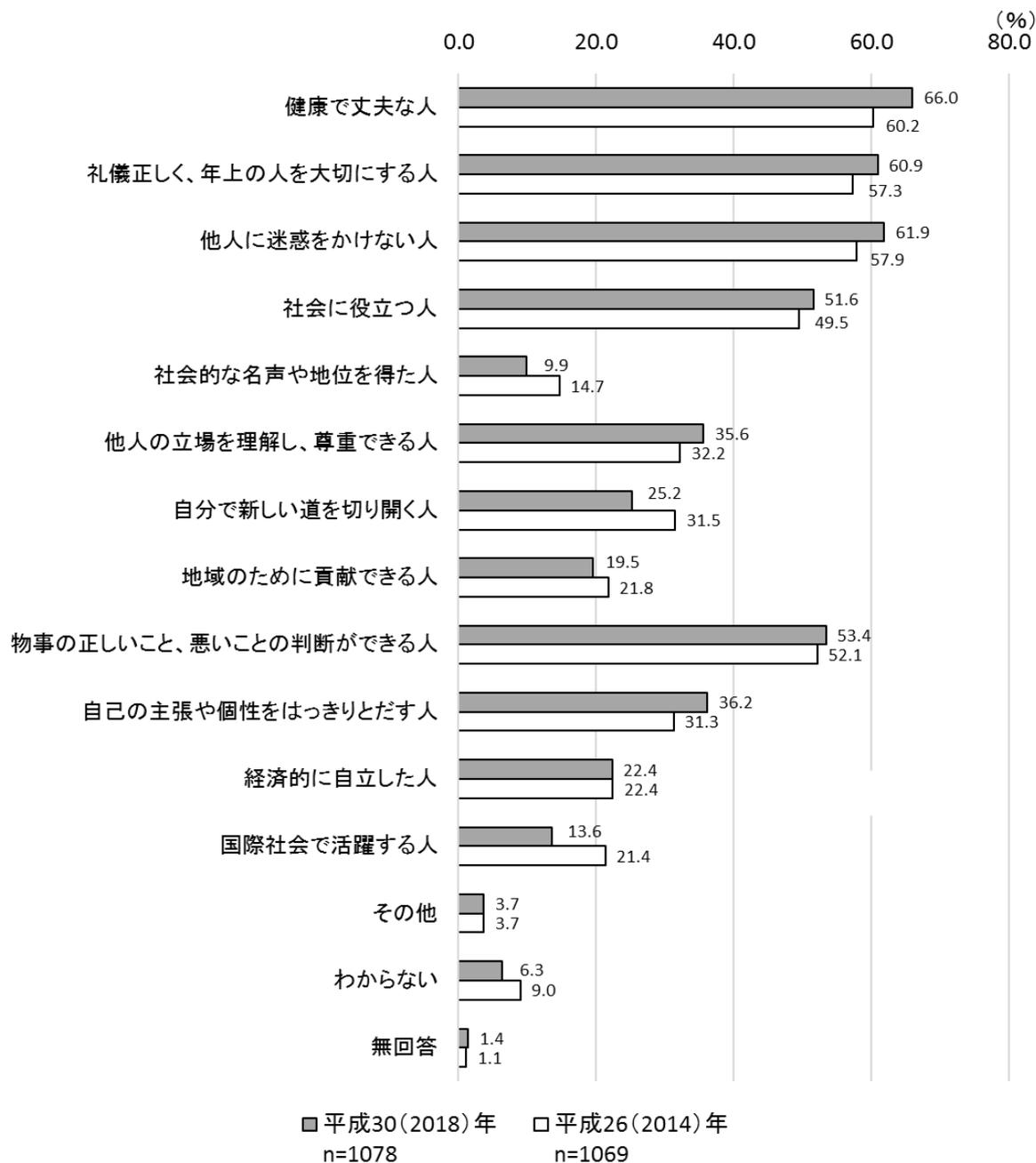
平成 26 年度の調査との比較では、大きな変動は見られませんでした。



問 26 あなたは将来どのような人になりたいですか。(あてはまるものすべてに○)

将来どのような人になりたいかについては、「健康で丈夫な人」が最も多く 66.0%、次いで「他人に迷惑をかけない人」が 61.9%、「礼儀正しく、年上の人を大切にできる人」が 60.9%、「物事の正しいこと、悪いことの判断ができる人」が 53.4%、「社会に役立つ人」が 51.6% などとなっています。

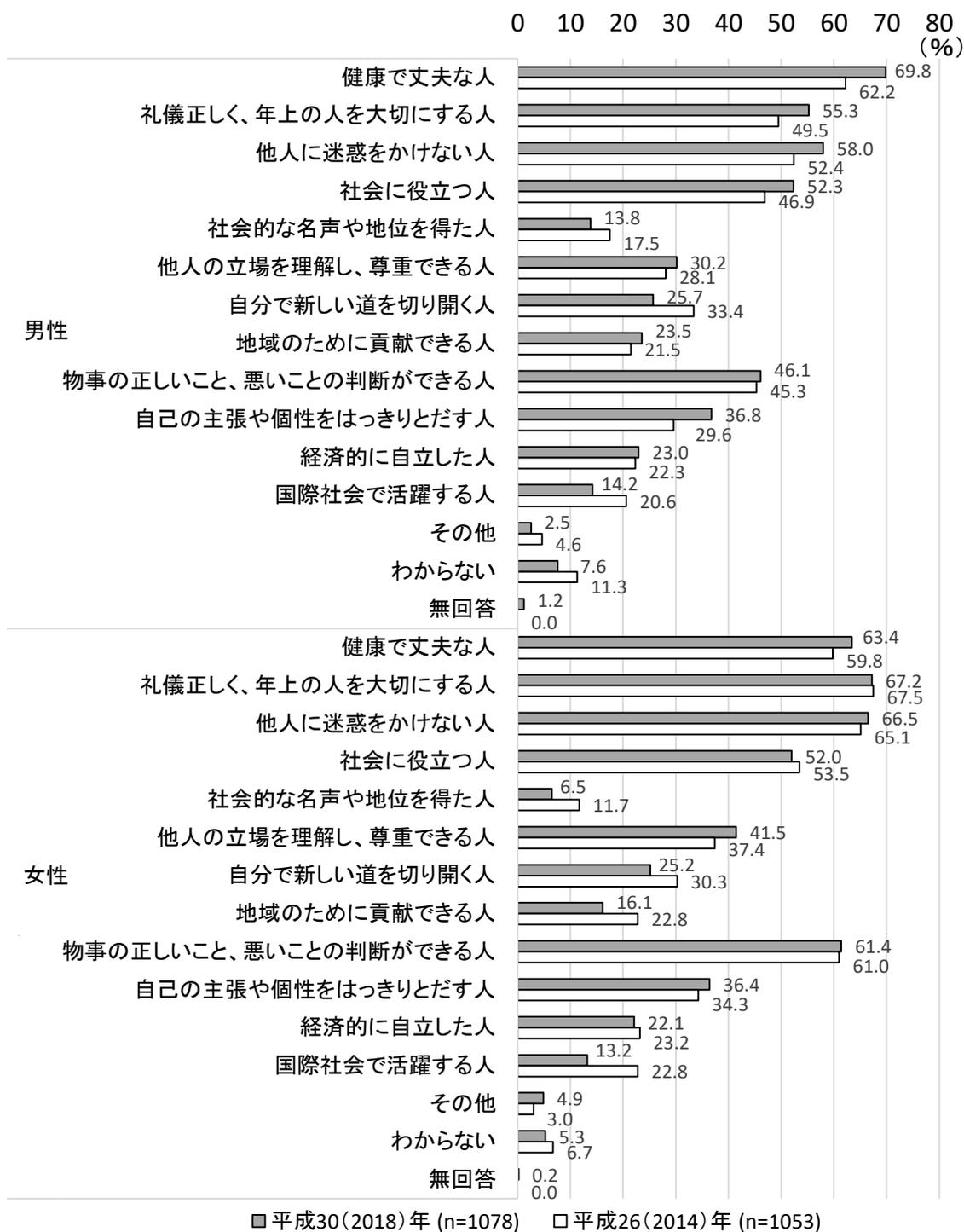
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「健康で丈夫な人」が最も増加し、「国際社会で活躍する人」が最も減少しています。



【性別】

性別で見ると、「礼儀正しく、年上の人を大切にできる人」や「物事の正しいこと、悪いことの判断ができる人」で“女性”の割合が、“男性”と比べて高くなっています。

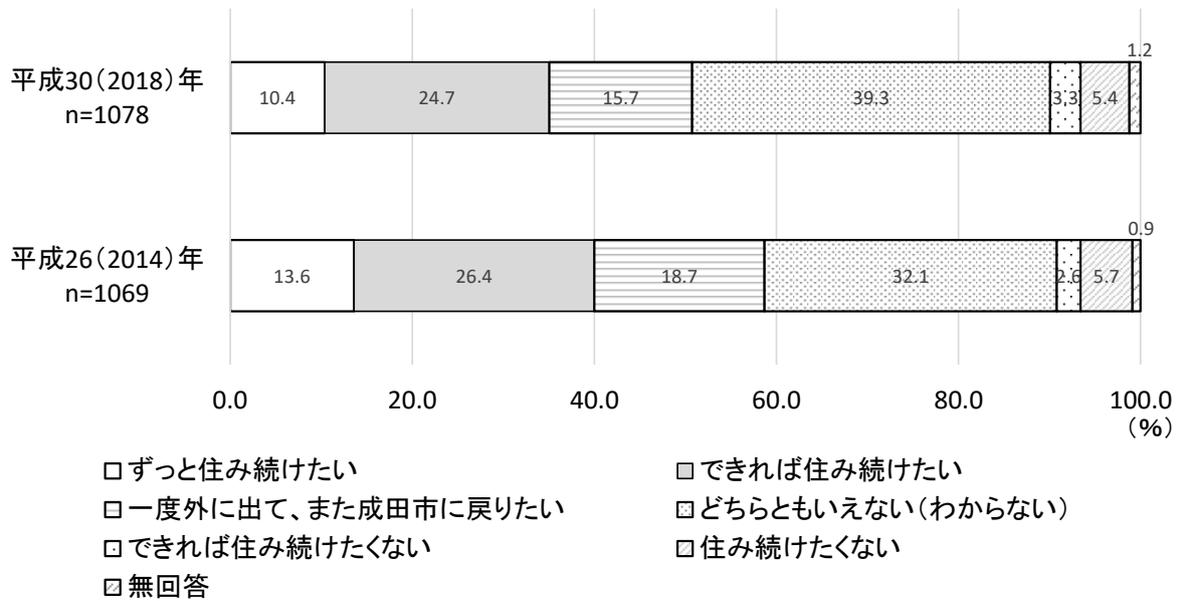
平成26年度の調査と比較すると、本調査では“男性”の「健康で丈夫な人」が大きく増加し、“女性”の「国際社会で活躍する人」が大きく減少しています。



問 27 あなたは、将来も成田市に住み続けたいと思いますか。(1つだけ○)

将来も成田市に住み続けたいと思うかについては、「どちらともいえない(わからない)」が最も多く 39.3%、次いで「できれば住み続けたい」が 24.7%、「一度外に出て、また成田市に戻りたい」が 15.7%、「ずっと住み続けたい」が 10.4%などとなっています。

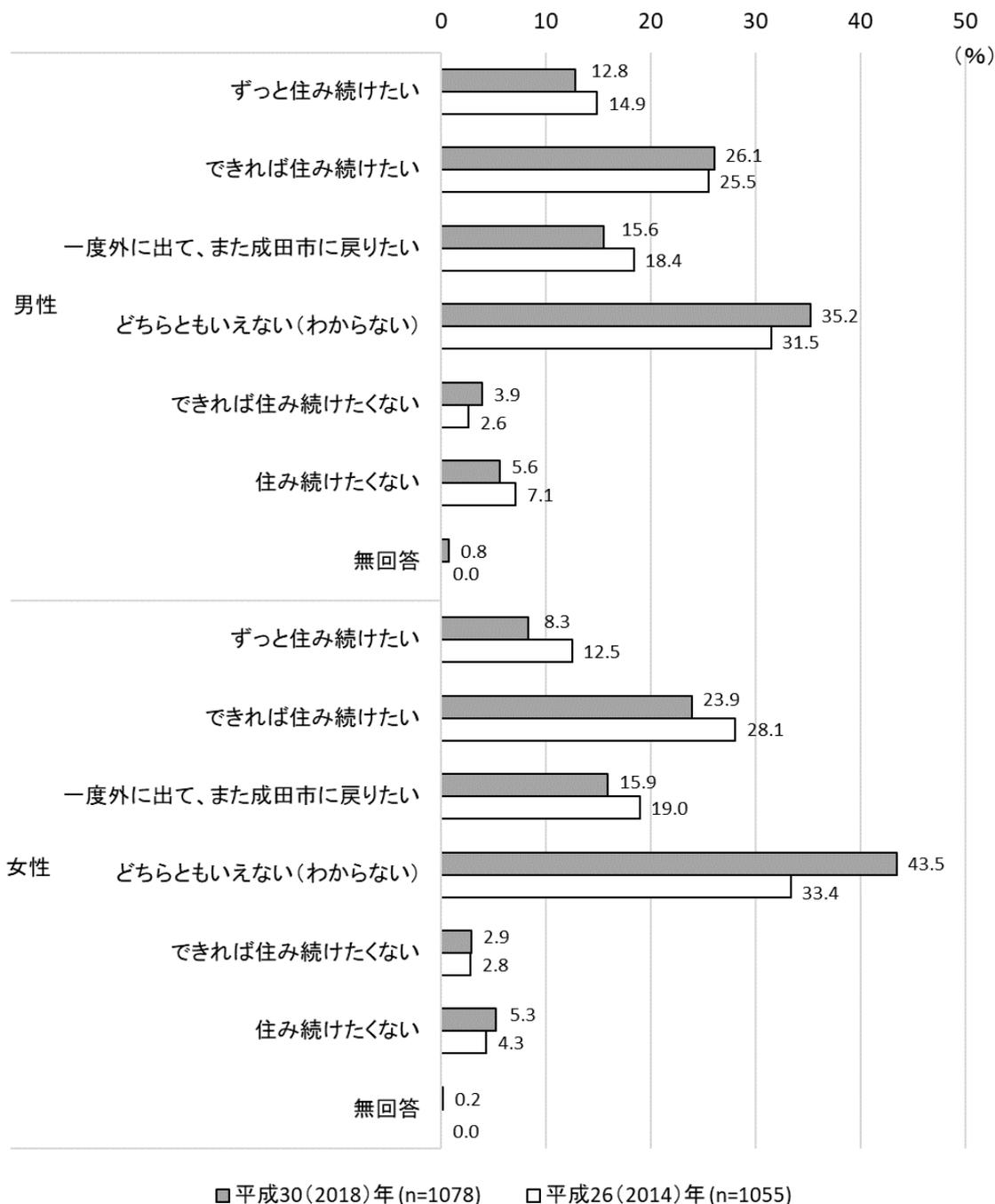
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「どちらともいえない」が大きく増加し、「住み続けたい」や「一度外に出て、また成田市に戻りたい」が減少しています。



【性別】

性別でみると、「男性」の方が「女性」よりも、「ずっと住みたい」、「できれば住みたい」の割合が多くなっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「男性」「女性」ともに「どちらともいえない」が増加し、特に「女性」では大きく増加しています。また、「女性」の「ずっと住みたい」、「できれば住みたい」が減少しています。

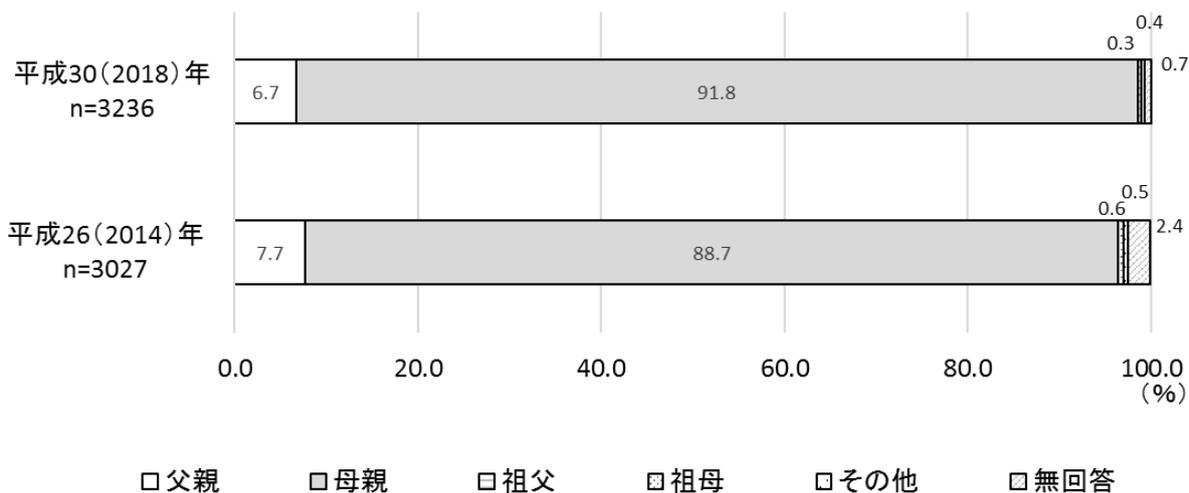


第4章 保護者調査の結果

1. あなたについて

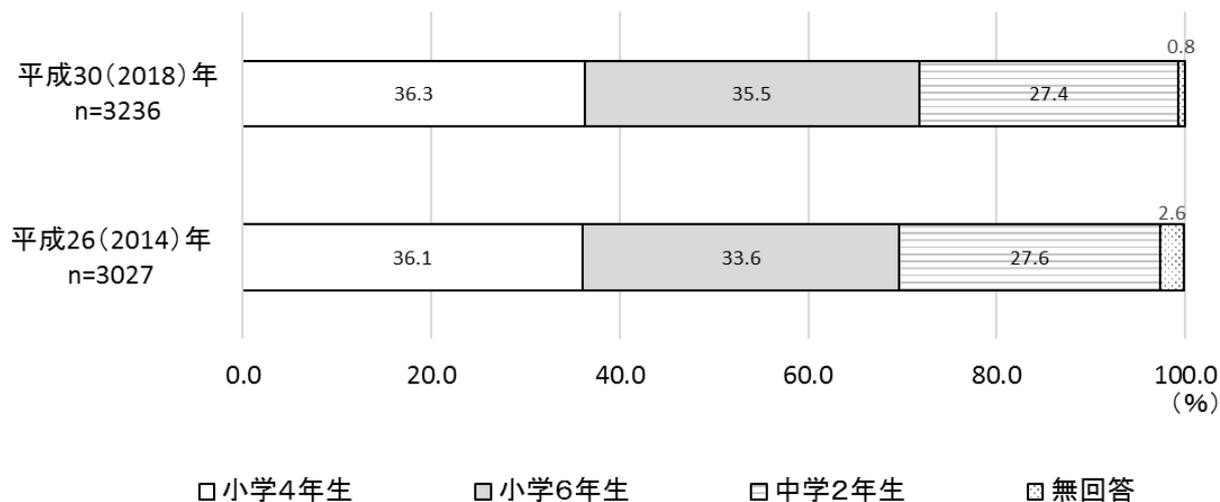
問1 お子さんとあなたとの続柄を教えてください。(1つだけ○)

回答者のお子さんとの続柄については、「母親」が91.8%、「父親」が6.7%となっています。



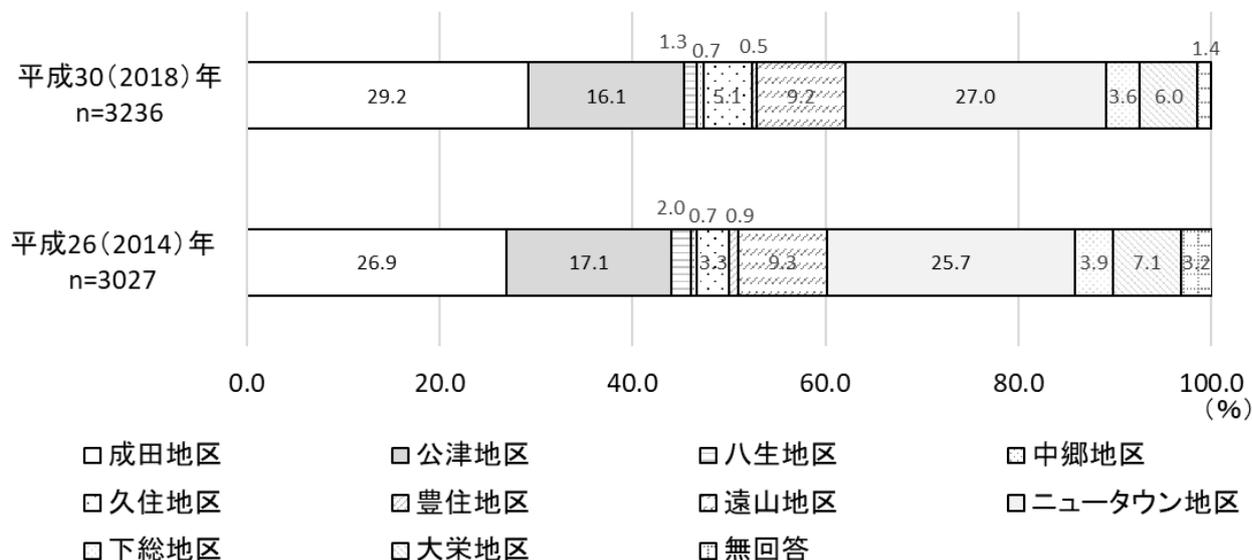
問2 あなたのお子さんの学年は、次のうちどれですか。(1つだけ○)

回答者のお子さんの学年については、「小学校4年生」が36.3%、「小学校6年生」が35.5%、「中学校2年生」が27.4%となっています。



問3 あなたがお住まいの地区はどちらですか。(1つだけ〇)

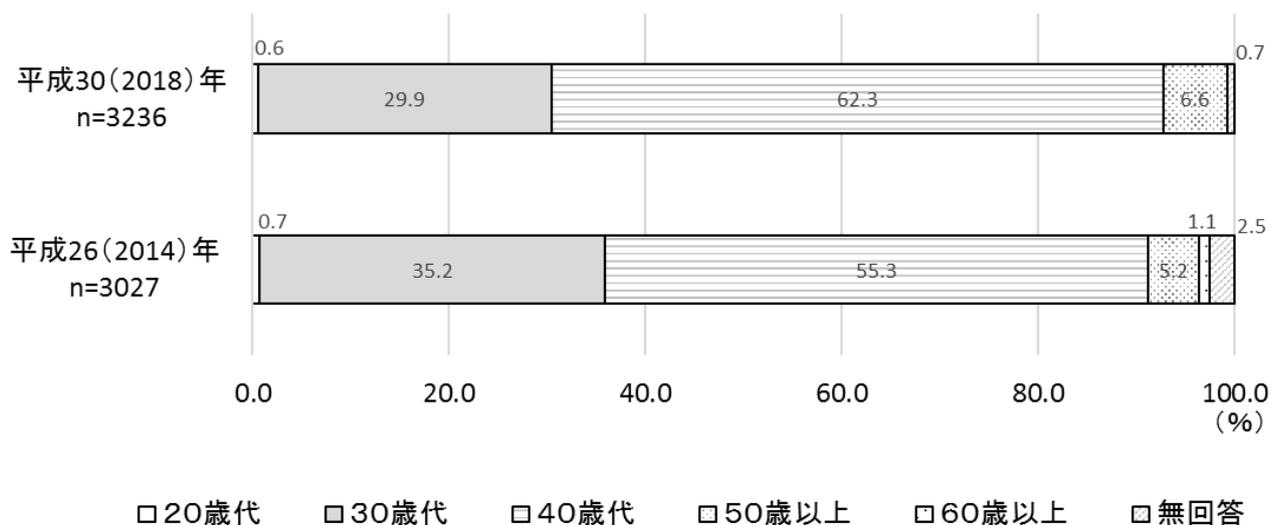
居住地区については、「成田地区」が29.2%と最も多く、次いで「ニュータウン地区」が27.0%、「公津地区」が16.1%、「遠山地区」が9.2%などとなっています。



問4 あなたの年齢について当てはまるものを選んでください。(1つだけ〇)

年齢については、「40歳代」が62.3%と最も多く、次いで「30歳代」が29.9%、「50歳代」が6.6%などとなっています。

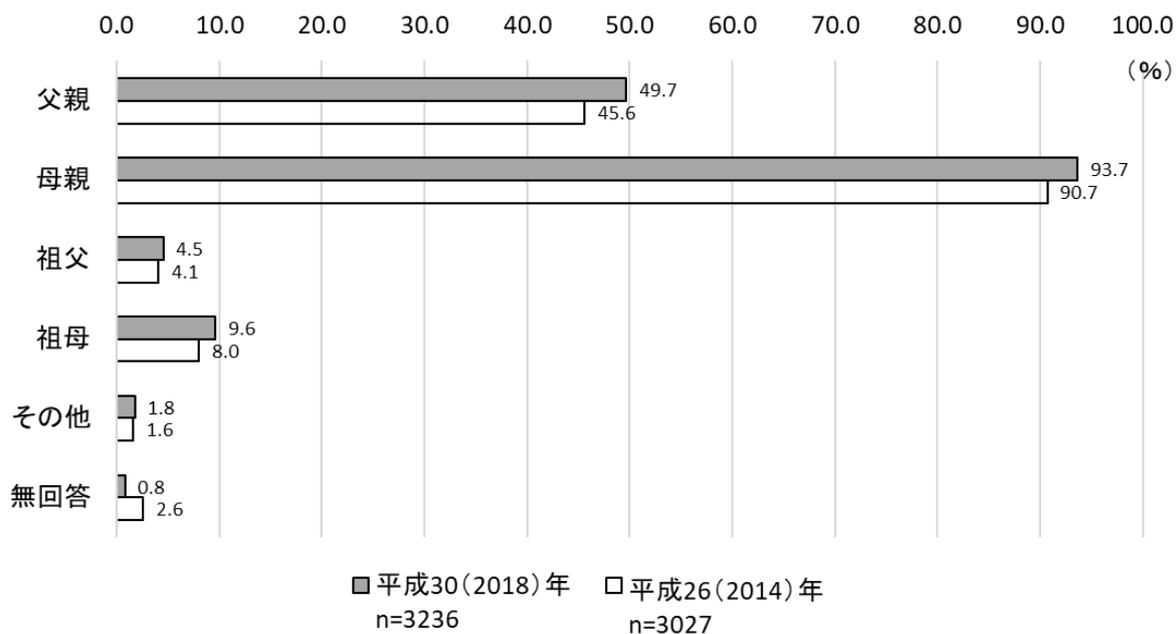
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「40歳代」が増加し、「30歳代」が減少しています。



問5 ご家庭で、お子さんの教育に積極的に関わっていらっしゃる方はどなたですか。
 (あてはまるものすべてに○)

お子さんの教育に積極的に関わっていらっしゃる方については、「母親」が最も多く 93.7%、
 次いで「父親」が 49.7%、「祖母」が 9.6%などとなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では父母、祖父母ともに前回よりも増加しています。

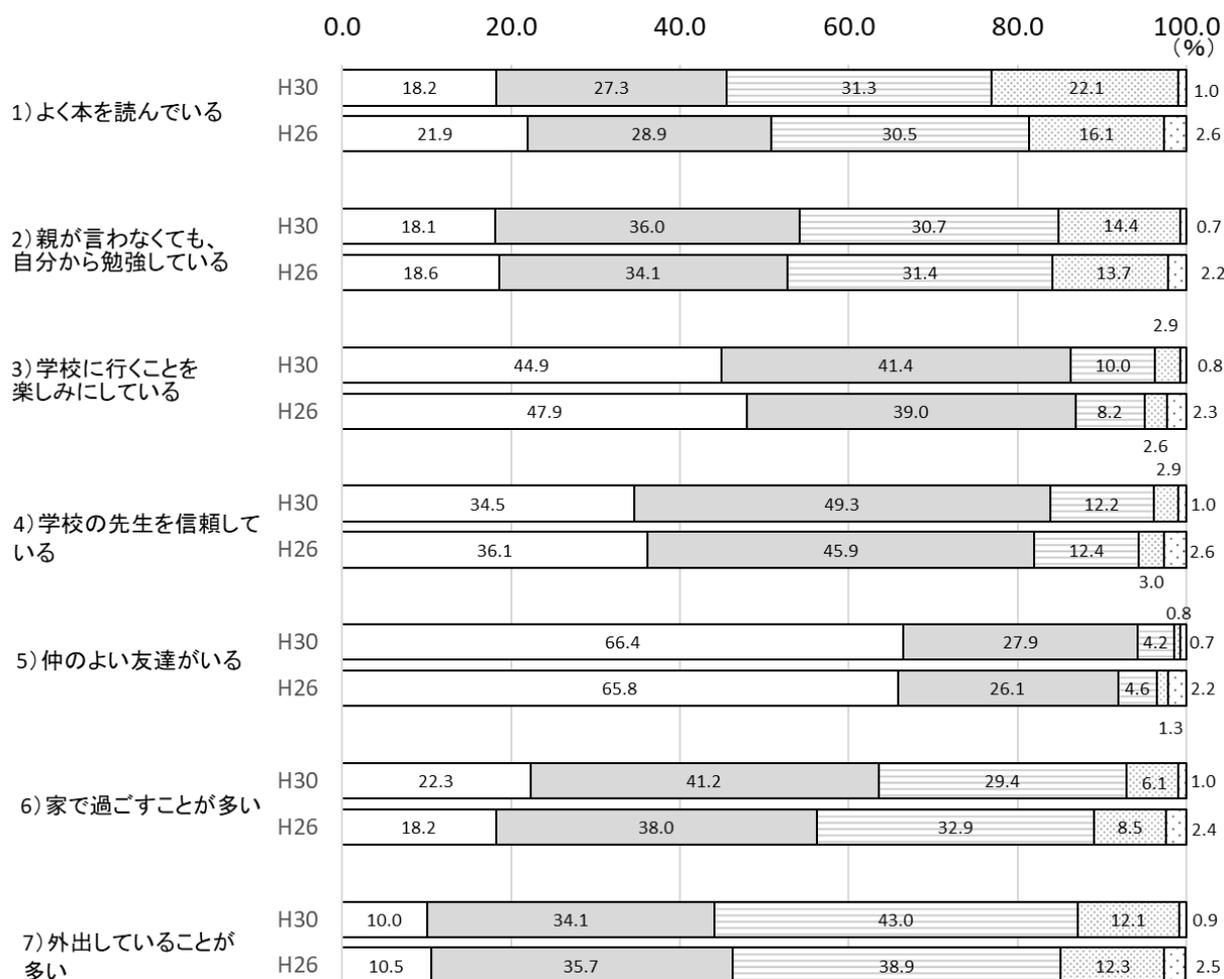


2. お子さんへの接し方について

問6 お子さんの普段の様子について、次のことはどれくらいあてはまりますか。(それぞれに1つずつ○)

お子さんの普段の様子については、「あてはまる」では“5) 仲のよい友達がいる”で6割半ば、“3) 学校に行くことを楽しみにしている”で4割半ばとなっています。一方、「どちらかといえば、あてはまらない」では“7) 外出していることが多い”で4割半ば、「あてはまらない」では“1) よく本を読んでいる”で2割を超えています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では“6) 家で過ごすことが多い”では「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」を合わせて、6割を超え大きく増加しています。



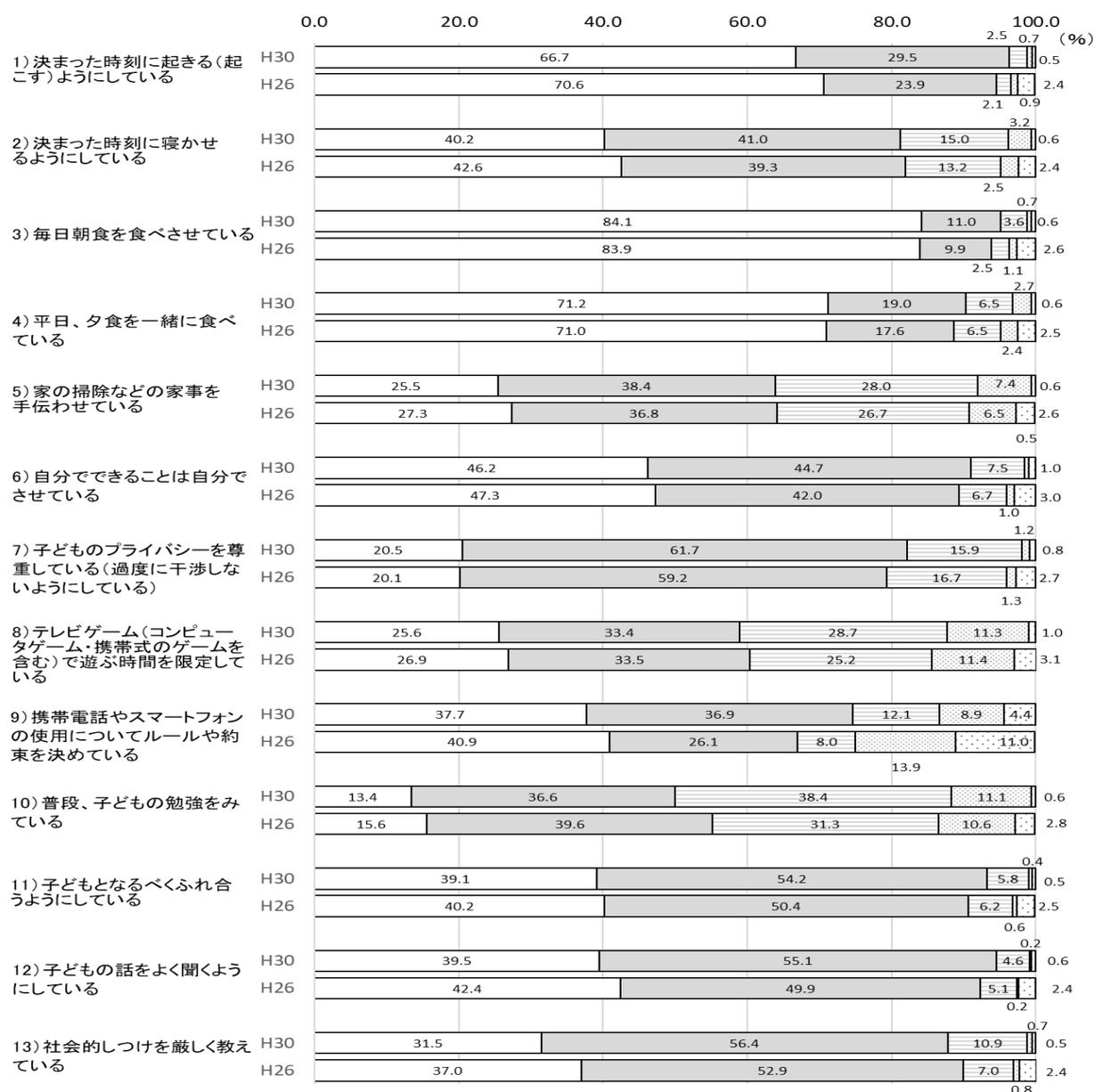
□あてはまる □どちらかといえば、あてはまる □どちらかといえば、あてはまらない □あてはまらない □無回答

平成30(2018)年n=3027 平成26(2014)年n=3236

問7 あなたの家庭では、お子さんに対して、次のことをしていますか。(それぞれに1つずつ〇)

お子さんに対して行っていることについては、「あてはまる」では“3) 毎日朝食を食べさせている”で8割を超え、“4) 平日、夕食を一緒に食べている”で7割を超えています。一方、「どちらかといえば、あてはまらない」では“10) 普段、子どもの勉強をみている”で4割近くとなり、「あてはまらない」では、“8) テレビゲーム(コンピュータゲーム・携帯式のゲームを含む)で遊ぶ時間を限定している”などで1割を超えています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では“13) 社会的しつけを厳しく教えている”で「あてはまる」が大きく減少し、「あてはまらない」が増加しています。



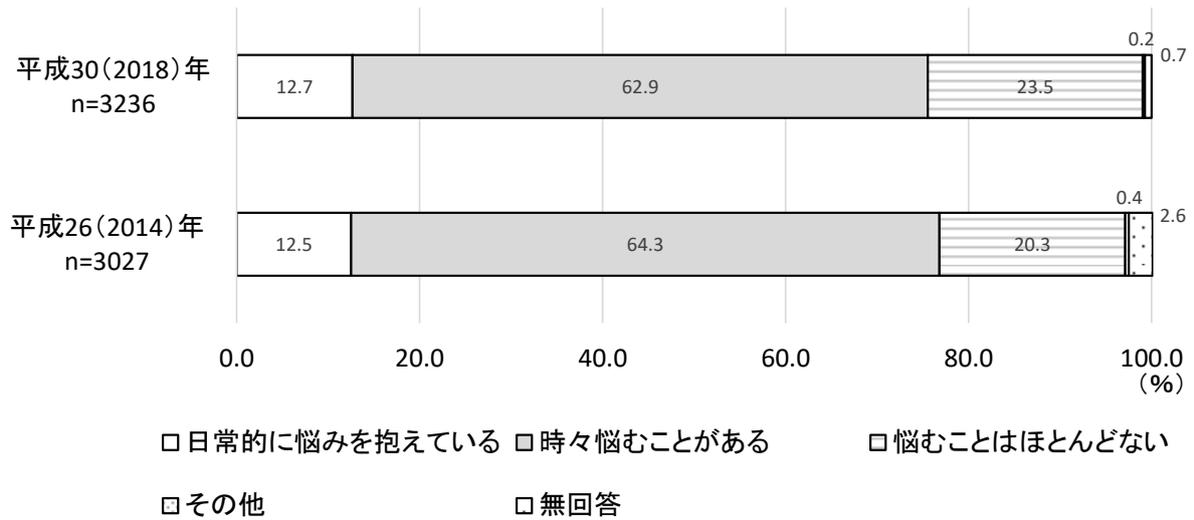
〇あてはまる 〇どちらかといえば、あてはまる 〇どちらかといえば、あてはまらない 〇あてはまらない 〇無回答

平成30(2018)年 n=3236、平成26(2014)年 n=3027

問8 お子さんの教育に関して、困ったり悩むことはありますか。(1つだけ○)

お子さんの教育に関して、困ったり悩むことはあるかについては、「時々悩むことがある」が最も多く62.9%、次いで「悩むことはほとんどない」が23.5%、「日常的に悩みを抱えている」が12.7%などとなっています。

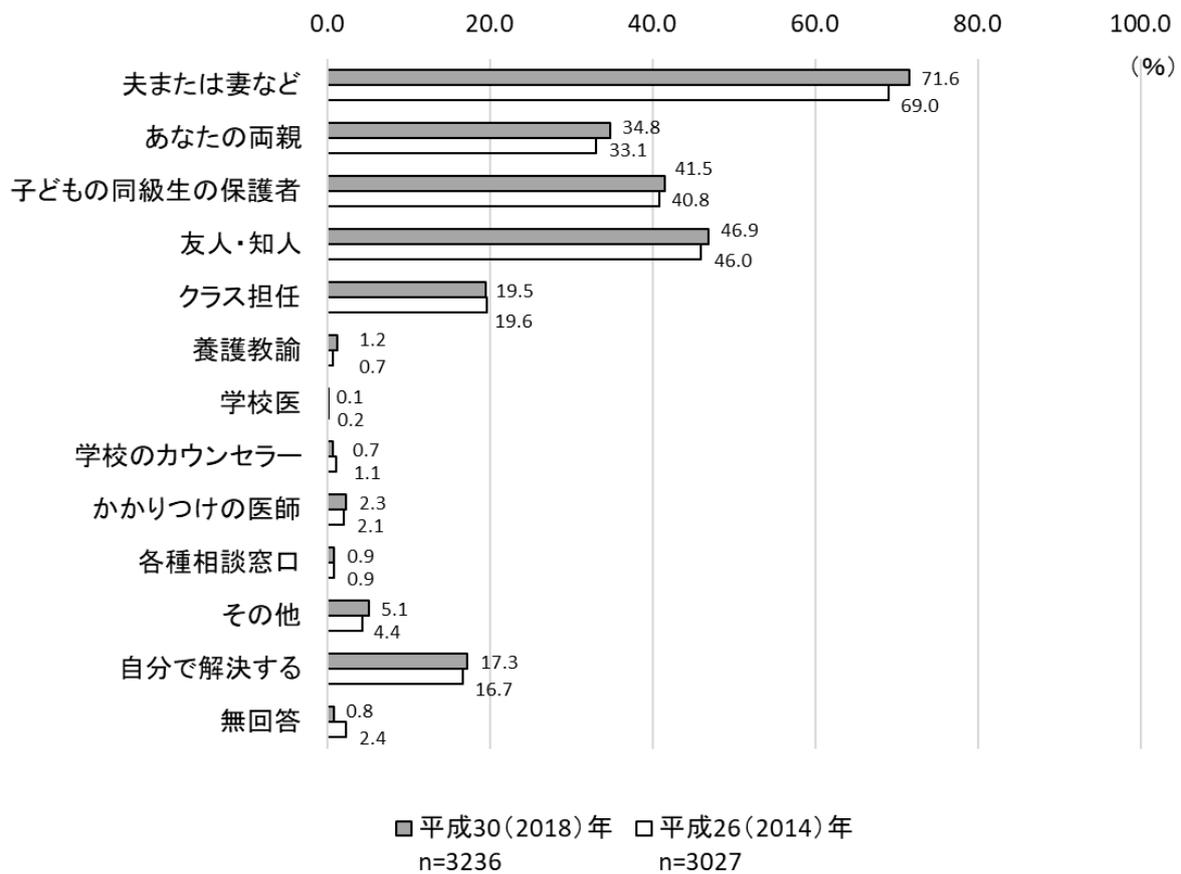
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「時々悩むことがある」がやや減少し、「悩むことはほとんどない」が増加しています。



問9 お子さんの教育に関して困ったり、悩んだりした時には誰に相談することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

お子さんの教育に関して困ったり、悩んだりした時には誰に相談することが多いかについては、「夫または妻など」が最も多く71.6%、次いで「友人・知人」が46.9%、「子どもの同級生の保護者」が41.5%、「あなたの両親」が34.8%などとなっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では「夫または妻など」「あなたの両親」などが増加しています。

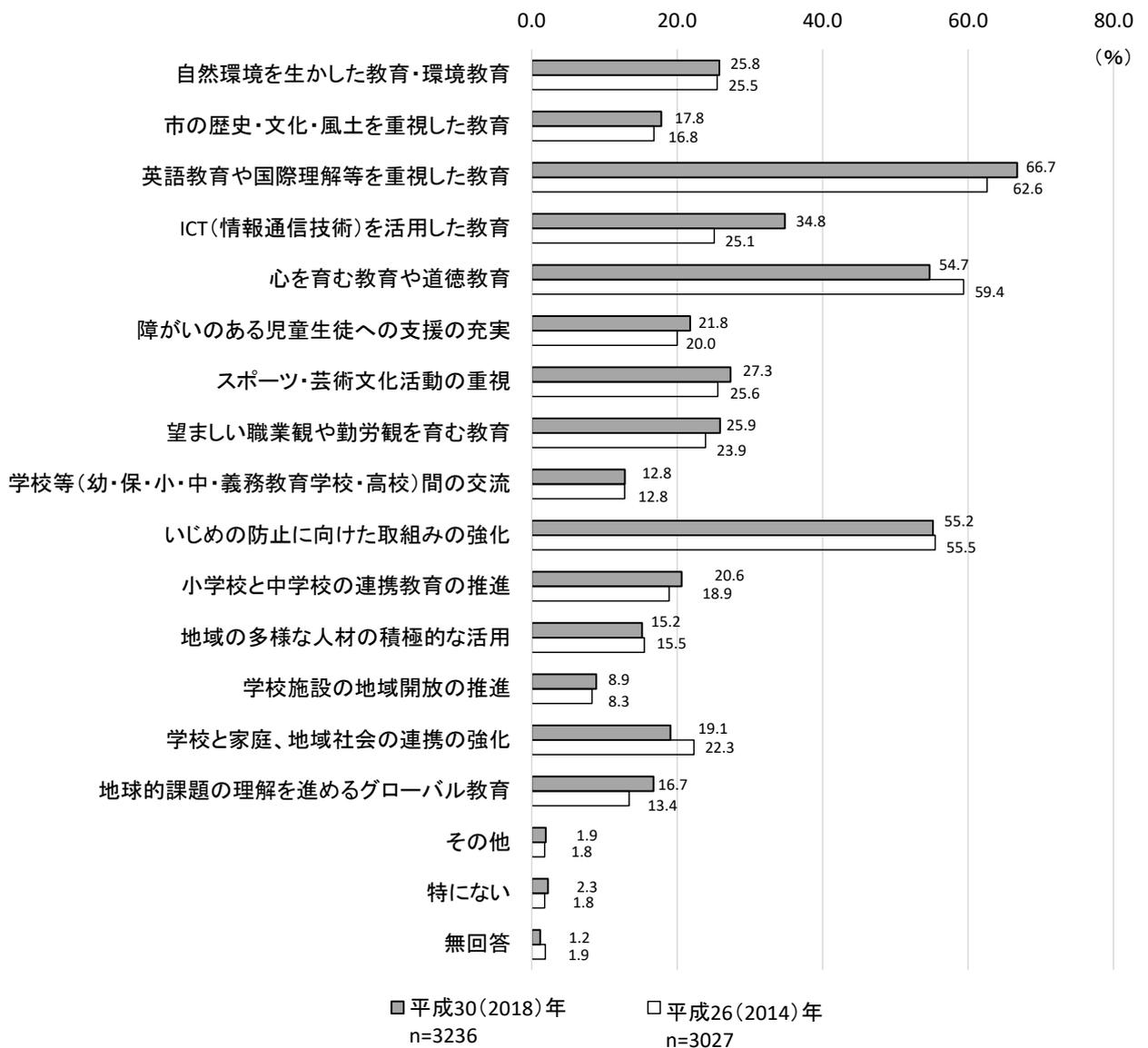


3. 学校教育について

問 10 成田市の学校教育（小・中学校）では、今後どのような点に力を入れていくことが望ましいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

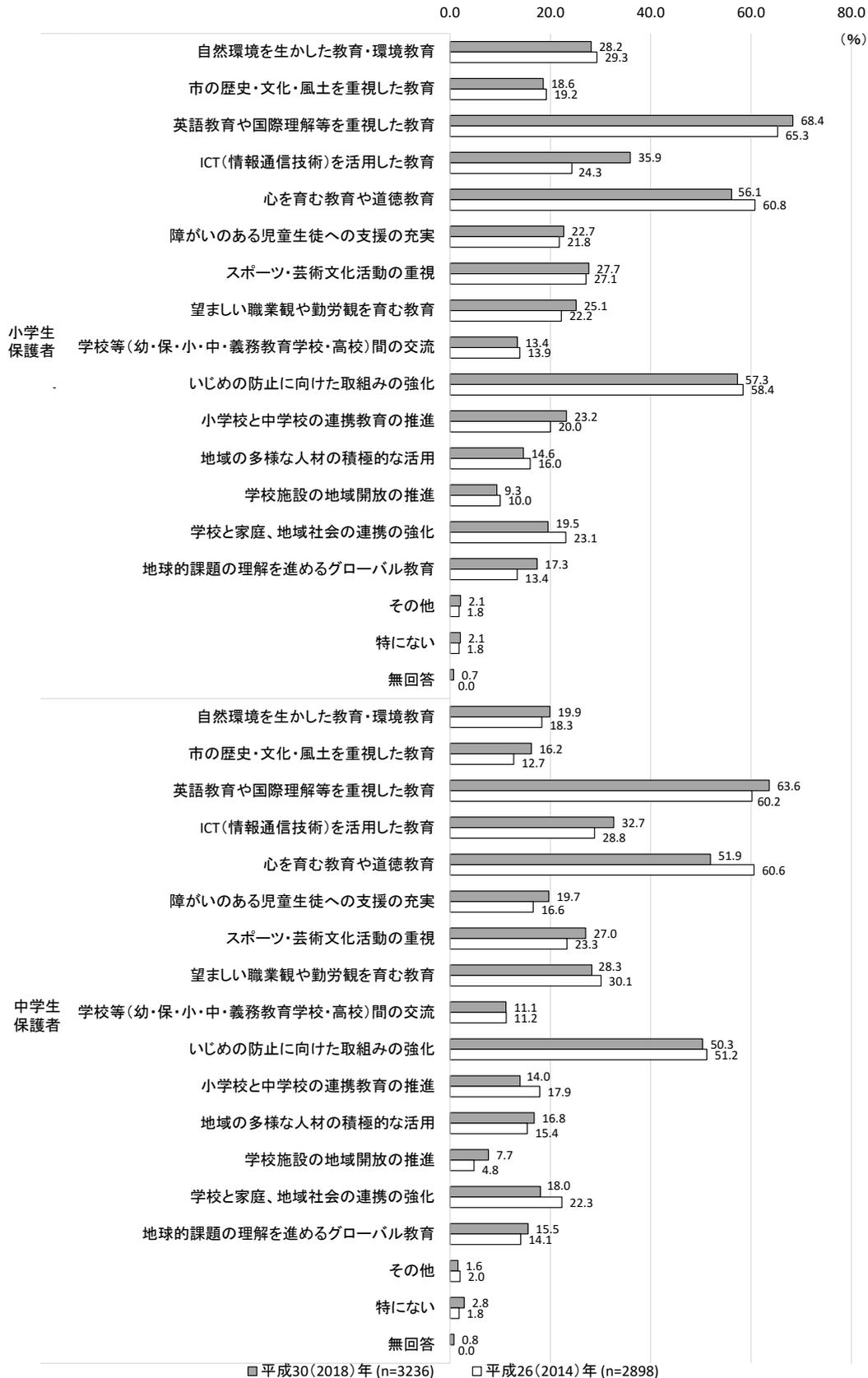
成田市の学校教育で今後力を入れていくことについては、「英語教育や国際理解等を重視した教育」が最も多く 66.7%、次いで「いじめの防止に向けた取組みの強化」が 55.2%、「心を育む教育や道徳教育」が 54.7%、「ICT(情報通信技術)を活用した教育」が 34.8%、「スポーツ・芸術文化活動の重視」が 27.3%などとなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「ICT(情報通信技術)を活用した教育」が大きく増加し、「心を育む教育や道徳教育」が減少しています。



【学校別】

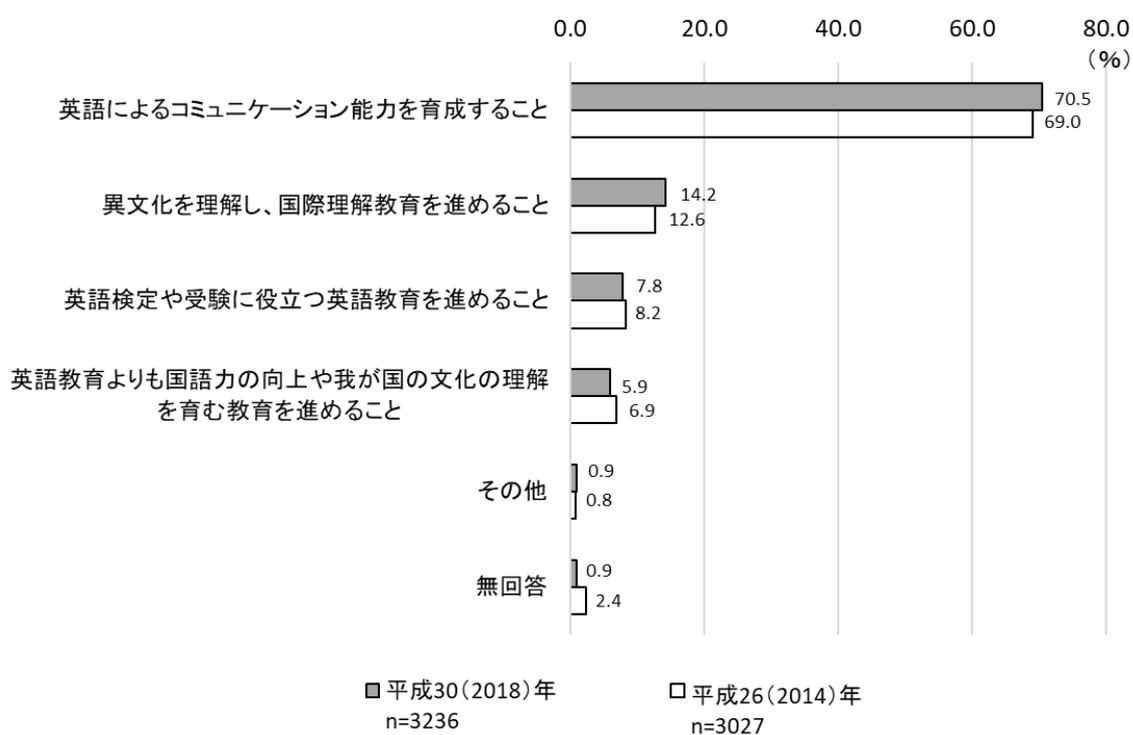
学校別でみた場合、上位に大きな違いはみられませんが、平成26年度の調査と比較すると、“中学生保護者”の「心を育む教育や道徳教育」で大きく減少しています。



問 11 成田市では、国際空港が立地しているという地域特性を生かして、英語教育の推進に努めておりますが、どのような点に力を入れていくことが望ましいと思えますか(1つだけ○)

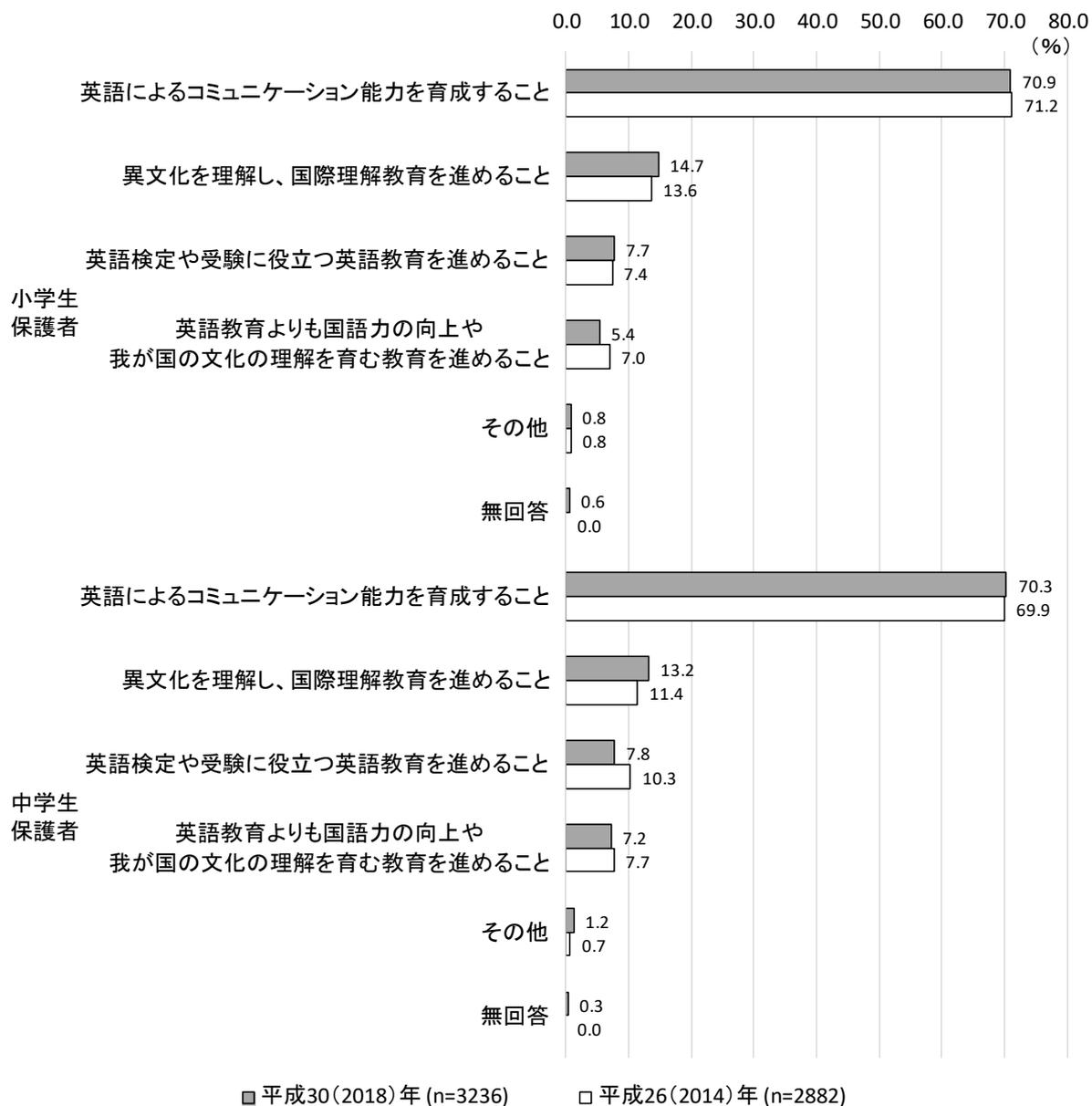
成田市の英語教育推進で力を入れていくことについては、「英語によるコミュニケーション能力を育成すること」を望む声が最も多く 70.5%、次いで「異文化を理解し、国際理解教育を進めること」が 14.2%などとなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「英語によるコミュニケーション能力を育成すること」「異文化を理解し、国際理解教育を進めること」が増加しています。



【学校別】

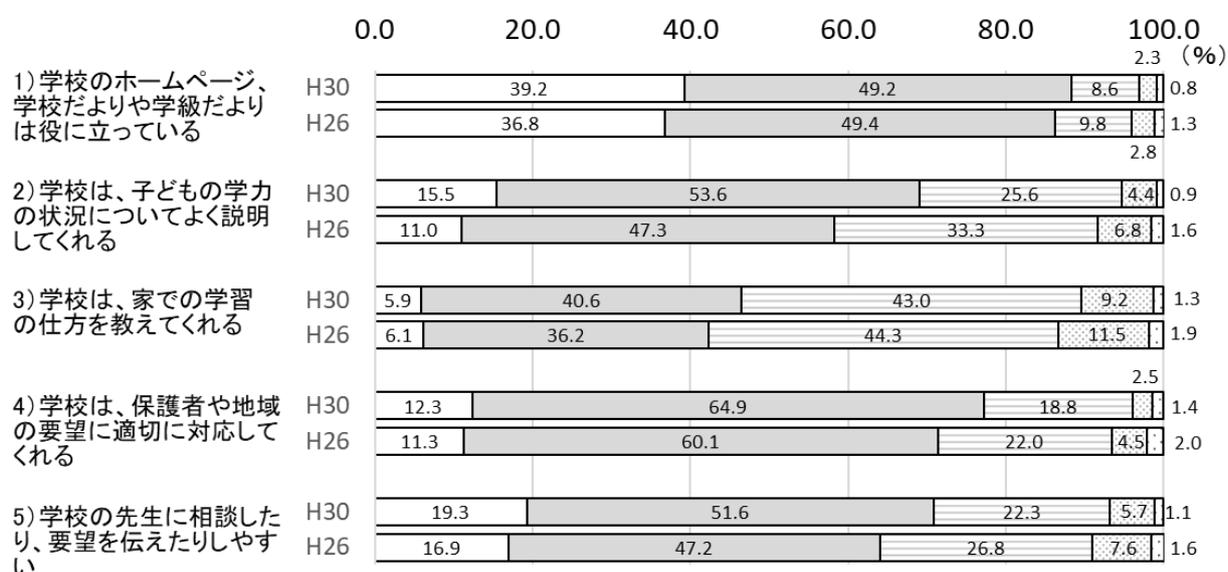
学校別でみた場合、“小学生保護者”と“中学生保護者”で大きな違いはみられませんが、平成26年度の調査と比較すると、本調査では“中学生保護者”の「英語検定や受験に役立つ英語教育を進めること」が減少しています。



問 12 お子さんが通っている学校の取組みなどについて、当てはまるものを選んでください。(それぞれに1つずつ○)

子どもが通っている学校の取組みなどについては、“1) 学校のホームページ、学校だよりや学級だよりは役に立っている”では「あてはまる」が4割近くとなっています。一方、“3) 学校は、家での学習の仕方を教えてくれる”では「あてはまらない」が1割近くとなっています。

平成26年度の調査と比較すると、いずれの項目においても「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は前回調査よりも増加しています。特に“2) 学校は子どもの学力の状況についてよく説明してくれる”では10ポイント以上増加しています。



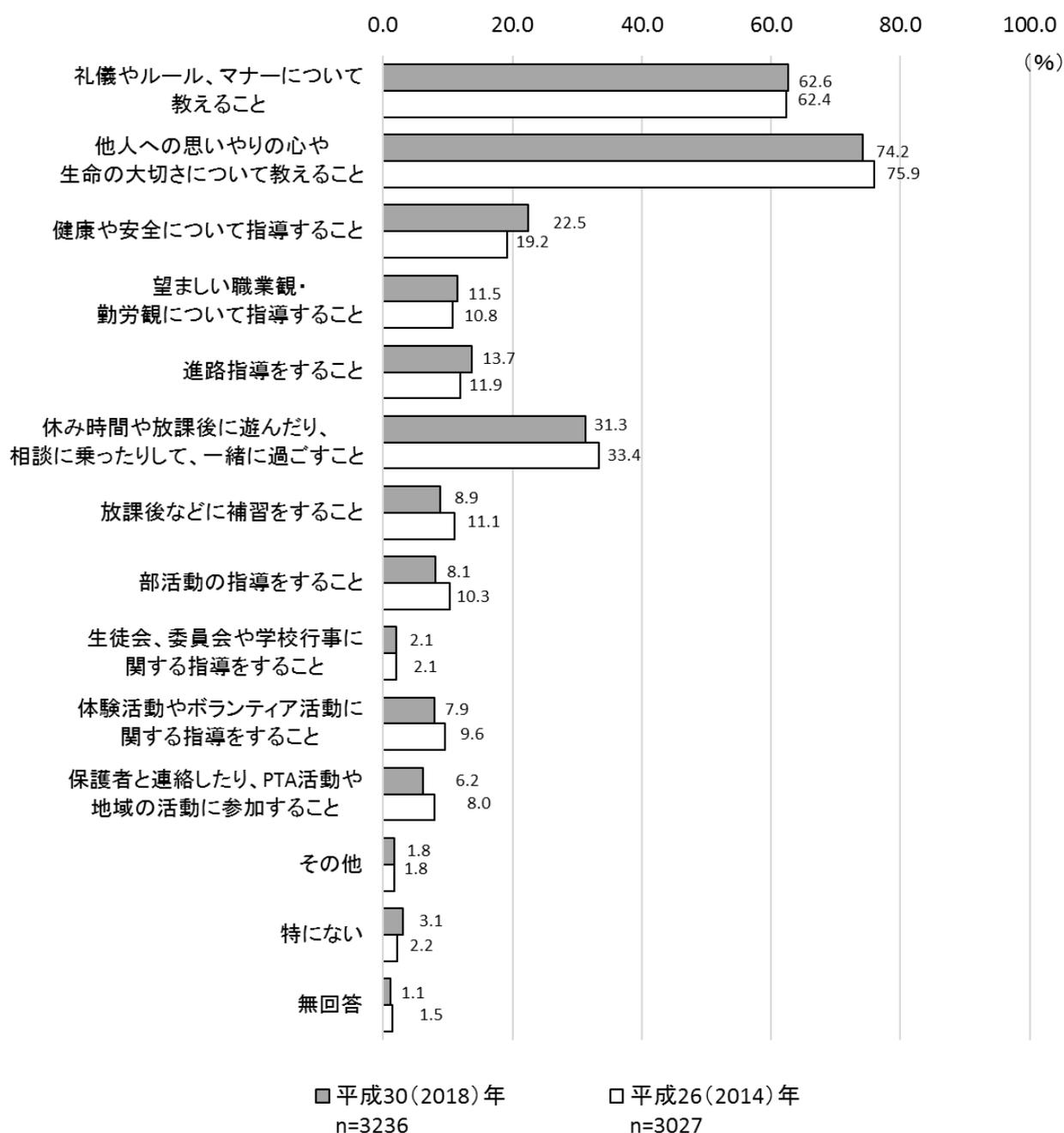
- あてはまる
- どちらかといえば、あてはまる
- どちらかといえば、あてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

平成30 (2018) 年 n=3236、平成26 (2014) 年 n=3027

問 13 お子さんの学校の先生に、教科の授業以外で特に期待することは何ですか。(3つまで○)

お子さんの学校の先生に、教科の授業以外で特に期待することについては、「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」が最も多く 74.2%、次いで「礼儀やルール、マナーについて教えること」が 62.6%、「休み時間や放課後に遊んだり、相談に乗ったりして、一緒に過ごすこと」が 31.3%「健康や安全について指導すること」が 22.5%などとなっています。

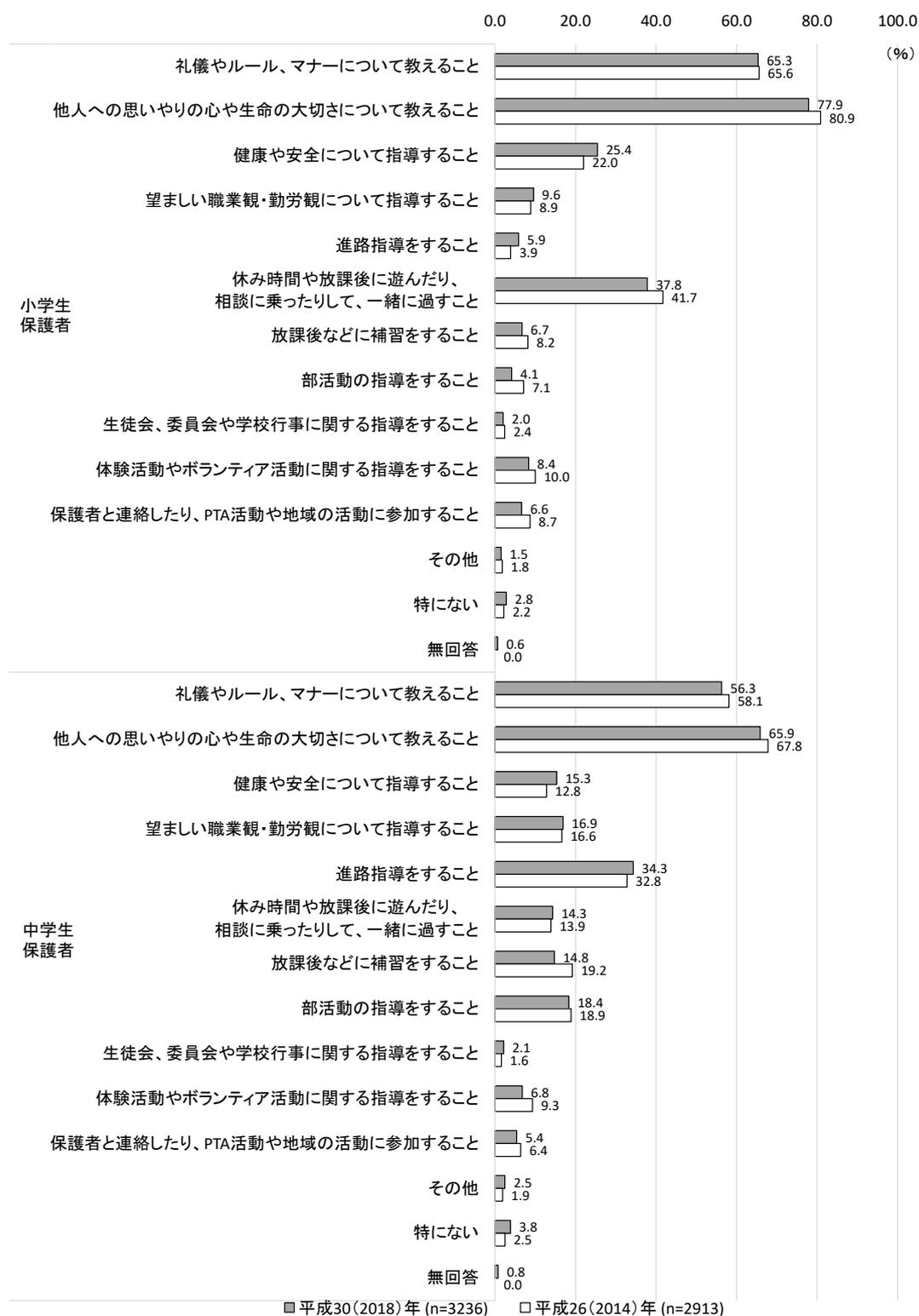
平成 26 年度の調査と比較すると、「健康や安全について指導すること」が最も増加し、「休み時間や放課後に遊んだり、相談に乗ったりして、一緒に過ごすこと」などが減少しています。



【学校別】

学校別でみると、“小学生保護者”“中学生保護者”ともに「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」「礼儀やルール、マナーについて教えること」が上位で、特に“小学生保護者”で高い割合となっています。

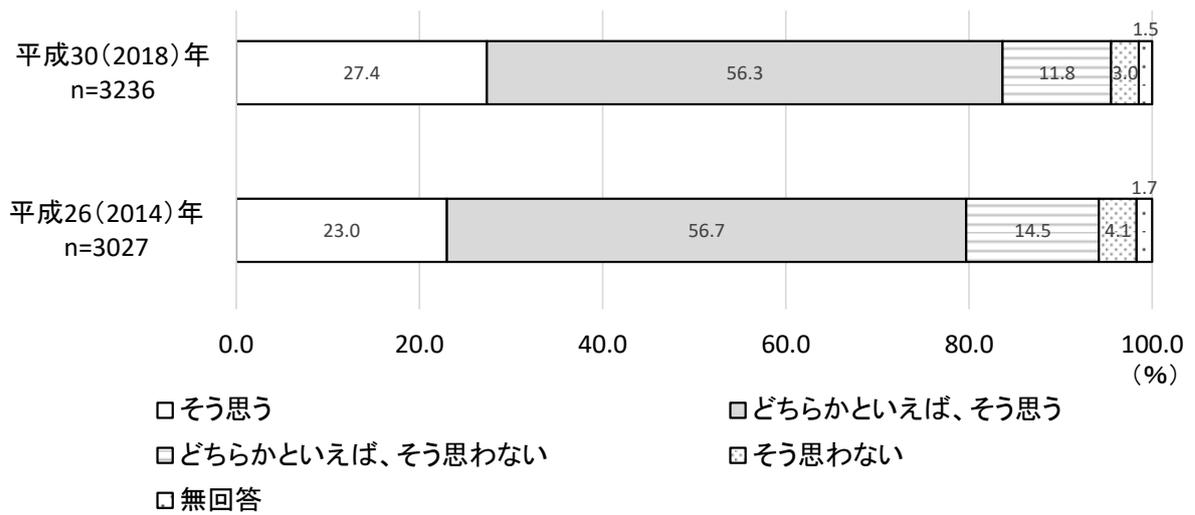
平成26年度の調査と比較すると、本調査では“小学生保護者”“中学生保護者”ともに「健康や安全について指導すること」が増加しています。



問 14 お子さんの学校の先生は、期待に応えてくれていると思いますか。(1つだけ○)

お子さんの学校の先生が期待に応えてくれているかについては、「どちらかといえば、そう思う」が最も多く 56.3%、次いで「そう思う」が 27.4%、「どちらかといえば、そう思わない」が 11.8%、「そう思わない」が 3.0%などとなっています。

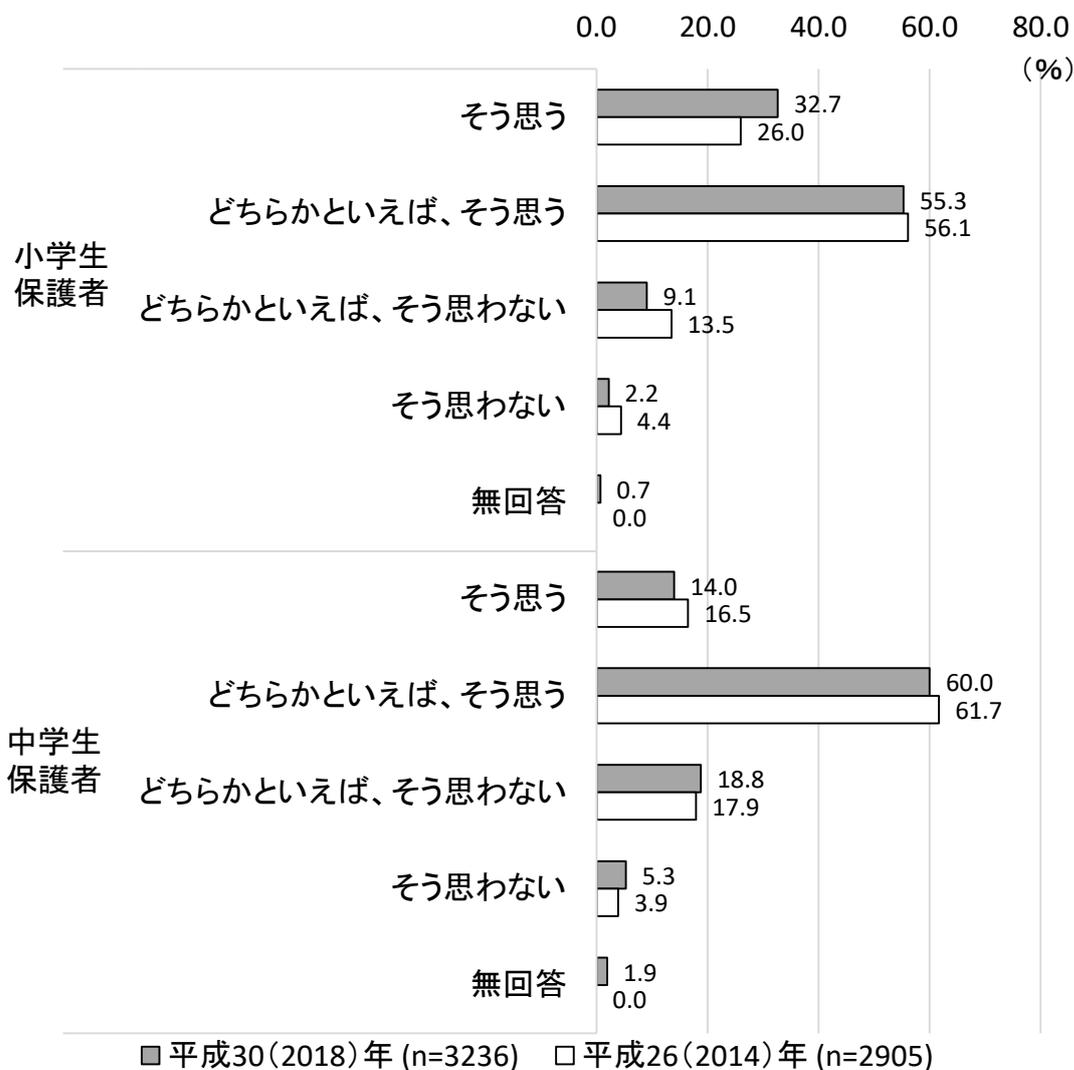
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「そう思う」が増加し、「どちらかといえば、そう思わない」が減少しています。



【学校別】

学校別でみると、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」とした“小学生保護者”は9割近くとなり、“中学生保護者”に比べて高い割合となっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では“小学生保護者”の「そう思う」が大きく増加しています。

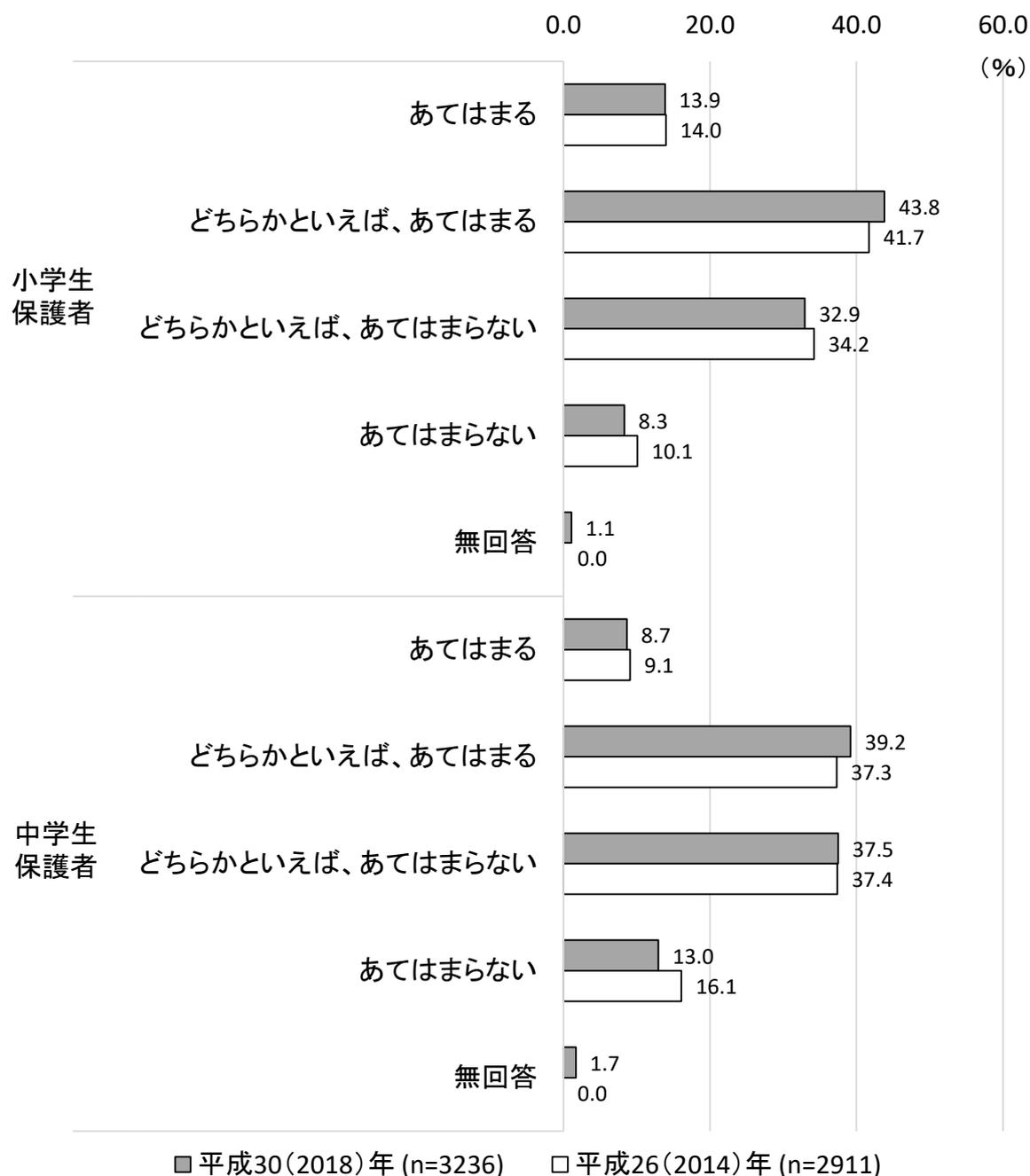


【学校別】

1) 学校生活を楽しめれば、よい成績をとることにはこだわらない

学校別でみると、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」とした“小学生保護者”が6割近くとなり、“中学生保護者”に比べて高い割合となっています。

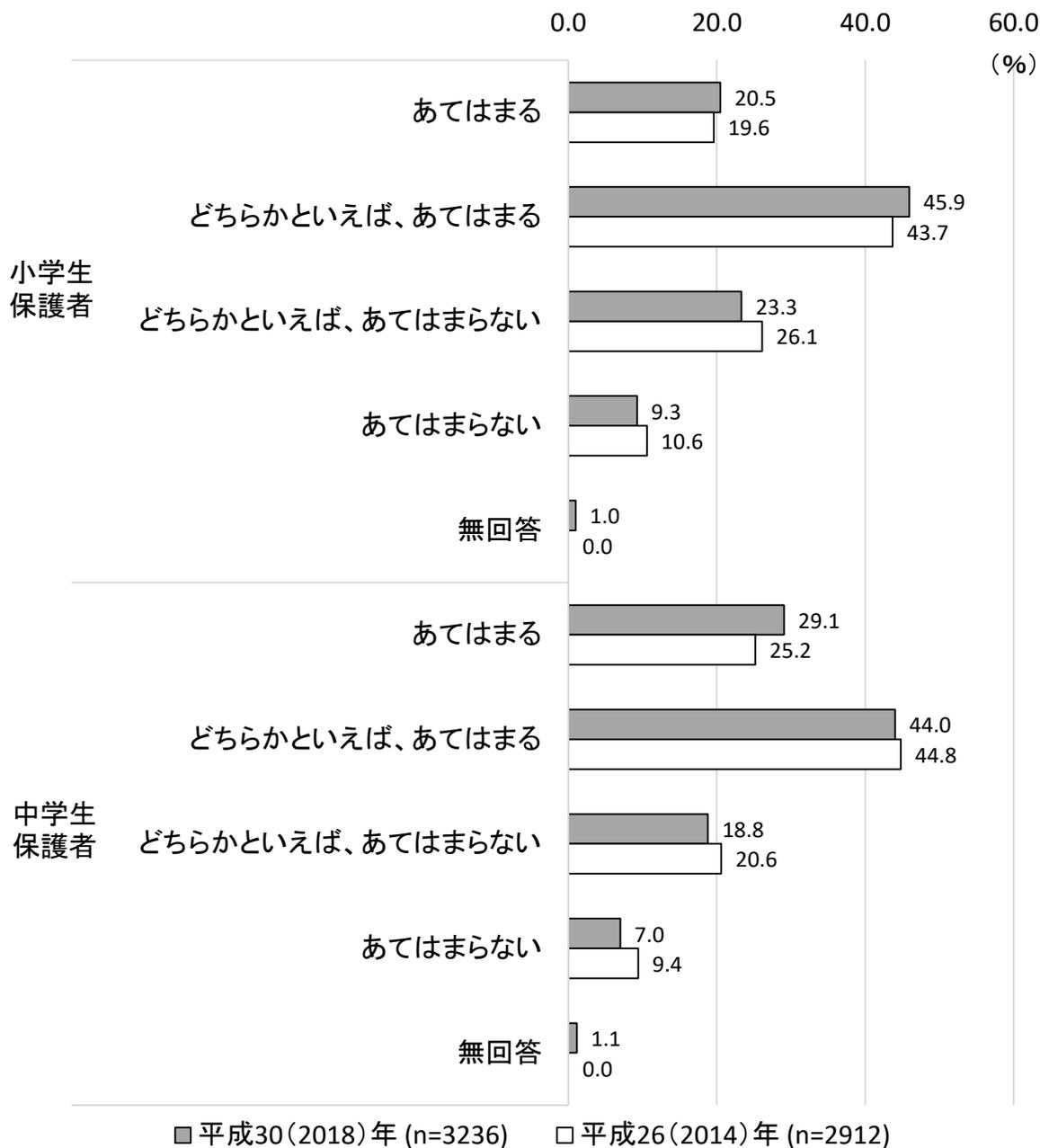
平成26年度の調査と比較すると、本調査では“小学生保護者”“中学生保護者”の「あてはまらない」が減少しています。



2) 子どもの将来を考えると、学習塾や習い事に通わせないと心配である

学校別でみると、「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」とした“中学生保護者”が7割を超えており、“小学生保護者”に比べて高い割合となっています。

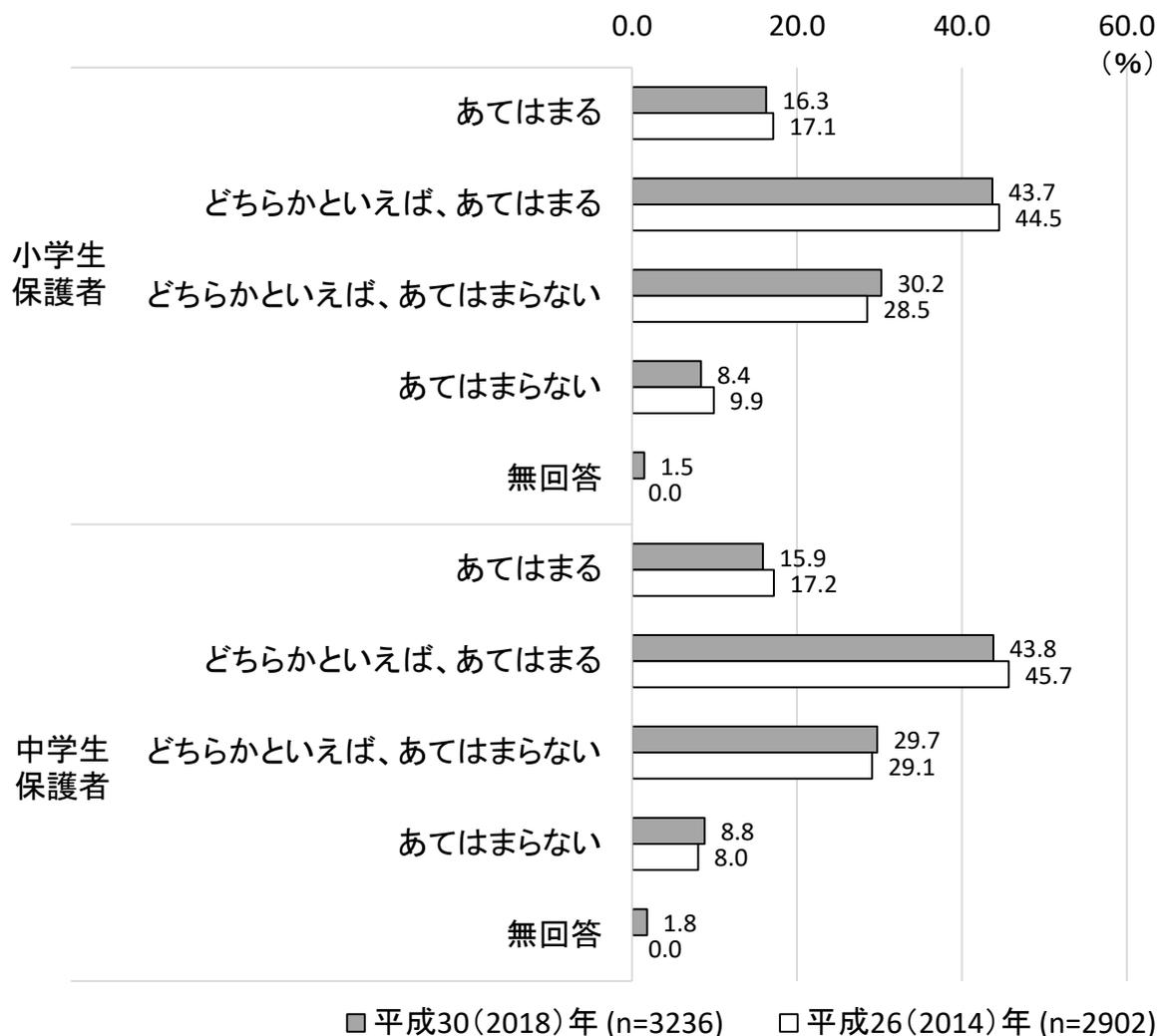
平成26年度の調査と比較すると、本調査では“中学生保護者”の「あてはまる」が大きく増加しています。



3) 子どもにはできるだけ高い学歴を身につけさせたい

学校別でみた場合、“小学生保護者”と“中学生保護者”で大きな違いはみられませんでした。

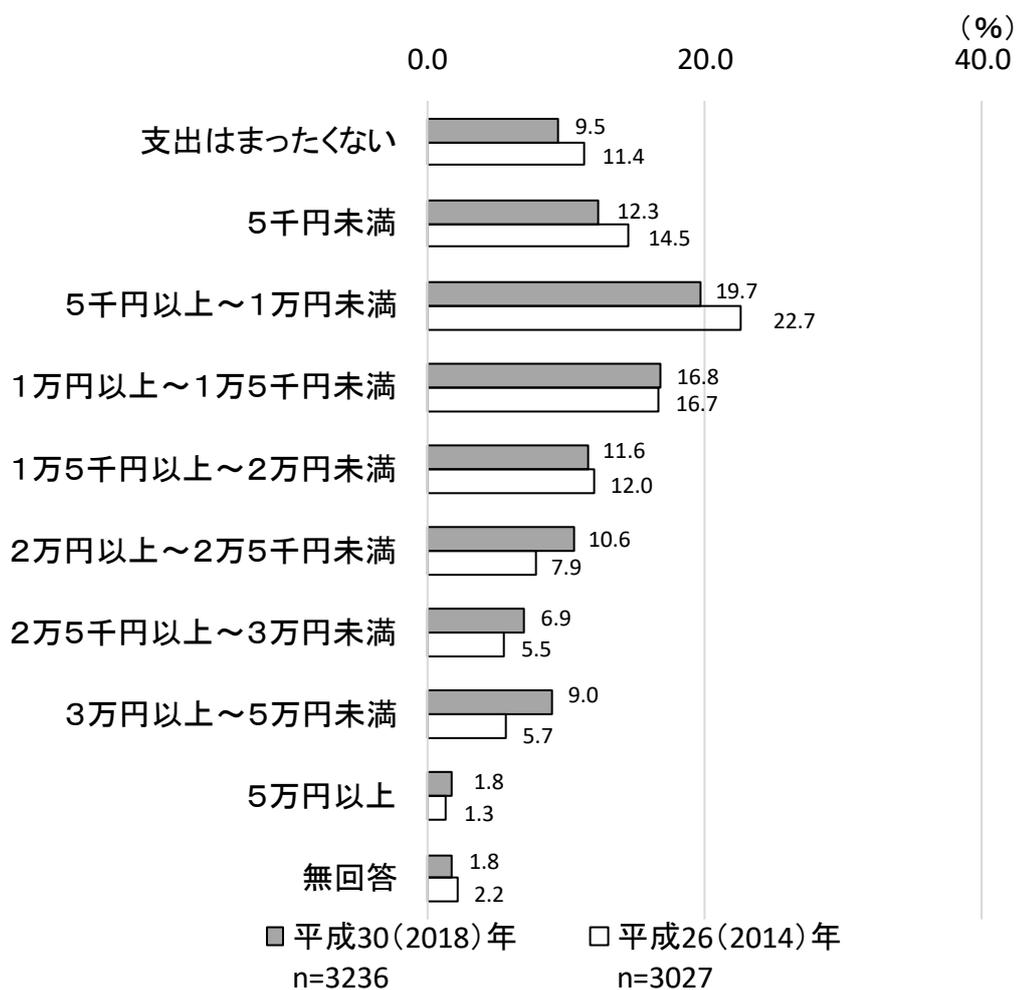
平成 26 年度の調査と比較すると、“小学生保護者”“中学生保護者”ともに「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」が減少し、「どちらかといえば、あてはまらない」が増加しています。



問 16 お子さん1人について、学校以外の教育にかける1か月あたりの平均の支出はどのくらいですか。(1つだけ○)

お子さん1人について、学校以外の教育にかける1か月あたりの平均の支出については、「5千円以上～1万円未満」が最も多く19.7%、次いで「1万円以上～1万5千円未満」が16.8%、「5千円未満」が12.3%などとなっています。

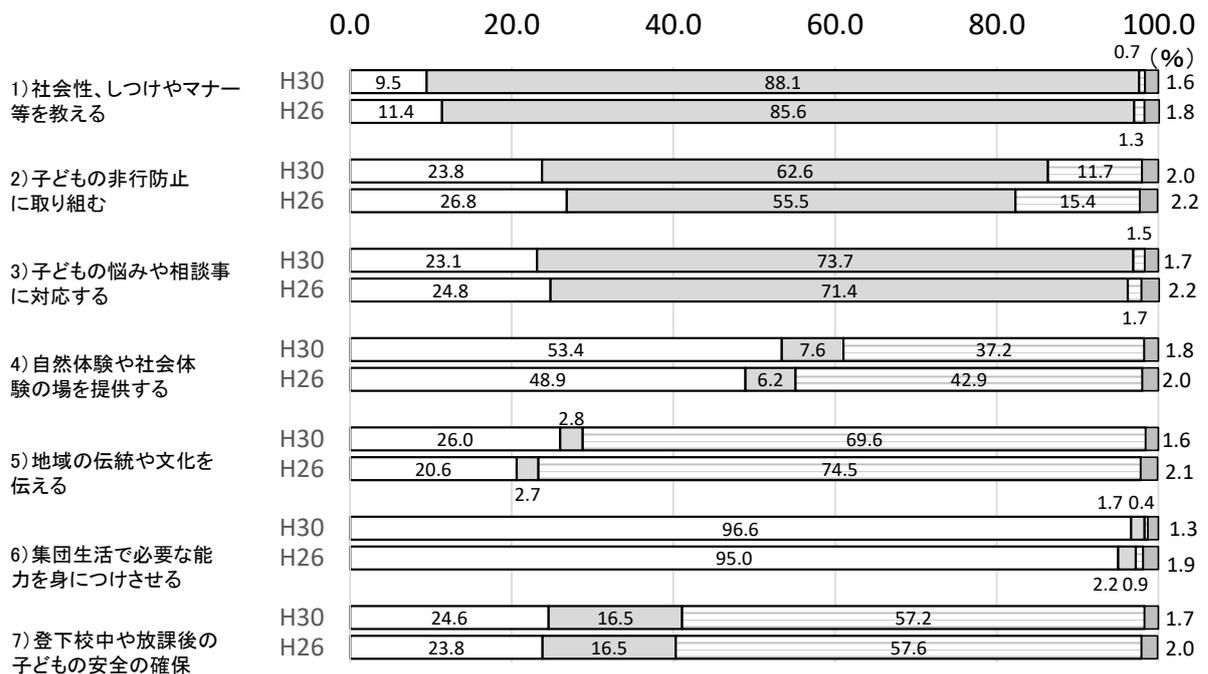
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「5千円未満」「5千円以上～1万円未満」など『1万円未満』が減少する一方で、「2万円以上～2万5千円未満」など『2万円以上』では増加しています。



問 17 あなたは、次のことについて、学校、家庭、地域のどこが中心となるべきだと考えていますか。（それぞれに1つずつ〇）

学校、家庭、地域のどこが中心となるべきかについては、“6）集団生活に必要な能力を身に付けさせる”において「学校」が中心となるべきだと考えている方が9割半ばと高くなっています。一方、“1）社会性、しつけやマナー等を教える”では「家庭」が9割近くと高くなっており、“5）地域の伝統や文化を伝える”では「地域」が7割程度となっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では“4）自然体験や社会体験の場を提供する”や“5）地域の伝統や文化を伝える”における「学校」の割合が大きく増加しています。

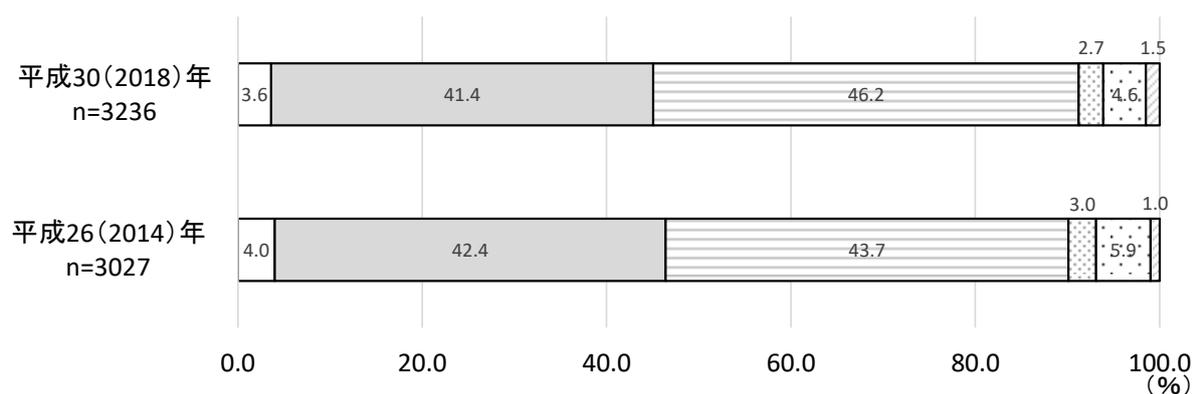


□学校 □家庭 □地域 □無回答
平成30（2018）年 n=3236、平成26（2014）年 n=3027

問 18 あなたは、学校の活動に対して、どの程度、関わる意向を持っていますか。(1つだけ○)

学校の活動に対して、どの程度、関わる意向を持っているかについては、「授業参観や運動会などの学校行事に時折参加する」が最も多く 46.2%、次いで「PTA活動や学校行事等に積極的に参加する」が 41.4%などとなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「授業参観や運動会などの学校行事に時折参加する」が増加しています。

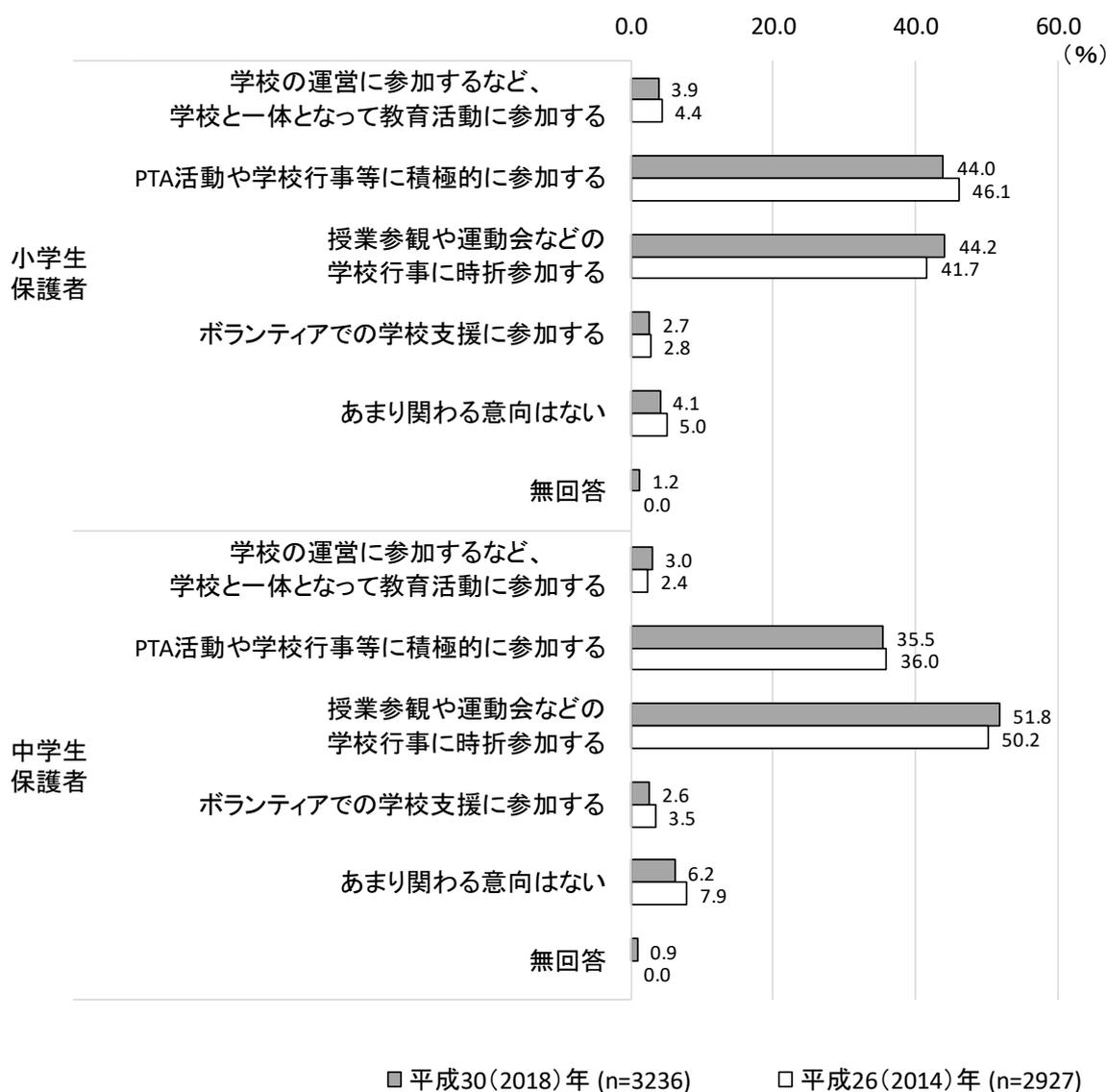


- 学校の運営に参加するなど、学校と一体となって教育活動に参加する
- PTA活動や学校行事等に積極的に参加する
- 授業参観や運動会などの学校行事に時折参加する
- ボランティアでの学校支援に参加する

【学校別】

学校別でみると、「PTA活動や学校行事等に積極的に参加する」では“小学生保護者”が4割半ばと“中学生保護者”に比べて高い割合となっています。

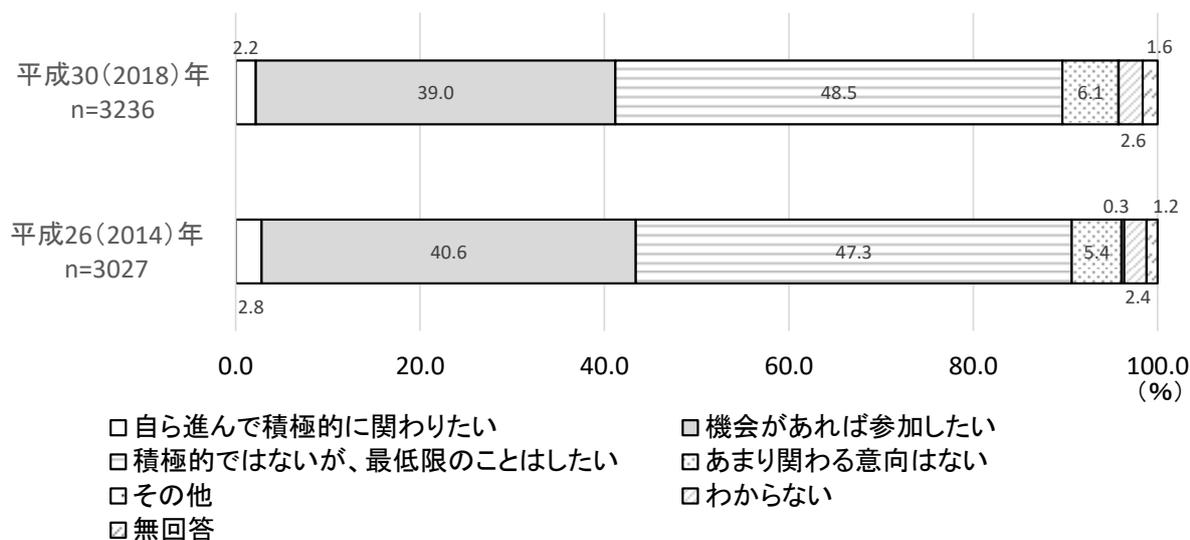
平成26年度の調査と比較すると、本調査では“小学生保護者”の「PTA活動や学校行事等に積極的に参加する」が減少しています。



問 19 あなたは、地域社会における教育に、どの程度、関わる意向を持っていますか。(1つだけ○)

地域社会における教育に、どの程度、関わる意向を持っているかについては、「積極的ではないが、最低限のことはしたい」が最も多く 48.5%、次いで「機会があれば参加したい」が 39.0% などとなっています。

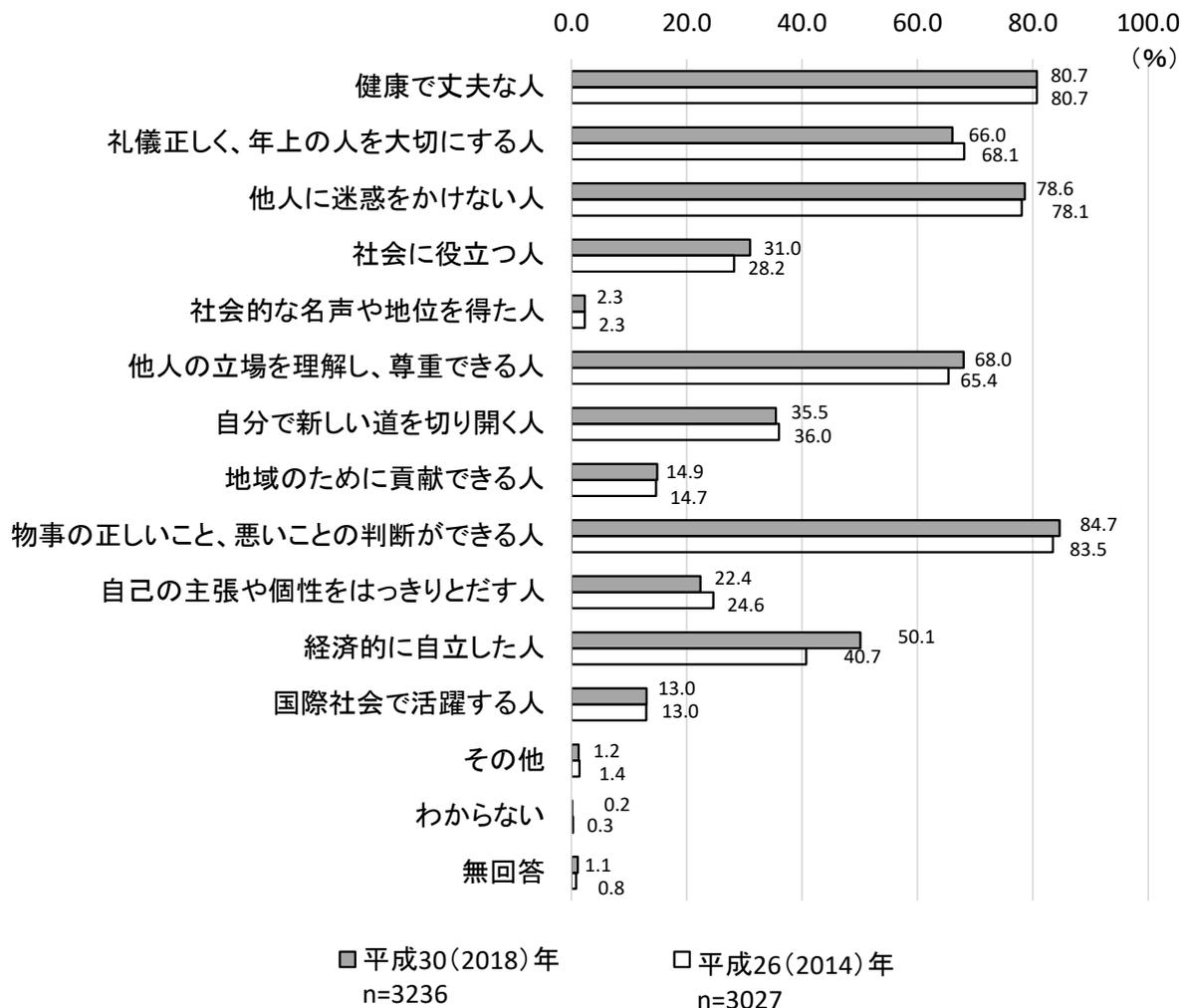
平成 26 年度の調査との比較では、大きな変動は見られませんが、本調査では「機会があれば参加したい」がやや減少しています。



問 20 あなたのお子さんにはどのような人間になってもらいたいですか。(あてはまるものすべてに○)

お子さんにどのような人間になってもらいたいかについては、「物事の正しいこと、悪いことの判断ができる人」が最も多く 84.7%、次いで「健康で丈夫な人」が 80.7%、「他人に迷惑をかけない人」が 78.6%などとなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「経済的に自立した人」が大きく増加しています。

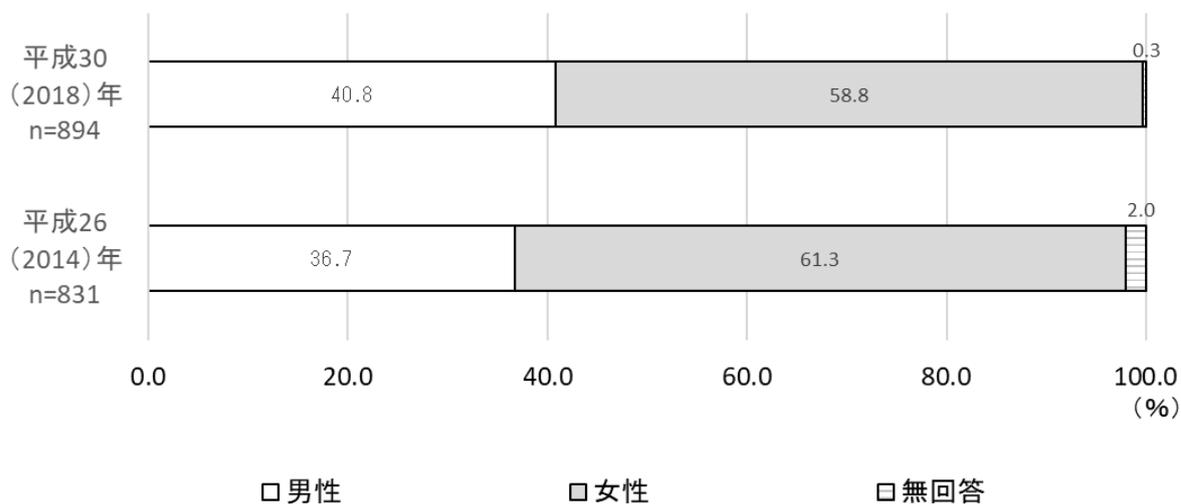


第5章 教職員調査の結果

1. あなた自身について

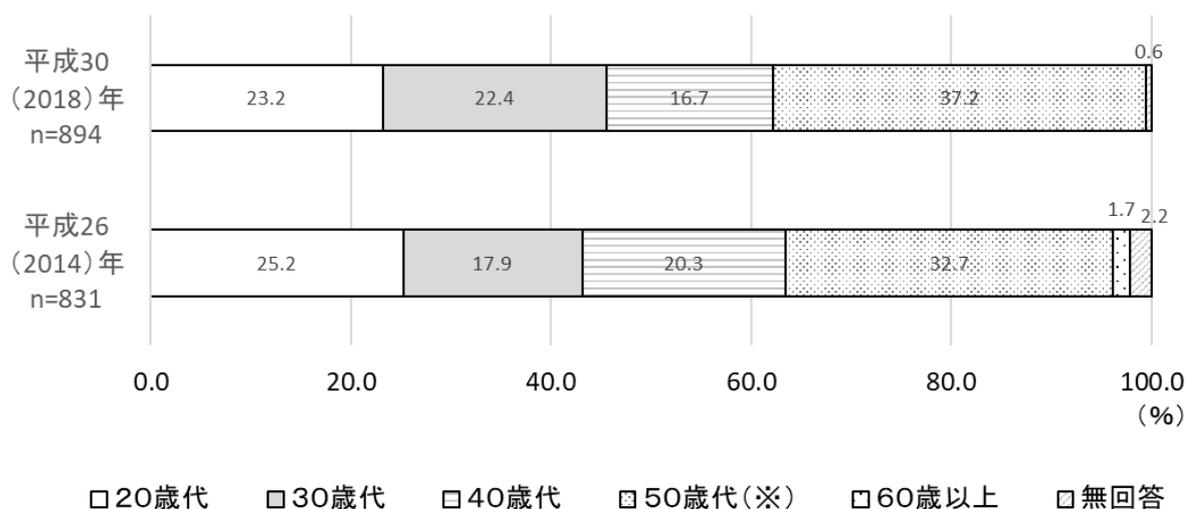
問1 あなたの性別はどちらですか。(1つだけ○)

性別については、「男性」が40.8%、「女性」が58.8%となっています。



問2 あなたの年齢についてあてはまるものを選んでください。(1つだけ○)

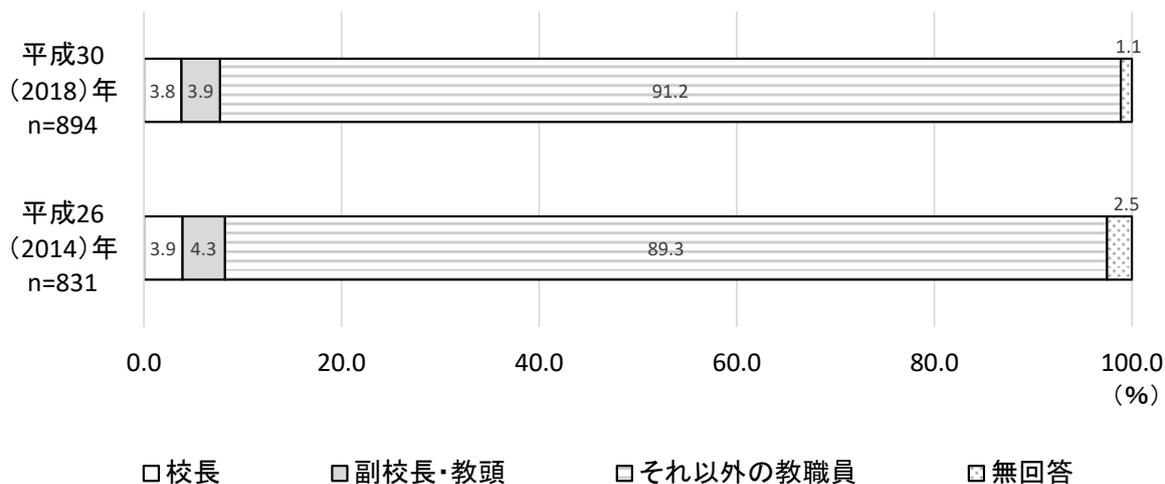
年齢については、「20歳代」が23.2%、「30歳代」が22.4%、「40歳代」が16.7%、「50歳以上(※)」が37.2%となっています。



※本調査では「50歳以上」の選択肢を上限(「60歳以上」の選択肢はなし)としています。

問3 あなたの職名は何ですか。(1つだけ○)

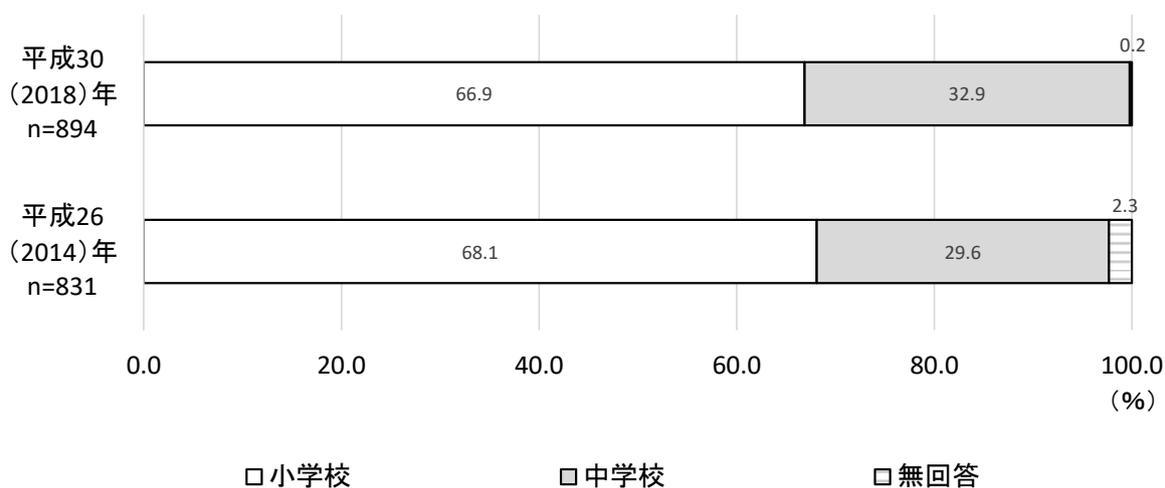
職名については「校長」が3.8%、「副校長・教頭」が3.9%、「それ以外の教職員」が91.2%となっています。



問4 あなたの勤務先はどちらですか。(1つだけ○)

勤務先については、「小学校」が66.9%、「中学校」が32.9%となっています。

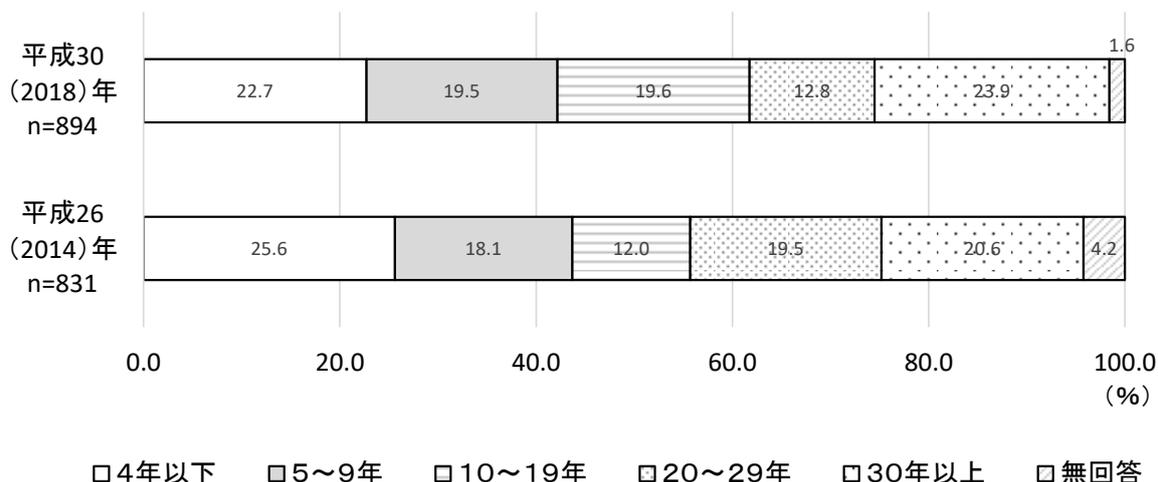
※ 義務教育学校の教職員は、主として担当している学年等が前期課程であれば「小学校」を、後期課程であれば「中学校」を選択しています。



問5 あなたの教職員経験年数は何年ですか。(1つだけ○)

教職員経験年数については、「4年以下」が22.7%、「5～9年」が19.5%、「10～19年」が19.6%、「20～29年」が12.8%、「30年以上」が23.9%となっています。

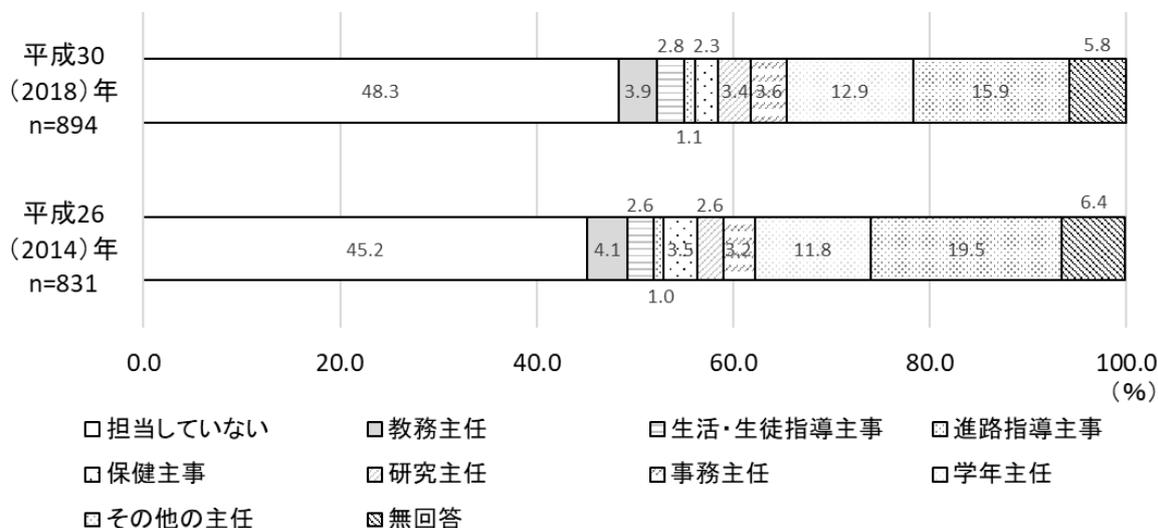
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「5～9年」「10～19年」「30年以上」が増加しています。



問6 主任を担当していますか。(1つだけ○)

主任を担当しているかについては、「担当していない」が48.3%、「その他の主任」が15.9%、「学年主任」が12.9%などとなっています。

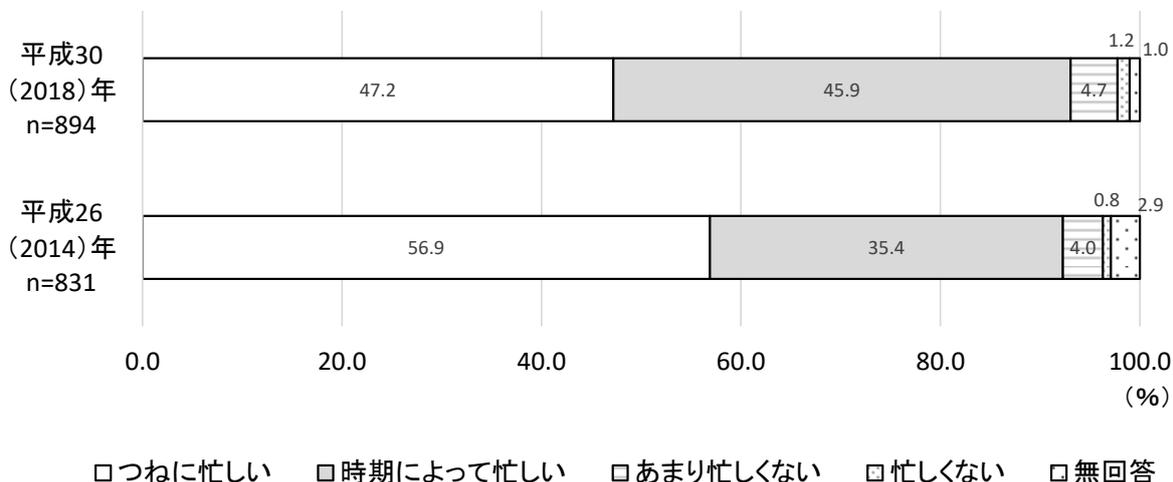
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「担当していない」が増加し、「その他の主任」が減少しています。



問7 ご自身の職務について、どれくらい忙しいと感じていますか。(1つだけ○)

職務について、どれくらい忙しいと感じているかについては、「つねに忙しい」が最も多く47.2%、次いで「時期によって忙しい」が45.9%、「あまり忙しくない」が4.7%、「忙しくない」が1.2%となっています。

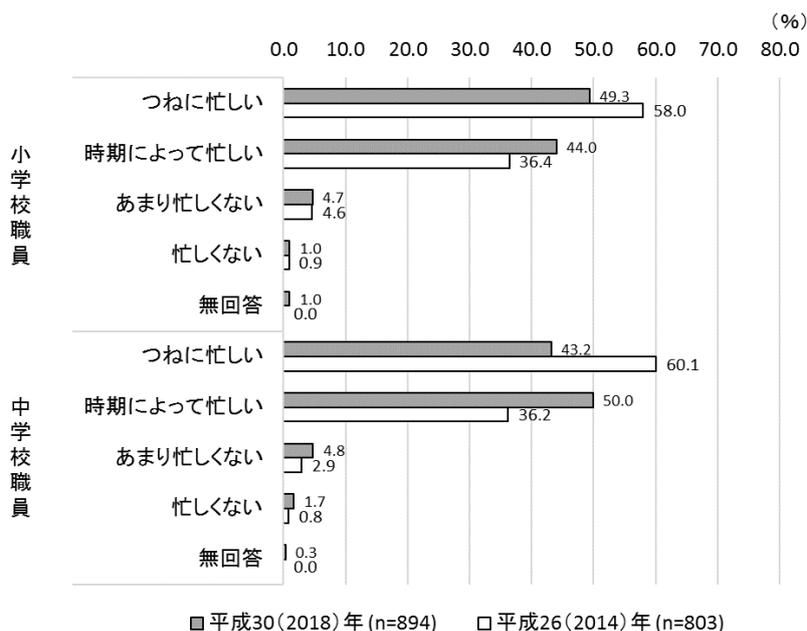
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「つねに忙しい」が大きく減少しています。



【勤務先別】

勤務先別でみた場合、「小学校職員」では「つねに忙しい」が最も多く、「中学校職員」では「時期によって忙しい」が最も多くなっています。

平成26年度の調査と比較すると、「小学校職員」「中学校職員」ともに「つねに忙しい」が大きく減少し、「時期によって忙しい」が大きく増加しています。また、いずれの項目についても、「小学校職員」よりも「中学校職員」の方が大きく変動しています。

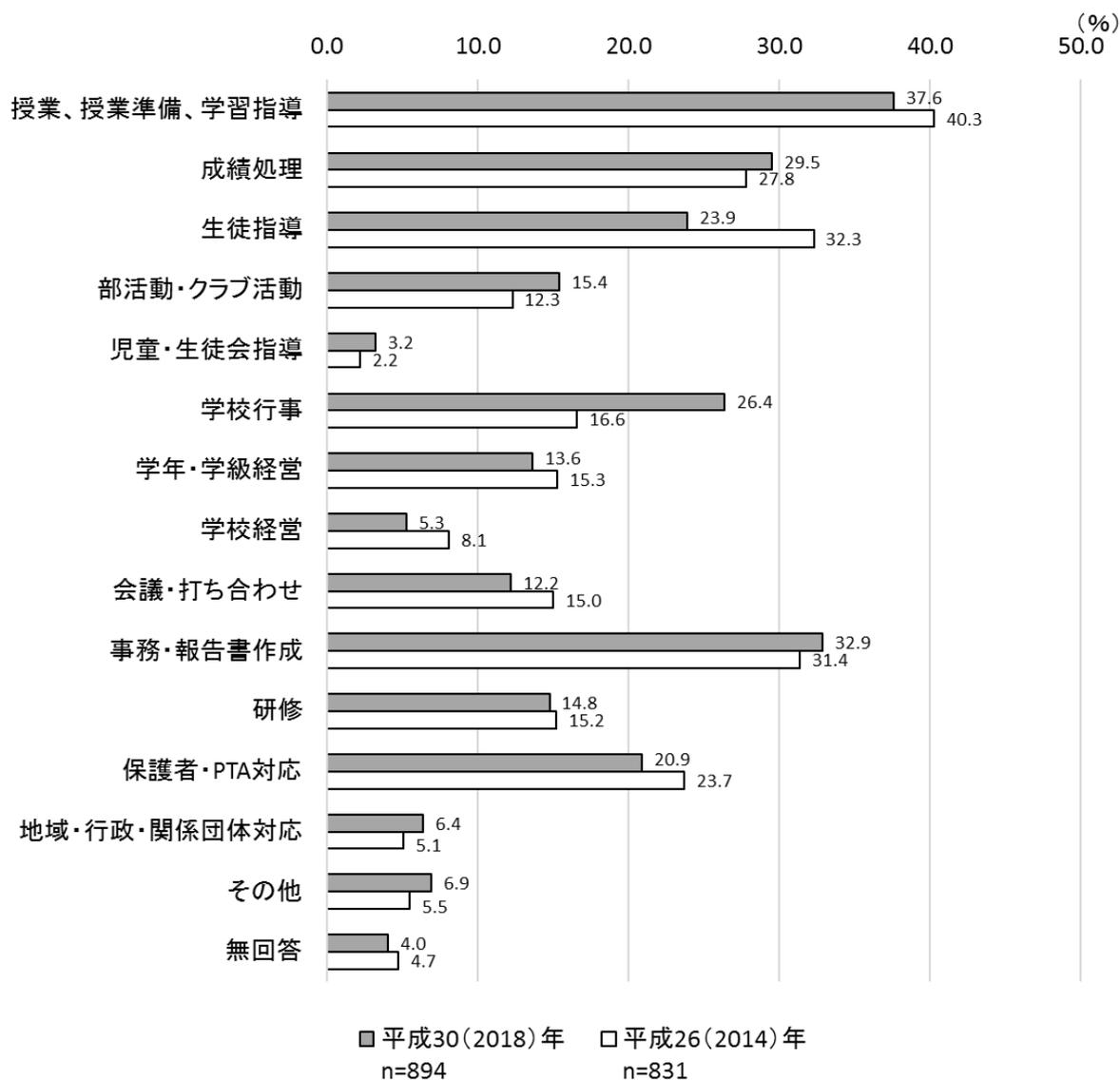


問8 仕事をするうえで、あなたが特に大変だと感じるのはどのような業務ですか。

(3つまで○)

特に大変だと感じることについては、「授業、授業準備、学習指導」が最も多く37.6%、次いで「事務・報告書作成」が32.9%、「成績処理」29.5%、「学校行事」が26.4%などとなっています。

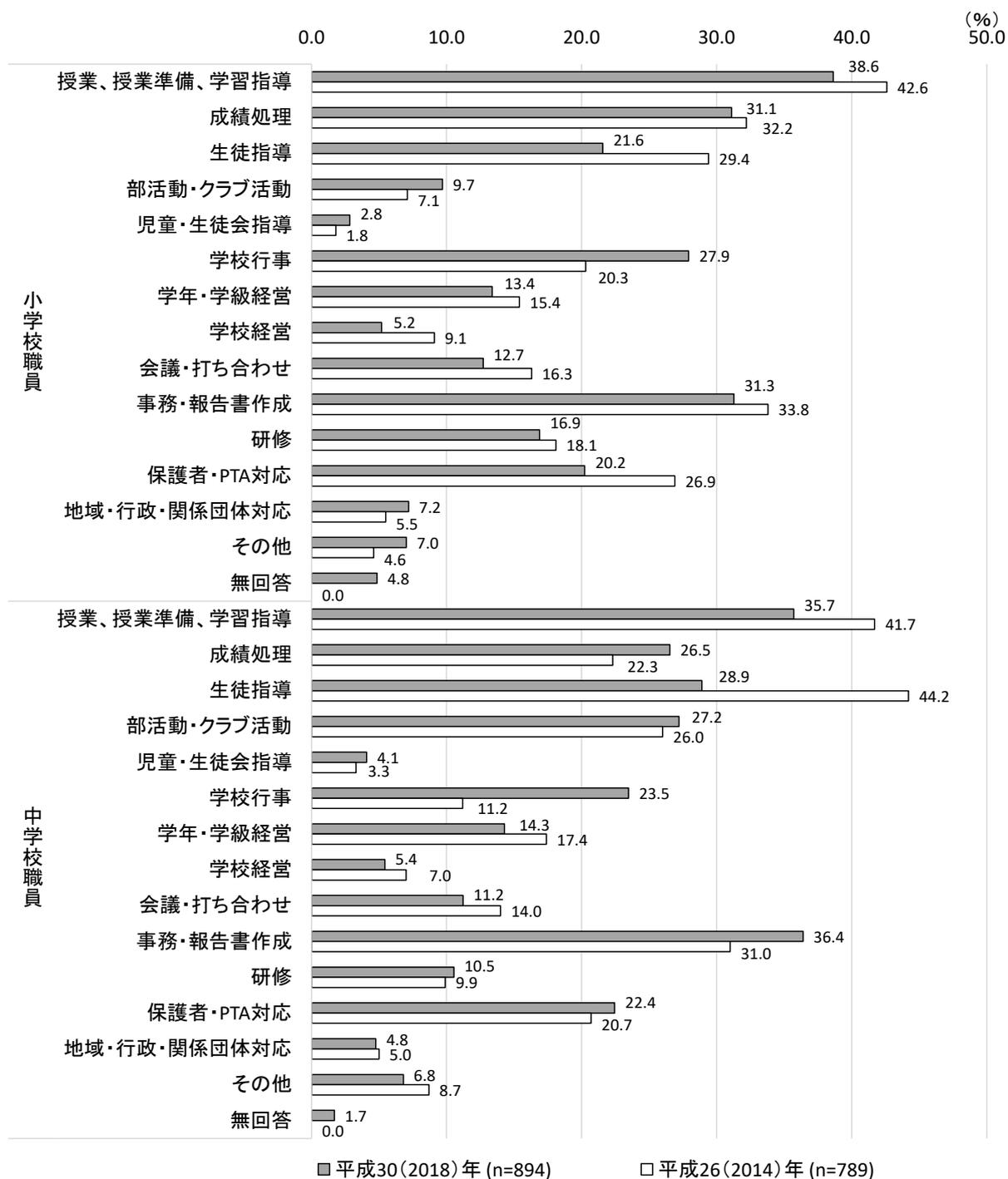
平成26年度の調査と比較すると、本調査では「生徒指導」が大きく減少する一方で、「学校行事」については大きく増加しています。



【勤務先別・小学校職員】

勤務先別でみると、「成績処理」「学校行事」で“小学校職員”の割合が高く、「事務・報告書作成」で“中学校職員”の割合が高くなっています。

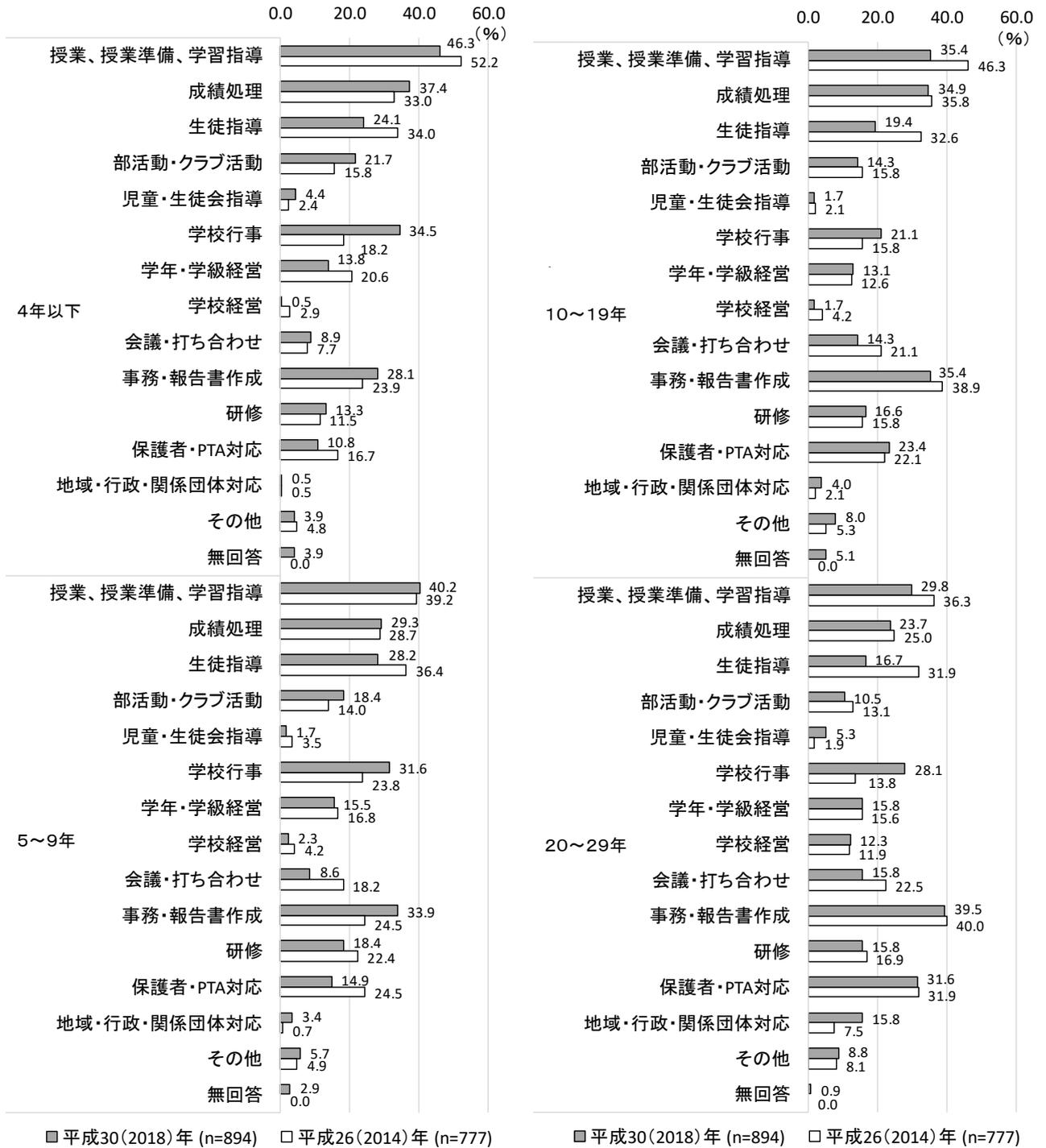
平成26年度の調査と比較すると、“小学校職員”“中学校職員”ともに「生徒指導」が大きく減少する一方で、「学校行事」が大きく増加しており、いずれも“小学校職員”より“中学校職員”の方が大きく変動しています。

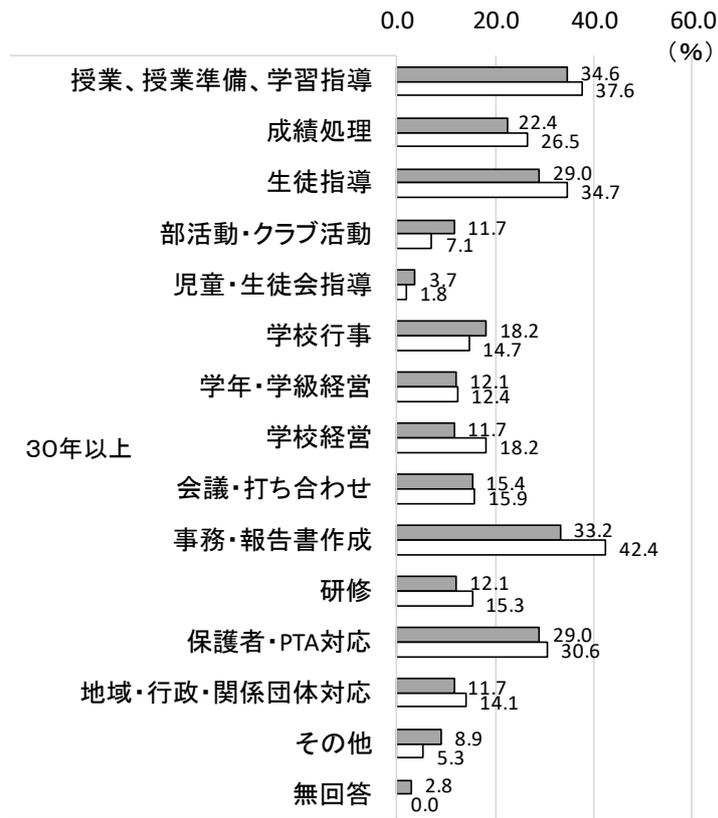


【経験年数別】

経験年数別でみると、「授業、授業準備、学習指導」では、“4年以下”が4割半ばとなり、他の経験年数と比べると高い割合となっています。

平成26年度の調査と比較すると、本調査では“10～19年”及び“20～29年”の「生徒指導」が大きく減少し、“4年以下”及び“20～29年”の「学校行事」が大きく増加しています。





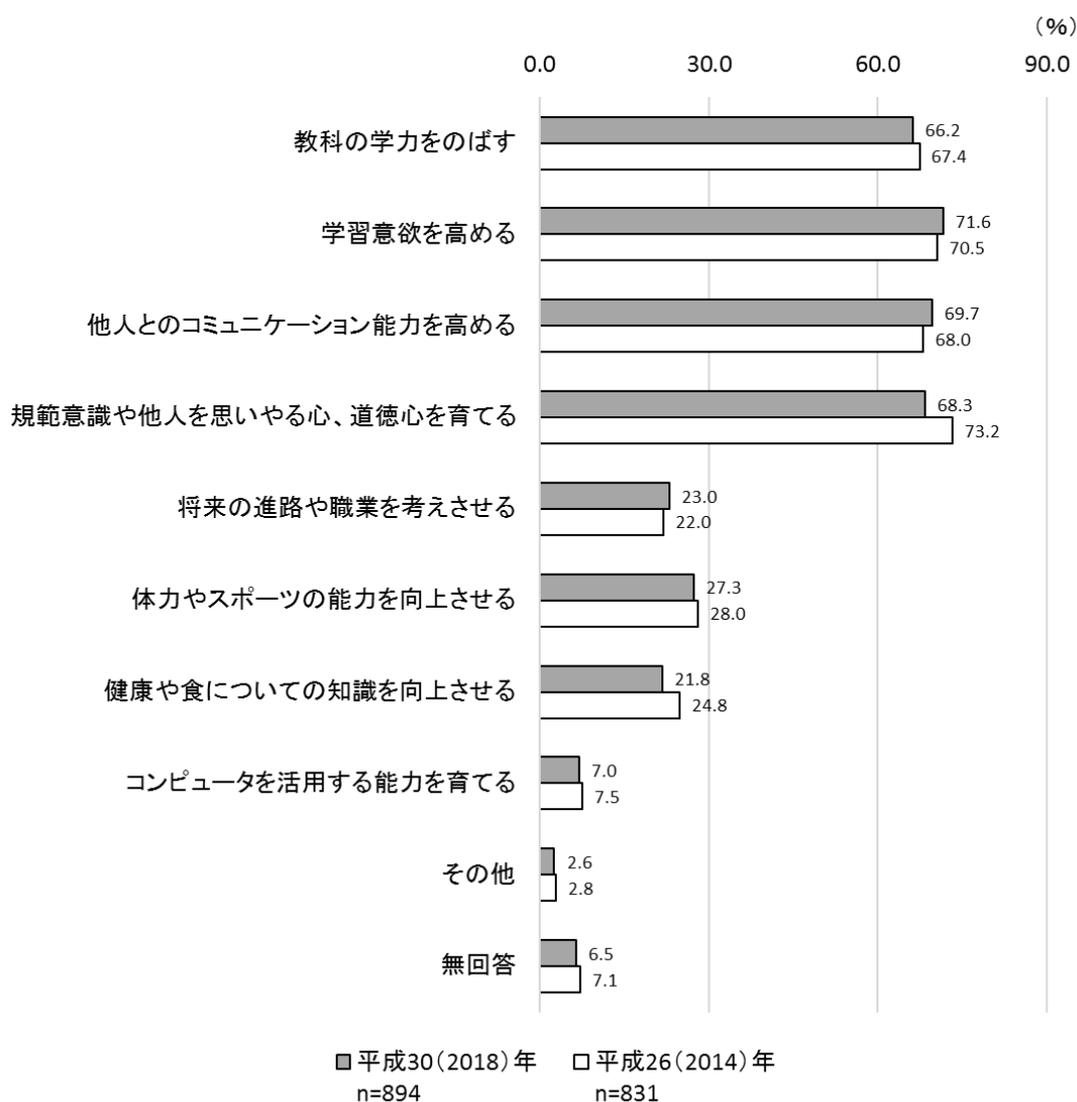
■平成30(2018)年 (n=894) □平成26(2014)年 (n=777)

2. 学習指導などの状況について

問9 あなたは、普段の教育や指導のなかで、どのようなことに力を入れて取り組んでいますか。(あてはまるものすべてに○)

普段の教育や指導のなかで、どのようなことに力を入れて取り組んでいるかについては、「学習意欲を高める」が最も多く 71.6%、次いで「他人とのコミュニケーション能力を高める」が69.7%「規範意識や他人を思いやる心、道徳心を育てる」が68.3%などとなっています。

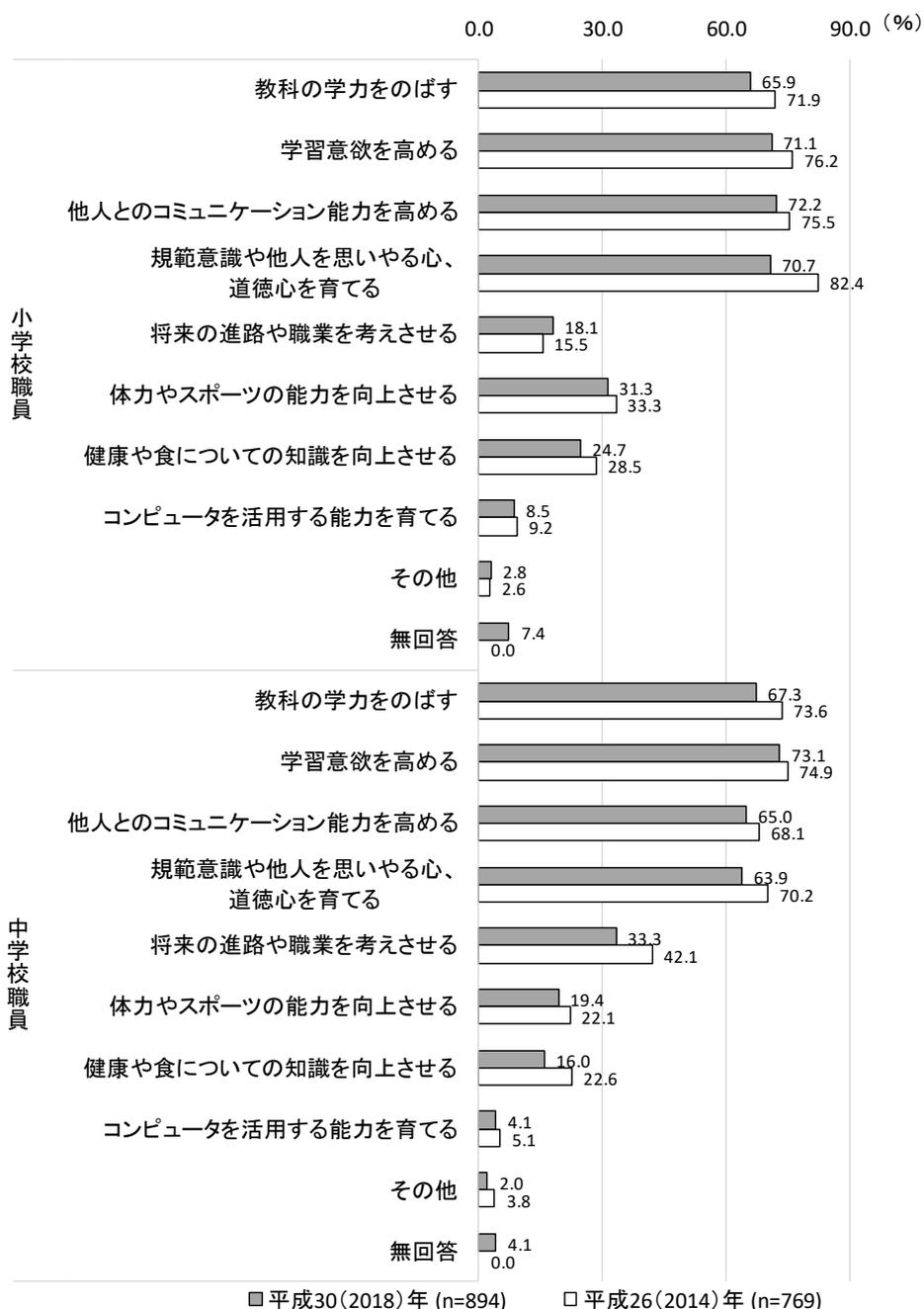
平成26年度の調査では「規範意識や他人を思いやる心、道徳心を育てる」が最も多かったのに対し、本調査では「学習意欲を高める」が最も多くなっています。



【勤務先別】

勤務先別でみると、上位にわずかな違いがみられ、“小学校職員”では「他人とのコミュニケーション能力を高める」が最も高く、“中学校職員”では、「学習意欲を高める」が最も高くなっています。

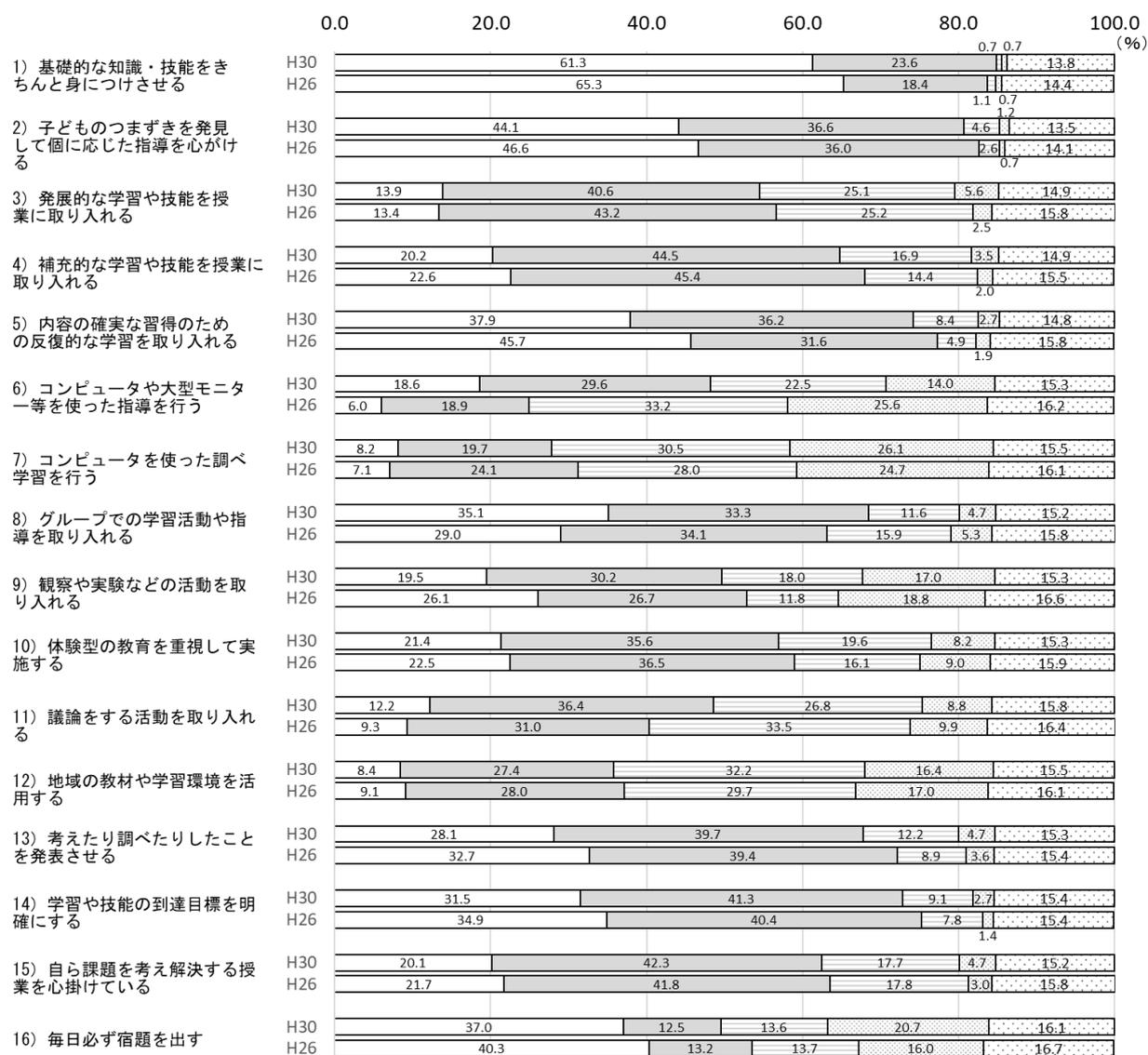
平成26年度の調査では“小学校職員”の「規範意識や他人を思いやる心、道徳心を育てる」が82.4%で最も高かったのに対し、本調査では“中学校職員”の「学習意欲を高める」が73.1%で最も高くなっています。



問 10 普段の学習指導のなかで、あなたが取り組んでいることで、あてはまるものを選んでください。(それぞれに1つずつ〇)

普段の学習指導のなかで、取り組んでいることについては、“1) 基礎的な知識・技能をきちんと身につけさせる”で「あてはまる」が6割と高くなっています。一方「あてはまらない」では“7) コンピュータを使った調べ学習を行う”で2割半ばとなっており他の項目と比べて高い割合となっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では“6) コンピュータや大型モニター等を使った指導を行う”における「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」の割合が大きく増加しています。



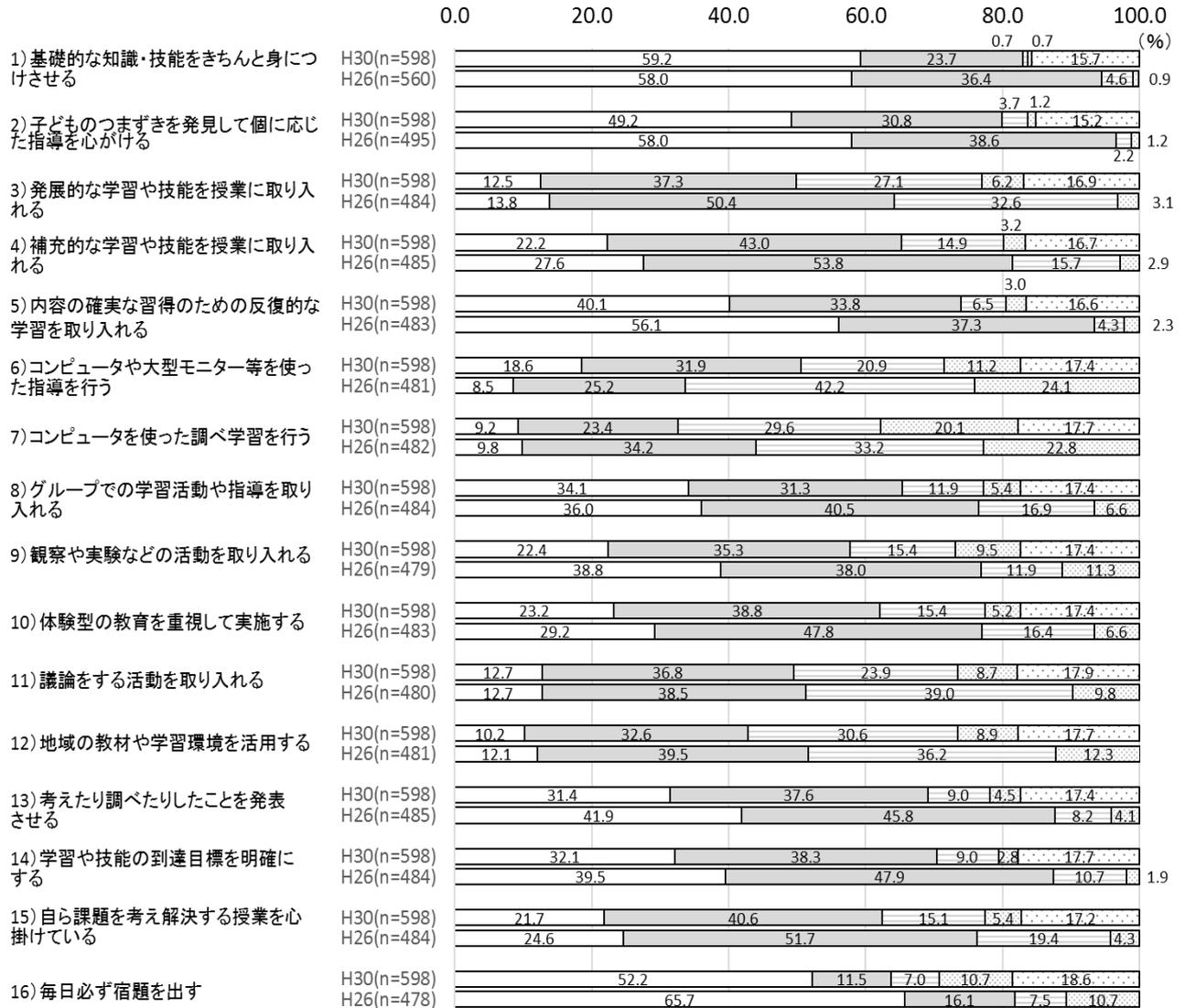
□あてはまる □どちらかといえば、あてはまる □どちらかといえば、あてはまらない □あてはまらない □無回答

平成30(2018)年 n=894、平成26(2014)年 n=831

【勤務先別】

勤務先別の結果を以下に示します。

<小学校職員>



あてはまる
 どちらかといえば、あてはまる
 どちらかといえば、あてはまらない
 あてはまらない
 無回答

< 中学校職員 >

		0.0	20.0	40.0	60.0	80.0	100.0	(%)
1) 基礎的な知識・技能をきちんと身につけさせる	H30(n=294) H26(n=243)		66.0		23.1	0.7	0.7	0.8
2) 子どものつまずきを発見して個に応じた指導を心がける	H30(n=294) H26(n=216)	34.0		48.3		6.5	1.4	2.9
3) 発展的な学習や技能を授業に取り入れる	H30(n=294) H26(n=213)	16.7		47.3		21.1	4.4	10.5
4) 補充的な学習や技能を授業に取り入れる	H30(n=294) H26(n=214)	16.3		47.6		21.1	4.1	10.9
5) 内容の確実な習得のための反復的な学習を取り入れる	H30(n=294) H26(n=214)	33.7		41.2		12.2	10.9	2.3
6) コンピュータや大型モニター等を使った指導を行う	H30(n=294) H26(n=212)	18.7	24.8	25.9	19.7	10.9		
7) コンピュータを使った調べ学習を行う	H30(n=294) H26(n=212)	6.1	11.9	32.7	38.4	10.9		
8) グループでの学習活動や指導を取り入れる	H30(n=294) H26(n=213)	37.4		37.4		11.2	10.5	
9) 観察や実験などの活動を取り入れる	H30(n=294) H26(n=211)	13.6	19.7	23.5	32.3	10.9		
10) 体験型の教育を重視して実施する	H30(n=294) H26(n=213)	17.7	28.9	28.2	14.3	10.9		
11) 議論をする活動を取り入れる	H30(n=294) H26(n=212)	11.2	35.4	33.0	9.2	11.2		
12) 地域の教材や学習環境を活用する	H30(n=294) H26(n=213)	4.8	16.7	35.7	32.0	10.9		
13) 考えたり調べたりしたことを発表させる	H30(n=294) H26(n=215)	21.4		43.9	18.7	5.1	10.9	
14) 学習や技能の到達目標を明確にする	H30(n=294) H26(n=216)	30.6		47.3	9.2	10.5		1.4
15) 自ら課題を考え解決する授業を心掛けている	H30(n=294) H26(n=213)	17.0		45.6	23.1	3.4	5.6	1.9
16) 毎日必ず宿題を出す	H30(n=294) H26(n=211)	6.5	14.3	27.2	41.2	10.9		

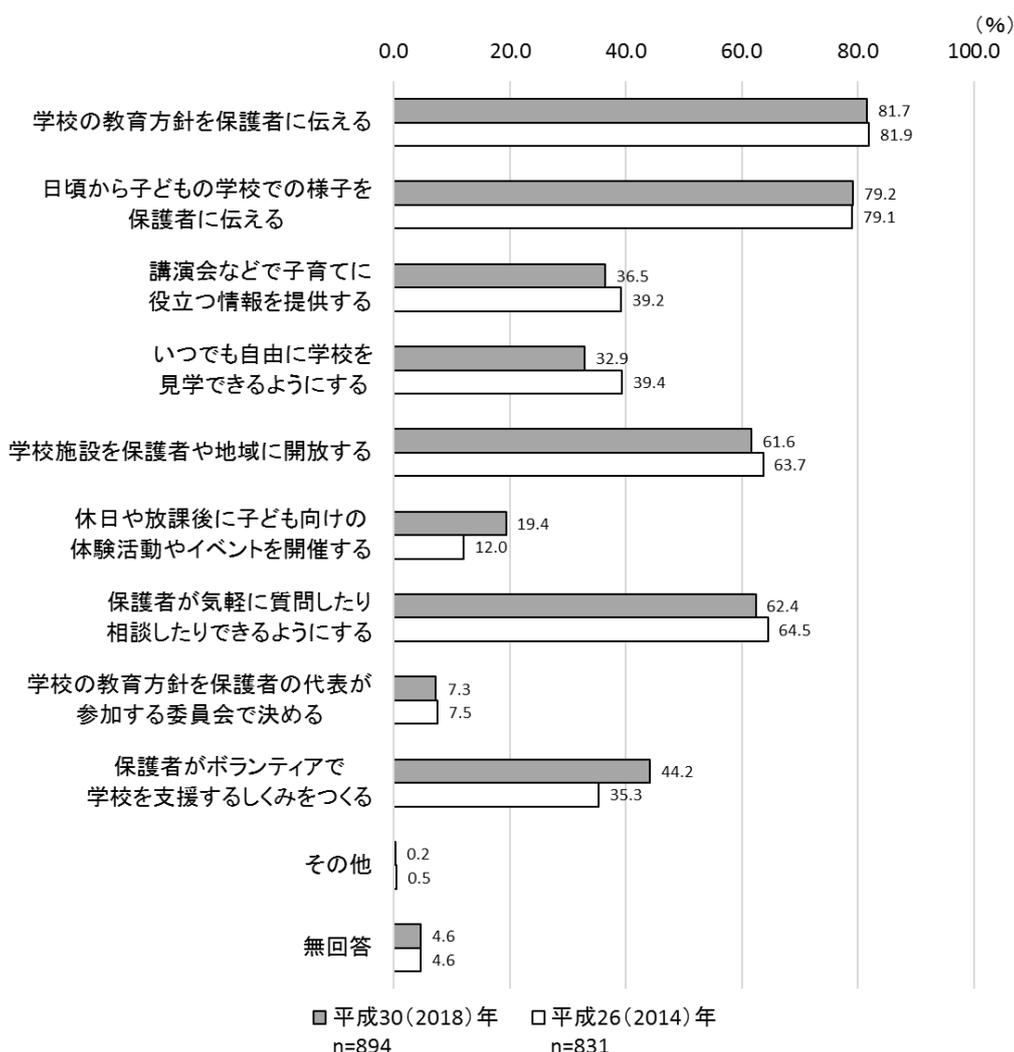
あてはまる
 どちらかといえば、あてはまる
 どちらかといえば、あてはまらない
 あてはまらない
 無回答

3. 学校教育の在り方について

問 11 あなたやあなたの学校では次のようなことを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

学校で行っていることについては、「学校の教育方針を保護者に伝える」が最も多く 81.7%、次いで「日頃から子どもの学校での様子を保護者に伝える」が 79.2%、「保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする」が 62.4%、「学校施設を保護者や地域に開放する」が 61.6%などとなっています。

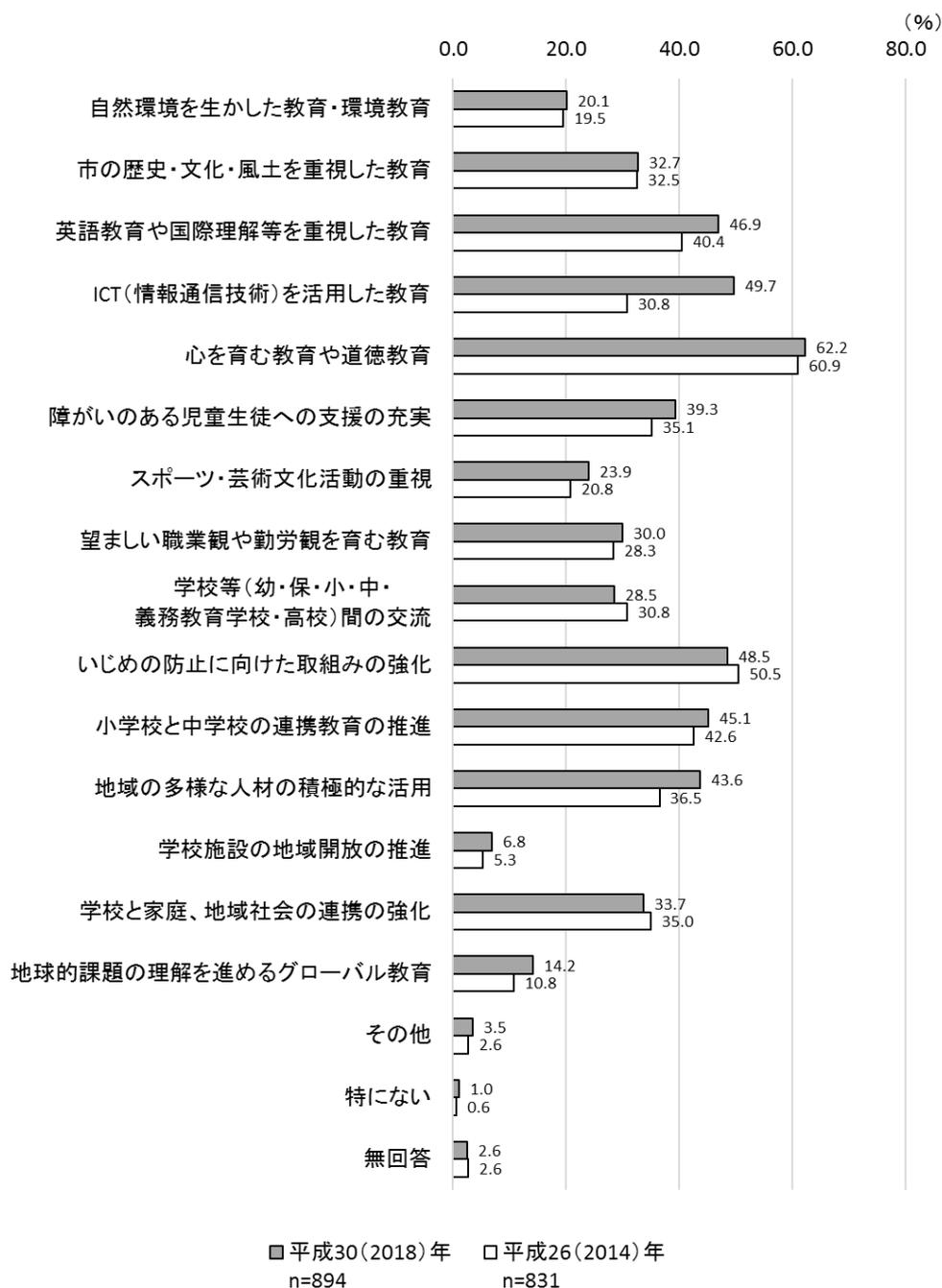
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「いつでも自由に学校を見学できるようにする」が減少し、「休日や放課後に子ども向けの体験活動やイベントを開催する」や「保護者がボランティアで学校を支援するしくみをつくる」が増加しています。



問 12 成田市の学校教育（小・中学校）では、今後どのような点に力を入れていくことが望ましいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

成田市の学校教育で今後力を入れていくことについては、「心を育む教育や道徳教育」が最も多く 62.2%、次いで「ICT（情報通信技術）を活用した教育」が 49.7%、「いじめの防止に向けた取組みの強化」が 48.5%、「英語教育や国際理解等を重視した教育」が 46.9%、「小学校と中学校の連携教育の推進」が 45.1%「地域の多様な人材の積極的な活用」が 43.6%などとなっています。

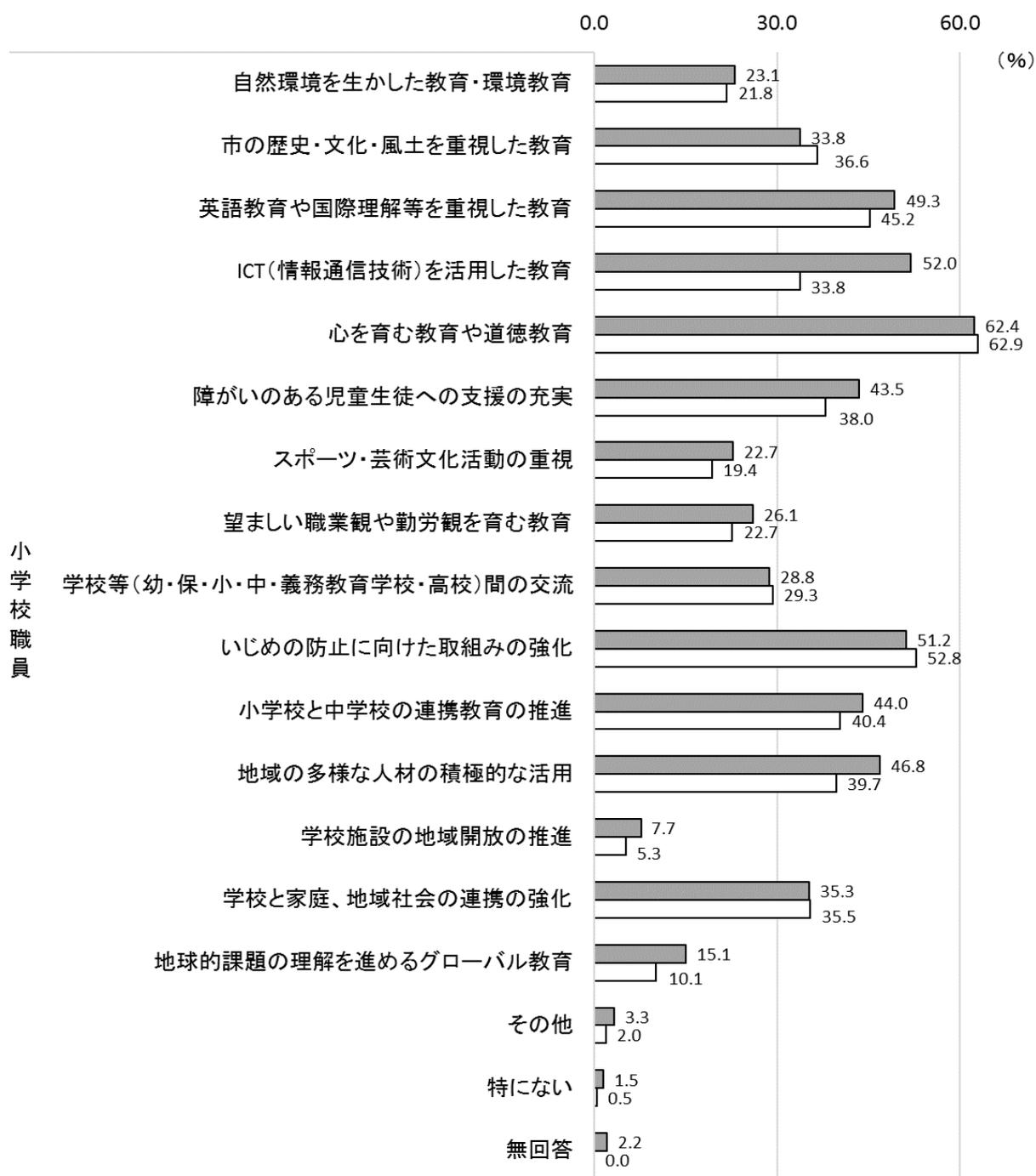
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「ICT（情報通信技術）を活用した教育」が大きく増加しています。

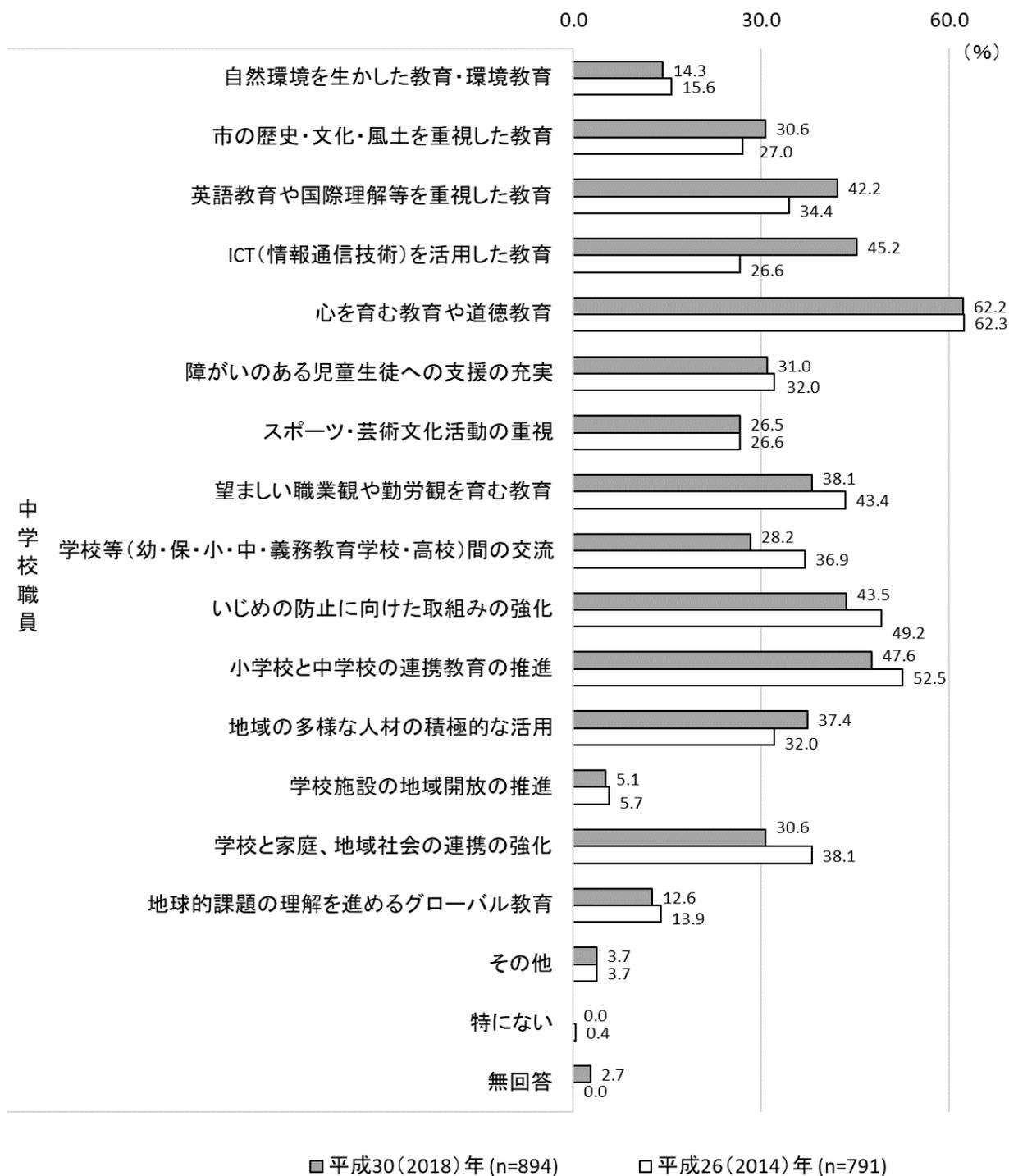


【勤務先別】

勤務先別でみた場合、“小学校職員”“中学校職員”ともに「心を育む教育や道徳教育」が最も多くなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では“小学校職員”“中学校職員”ともに、「ICT（情報通信技術）を利用した教育」が大きく増加しています。

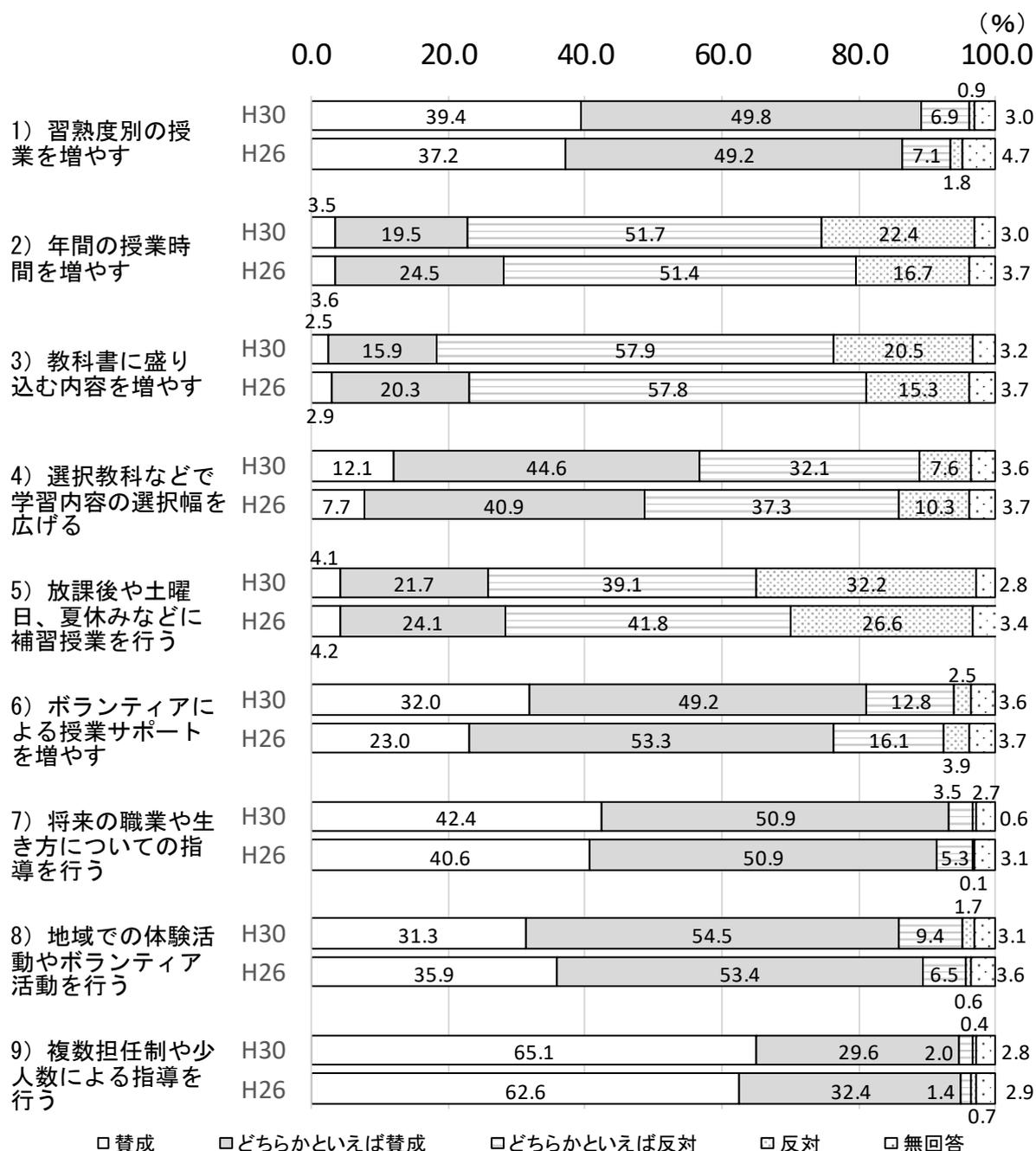




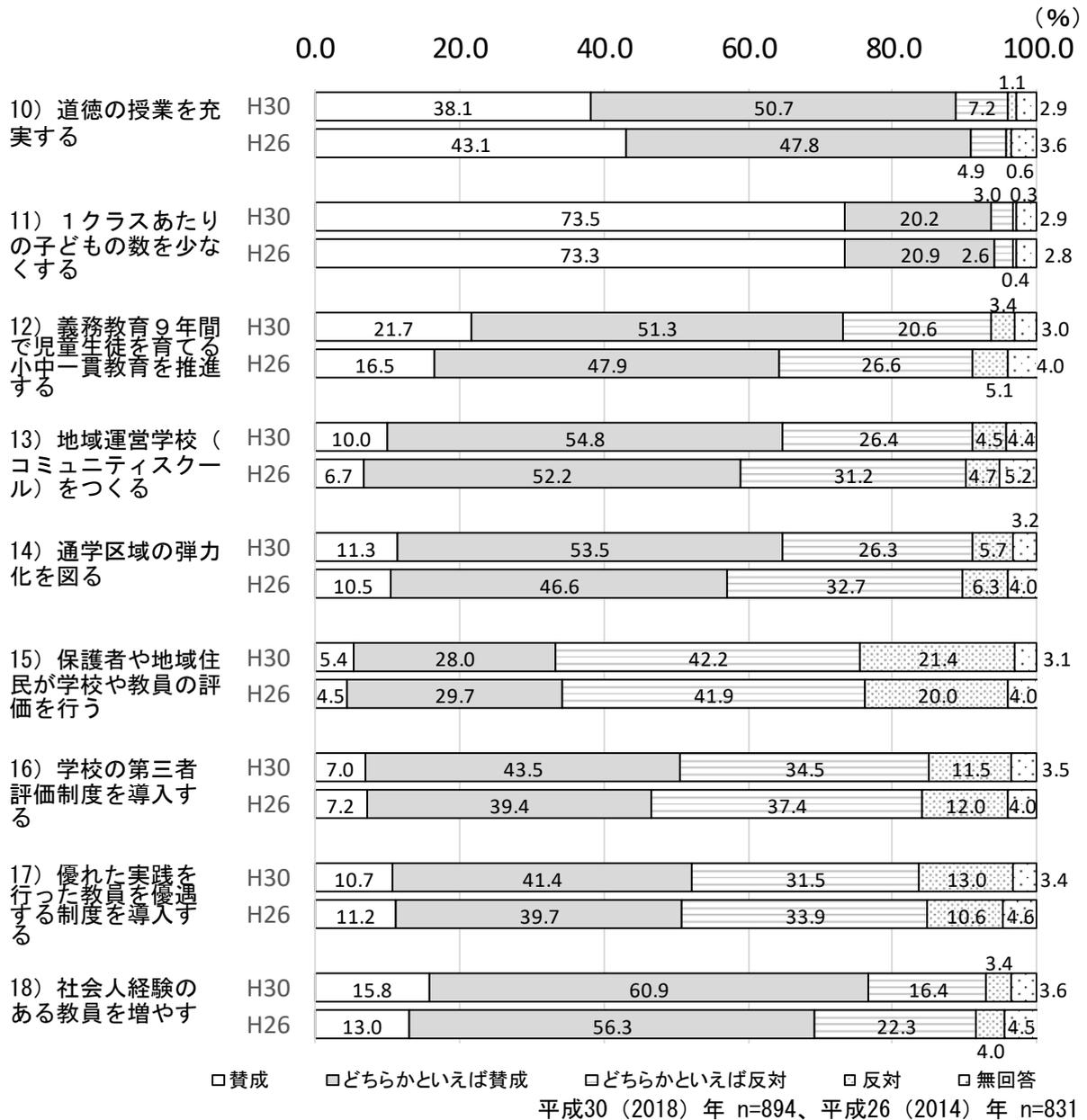
問 13 あなたは、現在の教育改革で進められている次のような取り組みについて、どのようにお考えですか。（それぞれに1つずつ〇）

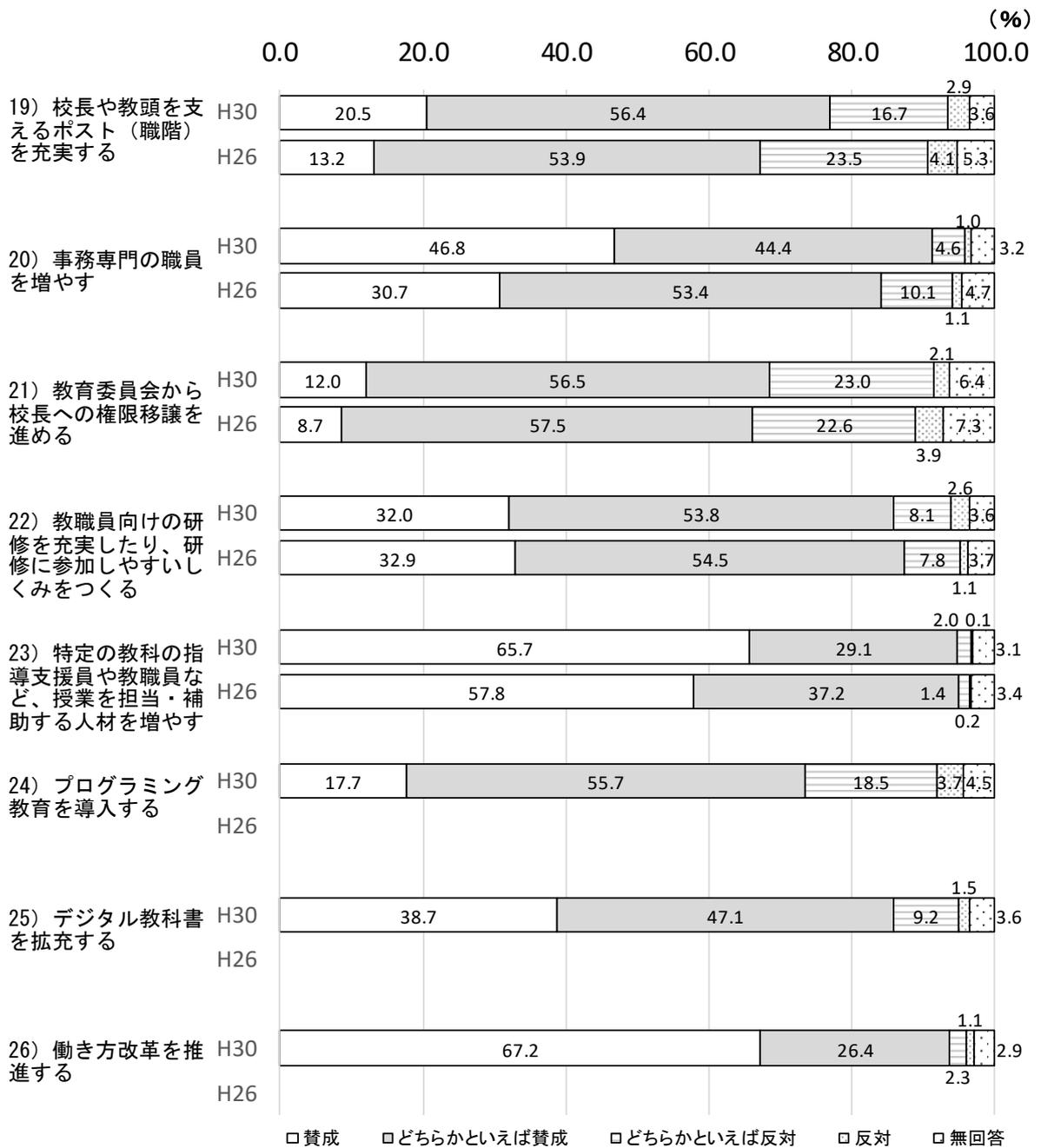
現在の教育改革で進められている取り組みについては、“11）1クラスあたりの子どもの数を少なくする”の「賛成」が最も多く73.5%、次いで“26）働き方改革を推進する”が67.2%、“23）特定の教科の指導支援員や教職員など、授業を担当・補助する人材を増やす”が65.7%、“9）複数担任制や少人数による指導を行う”が65.1%などとなっています。

なお、平成26年度の調査においても“11）1クラスあたりの子どもの数を少なくする”の「賛成」が最も多くなっています。



平成30（2018）年 n=894、平成26（2014）年 n=831



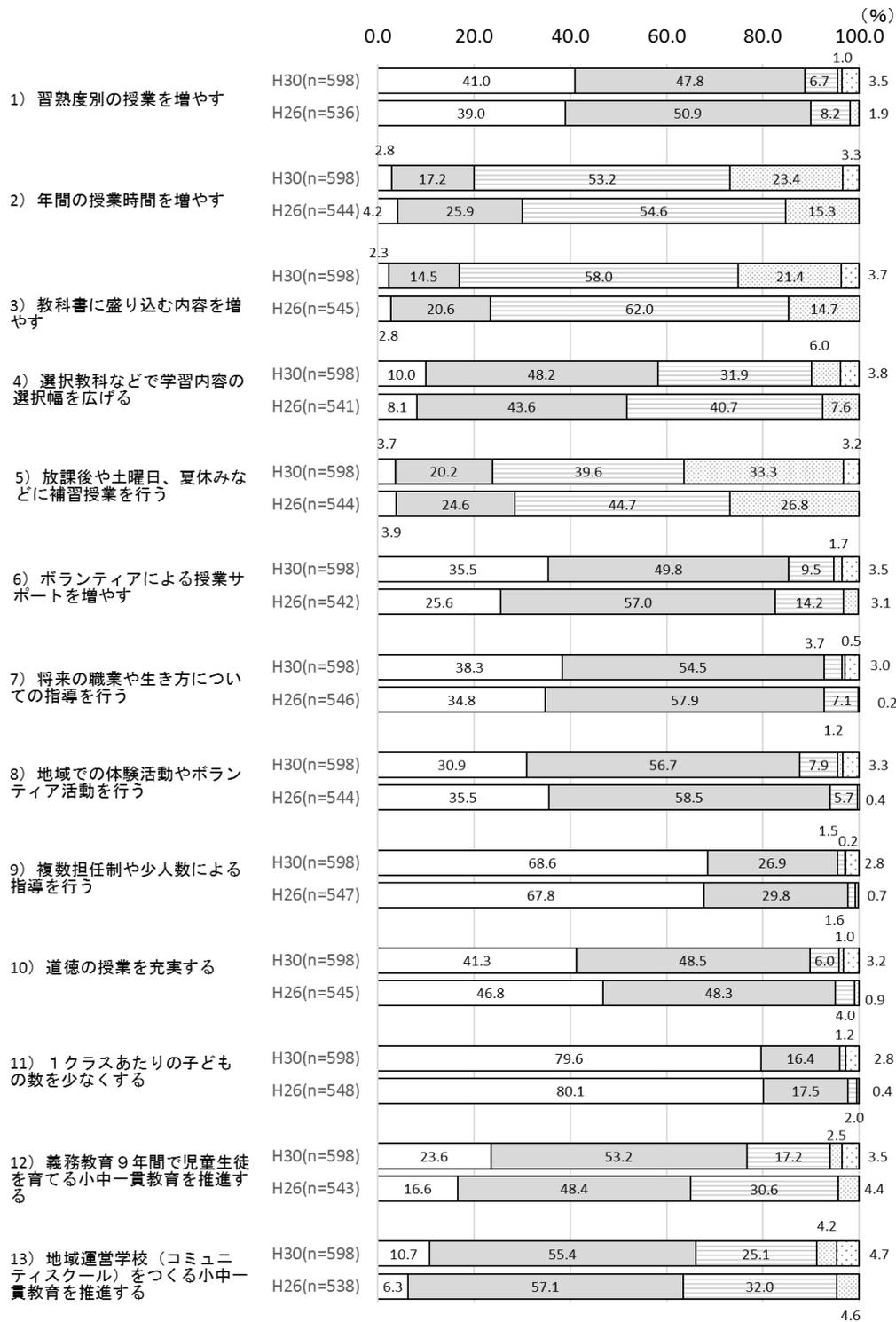


平成30 (2018) 年 n=894、平成26 (2014) 年 n=831

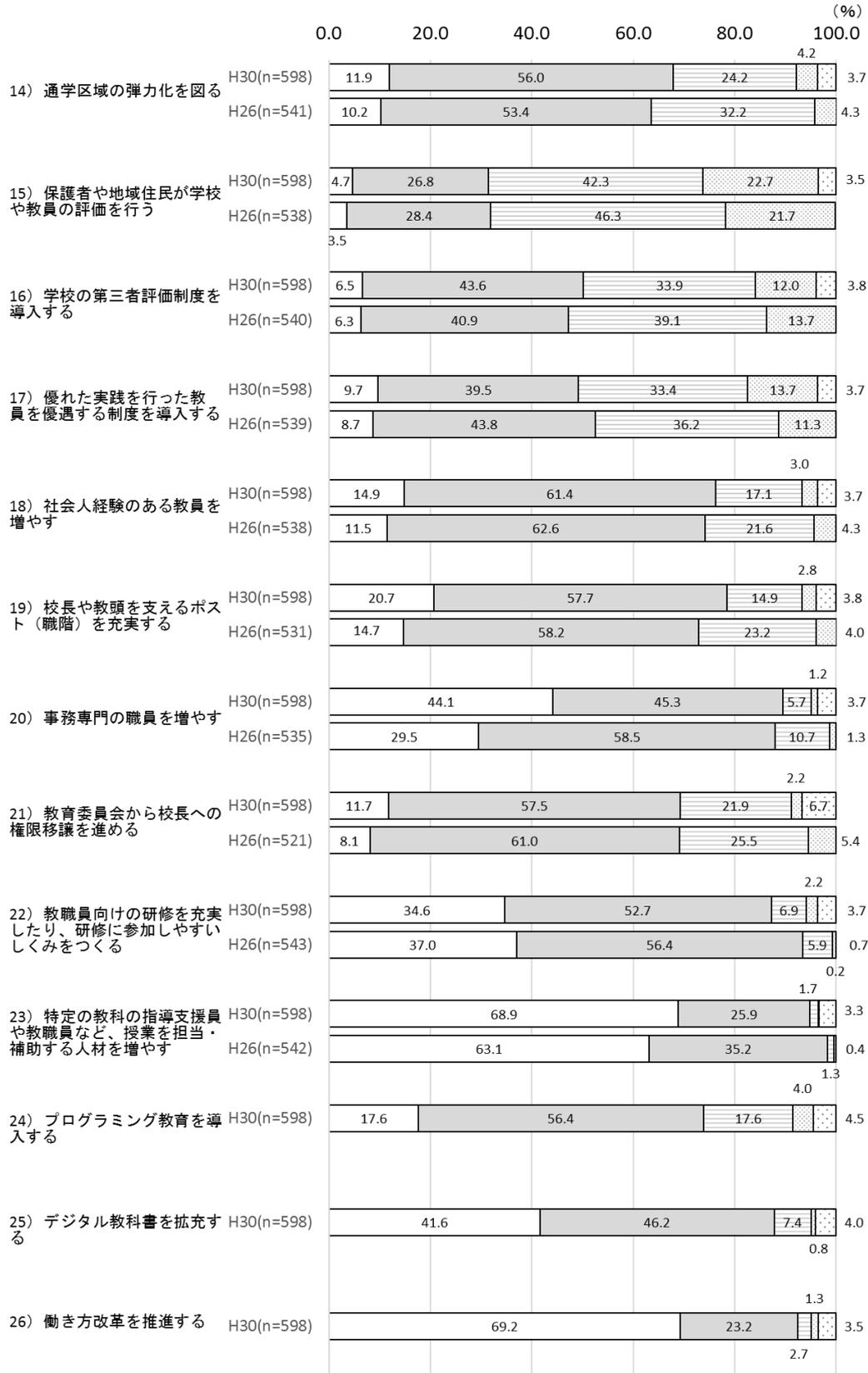
【勤務先別】

勤務先別の結果を以下に示します。

<小学校職員>

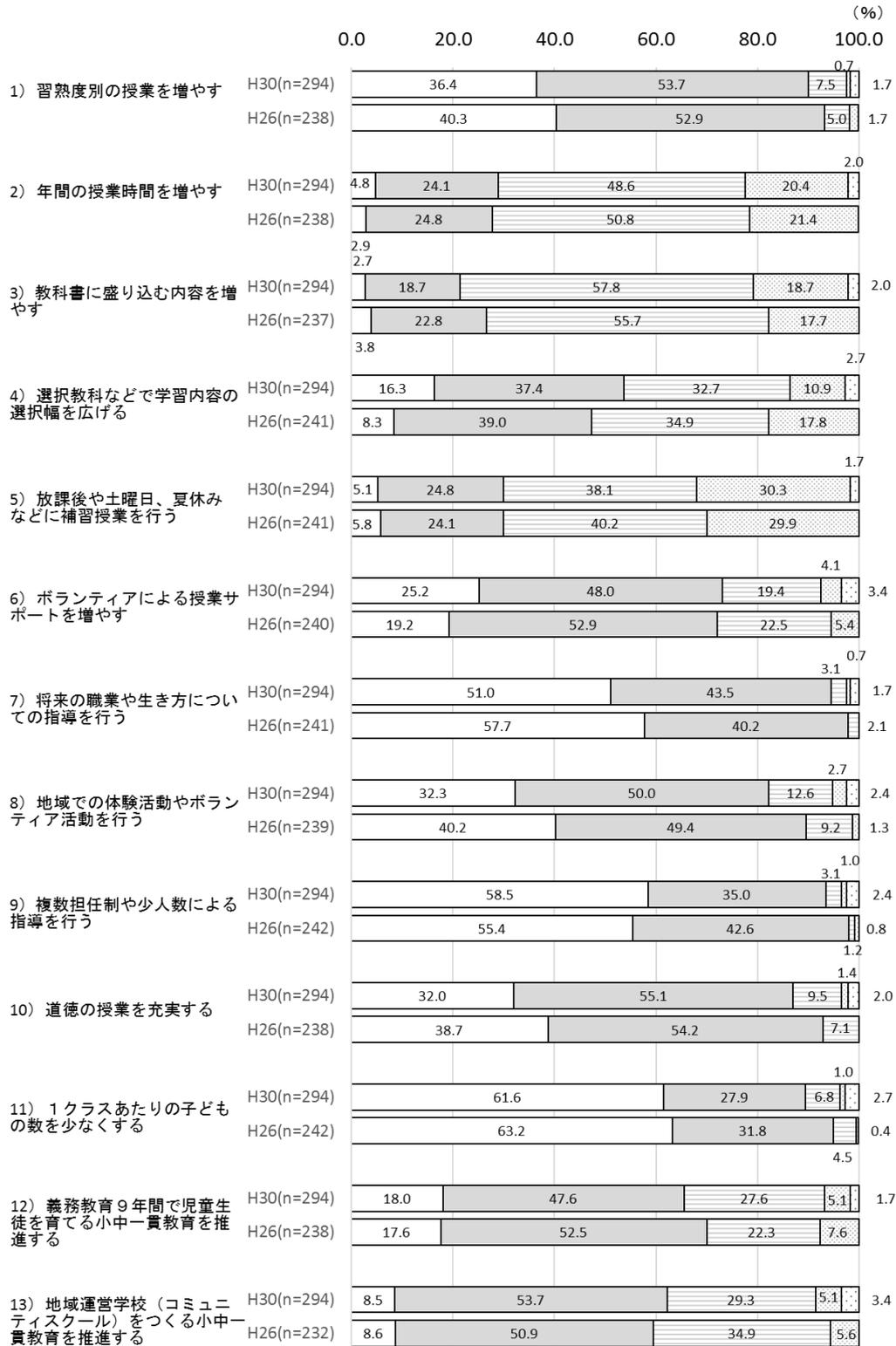


□賛成 □どちらかといえば賛成 □どちらかといえば反対 □反対 □無回答

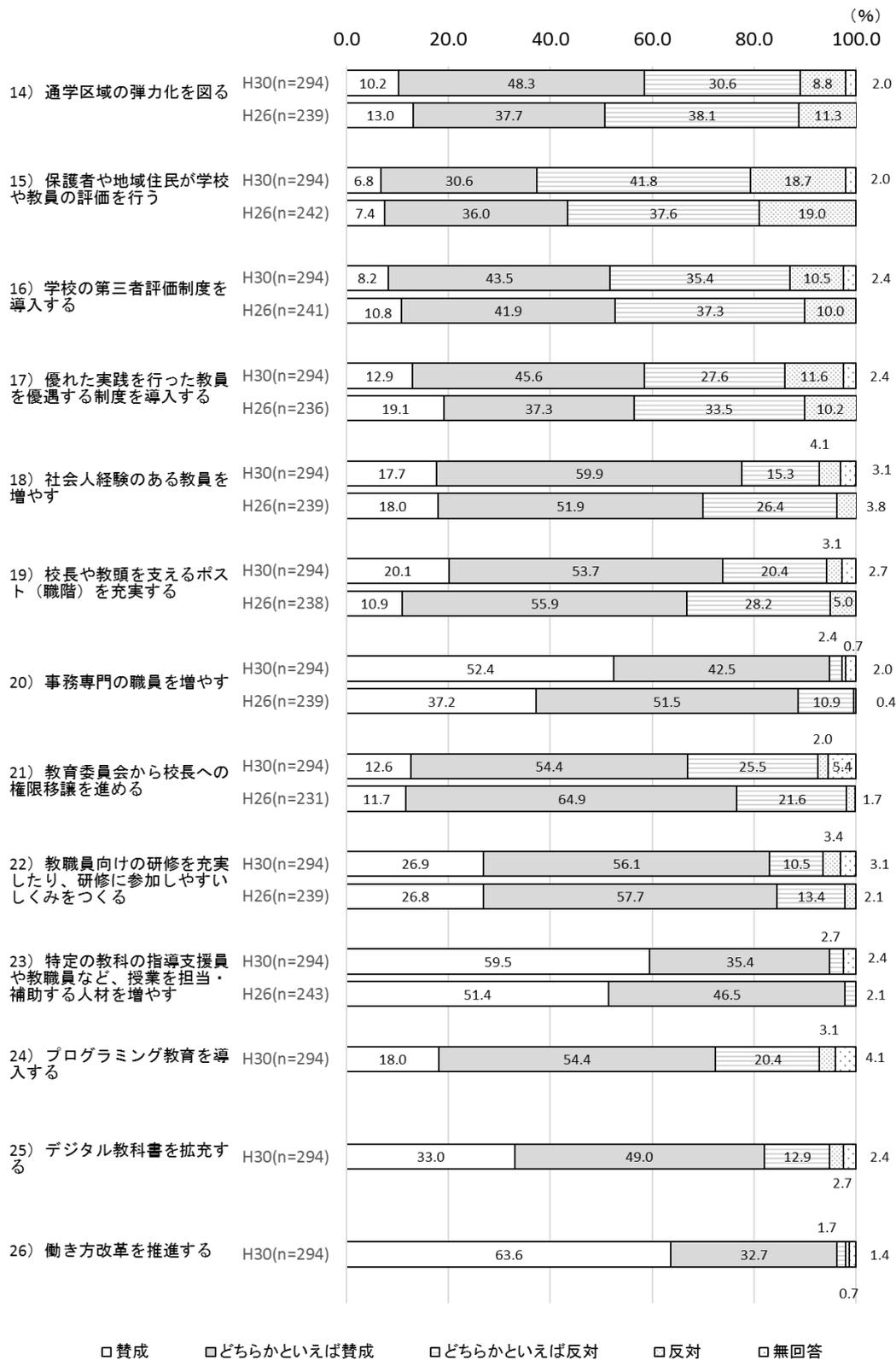


賛成
 どちらかといえば賛成
 どちらかといえば反対
 反対
 無回答

<中学校教職員>



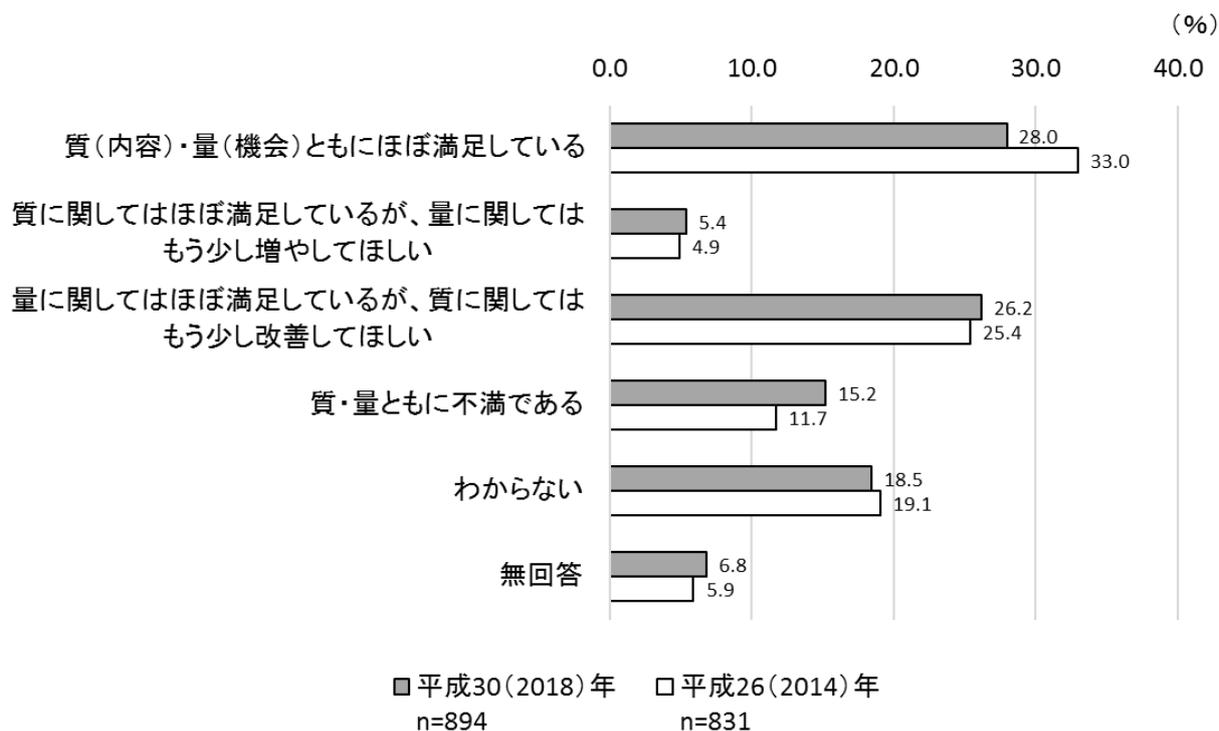
□ 賛成 □ どちらかといえば賛成 □ どちらかといえば反対 □ 反対 □ 無回答



問 14 現在の教員研修制度についてどうお考えですか。(1つだけ○)

現在の教員研修制度については「質(内容)・量(機会)ともにほぼ満足している」が最も多く 28.0%、次いで「量に関してはほぼ満足しているが、質に関してはもう少し改善してほしい」が 26.2%、「質・量ともに不満である」が 15.2%、「質に関してはほぼ満足しているが、量に関してはもう少し増やしてほしい」が 5.4%などとなっています。

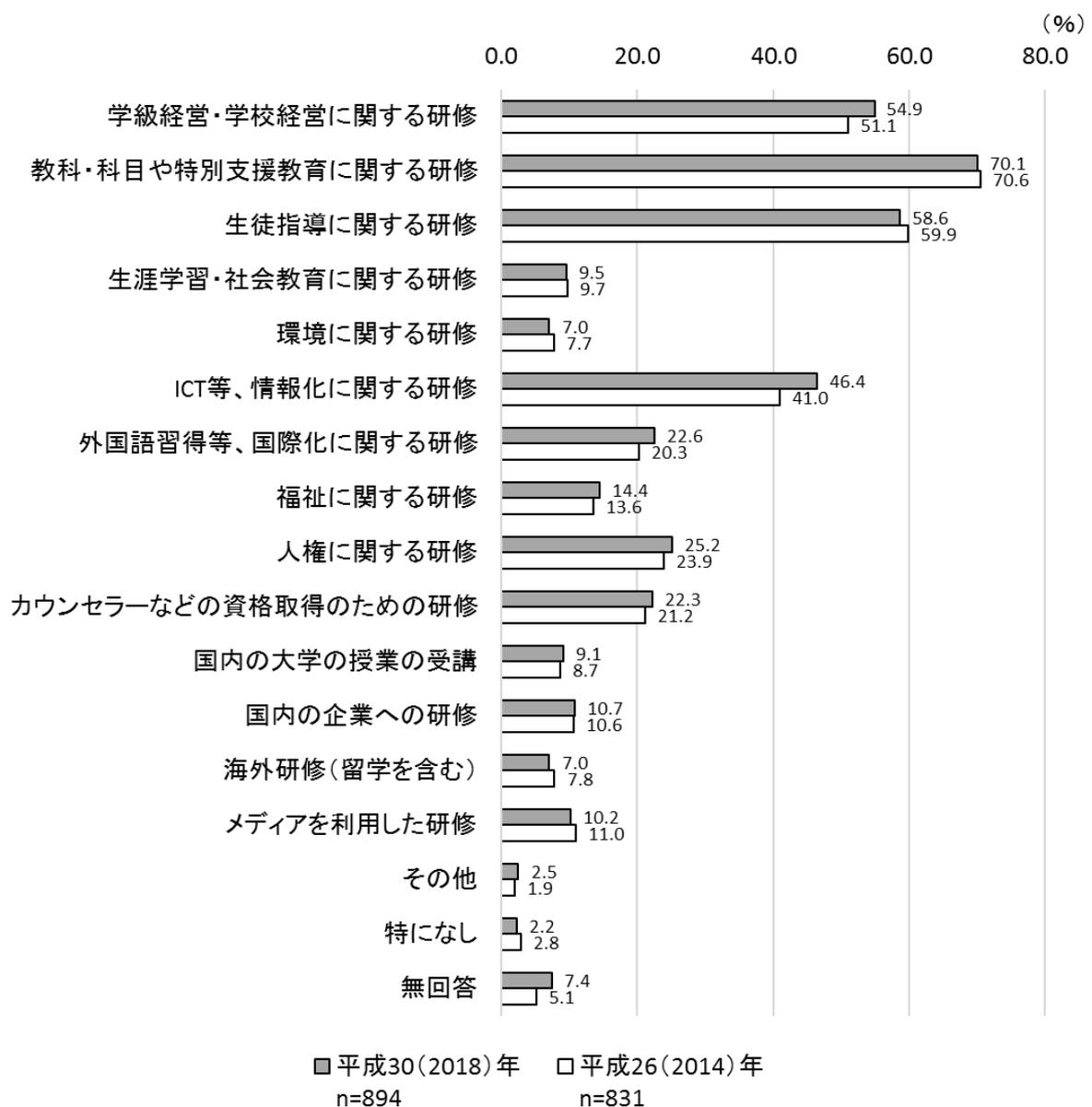
平成 26 年度の調査と比較すると、本調査では「質・量ともに不満である」が増加し、「質(内容)・量(機会)ともにほぼ満足している」が減少しています。



問 15 教員研修制度の内容・方法として特に重要だと思われるものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

教員研修制度の内容・方法として特に重要だと思われるものについては、「教科・科目や特別支援教育に関する研修」が最も多く 70.1%、次いで「生徒指導に関する研修」が 58.6%、「学級経営・学校経営に関する研修」が 54.9%、「ICT等、情報化に関する研修」が 46.4% などとなっています。

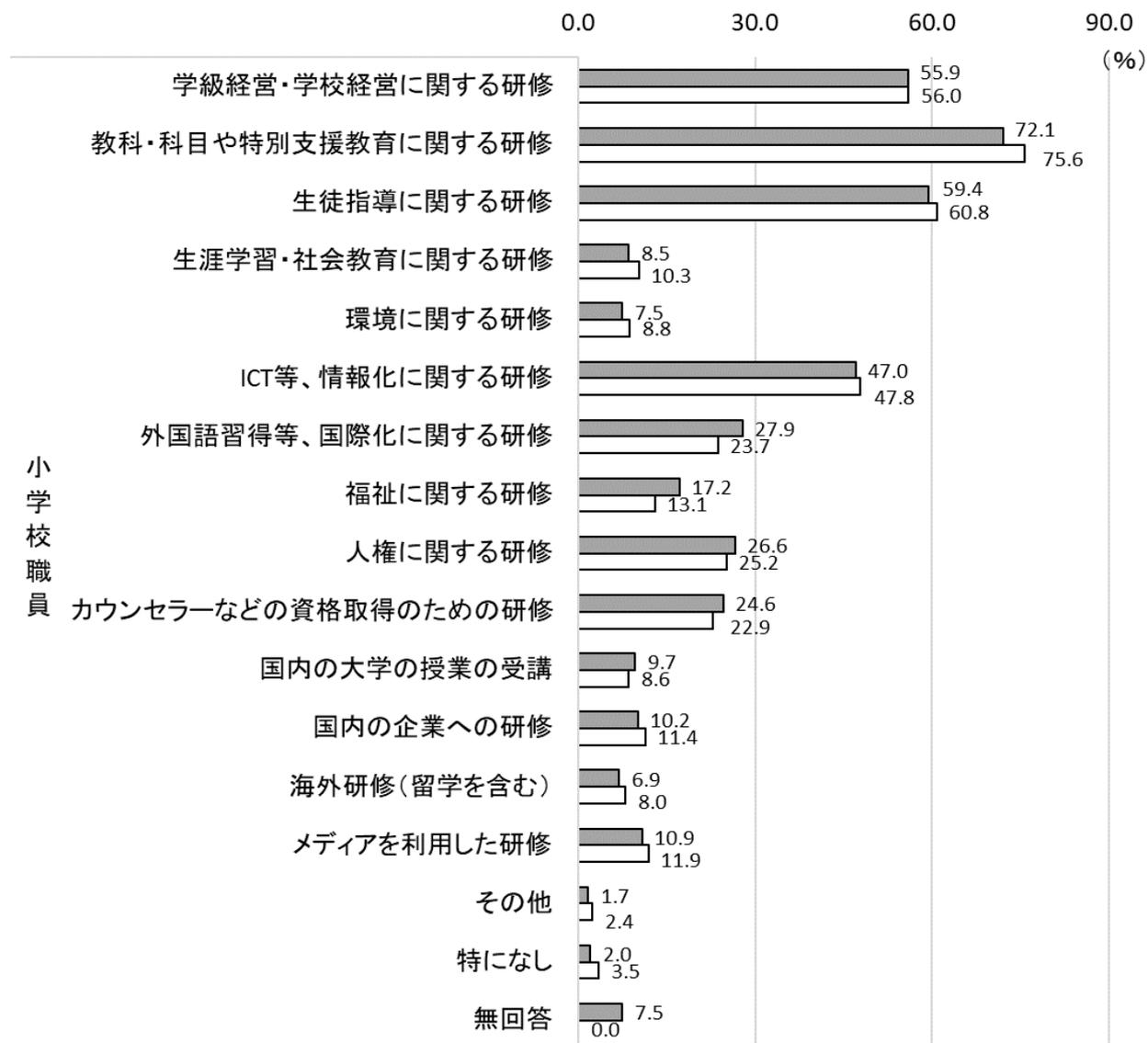
平成 26 年度の調査比較すると、本調査では「ICT等、情報化に関する研修」が増加しています。

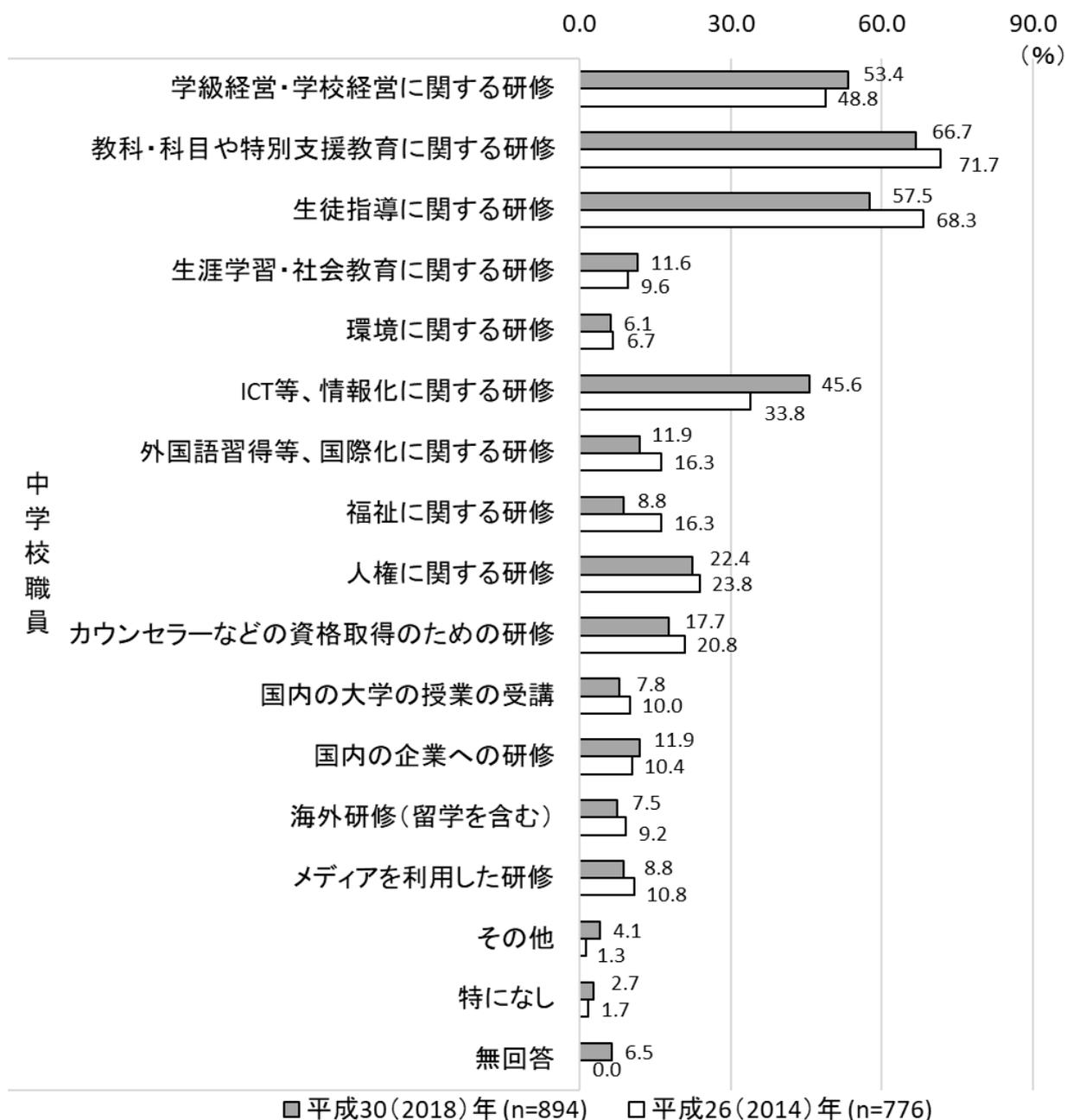


【勤務先別】

勤務先別でみた場合、上位に大きな違いはありませんが、「外国語習得等、国際化に関する研修」では“小学校職員”が“中学校職員”の2倍を超えており、高い割合になっています。

平成26年度の調査と比較すると、“小学校職員”では大きな違いはありませんでしたが、“中学校職員”では、「生徒指導に関する研修」が大きく減少し、「ICT等、情報化に関する研修」が大きく増加しています。



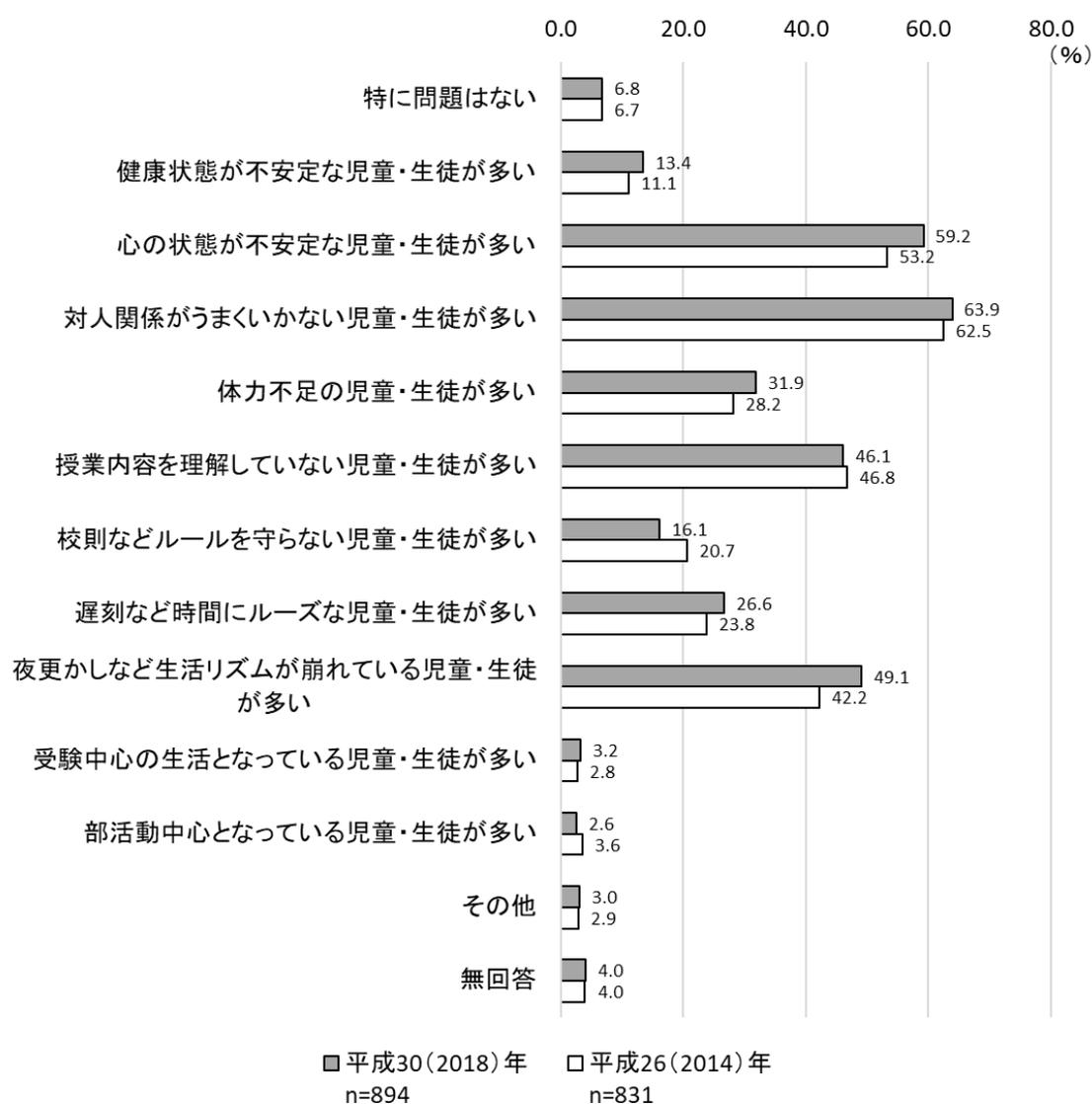


4. 児童・生徒や地域との関わりについて

問 16 学校における児童・生徒の生活に関して問題だと思われる点があるとしたらそれは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

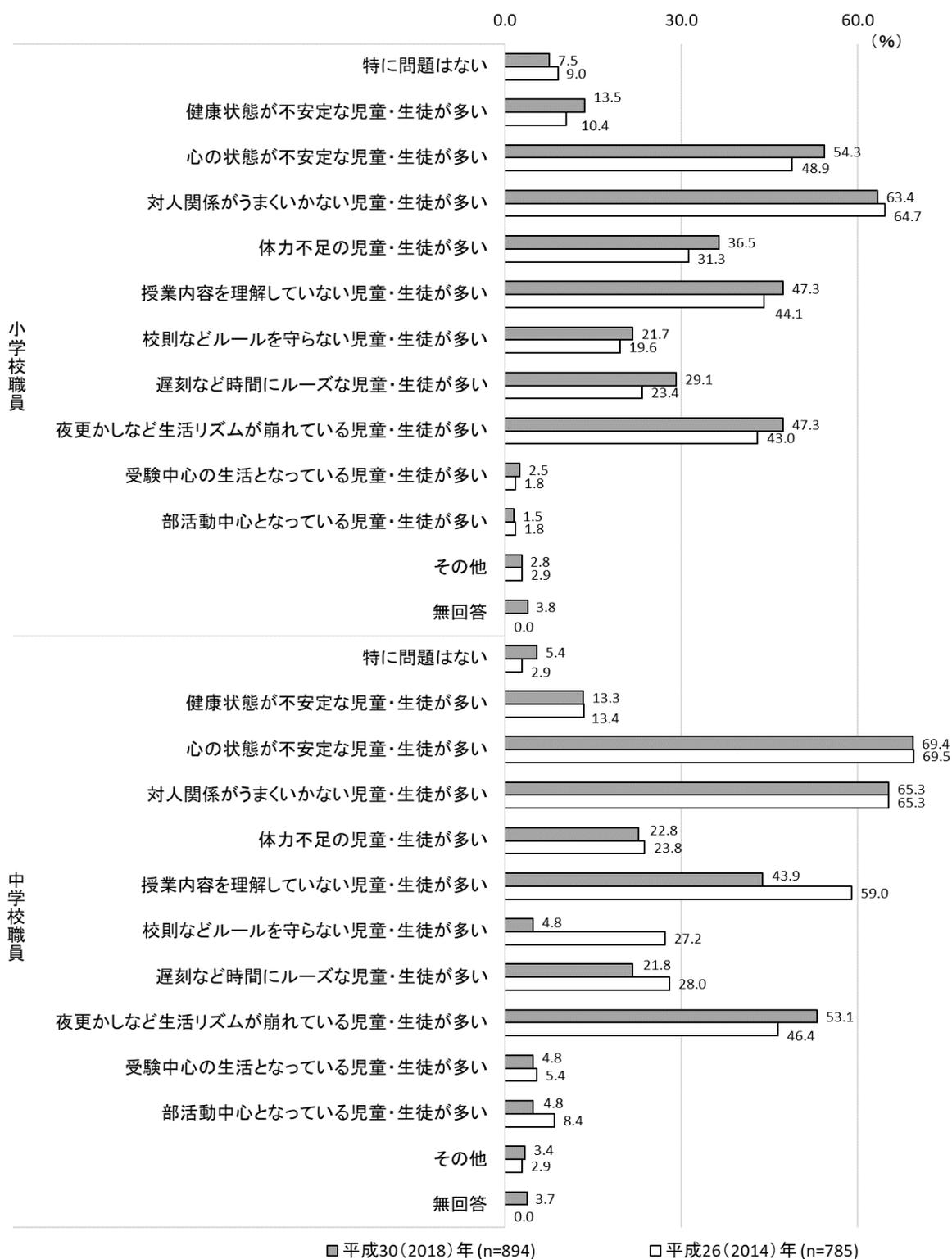
学校における児童・生徒の生活に関する問題については、「対人関係がうまくいかない児童・生徒が多い」が最も多く 63.9%、次いで「心の状態が不安定な児童・生徒が多い」が 59.2%、「夜更かしなど生活リズムが崩れている児童・生徒が多い」が 49.1%、「授業内容を理解できていない児童・生徒が多い」が 46.1%などとなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、「心の状態が不安定な児童・生徒が多い」や「夜更かしなど生活リズムが崩れている児童・生徒が多い」が増加しています。



【勤務先別】

勤務先別でみると、“中学校職員”における「心の状態が不安定な児童・生徒が多い」が“小学校職員”と比べて高くなっており、同じく“中学校職員”の「授業内容を理解できていない児童・生徒が多い」、「校則などルールを守らない児童・生徒が多い」については、平成26年度の調査から大きく減少しています。

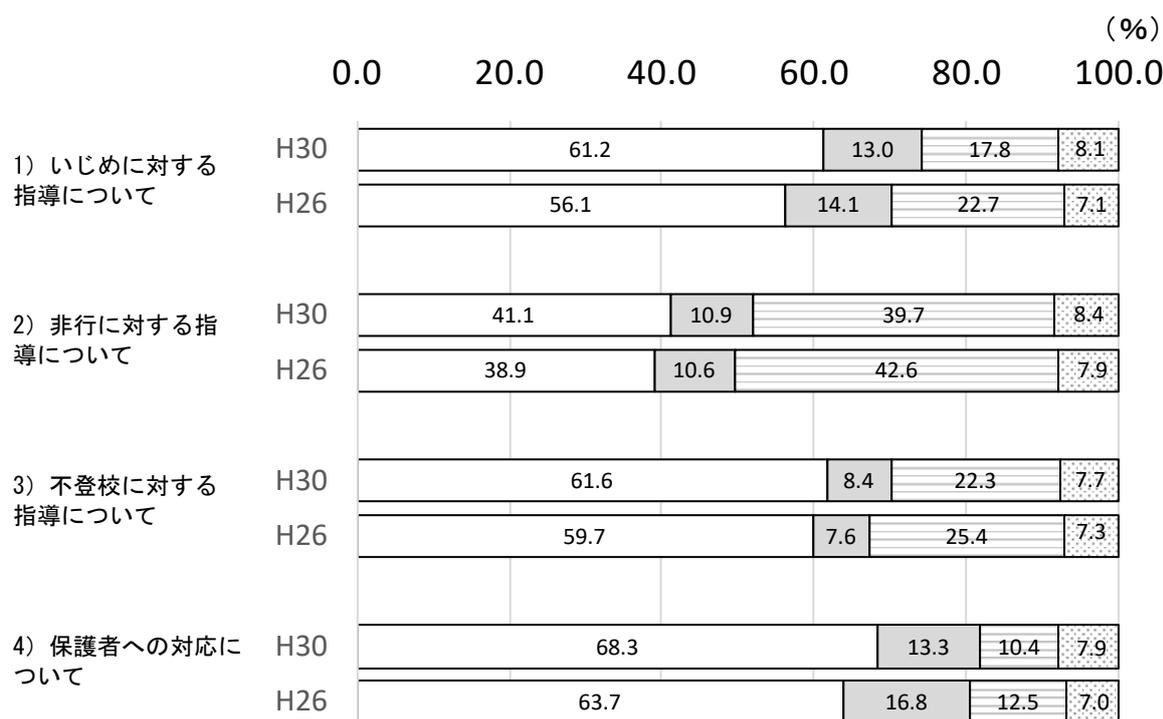


問 17 児童生徒の指導に関して、次のうち経験したことがあるものを選んでください。

(それぞれに1つずつ)

児童生徒の指導に関して経験したことについて、「経験したことはあるが、指導に悩んだ」では“4) 保護者への対応について”が最も多く68.3%、次いで“3) 不登校に対する指導について”が61.6%、“1) いじめに対する指導について”が61.2%、“2) 非行に対する指導について”が41.1%となっています。

平成26年度の調査と比較すると、「経験したことはあるが、指導に悩んだ」は、すべての項目で増加しています。



経験したことがあるが、指導に悩んだ

経験したことはあるが、悩むことはなかった

経験したことはない

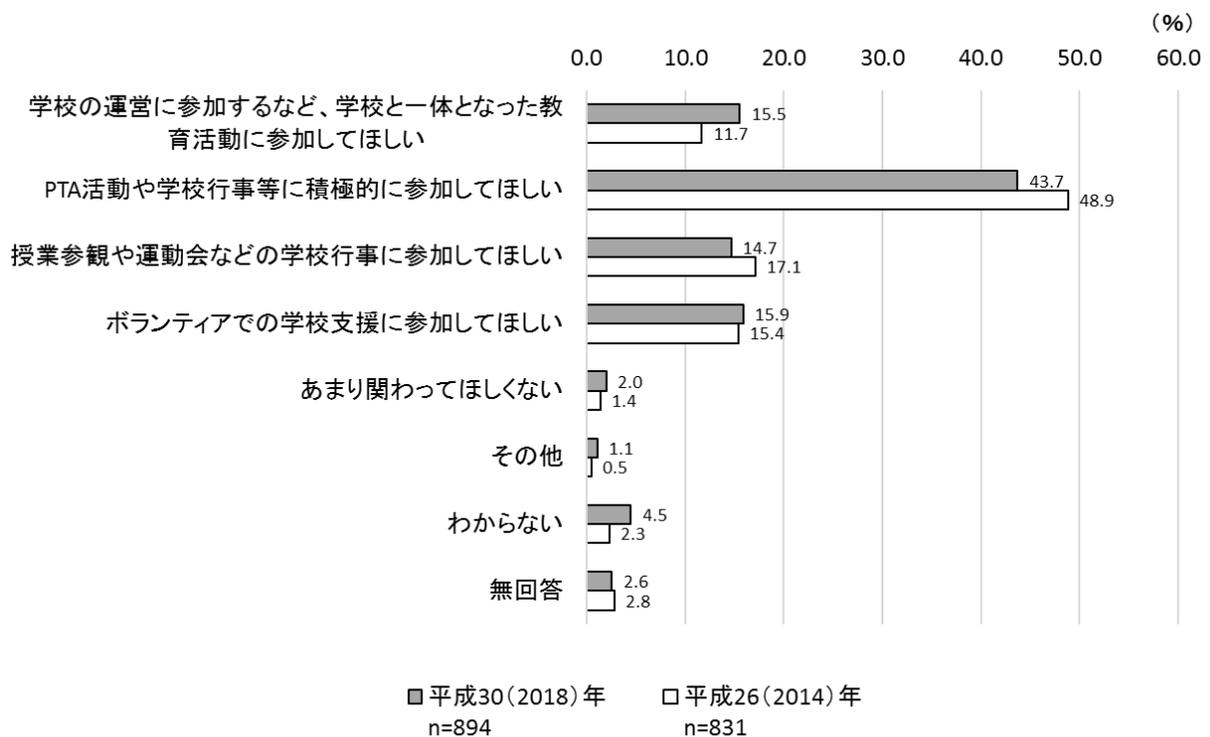
無回答

平成30(2018)年 n=894、平成26(2014)年 n=831

問 18 保護者や地域の方には、学校の活動に対して、どの程度、関わってほしいと思いますか。(1つだけ○)

保護者や地域の方の学校活動への関わりについては、「PTA 活動や学校行事等に積極的に参加してほしい」が最も多く 43.7%、次いで「ボランティアでの学校支援に参加してほしい」が 15.9%、「学校の運営に参加するなど、学校と一体となった教育活動に参加してほしい」が 15.5%などとなっています。

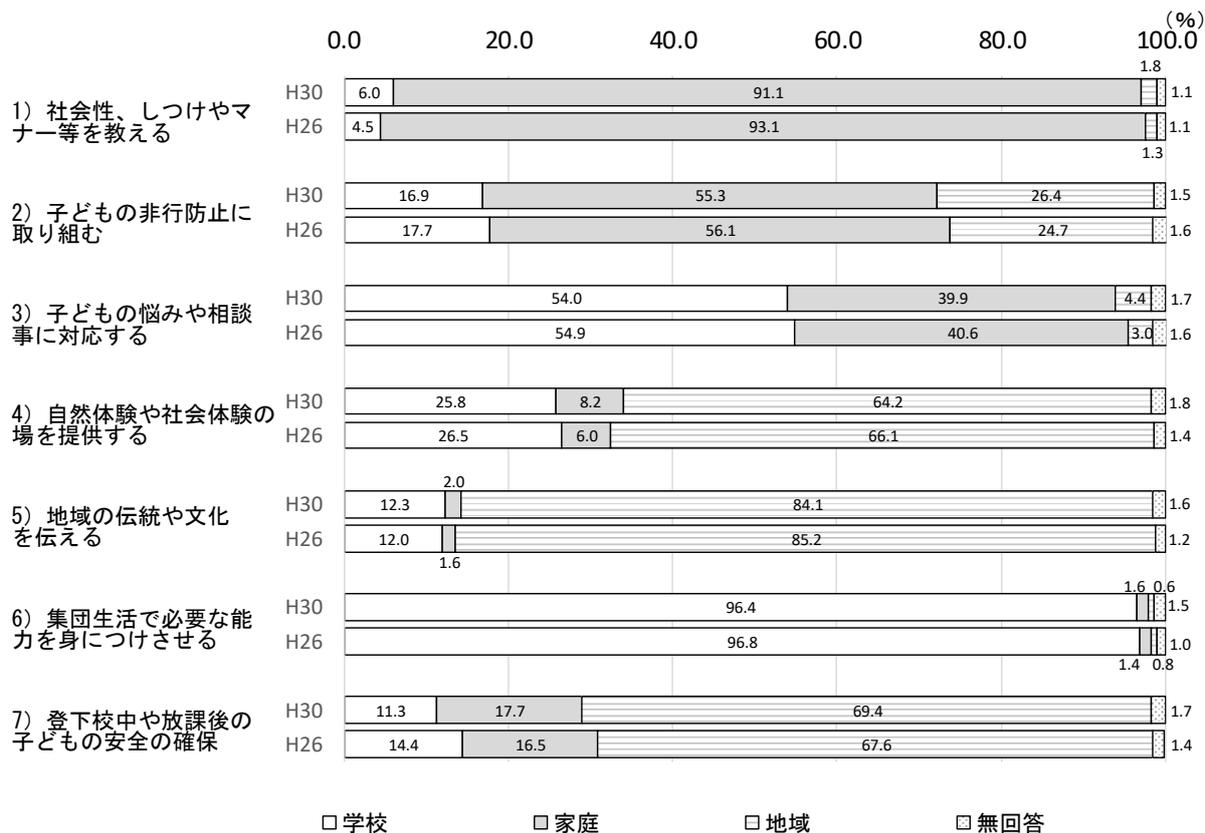
平成 26 年度の調査と比較すると、「PTA 活動や学校行事等に積極的に参加してほしい」が減少する一方、「学校の運営に参加するなど、学校と一体となった教育活動に参加してほしい」は増加しています。



問 19 あなたは、次のことについて、学校、家庭、地域のどこが中心となるべきだと考えていますか。（それぞれに1つずつ〇）

学校、家庭、地域のどこが中心になるべきかについて、「学校」は“3）子どもの悩みや相談事に対応する“の割合が最も多く、「家庭」は“1）社会性、しつけやマナー等を教える“、「地域」は“5）地域の伝統や文化を伝える“の割合が最も多くなっています。

平成 26 年度の調査と比較すると、“7）登下校中や放課後の子どもの安全の確保“の「学校」の割合が減少しています。



平成30（2018）年 n=894、平成26（2014）年 n=831

成田市学校教育に関するアンケート調査報告書

発 行 成田市教育委員会

編 集 教育部教育総務課

〒286-8585 成田市花崎町760番地

電話 0476 (20) 1580

調査機関 株式会社 総合環境計画

発 行 平成31年3月

登録番号 成教総 18-058